

鳥取県教育文化財団報告書25

鳥取県鳥取市

秋里遺跡

(西皆竹)

鳥取県保健会館(仮称)建設に伴う発掘調査報告書

1990

財団法人 鳥取県教育文化財団

秋 里 遺 跡 正 誤 表

訂 正 箇 所	誤	正
目次	第2節 歴史的環境 --- 7	第2節 歴史的環境 ---- 8
地図目次	地図 155	地図 155
図版目次 図版16	SD13・50・51完備状況	SD13・SK50・51完備状況
挿表目次	挿表05 出土土器類表(1) ~ (32) 135 - 37 168	挿表05 出土土器類表(1) ~ (32) 135 - 36 168 挿表37 土製品類表 167
写真目次	写真 2 簡様による掘り下げ	写真 2 簡様による掘り下げ
P. 1 4行目	墳 塚	墳 塚
P. 44 地図49 署名	①淡緑灰茶色砂質土	①淡緑灰茶色砂質土
P. 66 17行目 地図80	緑色化した流文岩質凝灰岩	緑色化した凝灰岩
P. 68-69 間折込 地図82 署名	② (茶褐色土を多量を含む)	② (茶褐色土を多量を含む)
P. 72-73 間折込 地図88 右7新断面		面の左に「A」、右に「A」
P. 79 8行目	柱の本	柱
P. 80 地図95 スケール	S=1:60	S=1:40
P. 85 挿表01 キャプション	挿表01 土層一覧表	挿表01 土層一覧表(1)
P. 86 挿表02 SK49 時期	弥生時代前期	弥生時代
P. 89 挿表02 SK61 主軸	N-14°-W	—
P. 145 挿表16 Po198 形態	断面に「キ」の字状のヘリ記号	断面に「キ」の字状のヘリ記号
P. 145 挿表19 Po254 形態	(内黒土器A)	(黒色土器A)
P. 145 挿表19 Po261 手法 格子ふり写を日(B1) 格子ふり写を日
P. 164 挿表24 Po345 形態	鋳造の痕跡	鋳造の痕跡
P. 165 挿表29 Po413 手法	内面、彫琢ナド	内面、彫琢ナド
P. 169 挿表30 Po431 形態	鋳造部の突起は	鋳造部の突起は
P. 170 挿表36 Po432 形態	赤色塗彩	赤色塗彩
P. 176 挿表44 S105 スタンプ文	同心印文	同心印文
P. 176 挿表44 追掲外 スタンプ文	同心印文	同心印文
P. 177 挿表46 上層部5遺跡報告書	「上層部5遺跡 ----」	「上層部5遺跡 ----」
P. 179 13・24行目 P.180 1・3 行目	平 掘 面	平 掘 面
P. 180 地図155 キャプション	埴 田	埴 田
P. 181 5行目	埴田の方向	埴田の方向
P. 181 8行目	平 掘 面	平 掘 面
P. 185 14行目	内 掘	内 掘
P. 185 27行目	平 掘	平 掘
P. 186 24行目	直交する	直交する
図版16 キャプション	SD13・50・51完備状況	SD13・SK50・51完備状況

序 文

秋里道跡は、旧千代川の自然堤防上に位置し、現在までに行われた調査により、大規模な祭祀遺跡として注目されているところである。

今回の調査は、当該地に鳥取県保健会館（仮称）が建設されることに伴い、鳥取県衛生環境部の委託を受けて、当財団が調査を行ったものである。

調査の結果、69基の土壟、7棟の掘立柱建物跡をはじめとする、弥生時代後期から鎌倉・室町時代に至るまでの多くの遺構が検出された。特に注目されるのは弥生時代後期の掘立柱建物跡で、それらには柱材が残っており、その構造を考える上で貴重な資料を提供してくれた。また、管玉など玉未成品も出土し、玉作研究の一助ともなれば幸いである。

おわりに、発掘調査の実施にあたり御理解と御協力をいただいた地元の皆さんをはじめ、関係諸機関に対し心から感謝し、厚くお礼を申し上げます。

平成2年3月

財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 西尾 邑次

例 言

1. 本報告は、鳥取県保健会館(仮称)建設に伴う秋里遺跡(西笹竹)の発掘調査記録である。
2. 秋里遺跡は、鳥取市秋里～江津に広がる遺跡であり、今回調査を実施したのは、江津字西笹竹地内に所在するものである。
3. 本報告書の作成は、調査員及び補助員の討議に基づくものであり、執筆は調査員及び補助員が分担して行い、執筆担当者は目次に記載した。
4. 出土遺物の整理は、鳥取県埋蔵文化財センターの協力を得て調査員及び補助員が行った。
5. 遺跡・遺構の実測及び写真撮影は、調査員・補助員が行った。
6. 遺物の実測は、伊藤、桑崎、福田、山崎が行い、調査員が補足した。遺物の撮影は調査員・補助員が行った。
7. 図面の浄写は、野崎、山本が行い、調査員が補足した。
8. 出土遺物、図面等は、鳥取県埋蔵文化財センターに保管されており、出土遺物は将来的に鳥取市教育委員会に移管する予定である。
9. 本書に掲載の地形図は、国土地理院発行の5万分の1地形図「鳥取北部」「鳥取南部」の一部を複製したものである。
10. 本遺跡出土の柱根及び木については、奈良国立文化財研究所の光谷拓実氏に樹種を鑑定していただいた。同柱根の¹⁴C年代測定を京都産業大学理学部の山田治教授にお願いした。鳥取大学教育学部の赤木三郎教授には、出土した石製品の石材鑑定をしていただいた。同大学教育学部の平勢隆郎助教授には、出土した内行花文鏡の銘についての御教示をいただいた。中世土器については、鳥取県立博物館の久保兼二朗学芸員に多くの御教示をいただいた。記して謝意を表します。
11. 現地調査及び報告書の作成にあたっては、下記の方々に助言・指導・協力をいただいた。
大賀靖浩、加藤誠司、北浦弘人、網見安明、坂本敬司、清水真一、瀧川友子、田中弘道、田中精夫、栃木英道、中野知照、中原斉、中村徹、平川誠、榎島正実、前田均、松田潔、山田真宏(50音順、敬称略)
12. 発掘調査に際しては、地元の方々をはじめ、秋里江津地区土地改良区松本秀頼氏に便宜をはかっていただいた。また、江津在住の山根徳次氏には、本氏所有の「明治25年鳥取県因幡国高草郡千代木村(大字江津村)絵図」の写真撮影、復写を心よく承諾していただいた。
13. 表紙題字は財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター次長 田中幸治郎氏の揮毫である。

凡 例

1. 本報告書における方位は、すべて磁北を示す。
2. 当遺跡は、10×10mのグリッドを設定し、東西軸は北からアラビア数字、南北軸は西からアルファベットで表した。各軸の交点を、交差する軸名を用いて「6D」というように表し、南東隅の交点をグリッド名とした。
3. 挿図中と図版中の遺物番号は一致する。
4. 本報告書における遺構記号は次のように表す。なお、掘立柱建物跡の柱穴のピット番号は、建物ごとにふった。その他のピットについては、本文中に触れるものだけにピット番号をふった。

SK：土壌 SD：溝状遺構 SB：掘立柱建物跡 SE：井戸跡
P：ピット SS：段状遺構

5. 本報告書における遺物記号は次のように表す。

Po：土器、土製品 F：金属器 S：石器、石製品 W：木、木製品

6. 本報告書における実測図は下記の縮尺で掲載した。

遺構図— 土壌・土器溜り：1/20 溝状遺構：1/80（断面図1/20、1/40）

土器群：1/200 掘立柱建物跡：1/60 井戸跡：1/40

遺物図— 土器：1/4 土製品：1/2 石器・石製品：1/1、1/2 鏡：1/1

木・木製品：1/3

7. 土器実測図のうち、弥生土器、土師器は断面白抜き、陶器、瓦質土器は断面黒塗り表現した。
8. ピット、土壌、井戸跡の寸法は、(長軸×短軸-深さ) m (cm) で表した。
9. 出土した柱根の規模は、(長さ×底径) cm で表した。
10. 発掘調査時における遺構番号と本報告書における遺構番号との対比は挿表04の通りである。なお、遺物に記載されてある遺構名は、発掘調査時の遺構名番号であり、観察表にその取り上げナンバーをのせた。遺物には秋里遺跡西古竹の略号として「ANK」を使用した。
11. 遺構挿図中におけるセクション・エレベーションの基準線標高はL=の記号で表した。
12. 弥生土器の壺・甕は基本的にそのプロポーシオンで器種判定したが、スタンプ文が施されるなど、祭祀的な用途を思わせるものについては、甕形土器であっても壺とした。
13. 石器、石製品の計測値は、基本的に最大値が記してある。玉類の穴径は、眼に見える最大値を測定した。

目 次

序文

例言

凡例

目次

第1章 調査の経緯

- 第1節 発掘調査に至る経緯…………… (山橋) 1
第2節 発掘調査の経過…………… (山橋) 2
第3節 調査方法と体制…………… (山橋) 3

第2章 位置と環境

- 第1節 地理的環境…………… (山橋) 6
第2節 歴史的環境…………… (原田) 7

第3章 調査の内容

- 第1節 調査の概要…………… (原田) 12
第2節 土壌・土器溜り…………… (山橋・原田) 14
第3節 溝状遺構…………… (山橋) 63
第4節 土器群…………… (山橋) 73
第5節 掘立柱建物跡…………… (山橋) 76
第6節 井戸跡…………… (山橋) 83

第4章 まとめ

- 第1節 遺構について…………… (山橋) 171
第2節 弥生土器のスタンプ文について…………… (山橋) 173
第3節 玉未成品について…………… (原田) 178
第4節 中世土器について…………… (山橋) 184
第5節 おわりに…………… (山橋) 186

付論 秋里遺跡の¹⁴C年代測定について……………187

京都産業大学理学部教授 山田 治

挿 図 目 次

- 挿図01 秋里遺跡発掘調査地点…………… 1
挿図02 グリッド設定位置図…………… 3
挿図03 秋里遺跡の位置…………… 6
挿図04 千代川の旧流路…………… 7
挿図05 秋里遺跡周辺の主な遺跡分布図…………… 9
挿図06 基本層序図……………12

挿図07	弥生時代の遺構配置図……………折り込み	挿図41	S K 35・36遺構図……………折り込み
挿図08	調査区南壁土層断面図……………折り込み	挿図42	S K 37・38遺構図……………39
挿図09	古墳時代以降の遺構配置図…折り込み	挿図43	S K 39遺構図……………41
挿図10	S K 01遺構図……………14	挿図44	S K 40遺構図……………41
挿図11	S K 02遺構図……………14	挿図45	S K 41遺構図……………42
挿図12	S K 03遺構図……………15	挿図46	S K 42遺構図……………42
挿図13	S K 04遺構図……………16	挿図47	S K 43遺構図……………43
挿図14	S K 05遺構図……………17	挿図48	S K 44遺構図……………44
挿図15	S K 06・07・08遺構図……………18	挿図49	S K 45遺構図……………44
挿図16	S K 09遺構図……………19	挿図50	S K 46遺構図……………45
挿図17	S K 10遺構図……………20	挿図51	S K 47遺構図……………46
挿図18	S K 11遺構図……………21	挿図52	S K 48遺構図……………47
挿図19	S K 12遺構図……………22	挿図53	S K 49遺構図……………48
挿図20	S K 13遺構図……………23	挿図54	S K 50遺構図……………49
挿図21	S K 14・15・16遺構図……………24	挿図55	S K 51遺構図……………49
挿図22	S K 17遺構図……………25	挿図56	S K 52遺構図……………50
挿図23	S K 18遺構図……………25	挿図57	S K 53遺構図……………51
挿図24	S K 19遺物出土状況……………26	挿図58	S K 54遺構図……………52
挿図25	S K 19遺構図……………27	挿図59	S K 55遺構図……………53
挿図26	S K 20遺構図……………28	挿図60	S K 56遺構図……………53
挿図27	S K 21遺構図……………29	挿図61	S K 57遺構図……………54
挿図28	S K 22遺構図……………29	挿図62	S K 58遺構図……………54
挿図29	S K 23遺構図……………30	挿図63	S K 59遺構図……………55
挿図30	S K 24遺構図……………31	挿図64	S K 60遺構図……………56
挿図31	S K 25遺構図……………31	挿図65	S K 61遺構図……………56
挿図32	S K 26遺構図……………33	挿図66	S K 62遺構図……………57
挿図33	S K 27遺構図……………33	挿図67	S K 63遺構図……………57
挿図34	S K 28遺構図……………34	挿図68	S K 64遺構図……………58
挿図35	S K 29遺構図……………34	挿図69	S K 65遺構図……………58
挿図36	S K 30遺構図……………35	挿図70	S K 66遺構図……………59
挿図37	S K 31遺構図……………36	挿図71	S K 67遺構図……………60
挿図38	S K 32遺構図……………37	挿図72	S K 68遺構図……………60
挿図39	S K 33遺構図……………37	挿図73	S K 69遺構図……………61
挿図40	S K 34遺構図……………折り込み	挿図74	二器室01遺物出土状況……………62

挿図75	土器溜02遺物出土状況	62	挿図105	S K24・26・27・28 出土遺物	91
挿図76	S D01遺構図	63	挿図106	S K31・32・34出土遺物	92
挿図77	S D02遺構図	63	挿図107	S K35～38出土遺物	93
挿図78	S D04遺構図	64	挿図108	S K39・40・41 42・45・46出土遺物	94
挿図79	S D03・07遺構図	65	挿図109	S K47・48 土器溜01出土遺物	95
挿図80	S D05・06遺構図	折り込み	挿図110	土器溜02出土遺物	96
挿図81	S D08～12遺構図	折り込み	挿図111	S K50～53出土遺物	97
挿図82	S D13遺構図	折り込み	挿図112	S K54出土遺物	98
挿図83	S D14遺構図	69	挿図113	S K35～59出土遺物	99
挿図84	S D17遺構図	70	挿図114	S K60・61・63 64・67・69出土遺物	100
挿図85	S D18遺構図	70	挿図115	S K66出土遺物	101
挿図86	S D19～24遺構図	折り込み	挿図116	S D03・05・06出土遺物	102
挿図87	S D15・16遺構図	折り込み	挿図117	S D07・09・12出土遺物	103
挿図88	S D25遺構図	折り込み	挿図118	S D15・25出土遺物	104
挿図89	土器群01～06 遺物出土ポイント	折り込み	挿図119	S D25出土遺物	105
挿図90	土器群07 遺物出土ポイント	折り込み	挿図120	S D16出土遺物	106
挿図91	S B01遺構図	76	挿図121	S D16・19・24出土遺物	107
挿図92	S B02遺構図	77	挿図122	土器群01	108
挿図93	S B03遺構図	78	挿図123	土器群02(1)	109
挿図94	S B04遺構図	79	挿図124	土器群02(2)	110
挿図95	S B05遺構図	80	挿図125	土器群02(3)	111
挿図96	S B06遺構図	81	挿図126	土器群02(4)	112
挿図97	S B07遺構図	82	挿図127	土器群02(5)	113
挿図98	S E01遺構図	83	挿図128	土器群02(6)	114
挿図99	S E02遺構図	83	挿図129	土器群03	115
挿図100	S E03遺構図	84	挿図130	土器群04	116
挿図101	S K01～03出土遺物	87	挿図131	土器群05	117
挿図102	S K04・08・09・10 出土遺物	88	挿図132	土器群06(1)	117
挿図103	S K10～12出土遺物	89	挿図133	土器群06(2)	118
挿図104	S K14・16・18・19 20・23出土遺物	90	挿図134	土器群07(1)	118

挿図135 土器群07(2).....	119	挿図145 土製品.....	128
挿図136 S B03・05・06・07 S E02出土遺物.....	120	挿図146 管玉未製品(1).....	129
挿図137 遺構外出土遺物(1).....	120	挿図147 管玉未製品(2)・石製品.....	130
挿図138 遺構外出土遺物(2).....	121	挿図148 有溝石錘・敲石・砥石(1).....	131
挿図139 遺構外出土遺物(3).....	122	挿図149 砥石(2)・鏡・鉄製品.....	132
挿図140 遺構外出土遺物(4).....	123	挿図150 柱根・不明木製品.....	133
挿図142 遺構外出土遺物(5).....	124	挿図151 弥生時代(Ⅱ) 遺構配置図.....	171
挿図142 遺構外出土遺物(6).....	125	挿図152 スタンプ文の形式.....	173
挿図143 遺構外出土遺物(7).....	126	挿図153 出土特殊喪実測図.....	174
挿図144 遺構外出土遺物(8).....	127	挿図154 穿孔痕のある荒削り工程品.....	179
		挿図156 管玉未成品長編相関図.....	180

図 版 目 次

図版01 弥生時代遺構全景	S K34木出土状況
図版02 調査前風景	S K34完掘状況
S K01遺物出土状況	図版07 S K41遺物出土状況
S K02遺物出土状況	S K42遺物出土状況
S K04遺物出土状況	S K45遺物出土状況
図版03 S K06～09、S D01完掘状況	S K46完掘状況
S K06～11遺物出土状況	図版08 S K50遺物出土状況
S K11遺物出土状況	S K51遺物出土状況
S K12完掘状況	S K52遺物出土状況
図版04 S K14～16完掘状況	S K53遺物出土状況
S K19遺物出土状況	図版09 S K54遺物出土状況
S K20遺物出土状況	S K54完掘状況
S K23遺物出土状況	S K55遺物出土状況
図版05 S K26遺物出土状況	S K56遺物出土状況
S K27遺物出土状況	図版10 S K57遺物出土状況
S K31骨片出土状況	S K58遺物出土状況
S K37・38遺物出土状況	S K59遺物出土状況
図版06 S K34土器出土状況	S K60遺物出土状況
S K34木出土状況	図版11 S K61遺物出土状況

	S K62遺物出土状況		S B07
	S K63遺物出土状況	図版20	S B01~04
	S K64遺物出土状況		S B01
図版12	S K66遺物出土状況		S B04-P 2 柱根出土状況
	S K67遺物出土状況		S B04-P 4 柱根出土状況
	土器類01遺物出土状況	図版21	S B02
	土器類02遺物出土状況		S B04-P 1 柱穴タチワリ
図版13	S D01完掘状況		S B01北ビット内木出土状況
	S D05東側完掘状況		S B02-P 4 木出土状況
	S D05北側完掘状況	図版22	S E01木出土状況
	S D05北側遺物出土状況		S E01木出土状況
図版14	S D05北側遺物出土状況		S E02完掘状況
	S D08・09完掘状況		S E03完掘状況
	S D09内行花文鏡出土状況	図版23	S K01・02・03・08・09
	S D10・11・12、S K49完掘状況	図版24	S K10・11・19
図版15	S D25検出状況	図版25	S K24・26・31
	S D16完掘状況	図版26	S K34・35・37・38
	S D24西側完掘状況	図版27	S K42・46・47・48
	S D15北側完掘状況	図版28	土器類01・02
図版16	S D16底面土器出土状況	図版29	S K50~53
	S D24東側土器出土状況	図版30	S K54
	S D16底面の窪み	図版31	S K55・56・57・59・60
	S D13・50・51完掘状況	図版32	S K64・66
図版17	土器群02北側高坏出土状況	図版33	S D03・05・66
	土器群02西側遺物出土状況	図版34	S D07・25
	土器群02南側遺物出土状況	図版35	S D16・19・24
	土器群07遺物出土状況	図版36	土器群01・02
図版18	土器群02北側遺物出土状況	図版37	土器群02
	土器群04遺物出土状況	図版38	土器群02
	土器群05遺物出土状況	図版39	土器群02
	土器群06遺物出土状況	図版40	土器群02
図版19	S B03	図版41	土器群05・04
	S B04	図版42	土器群06
	S B06	図版43	土器群07、S B03・05、S E02

図版44	遺構外(弥生土器)
図版45	遺構外(弥生土器)
図版46	遺構外(弥生土器・土師器)
図版47	遺構外(須恵器・瓦)
図版48	土製品
図版49	管玉未製品
図版50	管玉未製品、石英、荒削工製品

図版51	有溝石錘、敲石、砥石、軽石
図版52	鏡、鉄製品、柱根、不明木製品(1)
図版53	不明木製品(2)
図版54	スタンプ文(1)
図版55	スタンプ文(2)
図版56	スタンプ文(3)
図版57	須恵器叩き目

挿 表 目 次

挿表01	土壌一覧表(1)……………	85	挿表42	柱穴及びピット内出土 木製品他一覧表(1) ……	169
挿表02	土壌一覧表(2)……………	86	挿表43	柱穴及びピット内出土 木製品他一覧表(2) ……	170
挿表03	掘立柱建物跡一覧表……………	86	挿表44	秋里遺跡スタンプ文施文 土器一覧表(1) ……	176
挿表04	遺構番号対照表 ……	134	挿表45	秋里遺跡スタンプ文施文 土器一覧表(2) ……	177
挿表05	出土土器観察表(1)～(2) ……	135	挿表46	泉内スタンプ文施文土器出 土遺跡一覧表 ……	177
37		166			
挿表38	管玉未成品他観察表(1)～(3) ……	167			
40		169			
挿表41	鉄・銅製品および石英品観察表 ……	169			

写 真 目 次

写真1	現地説明会風景……………	2	写真5	調査風景……………	5
写真2	重機による堀り下げ……………	5	写真6	発掘参加者……………	5
写真3	泥水沈澱槽……………	5	写真7	丸山所在離水海食洞……………	7
写真4	近代以降の火葬場……………	5	写真8	SD15発掘……………	72

第1章 調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経緯

今回の調査は、鳥取県保健会館(仮称)建設に伴うものである。建設予定地は、鳥取市の北部、鳥取市江津～秋里に広がる秋里遺跡の所在地として知られており、今回の調査地は、その北西部にあたる。調査地は、1970年代にグランド造成のための客土が約1mの厚さで行われていた。秋里遺跡は、1974年に一般国道9号改築工事橋梁新設工事現場で、多量の土師器片が地元の考古学者によって発見されて以来十数度の調査が行われている。その調査によって、土器溜、溝、土坑などが検出され、大量の土師器、土馬・水鳥・船などの土製品、ミニチュア土器、玉類などが出土し、弥生時代～古墳時代を中心とした祭祀遺跡として注目されていた。

調査にさきだち1986年(200㎡)、1987年(250㎡)の二度にわたり、鳥取県埋蔵文化財センターにより建設予定地および周辺で試掘調査が行れた。その結果、弥生時代後期から中世に至る遺構遺物が、建設予定地内で確認でき、秋里遺跡の範囲が、建設予定地まで確実に広がるのが分かった。このため、鳥取県保健会館の建設により秋里遺跡の一部の消滅が避けられない状況となり、鳥取県衛生環境部より調査委託を受けた鳥取県教育文化財団が、2500㎡にわたり原因者負担による発掘調査を行った。

参考文献

『秋里遺跡(西谷竹地区)発掘調査概報:鳥取県埋蔵文化財センター 1987年

『鳥取県鳥取市秋里遺跡発掘調査報告書(西谷竹地区)』鳥取県埋蔵文化財センター 1988年



挿図01 秋里遺跡発掘調査地点 (数字は調査回数、括弧内は調査年を示す)

第2節 発掘調査の経過

発掘調査は、1989年6月1日から始められた。鳥取県保健会館(仮称)の着工が、1990年に予定されており、降雪期を避けるために11月いっぱいを目差して行われた。調査地が低湿であるため、湧水と雨水の処理に苦慮しながらも、12月4日に現地調査を終了した。現地説明会は、10月14日に行われ、約70名の参加者があった。調査の経過については、下記の調査日誌(抄)を参照されたい。現地での調査と併行して、出土遺物は、鳥取県埋蔵文化財センターにおいて整理が進められ、3月31日にすべての整理作業を終了した。

調査日誌(抄)

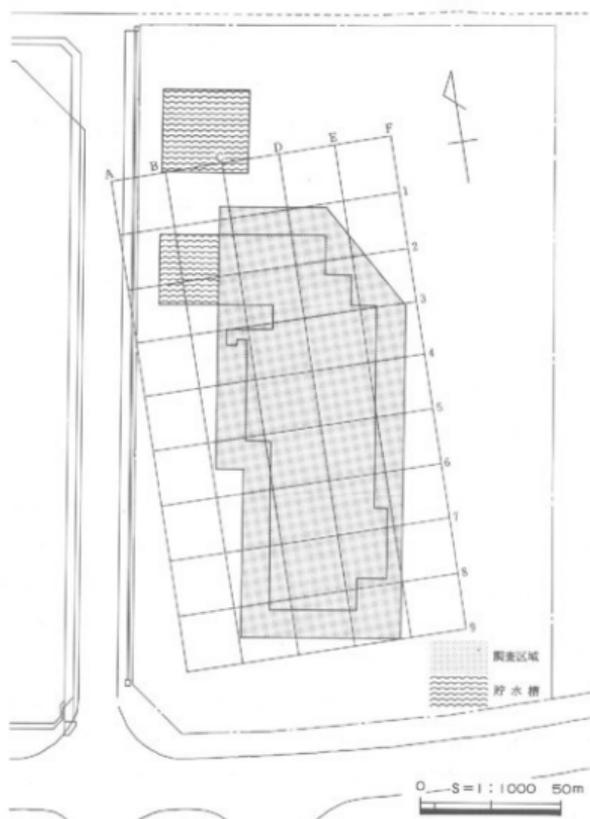
- 6月1日 発掘調査機材搬入。
6月2日 重機による客土除去作業開始。
6月14日 調査区北側より掘り下げ精査。SK50検出。
6月17日 調査区南側で火葬場(近代以降)検出。
6月28日 SD25検出。
7月8日 SD16検出。
7月10日 } 雨のため作業中止。
7月13日 }
7月17日 SK52検出。土器群01検出。
7月21日 重機の使用終了。
7月22日 SE01検出。
8月23日 SD25完掘。
9月1日 } 不順な天候のため、一進一退の調査。遺構、遺物が幾度となく水没する。
9月30日 } その中27日にSD09内で、内行花文鏡出土。
10月11日 土器群04水没。実測途中のため、調査員一同落胆。
10月14日 現地説明会。約70名の見学者あり。
10月20日 6E、6Dグリッドで、土壌群検出。
10月21日 SK31より骨片出土。
11月6日 SB02~SB04完掘。
11月8日 この頃より冬の気候にむかい、天候不順で調査停滞。
12月4日 調査終了。



写真1 現地説明会風景

第3節 調査方法与体制

発掘調査は、鳥取県埋蔵文化財センターが行った試掘調査の結果に基づいて行われた。調査区域は、安全勾配を確保しながら掘り下げるため、建物壁心から5m外側に設定した。また、調査地が低湿な場所であるために湧水、雨水を大量に調査区外に排出することが予想された。しかし、調査区から出る排水を流し込む水路が農業用水路であったことから、泥水をそのまま流し込むことができず、地元土地改良区と協議の結果、泥水処理のための貯水槽を2ヶ所設け、泥を沈澱させた後の上澄水を用水路に排出することとした。貯水槽の掘り下げは、鳥取県埋蔵文化財センターの指導のもと、遺構・遺物の希薄であると思われる地点に、調査員立合のもと、重機を使用して行った。発掘調査は、調査員の指導のも



挿図02 調査区グリッド設定位置図

と補助員、作業員が協力して行った。その際、遺構・遺物の冠水を防ぐため、適時、調査区内に排水溝を設定した。遺構および遺物の出土状況の測量および実測においては、調査地内に南北（磁北）・東西に10×10mのグリッドを設定し、簡易遺り方測量および平板測量を実施した。写真は、白黒、カラーリバーサルとの2種類を撮影している。掘り下げについては、重機および人力で行った。重機の使用は、グラウンド造成時の約1mの客土の除去および遺物包含状況の薄い部分の掘り下げにのみ調査員立合のもとに行った。調査体制は以下のとおりである。

調査主体	財団法人鳥取県教育文化財団	
	理事長	西尾 昌 次（鳥取県知事）
	副理事長兼常務理事	坂 田 昭 三
	事務局長	若 松 良 雄
	財団法人鳥取県教育文化財団	鳥取県埋蔵文化財センター
	所 長	前 田 寛
	次 長	田 中 幸次郎
	庶務係長	三 好 勝
調査担当	財団法人鳥取県教育文化財団	東部埋蔵文化財調査事務所
	所 長	植 田 政 夫
	主任調査員	山 橋 雅 英
	調 査 員	原 田 雅 弘
	調査補助員	小 谷 修 一
調査指導	鳥取県埋蔵文化財センター	

下記の方々に発掘・整塚作業員として協力していただいた。記して謝意を表したい。

〈発掘参加者〉 青木益子 青木美代子 青木幸江 朝倉和子 池成久江 柳田清子 岡村
 勲 北浦大介 木村弘子 薄川依子 岡井悦子 小谷雅恵 小林俊太 坂田千代乃 世戸
 匠 田中寿子 田中まつ子 高垣美代子 丹波千恵野 筒井聖美 中西範佳 中村賢司
 西岡達郎 西塚邦子 西原徳善 西村喜美恵 西村登美子 西村昇 西本美佐子 橋崎良
 一 浜橋富枝 橋本良子 林花誉子 菱川幸子 兵井政博 平井三恵 広川啓子 福田三
 男 前田すみ子 前田のぶ子 前原裕之 松浦美代子 松田弘子 松本隆徳 丸尾久江
 宮石智美 宮本幸男 宮脇美佐子 安木八重子 山崎貞江 山本社介 吉川欣吾 米嶋幸
 子 米原まさ子 米原芳江（50音順・敬称略）

〈整理参加者〉

伊藤恵美子 神矢紀子 桑崎知早子 酒巻佐代子 中本和子 野崎悦子 福田和美 松岡
朋子 山崎保子 山本久美江 山本静子 (50音順・敬称略)



写真2 重機による掘り下げ



写真3 泥水沈澱槽



写真4 近代以降の火葬場



写真5 調査風景



写真6 発掘参加者

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

秋里遺跡は、鳥取県鳥取市江津〜秋里に所在する。

鳥取県 鳥取県は、中国地方の北東部に位置し、東は兵庫県、西は島根県、南は岡山県・広島県と接する。北方には日本海、南方には中国山地がひかえる東西126kmの細長い県である。鳥取県は、山がちな地勢である。総面積3492.34km²

の内約86%が山地であり、人々の生活領域は、山間の谷奥平野と海岸に開けた沖積平野に展開している。主な沖積平野は、鳥取県の三大河川流域に形成されている。鳥取県西部を流れる日野川流域に形成された米子平野、中部の天神川流域の倉吉平野、東部の千代川流域の鳥取平野がそれである。

鳥取市 秋里遺跡が立地する鳥取市は、鳥取平野を中心に開けた県庁所在地である。東は岩美郡福部村・国府町に接し、南は八頭郡都家町・河原町、西は気高郡気高町・鹿野町に接している。また北方は、鳥取砂丘、湖山砂丘をはさんで日本海と接している。総面積は237km²で、東・西・南の三方を山で囲まれ、総面積の60%以上を山地が占める。平野は、千代川下流域に発達している。

千代川 千代川は、中国山地の八頭郡智頭町沖ノ山に源を発し、大小70もの支流、支川を合流して日本海に注ぐ総延長56.8kmの一級河川である。現在の流路は、大正15年に起工改修された以降のもので、かつては安長から東に蛇行したあと浜坂あたりで西に大きく蛇行して日本海に注いでいた。とはいえ、記録に残っているだけで、享保年間から今日まで10回以上も氾濫していることを考えれば、この流路も幾度となく自然の力によって変えられていたことであろう。この千代川が、鳥取平野の形成に大きな影響を持っていた。

鳥取平野 鳥取平野は、縄文前期の海進期においては海面下にあり、鳥取潟と称される入海あるいは潟湖であった。丸山にある離水海食洞「俗称じくじく岩」や布勢、天神山、足山、産水、甲山、岩吉、徳尾に見られる岩島地形がこのことを物語っている。その後の海岸線の後退とともに沼沢地が広がり水性植物が育成し、泥炭が形成されていく。桂見、倉



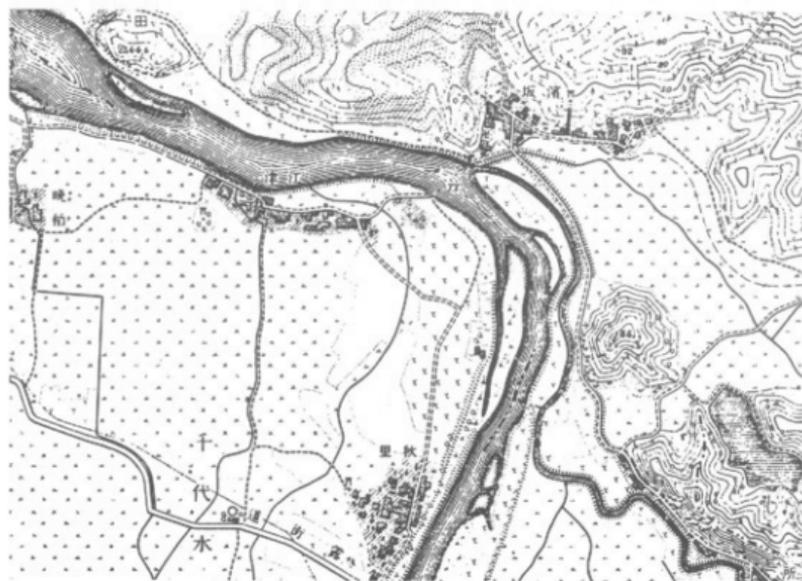
挿図03 秋里遺跡の位置

見、布勢グラウンド付近では、厚さ数m以上の「ガマクソ」と呼ばれる未分解植物遺体層の堆積が顕著に見られる。古墳時代になると、海面低下のためかなり乾性の土地となってゆき、千代川が運ぶ土砂の堆積により鳥取平野が形づくられた。その際千代川の氾濫に伴い河道の両側に砂泥が堆積され、自然堤防が形成された。自然堤防は、江津・秋里・古海付近に発達している。秋里遺跡 このうちの江津・秋里の自然堤防は、千代川の旧流路の下流左岸に形成されたもので、この自然堤防上に秋里遺跡が立地する。



写真7 丸山所在離水海食洞

参考文献 豊島吉剛「鳥取の自然と人文」『新修鳥取市史』第1巻 1983年



挿図04 千代川の旧流路

第2節 歴史的環境

秋里遺跡を含む千代川下流域に広がる鳥取平野に、人々の生活の痕跡を求めたとき、古くは縄文時代まで遡ることが確認されている。縄文時代以前にも、鳥取市浜坂の砂丘で旧石器時代の有舌尖頭器が採取されていることから、今後、旧石器時代の遺跡が明確にされる可能性もあるが、ここでは主に縄文時代以降について、千代川下流域の歴史についてふれていくことにする。

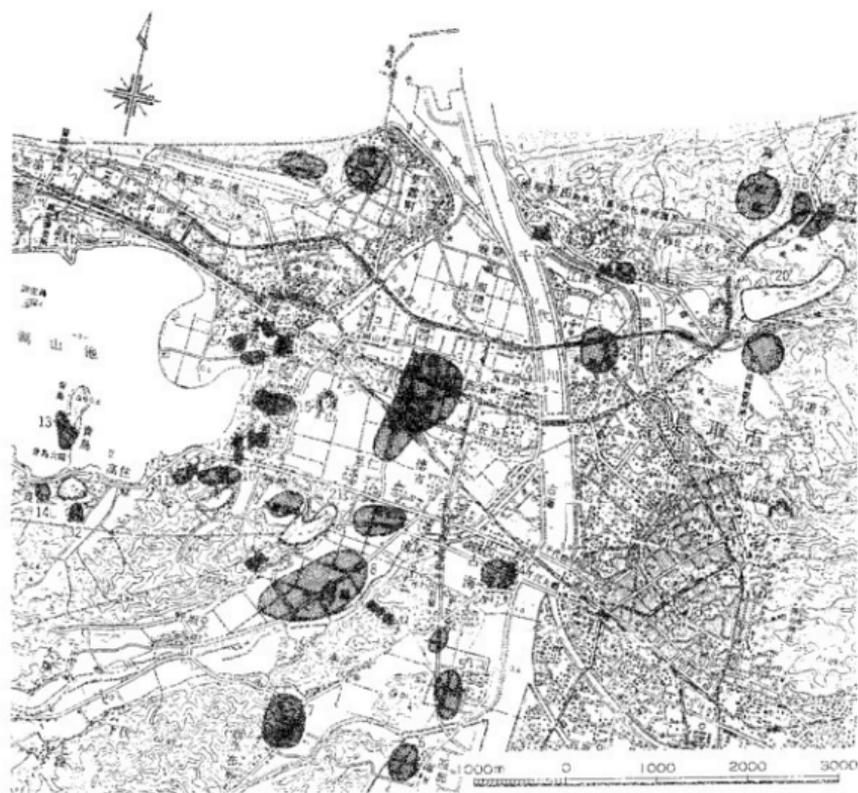
〈縄文時代〉

人々の生活の痕跡が明確となった縄文時代の遺跡は、中期以降のものが主流をなしている。この時期の鳥取平野は、海進・海退によってラグーンとなっており、そのラグーン周辺に遺跡が残されている。主だった遺跡を時期を追ってみていくと、中期では新木山遺跡(2)、追後遺跡(9)。後期では、青島遺跡(3)、桂見遺跡(4)、天神山遺跡(5)、湖山第2遺跡(7)、布勢第1遺跡(9)。晚期では岩吉遺跡(3)、古海遺跡(4)、大路川遺跡などが挙げられる。中でも青島遺跡は、山陰地方で最初に縄文土器が発見された場所で、縄文時代から古墳時代にいたる遺跡である。また桂見遺跡、布勢第1遺跡では、櫛、杓子といった木製品、オニグルミ、トナなどの植物遺体も見つかっており、住居跡などは見つかっていないものの、縄文人の生活の息吹を感じることができる。最近の発掘調査でも、福部村の栗谷遺跡から、豊富な木製品、植物遺体とともに、完全に復元できる貴重な産物縄文の深鉢が出土している。

〈弥生時代〉

弥生時代の遺跡は、千代川流域で多く発見されており、特に鳥取平野南部、湖山池周辺の地域に集中している。これはその地域が、沖積地や低湿地であり、稲作等生産活動に適した場所であったことがうかがえる。人々の生活していた場所としては青島遺跡、湖山第2遺跡、岩吉遺跡、古海遺跡、布勢第2遺跡(9)、大橋遺跡(8)、塞ノ谷遺跡(4)、服部遺跡(6)、萬瀬遺跡(5)などが知られている。中でも岩吉遺跡は、肥沃な沖積地を生活の基盤にし、前期から後期まで存続した千代川流域の中心的な集落跡である。また湖山第2遺跡では、中期以降の堅穴住居跡が、ややまとまった形で検出されており、中期後葉に位置づけられる堅穴住居跡からは、管玉未製品、原石が出土している。この湖山第2遺跡の他にも湖山池周辺では、帆城遺跡(12)、布勢第2遺跡で玉未製品、玉砥石が出土しており、玉作りの工人集団が湖山池周辺に存在していた可能性がある。

この時代の墓制を知る上では、西桂見遺跡(11)において、東西64m、高さ5mを測る四隅突出型墳丘墓と木棺墓が検出されている。特に四隅突出型墳丘墓は、この種の墓としては



- | | | | |
|----------|--------------|------------|-------------|
| 1. 秋風遺跡 | 9. 布勢第1・第2遺跡 | 17. 湖山第2遺跡 | 25. 布勢1号墳 |
| 2. 栃水山遺跡 | 10. 柿見遺跡 | 18. 長者原遺跡 | 26. 大熊段1号墳 |
| 3. 岩吉遺跡 | 11. 西谷見遺跡 | 19. 追後遺跡 | 27. 三浦1号墳 |
| 4. 古海道跡 | 12. 帆城遺跡 | 20. 開地谷古墳群 | 28. 浜板横穴群 |
| 5. 高瀬遺跡 | 13. 青島遺跡 | 21. 星仁古墳群 | 29. 荒神山横穴 |
| 6. 股塚遺跡 | 14. 瀬ノ谷遺跡 | 22. 桂見古墳群 | 30. 鳥取塚跡 |
| 7. 北村遺跡 | 15. 天神山遺跡 | 23. 高住古墳群 | 31. 布勢天神山城跡 |
| 8. 大柵遺跡 | 16. 湖山第1遺跡 | 24. 納野1号墳 | 32. 高住銅鐸出土地 |

挿図C5 秋風遺跡周辺の主な遺跡分布図

最大であり特筆されるものである。

以上の他に追後遺跡、長者原遺跡(8)といった砂丘地においても弥生時代の遺物が見つかり、砂丘の下に弥生の集落が眠っているものと恐われる。

祭祀遺跡としては、今回調査を行った秋里遺跡(1)が後期以降古墳時代まで続いているようである。

また弥生時代を代表する遺物といえる銅鐸が高住(4)から見つかり、銅鐸が当時のムラにおけるシンボリック的役割を果たしていたとするならば、高住周辺の地域にムラの広がりやを推測できる。

〈古墳時代〉

古墳時代になると、各地に古墳が築造され、人々の生活の痕跡が明確に現れている。鳥取平野にも1600基以上の古墳が造られている。千代川周辺では、湖山池を中心とした千代川左岸、千代川河口の東に広がる砂丘地とそれに続く丘陵地に多く見られるようである。それぞれ地域ごとに見ていくと、湖山池周辺地域では、桂見古墳群(2)において、前期に位置づけられる県下最大規模の方墳である2号墳の主体部木棺内から舶載の内行花文鏡、斜縁獣帯鏡が出土し注目をあびた。また、中・後期以降になり、中・小規模古墳が造られていく中で、90mを越える柵間1号墳(24)をはじめ、右勢1号墳(25)、大熊段1号墳(26)、三浦1号墳(27)といった大型の前方後円墳も造られている。この他にも高住(4)、里仁(28)などの古墳群が多く存在する。

千代川河口の東に広がる砂丘地と丘陵地には、開地谷古墳群(29)、浜板横穴群(30)、荒神山横穴(31)などがある。開地谷古墳群では、その出土遺物の中で、馬具、骨製管玉、滑石製勾玉が注目されるべきものである。浜板横穴群は、横穴群が形成された後、砂に埋もれたもので、この他にも砂の下に古墳等が埋もれていることが十分考えられる。

この時代の集落は、多くが弥生時代から継続していたと考えられ、湖山第2遺跡、布勢第2遺跡、大橋遺跡、北村遺跡(7)などで多くの遺構が見つかり、この他の集落跡としては、湖山第1遺跡(6)で、中期末を中心とした堅穴住居跡が25棟検出されており、付近の大型古墳との関係が注目される。また祭祀遺跡として、青島遺跡、塞ノ谷遺跡が古墳時代まで継続しているようである。

〈歴史時代〉

律令期になると、現在の鳥取市は千代川を境として二つに分かれており、秋里遺跡を含む千代川右岸は「邑美郡」、湖山池を含む千代川左岸の広い地域は「高草郡」と呼ばれていた。この頃行われた条里区画の中で、高草郡の条里はよく知られているが、この地域は、

天平15年(743)に発せられた墨田永世私財法を一つの契機として、天平勝宝8年(756)に、東大寺の荘園となり「高庭庄」と呼ばれた。

また「時範記」によると、この時期に賀露港に祀られていた三嶋大明神が秋里に移され、因幡国司赴任の際に、この三嶋社を主要神社の一つとして参拝したとある。現在でもこの地区には「ミシマノヤブ」と俗称される所があり、当時の三嶋社を偲ぶことができる。

戦国時代に至っても、この地には秀吉の鳥取城攻めの際に陣所が構えられており、現在の衛生公社敷地内には土塁が残されている。

以上の他、各地に中世以降の遺構が見られ、山名氏が因幡支配の拠点とした布勢天神山城跡¹⁾、布勢第2遺跡、古海遺跡といった人々の生活の跡。西桂見遺跡、大熊段遺跡、徳尾遺跡などの中世墓。そして、久松山の山頂に本丸を築いた鳥取城跡が築城され、城下町として現在の鳥取市が発展していった。

このように秋里遺跡を含む鳥取平野には、人々の足跡が原始より数多く刻まれている。このことには、悠久の時を越えて流れる千代川が大きく関わっているであろう。

参考文献

- 『秋里遺跡』 鳥取市教育委員会 1976年
- 『秋里遺跡(西苔竹地区)発掘調査概報』 鳥取県埋蔵文化財センター 1987年
- 『秋里遺跡発掘調査報告書(西苔竹地区)』 鳥取県埋蔵文化財センター 1988年
- 『湖山第1遺跡』 鳥取県教育委員会・鳥取県教育文化財団 1989年
- 『鳥取県の古墳』 鳥取県埋蔵文化財シリーズ1 鳥取県埋蔵文化財センター 1986年
- 『弥生時代の鳥取県』 鳥取県埋蔵文化財シリーズ2 鳥取県埋蔵文化財センター 1987年
- 『旧石器・縄文時代の鳥取県』 鳥取県埋蔵文化財シリーズ3 鳥取県埋蔵文化財センター 1988年
- 『歴史時代の鳥取県』 鳥取県埋蔵文化財シリーズ4 鳥取県埋蔵文化財センター 1989年

第3章 調査の内容

第1節 調査の概要

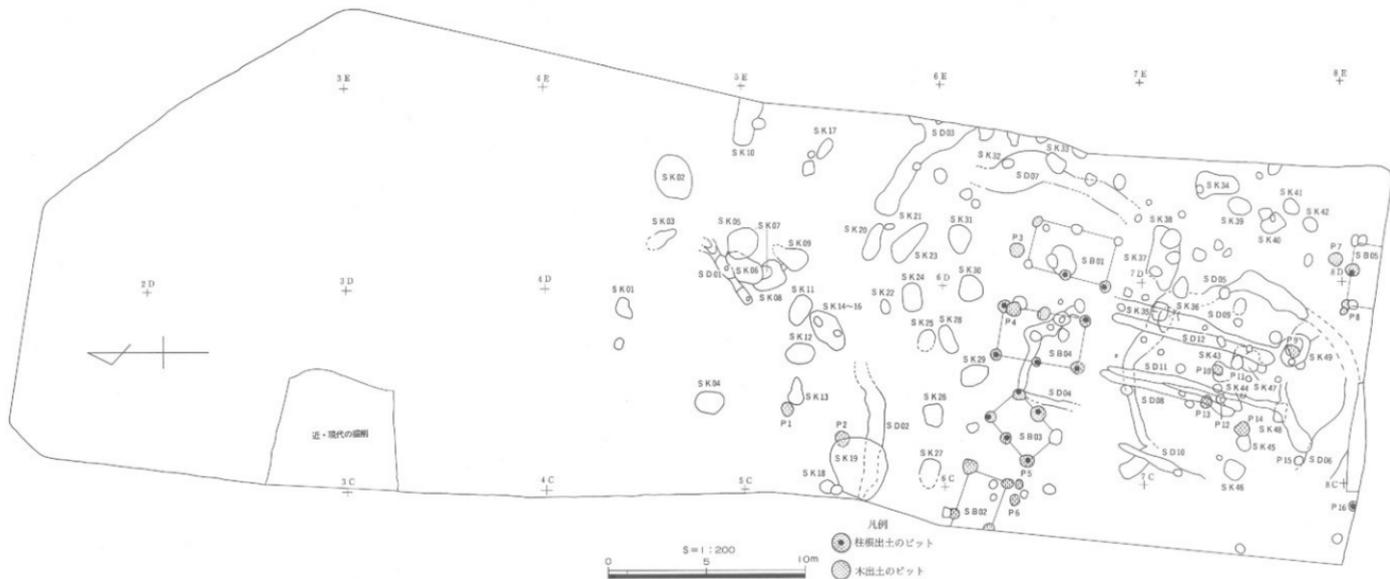
秋里遺跡は弥生時代後期から中世に至るまでの複合遺跡である。その内容は弥生時代、古墳時代、歴史時代以降の3期に大別できる。以下に検出した順を追いながら、遺跡の内容を概説しておく。

まず歴史時代以降のものについては、地表面より約1m掘り下げた④層中より鎌倉・室町時代に当たる中世の土器片が出土しており、以下⑥層までに歴史時代以降の遺物および遺構が含まれている。遺構は主に⑥層上面または⑦層上面で検出しており、土壇1、溝状遺構10、掘立柱建物跡2、井戸跡3、ピットをそれぞれ確認した。これらの中で、S D16、S D25は奈良時代ごろより室町時代に至る頃まで続いていたと考えられるもので、時代によりその流れに多少の変化はあるが、場所的には大きな変動はなく、長時間にわたり水をたたえていたのではなかろうか。遺物的にみてもS D16内より土鍋が、S D25内で備前焼が出土しており、それぞれその時代を物語るものである。さらに上記の溝と直交する古墳時代末～奈良時代と考えられるS D24も検出された。

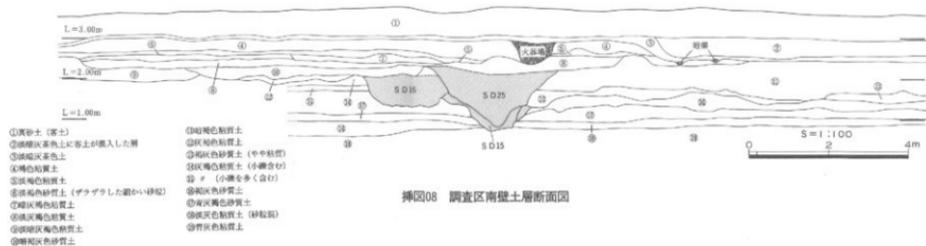
次に古墳時代についてみると、奈良・平安期にあたる頃の遺構が実際に掘り込まれていたと思われる⑥下層あたりより、土器等遺物の出土がみられ、以下⑧層までの間に遺構、遺物が含まれていた。遺構の掘り方が実際に検出できたのは⑤層上面であるが、土器出土状況より、⑦層中、⑧層中で検出または確認した遺構もある。これら検出できた遺構の数は、土壇19、溝状遺構3、土器群1、ピットなどである。古墳時代のそれぞれの時期に該当する遺構、遺物を検出しているが、主なものも前期と考えられるもので、S K53、55、61は破砕されたと思われる土器片が多量に出土しており、土器滴り的な性格、もしくは祭祀的な性格を持つものである。また同じく古墳時代前期にあたるS K52は底面に焼土が広がり、その上層には炭、灰が層をなしている中に混じって土器が出土しており、やはり祭祀的な色彩を持ったものである。S K53については器台が供献的な状態で出土しており、土器棺と思われるような大型の甕も出土したことで、土壇墓的な性格も考えられるもので、外面にタキ調整が施された、他地方からの搬入品と考えられる甕も出土している。古墳時代中期以降のものは数が少なく、土壇数基と溝状遺構4である。そのうちS D15は古墳時代後期の溝で、S D16、S D25と同方向に延びており注目される場所である。古墳時代までの遺構検出は調査区全面を平面的に掘り下げた。



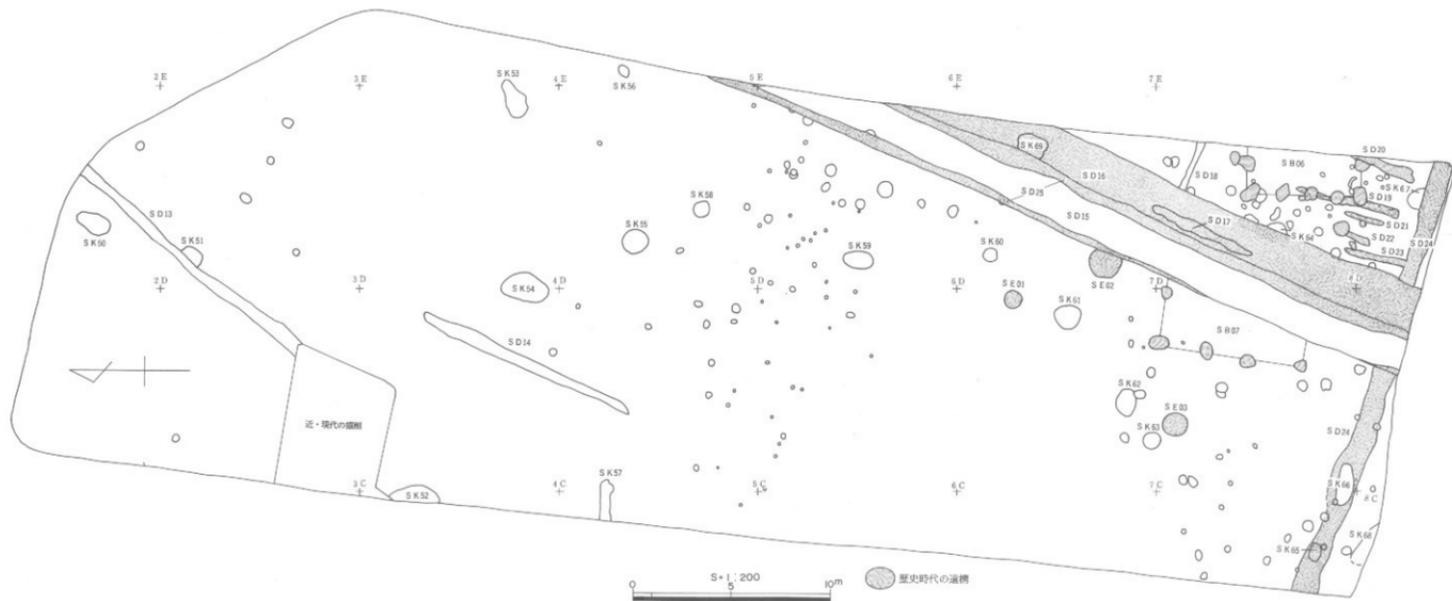
挿図06 基本層序図



押図07 弥生時代の遺構配置図



押図08 調査区南壁土層断面図



挿図09 古墳時代以降の遺構配置図

弥生時代の遺構検出にあたっては、低湿地遺構という性格から、調査区を全面掘り下げた場合は、降雨による被害が大きいと判断し、グリッド設定とは別に、調査区域内を4区に分け、グリッド設定杭の3ラインより北をA区、3ラインから5ラインまでをB区、B区以南はDラインを境界とし、東をC区、西をD区として北より順に掘り下げることにした。その結果、北側では遺構ほとんどなく、南に下がるほど遺構の密度が高くなっていった。これら弥生時代後期の遺物、遺構は、最も高いレベルで⑧層中から検出できしており、以下⑩層までが遺構、遺物の含まれる層で、⑩層は遺構の底面が掘り込まれているものの、その層中からは遺物が出上せず無遺物層と考えられるものである。弥生時代後期の検出してきた遺構の数は、土城4、土器溜り2、溝状遺構12、土器群6、掘立柱建物跡5である。検出した土壌のほとんどは、祭祀的性格を持つ⁽¹⁾と考えられるもので、その埋土には炭などが含まれるか、炭、灰が層をなしているものである。6D、6Eグリッド北部に集中する土壌群からは、多量の土器に混じってジャスパー等の玉材が一揃に出土している。SK31は埋土の中に焼土層を含んでおり、その焼土上面から土器片に伴って骨片が出土している。SK34はその底面より板状の木が出土し、その出土状況および土層の堆積状況などから、木棺墓とも考えられるものである。これらの土壌には土壌群単位とも言えるまとまりがあり、出土した土器の中には、その土壌群単位の中で他の土壌から出土した土器片と接合するものもある。土壌以外では環状に巡るSD05など、土壌や掘立柱建物跡を区画するようにも受け止められる溝状遺構を検出しており、その上層に広がっていた土器群が、これらの溝状遺構に伴うものとも考えられる。また弥生時代後期のものとしては最も高いレベルで検出したSD09からは、「宣」という銘文の一部が残る内行花文鏡の破片が出土している。遺構としては掘立柱建物跡が注目になるものであり、スギ材と判断される柱根がしっかり残っているものと、柱根は残っていないものの礎板と思われる木材がピット底面に残っているものがある。この他にもピット底面に木材が残っているものがあり、確認できた数以上に掘立柱建物が建っていた可能性もある。遺物としては、内行花文鏡の他に、スタンプ文が施された土器が数多く出土しており、そのスタンプ文の種類豊富なことは、県内の他の遺跡にはあまり見られないものである。スタンプ文以外で、今回出土した土器の特徴とも言えるのは、土器内面の調整方法に、ヘラケズリ後ナアまたはヘラミガキを行っている点であり、かなりの個体にこの調整方法が観察できる。土器以外では、土壌内や掘り下げ中に管玉未成品が出土しており、未成品以外にも相当数の刻片や玉材が出土し、祭祀的な色合いの濃い中に、三作工房が存在する可能性も考えられる。

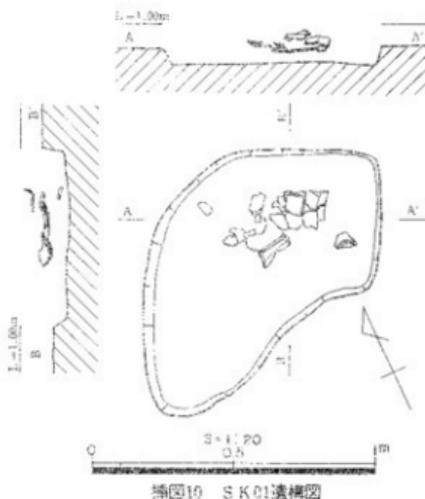
註1後で述べるが、玉作りに関係する土壌である可能性をもつものもある。

第2節 土壇・土器溜り

S K 01 (挿図10・101、図版92・23)

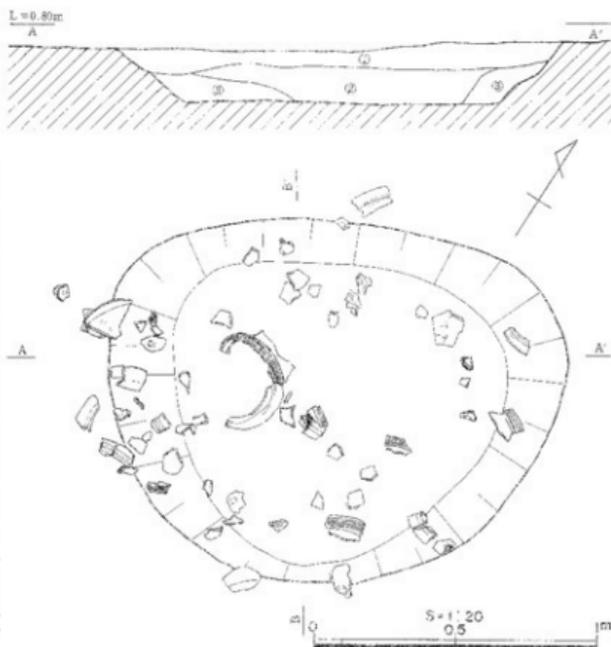
位置 5 Dグリッドの北東部、弥生時代の土壇の最北端の位置を占める。

形態 褐灰色砂質土の下層を掘り下げ中に弥生土器の破片がややまとまって出土したことから、土壇を想定し遺構検出に努めた。炭片が広がる範囲を遺構の掘り方として掘り下げた。平面形は不整形である。断面形は逆梯状を呈する。規模は(1.19×0.62-0.09) mを測る。



挿図10 S K 01遺構図

- ① 灰白色砂質土 (炭を少量含む)
- ② 灰白色砂質土 (炭を含む)
- ③ 灰茶褐色土



挿図11 S K 02遺構図

遺物 弥生土器の甕 (Po1)、器台 (Po2) が底面近くで出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 02 (挿図11・101、図版23)

位置 5 Eグリッドの中央付近、S K 03の東約1.7mに位置する。青灰褐色砂質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形は、南東側が張るいびつな楕円形である。断面形は逆梯状を呈し、東西断面は緩やかな段をもつ。規模は、(1.63×1.29-0.26)mである。主軸はN-57°-Eの方向である。

土層 埋土は3層で、①②層に炭片を含む。

遺物 遺物は埋土の上層で出土したものが多く、甕 (Po4・5・6・9)、甕 (Po3・7・8)、甕か甕の底部 (Po13~15)、高坏 (Po10)、器台 (Po11)、蓋 (Po12)、図化はしなかったが自然石が出土した。底部のうちPo14・16は小さな平底、Po15は丸底化した平底、Po13は、上げ底状のものである。

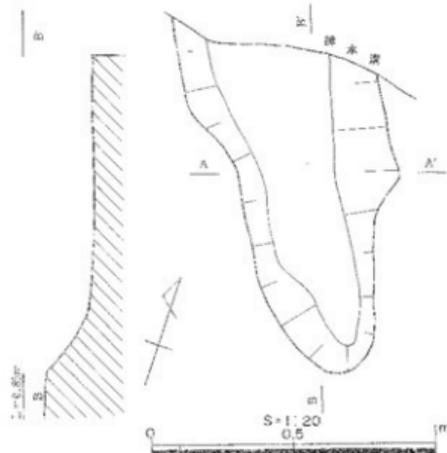
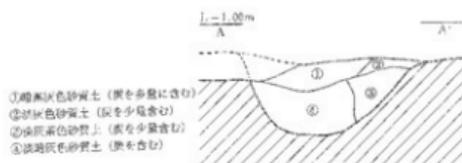
時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 03 (挿図12・101、図版23)

位置 5 Eグリッドの南西部、S K 01の東約3mに位置する。掘り方を青灰色粘質土上面で検出した。

形態 掘り方の北側部が調査時の排水溝によって切られているが、平面形はいびつな長楕円形を呈していたものと思われる。断面形は、東西が椀状、南北が皿状を呈する。規模は(1.15以上×0.57-0.21)mである。主軸はN-70°-Wの方向である。

土層 埋土は4層で①層は炭片を多量に含んでいた。他の埋土も少量ながら炭片を含んでいた。



挿図12 S K 03透視図

遺物 壺 (Po19)、甕 (Po17・18) が①層内で出土した。Po19は凸帯を有する壺の頸部で、凸帯の下には刻み目が巡る。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

SK04 (挿図13・102、図版02)

位置 5Dグリッドの

北西部、SK01の

北西約5mに位置

する。掘り方を淡

灰色粘質土上面で

検出した。

形態 平面形はいびつ

な楕円形である。

断面形は一方がや

やいびつな皿状を

呈する。規模は、

(1.45×1.11-0.

2)mを測る。主軸

は、N-1°-Eの

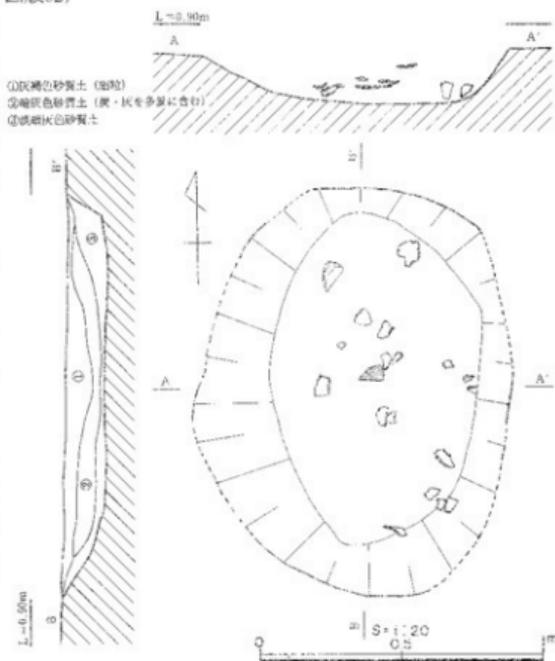
方向ではほぼ南北

方向である。

土層 埋土は3層で、

②層は多量の炭片

を含んでいた。



挿図13 SK04遺構図

遺物 炭片が、主に②層内で出土した。口縁部を区画した (Po26)。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

SK05 (挿図14)

位置 6Eグリッドと7Eグリッドにまたがる。SK07の上面、褐色砂質土中で検出

した。

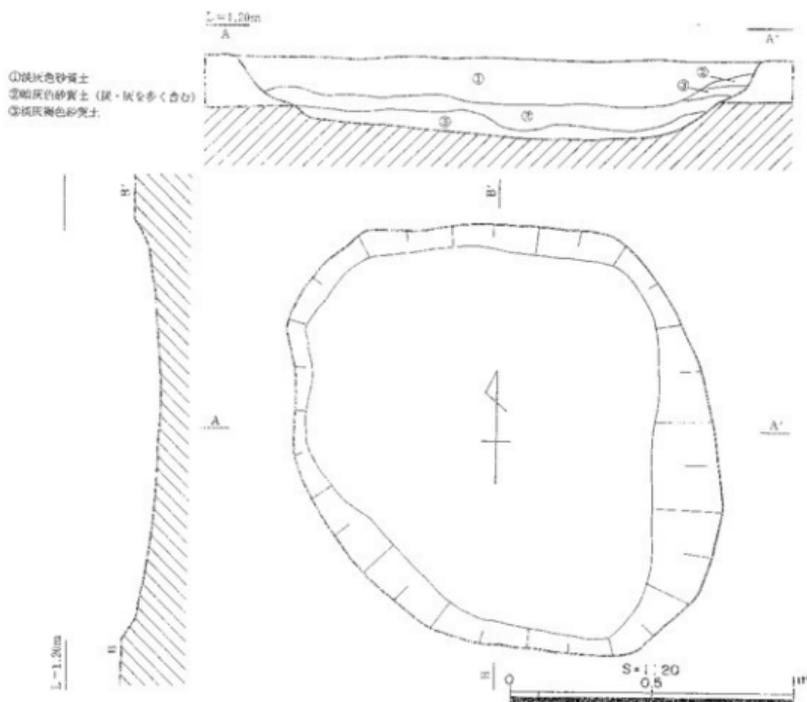
形態 平面形はいびつな楕円形で、断面形は皿状を呈する。規模は(1.75×1.48-0.28)

mを測る。主軸はN-45°-Wの方向である。

土層 埋土は3層で、②層は多量の炭片を含んでいた。

遺物 図化はしなかったが、埋土中で弥生土器が出土した。

時期 出土土器より弥生時代と思われる。



挿図14 S K05遺構図

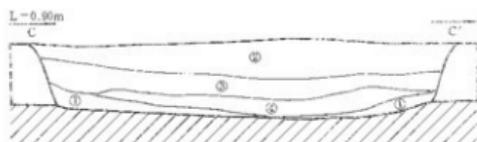
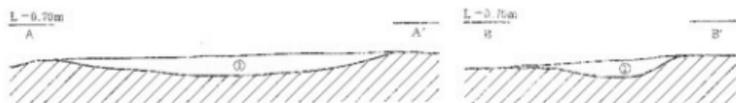
S K06~08 (挿図15・102、図版03・23)

位置 6 Eグリッドの北西部に位置する。それぞれ切り合う関係にあり、S K06はS D 01により切られている。

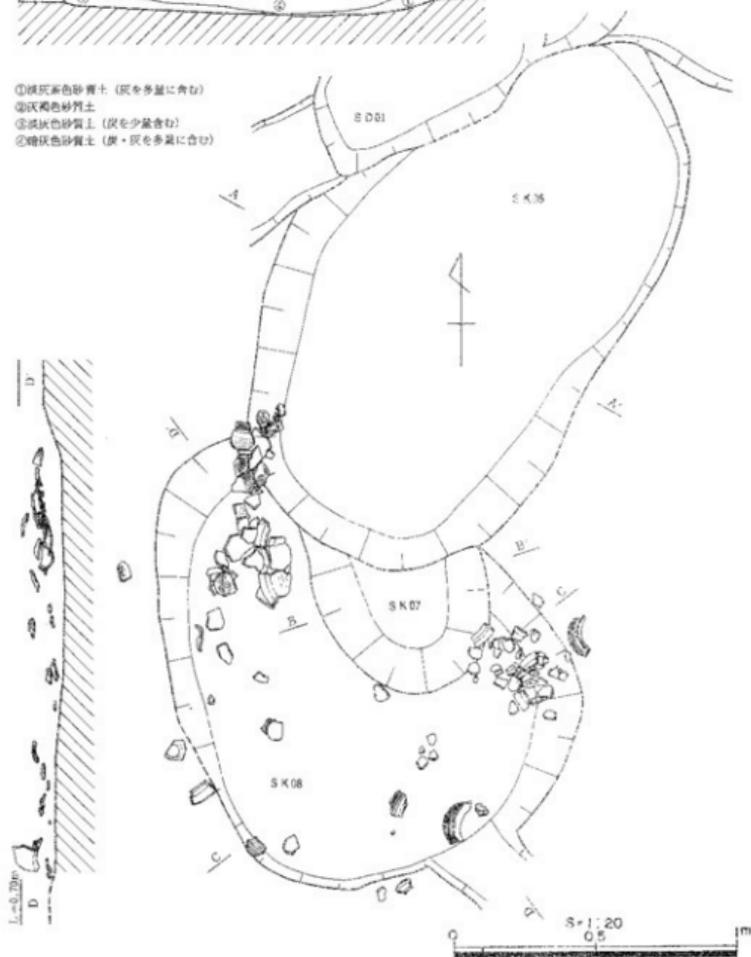
形態 一部ベルトにより掘り方を検出しているが、平面形ははっきりせず、この段階では一つの土壕と思われた。平面的に掘り方を検出できたのは青灰色粘質土層上であるため明かな平面形ははっきりしない。確認できた平面形は、それぞれ楕円形をなしている。ベルトにより掘り方を確認した部分にあたるS K08の断面形は逆梯状をなしている。確認できたそれぞれの規模はS K06より(2.09×1.2-0.07)、(0.44以上×0.6-0.06)、(1.75×1.34-0.25)mである。主軸はS K06よりN-30°-E、N-20°-W、N-35°-Wである。

土層 上層の埴土を除去した後に、炭を含む層が全体に広がり、底面には灰の層が広がっている。

遺物 S K08を中心に破砕されたと思われる土器が固まって出土しているが、図化でき



- ① 灰黄色砂質土 (灰を多量に含む)
- ② 灰褐色砂質土
- ③ 灰黄色砂質土 (灰を少量含む)
- ④ 暗灰色砂質土 (灰・炭を多量に含む)



挿図15 SK06・07・08遺構図

るものは少なく、甕 (Po21, 22) のみを図化しておいた。Po21は、内外面とも丁寧にヘラミガキで調整しており、特に内面には朱塗りの痕跡が残っているものである。この甕は、その器形から在地系の土器とは考えられず搬入された可能性もある。これらの他に出土した土器は、複合口縁を持ち、その外面にを楕円平行沈線がめぐる壺、甕などであった。

性格 祭祀に関する何等かの行為が行われていたものと思われる。

時期 それぞれの土壌に大きな時期差はないと考えられ、すべて弥生時代後期と思われる。

S K 09 (挿図16・102、図版03・23)

位置 6 E グリッドの北西部に位置する。S K 06～08 とほぼ同位置にある。

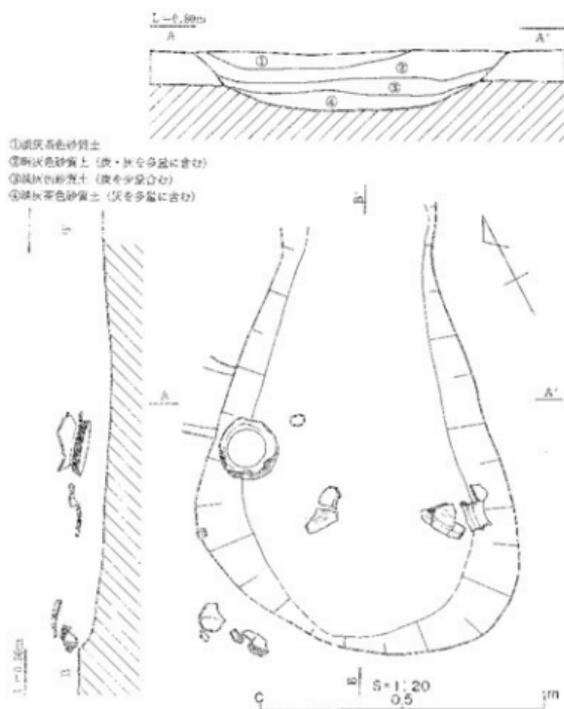
形態 北東部を排水溝により削平している。一部ベルトにより掘り方を検出しているが、平面的に掘り方を検出できたのは青灰色粘質土層上である。よって、明かな平面形は不明であるが、確認できた平面形は北東部側が細くなる長楕円形である。ベルトから判断される

断面形は碗状をなす。確認できた規模は(1.53以上×0.9～0.2)mで、主軸はN-30°-Eである。

土層 上層の埴土を除去した後に、炭を含む層が広がり、底面には灰の層が広がっている。

遺物 肩部以下を欠く甕の口縁部 (Po24) の他、壺 (Po23) など土器片が出土している。

性格 祭祀に関する



挿図16 S K 09遺構図

何等かの行為が行われていたものと思われる。

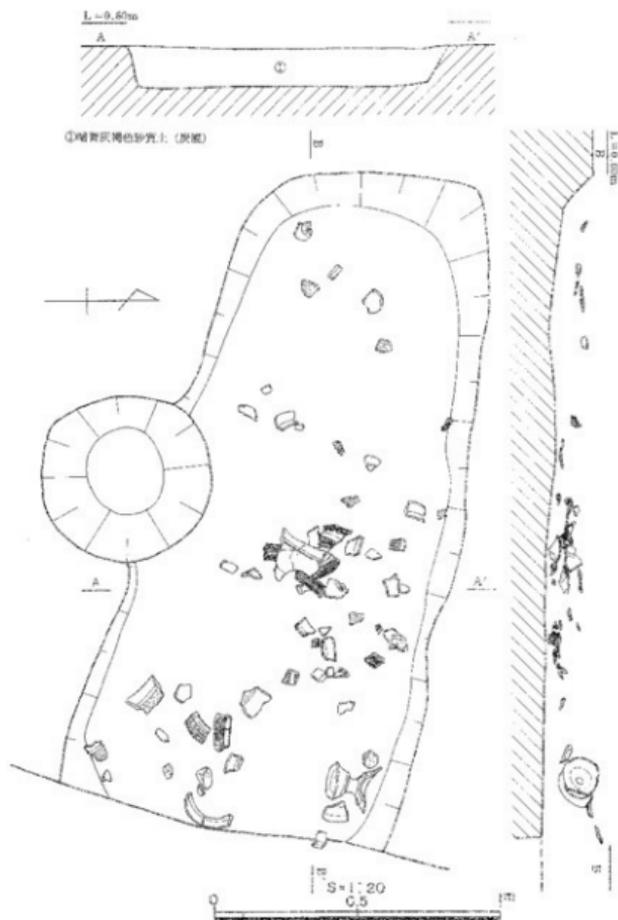
時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 10 (挿図17・103、図版24)

位置 6 Eグリッドの北東部、5 E 杭の西に位置し、青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。東側の一部が調査区域外となる。

形態 平面形は隅丸長方形で、断面形は逆梯状をなす。一部ピットにより切られている。

規模は (2.40以上×1.17-0.15) mで、主軸はN-77-Wである。



挿図17 SK 10遺構図

遺物 底面中央部を中心にして土嚢が広がっていた。特に中央部には壺(Po26)、甕(Po27)がつぶれたような形で出土し、東側で一部を打ち欠かれた器台(Po32)が出土している。この他にも壺(Po25)、甕(Po28~31)、高坏(Po33、34)などが出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

SK11 (挿図18・103、図版03・24)

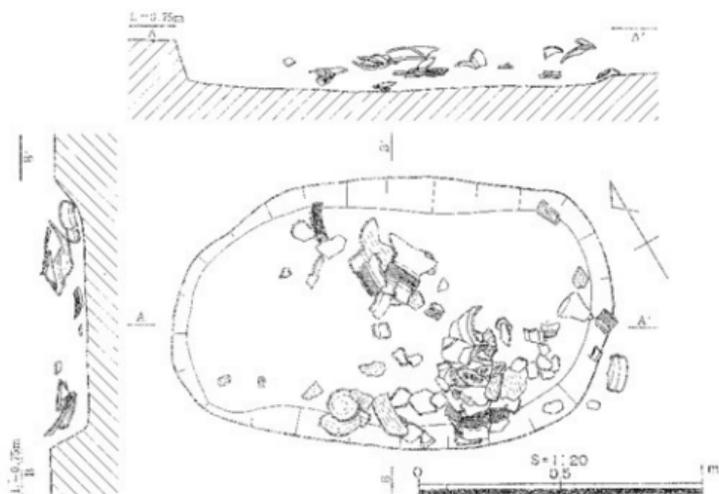
位置 6Dグリッドの北東部、SK12の東約1mに位置する。褐灰色砂質土掘り下げ中に土器がまとまって出土したことで、土嚢を想定して掘り下げたところ、青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形はいびつな楕円形で、断面形は逆梯状を呈する。規模は、(1.55×0.96-0.13)mである。主軸はN-59°-Wの方向である。

土層 埋土は、多量の炭片・灰を含んでいた。

遺物 土器、小石が炭灰の中で出土した。土器は、甕・高坏が出土したが、総じて掘り方の中央の向かって出土レベルを下げるように出土した。そのうち甕(Po40~42)、高坏(Po43)、底部(Po44)を図化した。Po43は、小型の高坏で、坏部のみが掘り方の南西側で、口縁部を上に向けて出土した。Po40は、掘り方の北東側で、横臥状態、押しつぶされたような状態で出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。



挿図18 SK11遺構図

S K 12 (挿図19・103、図版03)

位置 6 Dグリッドの北西部、S K 11の西約1 mに位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形はいびつな楕円形で、断面形は碗状を呈する。規模は、(1.41×1.10-0.37) mを測る。主軸はN-1°-Eで、ほぼ南北方向である。

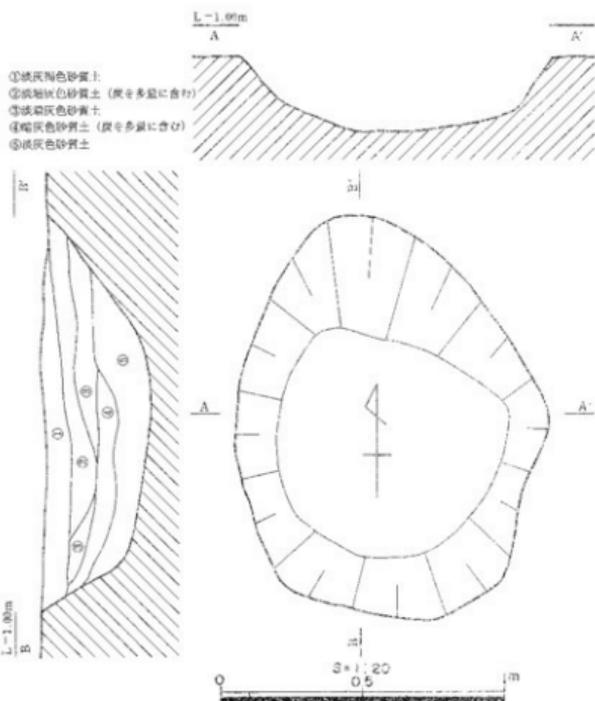
土層 埋土は5層で、②④層は多量の炭片を含んでいた。

遺物 壺 (Po47)、甕 (Po45・46)、高坏 (Po49)・碗 (Po48) が④層内およびそれより上層で出土した。

時期 出土遺物より弥生時代後期と思われる。

S K 13 (挿図20)

位置 6 Dグリッドの北西部、S K 12の西約1 mに位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。



挿図19 S K 12遺構図

形態 平面形は一方が膨らむ長楕円形である。断面形は逆梯状を呈する。規模は、(1.42×0.63-0.21) mを測り、主軸は東西方向である。

土層 埋土は3層で、②層が炭片を多量に含んでいた。

遺物 区化はしなかったが、掘り方内で弥生土器が出土した。

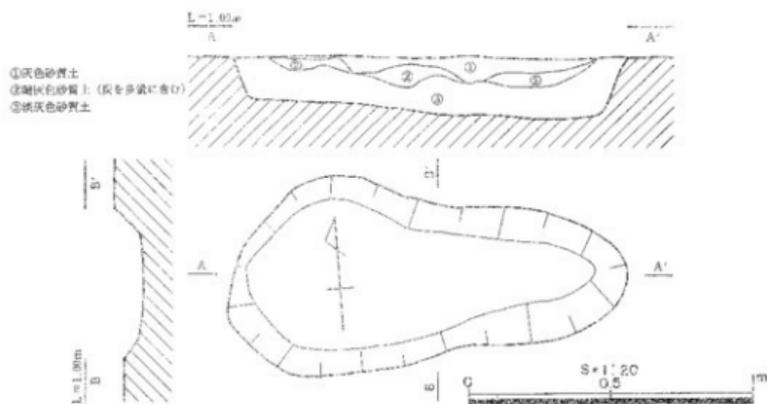
時期 出土土器より弥生時代の土壌であると思われる。

SK14~16 (挿図21・104・146、図版04・49)

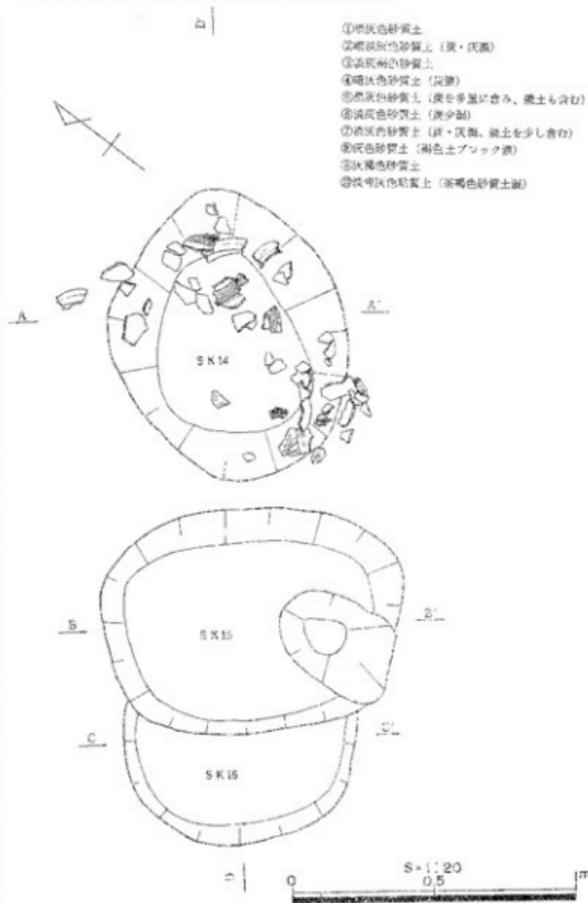
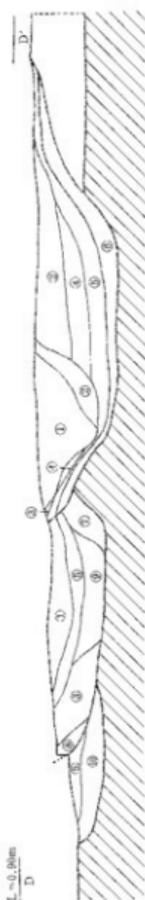
位置 6Dグリッドの南西部、SK11のすぐ南に位置する。褐灰色砂質土を掘り下げ中に、土器と炭片がまとまったかたちで出土したため、ベルトを残してその周りを掘り下げたところ、土層断面より3基の土壌を確認した。SK16→SK15→SK14の順に掘り込まれている。

形態 SK14は、平面形が楕円形で、断面形は皿状を呈する。規模は(1.04×0.84-0.28) mを測る。主軸はN-51°-Eの方向である。SK15は、平面形が楕丸長方形で、断面形は皿状を呈すると思われる。規模は、(1.04×0.79-0.20) mである。主軸は、N-40°-Wである。SK16は、SK15によって掘り方の北東側から切られており、平面形は不明である。断面形は皿状を呈するものと思われる。規模は、(0.82×0.44以上-0.12) mで、主軸はN-41°-Wの方向である。

土層 土層断面を観察すると、SK14の埋土は5層である。⑤層は、炭片や焼土を大量に含み、他の埋土も、①③層を除き、全てに少量ながら炭片を含む。①③層はSK14の掘り方が埋まった後に掘り込まれたものであると思われる。SK15の埋土は6層である。SK14と同様に炭片や焼土を多量に含む⑤層が堆積している。SK16は埋土を2層のみ確認したのであるが、同様に⑤層が存在する。



挿図20 SK13遠構図



挿図21 SK 14・15・16横構図

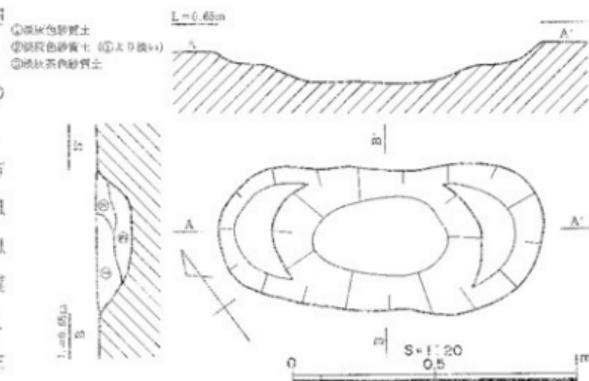
遺物 SK14で壺、甕 (Po50~52)、底部 (Po53) が、SK15で甕が、SK16で壺、甕 (Po54)、高坏 (Po55) が出土した。またSK14より穿孔痕のある凝灰質砂岩が出土した。さらに、ジャスパー製の管玉未製品 (S6)、軽石、水晶が、いずれの土壌であるか分からないが、土壌掘り下げ中に出土した。

時期 出土土器よりSK14~16はいずれも弥生時代後期の土壌であると思われる。

SK17 (挿図22)

位置 6Eグリッドの北東部、SK16の南約3mに位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形は長楕円形を呈し、北西・南東側に半月状のテラスを有する。断面形は、長軸方向が段を有する皿状、短軸方向が皿状を呈する。規模は(1.15×0.5~0.16)mである。主軸はN-54°-Wの方向である。



挿図22 SK17遺構図

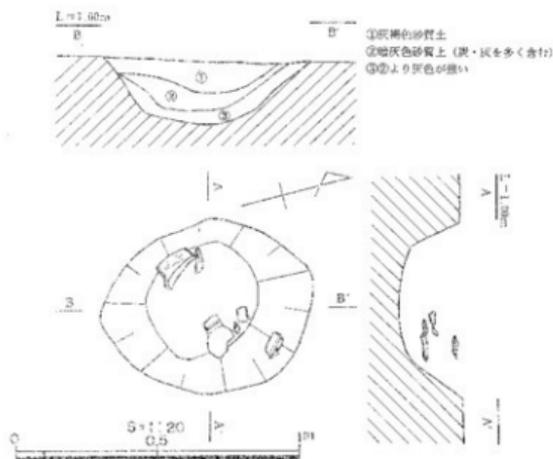
土層 埋土は3層で、全て砂質土であり、わずかながら炭片を含んでいた。

遺物 腐化はしなかったが、埋土中で弥生土器が出土した。

時期 出土土器より、弥生時代の土壌であると思われる。

SK18 (挿図23・164)

位置 6Cグリッドの



挿図23 SK18遺構図

北東部、SK19の北約15mに位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形はやや南北に細長い円形で、断面形は碗状を呈する。規模は(0.76×0.6-0.21) mを測り、主軸はN-14°-Eの方向である。

土層 埋土は3層で、②層は炭片、灰を多量に含む。

遺物 ②層の上面もしくは、②層中で甕が2個体出土した。1つは、図化はしなかったが外傾する複合口縁をもつ甕で口縁外面に櫛歯平行沈線をもつものである。もう1つは図化したPo56である。

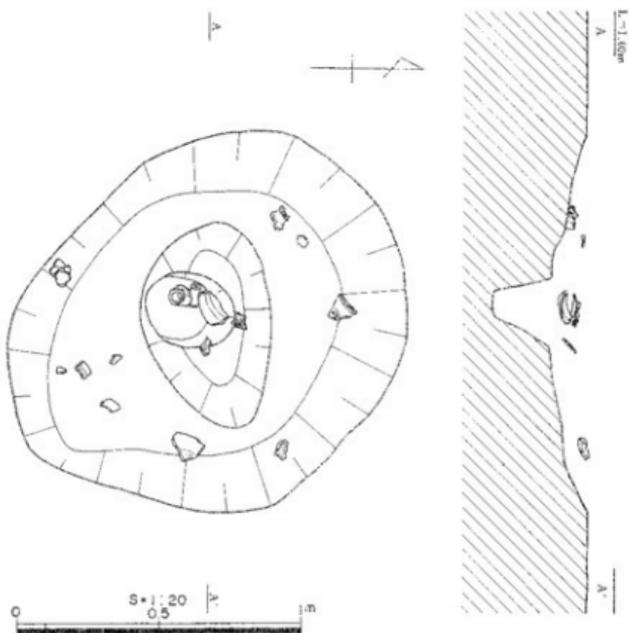
時期 出土遺物より弥生時代後期と思われる。

SK19 (挿図24・25・104、図版04・24)

位置 6Dグリッドの南東部に位置する。下層でSK18、SD02を検出した。

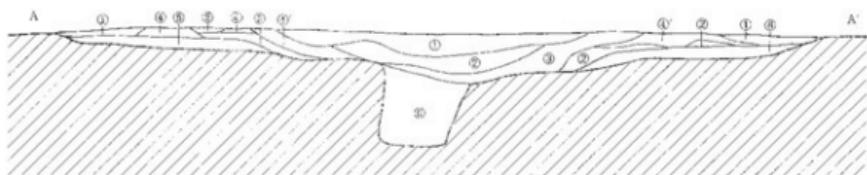
形態 平面形は不整形円形をなす。断面形は2段掘りで皿状をなし、中央がピット状に落ち込む。規模は(3.09×2.86-0.40) mで、主軸はN-37°-Eである。

土層 褐灰色砂質土上で炭、灰等の環状の広がりを検出した。埋土はすべてに炭、灰等を含んでおり、その多少により層序をなしていた。中央のピット状の落ち込みは、人為的に埋められたものと思われ、埋土中からは遺物も出土していない。



挿図24 SK19遺物出土状況

L=1.00m



- ① 明灰層的砂質土
- ② 灰褐色砂質土 (灰面)
- ③ 暗灰色砂質土 (灰少處)
- ④ 暗灰色砂質土 (灰·灰多處)
- ⑤ 暗褐色砂質土 (灰·灰)
- ⑥ 暗灰色砂質土 (灰面)
- ⑦ 暗褐色砂質土 (灰少處)

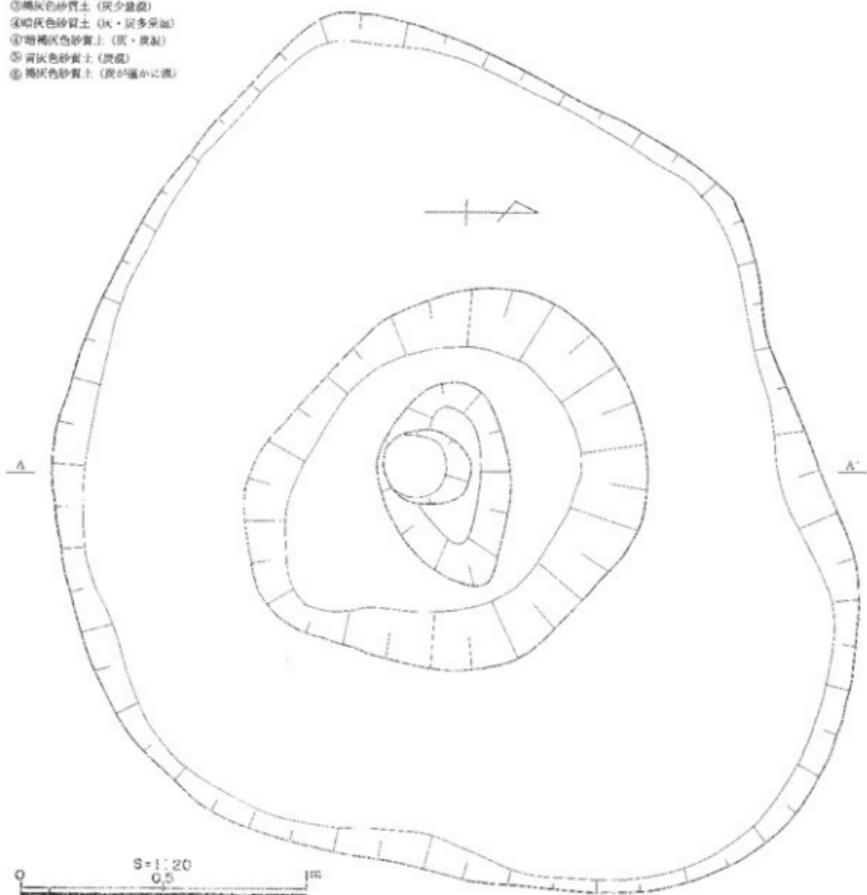


插图25 S K 199遺構圖

遺物 上層から土器片が炭、灰等に混入して出土しており、その他は底面中央部に集中して出土しているが、土器はすべて破砕されたものと思われる。主な出土遺物は、壺 (Po57~59)、甕 (Po60、61)、脚付椀 (Po62) があり、上層から砥石 (S43) が出土している。また図化できなかったが、高坏、器台、注口土器等の破片が出土しており、それらに混じって鉄滓が底面より出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 20 (挿図26・104、図版04)

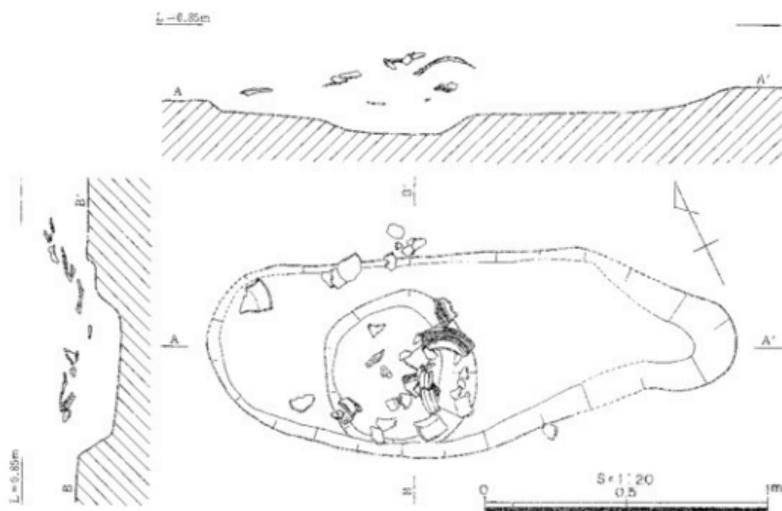
位置 6 Eグリッドの南西部、S D02とS D03を結ぶ線上に位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形は、いびつな長楕円形で、底面に円形状の窪みを有する。断面形は、長軸方向が浅い皿状、短軸方向が逆梯状を呈する。規模は (1.88×0.72-0.13) m、主軸はN-65°-Wである。位置及び形態よりS D03とS D02をつなぐ溝の一部とも考えられる。

土層 埋土中には少量ながら炭片が混入していた。

遺物 掘り方の上面及び埋土の上層で壺 (Po64)、甕 (Po63)、器台 (Po65) が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。



挿図26 S K 20遺構図

S K 21 (挿図27)

位置 6 Eグリッドの南西部、S K 20の南東そばに位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 掘り方の北西側が、調査時の排水溝によって切られているが、平面形は長楕円形を呈するものと思われる。断面形は碗状である。規模は、(0.50以上×0.45-0.26) mである。主軸はN-20°-Wである。

土層 埋土は炭片を多量に含んでいた。

遺物 図化はできなかったが、埋土中で弥生土器片が出土した。

時期 出土土器より弥生時代の土壌であると思われる。

S K 22 (挿図28)

位置 6 Dグリッドの南東部、S K 24の北約1 mに位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形は長楕円形で、断面形は皿状を呈する。規模は、(0.74×0.42-0.06) mを測る。主軸はN-75°-Eの方向である。

土層 埋土は1層で、炭片・灰を多量に含んでいた。

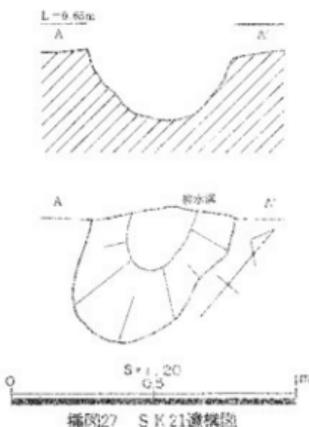
遺物 埋土中で弥生土器片が出土したが、図化できなかった。

時期 出土土器より弥生時代の土壌であると思われる。

S K 23 (挿図29・図版04)

位置 6 Eグリッドの南西隅に位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形はいびつな長楕円形である。底面に、長楕円形状の浅い窪みを検出した。断面形は皿状を呈する。規模は(2.35×0.98-0.30) mを測り、主軸はN-45°-E



の方向である。

土層 埋土中には少量ながら炭片が混入していた。

遺物 土器(壺・甕・高坏・器台)、石、銚石が出土した。その内、甕(Po66・67)、高坏(Po68)を図化した。図化はしていないが、叩き痕の認められる小石(黒雲母安山岩)が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 24 (挿図30・105、図版25)

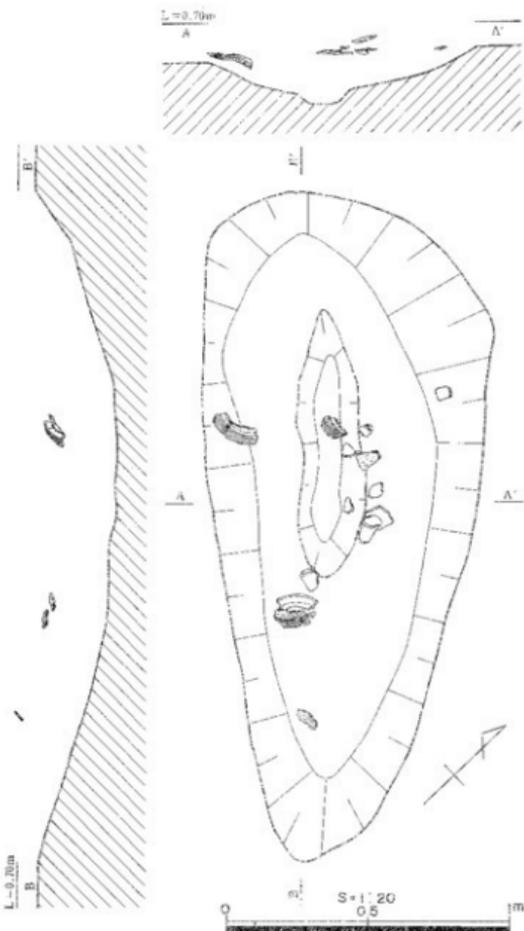
位置 6 D グリッド南

西隅、S K 22の南約6 mに位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

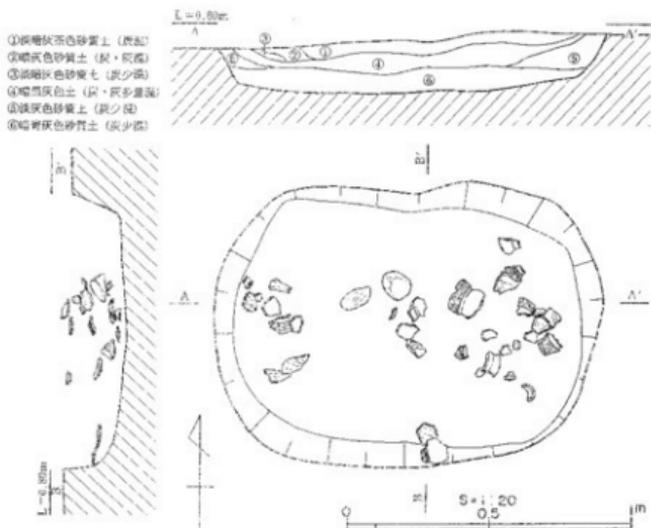
形態 平面形は、短辺が丸みをもつ隅丸長方形で、断面は逆梯状を呈する。規模は(1.38×0.98-0.19) mである。主軸はN-89°-Eの方向である。

土層 土壌の埋土は5層で、④層は炭片、灰を多量に含んでいた。

遺物 ④層内及び上面で土器(壺・甕・高坏)、④層内で火を受けた石、炭化した種子、骨片状のものが出土した。その内、壺(Po70・



挿図29 S K 23遺構図



挿図30 SK24遺構図

71)、壘 (Po69-72)、底部 (Po73) を図化した。図化はできなかったが、土壕内出土の土器片が、SK25・SK26出土の土器片と接合した。

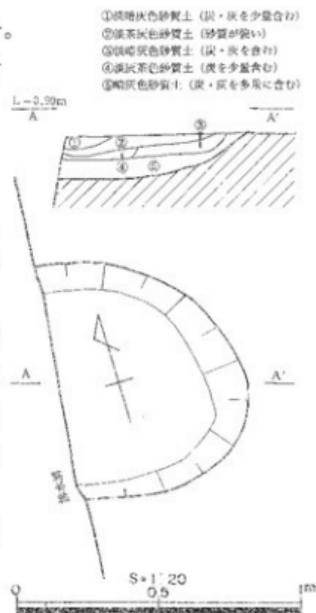
時期 出土土器より、弥生時代後期と思われる。

SK25 (挿図31)

位置 6Dグリッドの南東部、SK24の南西約1mのところの位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 掘り方の西側が調査時の配水溝によって切られているが、平面形は楕円形を呈していたものと思われる。断面形は皿状を呈する。規模は(0.67以上×0.83-0.15)mを測る。主軸はN-73'-Wの方向である。

土層 埋土は5層で、⑤層は炭片、灰を多量に含んでいた。



挿図31 SK25遺構図

遺物 図化はしなかったが、埋立中で弥生土器の壺片が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 26 (挿図32・105・148、図版05・25・51)

位置 6 Dグリッドの南西部、S K 27の東約1 mに位置する。土器群04を取り上げ後、青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形は、東側がやや広がる隅丸長方形で、断面形は逆梯状を呈する。規模は(1.10×0.88-0.14) mを測る。主軸は東西方向である。

土層 埋土は炭片、灰を多量に含んでいた。

遺物 埋土中及び底面近くで、土器(台付壺Po76、甕Po74・75、器台、蓋、高環Po77) 敲石(S40)、砥石(S41)、軽石が出土した。Po74は、S K 24出土土器片と接合した。Po77は、S K 31の土器片と接合した。また、図化はできなかったが、S K 25出土の土器片と接合した土器片もあった。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 27 (挿図33・105、図版05)

位置 6 Dグリッドの南西隅に位置する。土器群04取り上げ後、青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 掘り方の西側が不明瞭であるが、平面形は隅丸長方形であると思われる。断面形は丸みをもつ逆梯状を呈する。土壌底面は東側に傾斜し、中央に段及びピットを有する。規模は(1.14以上×0.98-0.3) mを測る。主軸は、N-72°-Wの方向である。

土層 埋土は5層で、少量ながら炭片を含んでいた。

遺物 埋土中及び底面で土器(壺Po80、甕Po78・79、高環、器台)、軽石、自然石、木片が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 28 (挿図34・105)

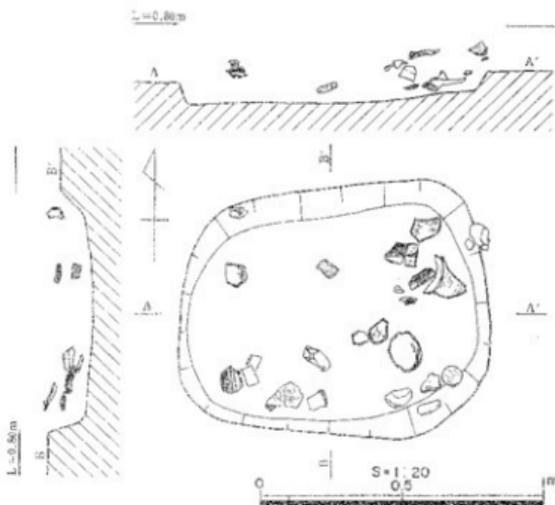
位置 7 Dグリッドの北東部北端に位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形は長楕円形で、断面形は逆梯状を呈する。規模は(1.56×0.75-0.11) mを測る。主軸はN-68°-Eの方向である。

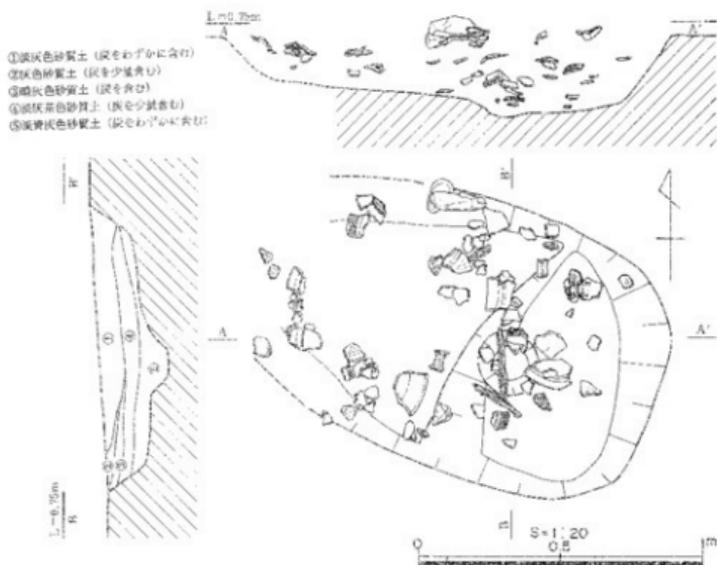
土層 埋土は3層で、②層が炭片を多量に含んでいた。

遺物 ②層上面及び②層中で土器(壺Po82、甕Po81・83、高環、底部Po84)、軽石、ジャスパール片が出土した。

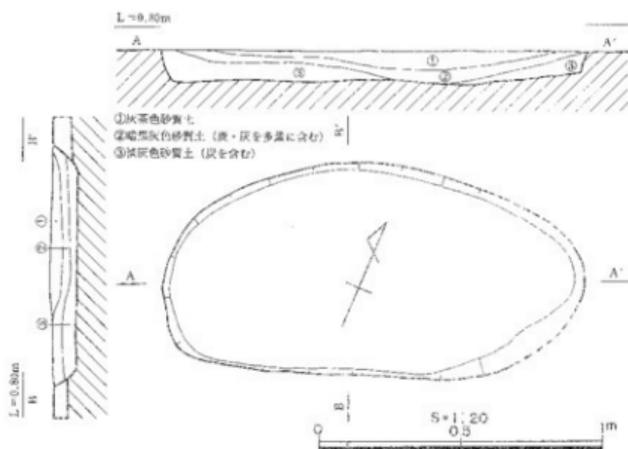
時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。



挿図32 S K 25遺構図



挿図33 S K 27遺構図



挿図34 SK 28遺構図

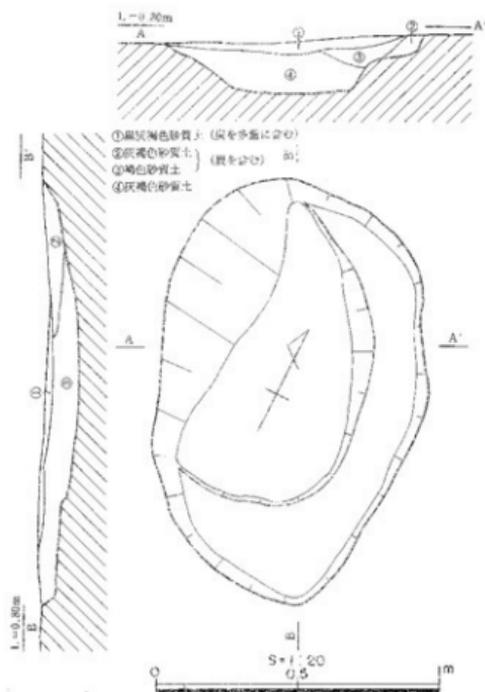
SK 29 (挿図35)

位置 7Dグリッドの北東部、SK 28の南西約1mに位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形はいびつな楕円形であり、北東側に半月状のテラスを有する。底面形は不整形であった。断面形は皿状を呈し、北東側・南東側に段を有する。規模は(1.51×0.93-0.19)mを測る。主軸はN-27°-Wの方向である。

土層 埋土は4層で、①層に多量の炭片を含んでいた。

遺物 埋土中で弥生土器の甕の口縁が出土した。図化



挿図35 SK 29遺構図

はしなかったが、平行沈線文が外面に施される複合口縁であった。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 30 (挿図36)

位置 7 Dグリッドの北西隅に位置し、7 Eグリッドにもまたがる。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形はいびつな円形で、断面形は皿状を呈する。規模は(1.28×1.20-0.13)mを測る。主軸はN-74°-Wの方向である。

土層 埋土はサラサラとした砂質土で炭片を全く含まない。

遺物 図化はしなかったが、埋土中で弥生土器の甕の口縁が出土した。平行沈線文が外面に施される複合口縁であった。

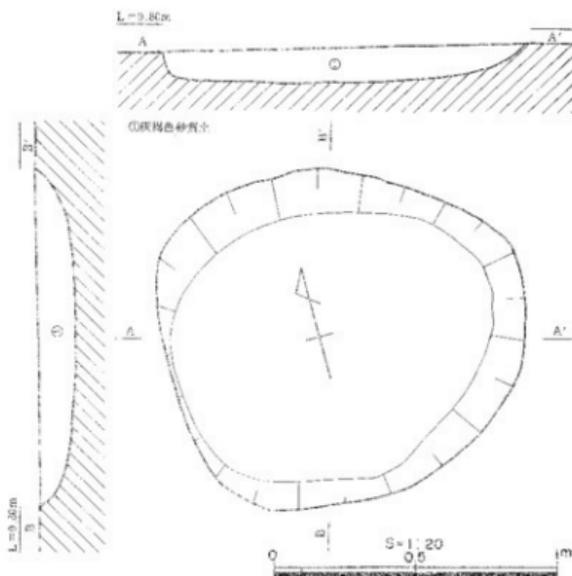
時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 31 (挿図37・106、図版05・25)

位置 7 Eグリッドの北西部に位置する。

形態 平面形は楕円形で、断面形は椀状をなす。排水溝により北側を削平している。規模は(1.84×1.24以上-0.30)mで、主軸はN-75°-Wである。

土層 土壌の東側にのみ、炭、灰や焼土の層(③、⑤、⑥層)が堆積していた。

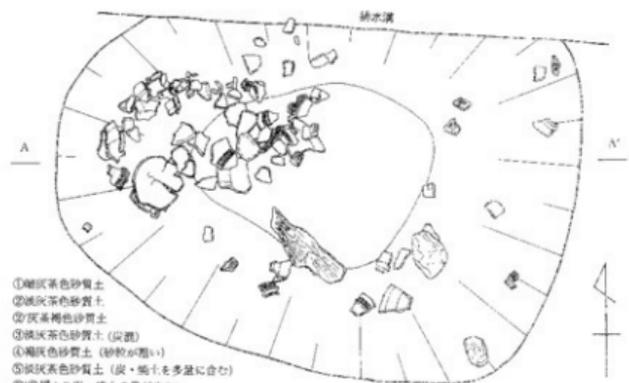


挿図36 S K 30遺構図

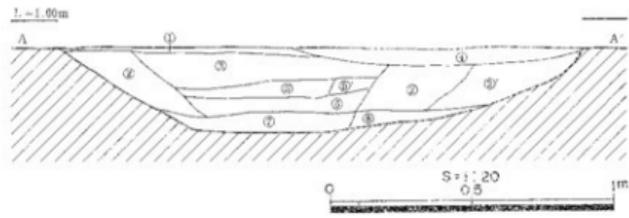
遺物 ③、⑤、⑥層中に土器片が集中して出土した。それらのほとんどは、破碎されたと思われるものであった。また、土器片に混じって骨片が出土した。主な出土遺物は壺 (Po85)、甕 (Po86・87)、器台 (Po89・90)、注口土器 (Po88) があり、Po85はSK25の土器片と、またPo90はSK24の土器片と接合した。これらの他にも、図化しなかったが壺、甕、高坏、器台などの破片が出土した。

性格 骨片が出土していることより、土壌墓的な性格も考えられるが、判断材料には乏しく、おそらく祭祀に関する何らかの行為が行われていたものと思われる。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。



- ① 黄褐色砂質土
- ② 灰青色砂質土
- ③ 灰茶褐色砂質土
- ④ 灰茶褐色砂質土 (炭屑)
- ⑤ 黄褐色砂質土 (砂粒が細かい)
- ⑥ 灰青色砂質土 (炭・骨片を多量に含む)
- ⑦ ⑤層より炭・骨片の量が少ない
- ⑧ 灰茶褐色砂質土
- ⑨ 灰青色砂質土 (炭屑・粘質性が強い)
- ⑩ 灰茶褐色砂質土 (粘質性が強い)



挿図37 SK31遺構図

S K 32 (挿図38・106)

位置 7 Eグリッドの北東部、S K 33の北約1.5 mに位置する。土器群06を取り上げ後に掘り方が検出された。S D 07の埋土を切って掘り込まれていた。

形態 平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。規模は(0.6×0.45-0.09) mを測る。主軸は南北方向である。

土層 埋土は2層で、①層は炭片・灰を多量に含んでいた。

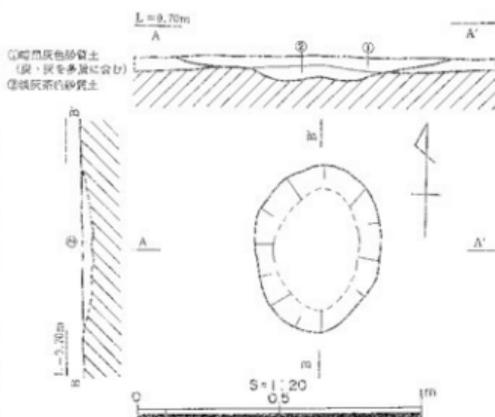
遺物 ①層中で壺(Po91・92)が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

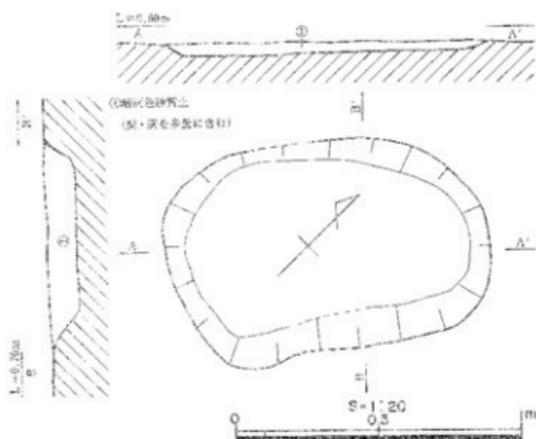
S K 33 (挿図39)

位置 7 Eグリッドの南東部、S K 32の南約1.5 mに位置する。土器群06取り上げ後に掘り方が検出され、S D 07の埋土を切って掘り込まれていた。

形態 平面形は南西側がやや膨らむ楕円形である。断面形は、長軸方向が皿状、短軸



挿図38 S K 32遺構図



挿図39 S K 33遺構図

方向が逆梯状を呈する。規模は、(1.15×0.74-0.10)mで、主軸はN-45°-Eの方向である。

土層 埋土は1層で、炭片が多量に含まれていた。

遺物 埋土中で弥生土器が出土した。

時期 出土土器及び検出面より弥生時代後期の土壌であると思われる。

S K 34 (挿図40・106・150、図版06・26・52)

位置 8 Eグリッドの中央やや北寄りに位置する。南西脇にS K 39がある。

形態 平面形は隅丸長方形をなし、北西部をピットにより一部切られている。断面形は逆梯状である。規模は(2.09×0.94-0.56)mで主軸は南北方向である。

土層 埋土にはほとんどに炭が含まれていたが、特に炭、灰等が多く集積している層が炭、灰等をあまり含まない層と交互に4層堆積していた。更に底面より10~15cm上に木質が腐ったと思われる⑩層が薄く層をなしていた。

遺物 土壌の南側を中心に土器が出土した。出土した土器はすべて⑩層より上層で出土している。また、⑩層を取り除いた後に、青灰色粘質土を掘り込むかたちで板状の木が土壌の両側面に沿うように出土し、更にそれらの南北に崩れたように板が出土した。主な出土遺物としては、壺(Po93)、甕(Po94・95)、器台(Po96)、蓋(Po97)、台付椀(Po98)、底脚環(Po100)がある。また土器といっしょに種子が出土している。

性格 土層および出土した木などから木棺墓である可能性もある。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 35・36 (挿図41・107、図版26)

位置 7 Dグリッドの北西隅に位置する。S K 35・36ともS D 05の埋土を切って掘り込まれていた。S K 35は、S D 05の底面をも掘り込んでいる。S K 36はS K 35を切る。

形態 平面形は、S K 35が隅丸方形、S K 36が長楕円形である。断面形はいずれも椀状を呈する。規模は、S K 35が(0.92×0.77-0.38)m、S K 36が(1.27×0.55-0.25)mを測る。主軸は、S K 35がN-74°-E、S K 36がN-80°-Eの方向である。

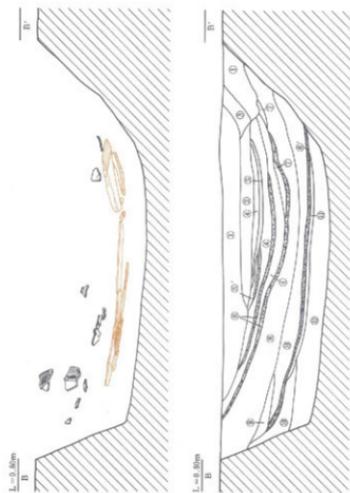
土層 S K 35の埋土は7層で、⑤⑩層に少量ながら炭片を含んでいた。S K 36の埋土は5層で⑩層は多量に炭片を含んでおり、同層中より5×10cm程度の炭化した木が2点出土した。

遺物 S K 35で甕(Po101)、高坏(Po102)、蓋(Po103)が出土した。S K 36では壺、甕、高坏(Po104)、器台が、⑩層中及び⑩層より上層で出土した。

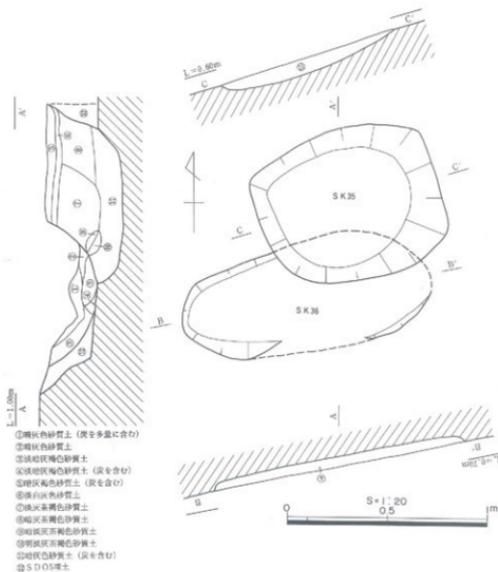
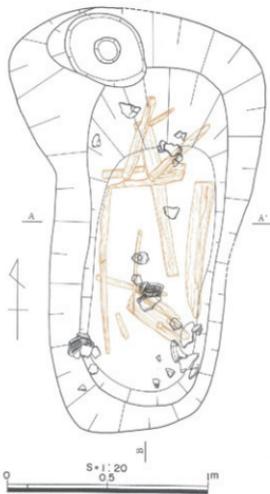
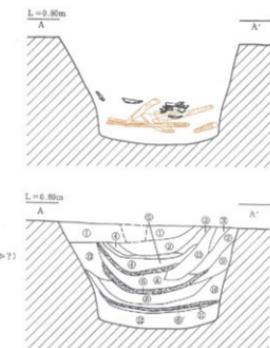
時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

- ①暗灰色砂質土 (炭質)
- ②暗灰褐色砂質土 (炭質)
- ③灰土状砂質土 (②より炭の量が少い)
- ④暗赤灰色砂質土 (炭の量減した層)
- ⑤暗赤灰色砂質土 (④より層厚)
- ⑥暗赤灰色砂質土 (炭の量減した層)
- ⑦暗赤灰色砂質土 (⑥より炭の量が少い)

- ⑧灰白色粘壤土
- ⑨赤褐色粘壤土 (炭質)
- ⑩赤褐色粘壤土
- ⑪赤褐色粘壤土 (炭質)
- ⑫赤褐色粘壤土 (炭質が濃縮したものか?)
- ⑬赤褐色粘壤土 (砂礫を少し含む)
- ⑭灰褐色粘壤土 (炭質)



挿図40 SK 34遺構図



- ①暗灰色砂質土 (炭を多量に含む)
- ②暗灰色砂質土
- ③暗赤褐色粘壤土
- ④暗赤褐色粘壤土 (炭を含む)
- ⑤暗赤褐色粘壤土 (炭を含む)
- ⑥赤白灰砂質土
- ⑦赤白灰砂質土
- ⑧暗赤褐色粘壤土
- ⑨暗赤褐色粘壤土
- ⑩暗赤褐色粘壤土 (炭を含む)
- ⑪暗赤褐色粘壤土 (炭を含む)
- ⑫S D 05 床土

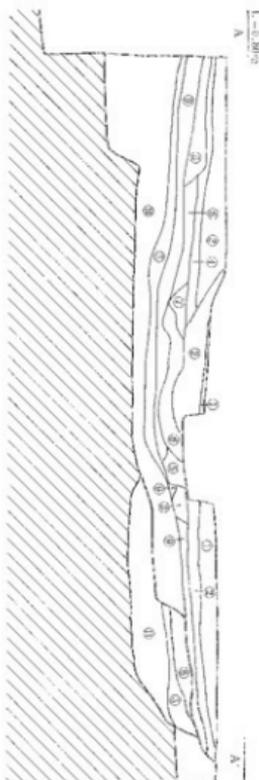
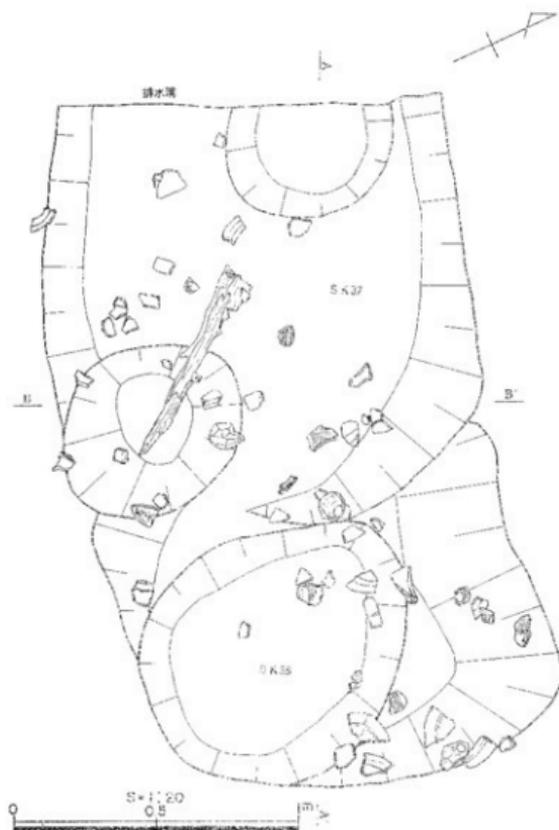
挿図41 SK 35・36遺構図

S K 37 (挿図42・107、図版05・26)

位置 8 Eグリッドの北西隅に位置し、S K 38を切る。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。



- ①黄褐色砂質土
- ②明灰色砂質土
- ③暗灰色砂質土 (炭燻)
- ④暗灰色砂質土
- ⑤赤褐色砂質土
- ⑥暗灰色砂質土 (灰・炭燻)
- ⑦暗灰色砂質土 (やや粘質をもち)
- ⑧灰の層積した層
- ⑨青色砂質土 (炭を多量に含む)
- ⑩明灰色砂質土 (やや粘質をもち)
- ⑪淡灰赤褐色砂質土 (灰燻)



挿図42 S K 37・38遺構図

形態 掘り方の西側部分が調査の際の配水溝に切られているが、平面形はいびつな隅丸方形ないし長方形と考えられる。土壌断面に2個の浅い円形状の落込みがあった。断面形は、底面から逆梯状に立ち上がった後上縁部に向かって區状に開く。規模は(1.49以上×1.52-0.25) mを測る。主軸はN-70°-Wの方向である。

土層 埋土は10層で、⑨層は炭片を多量に含んでいた。さらに⑨層の上下にも炭片・灰を含む③⑥層が堆積していた。

遺物 主に③層内及び③層より上層で土器(壺、甕Po105・106、高坏Po107~110、器台Po111)が出土した。自然木、自然石が⑨層内で出土した。自然木は火をうけていた。Po109は、土器群06・S D07出土の土器片と接合した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K38 (挿図42・107、図版05・26)

位置 8 Eグリッドの北西隅に位置し、S K37によって切られる。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 掘り方の全貌は明らかではないが、いびつな隅丸方形を呈していたものと思われる。土壌断面に楕円形状の浅い窪みを検出した。断面形は碗状を呈する。規模は(1.41以上×1.12以上-0.20) mを測る。主軸はN-6°-Eの方向である。

土層 埋土は3層で、③層が炭片を含む。

遺物 ③層内及び③層上面で土器(壺Po112・113、甕、高坏Po114、底部Po115)が出土した。Po112は胴部を5重の同心円スタンプ文で飾るものである。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K39 (挿図43・108)

位置 8 Eグリッドのほぼ中央に位置し、青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。脇にS K34がある。

形態 平面形は楕円形で、断面形は逆梯状をなし、2段掘りとなる。規模は(1.13×0.85-0.30) mで、主軸はN-12°-Eである。

土層 細かな炭片を含む砂質土一層であった。

遺物 埋土中より甕(Po116、117)が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K40 (挿図44・108)

位置 8 Eグリッドの中央やや南寄りに位置し、青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。北にS K39、南東にS K41がある。

形態 平面形は不整形で、断面形は中央部分がピット状に落ち込む逆梯状をなす。おそらく2基の土壌が切り合っているものと思われるが、土層断面などからも切り合い

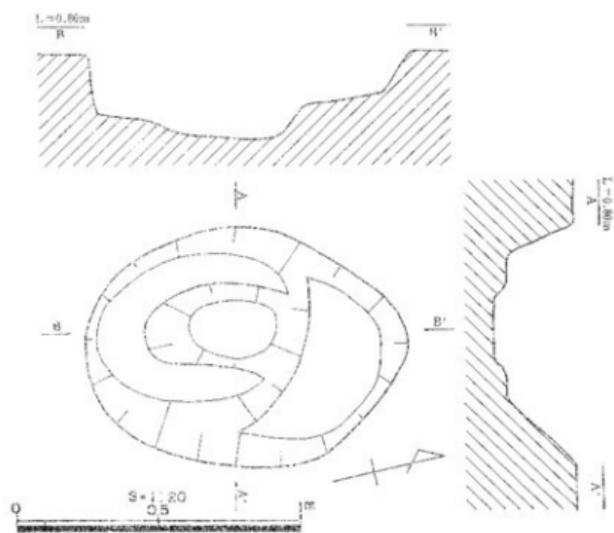


插图43 S K 39遺構図

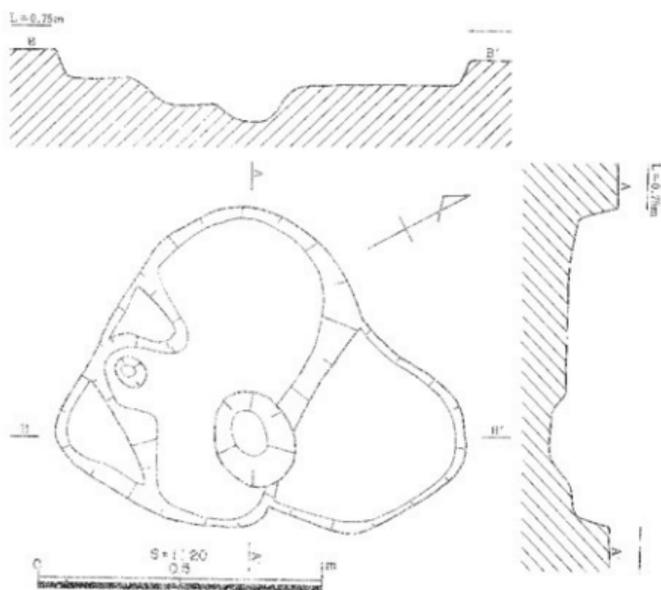


插图44 S K 40遺構図

関係が判断できず、1基の土壇として扱うことにした。規模は(1.45×1.13-0.22)mで、主軸はN-28°-Eである。

土層 埋土は細かな炭片を含む砂質土一層であった。

遺物 埋土中より壺(Po118)、甕(Po119、120)の他、図化しなかったが、高坏、罌台、蓋などの破片が出土している。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 41 (挿図45・108・149、図版07・52)

位置 8 Eグリッドの南西部、S K 34の南約2.5mに位置する。掘り下げ中に土器がまともに出てきたことから土器を残しながら掘り下げたところ、青灰色粘質土上面より10cm程度上で掘り方を検出した。

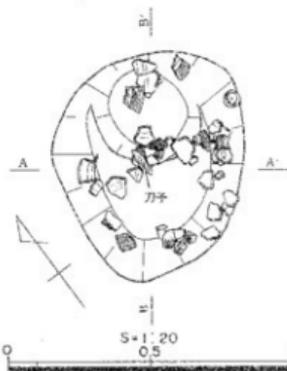
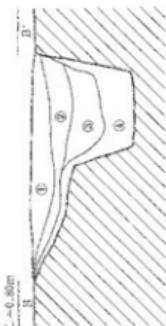
形態 平面形はいびつな楕円形で、土壇底面に深さ20cmのピットを有する。断面形は、底面のピットを除いて考えると、長軸方向が皿状、短軸方向が逆梯状を呈する。規模は(0.88×0.66-0.36)mを測る。主軸はN-37°-Eの方向である。

土層 埋土は4層で、③層は炭片を多量に含み、①層も比較的多く炭片を含んでいた。

遺物 土器(壺、甕Po121・122、罌台、蓋Po123・124)、刀子(F1)が①層上面で出土した。刀子は切っ先を北に向けて、土壇のほぼ中央で出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

- ① 灰褐色白砂質土 (炭を含む)
- ② 灰褐色砂質土 (炭を含む)
- ③ 灰褐色粘砂質土 (炭を多く含む)
- ④ 暗灰色砂質土



挿図45 S K 41遺構図



挿図46 S K 42遺構図

S K 42 (挿図46・108・145、図版07・27・48)

位置 8 Eグリッドの南西部に位置し、北東にS K 41がある。

形態 掘り方は検出できなかったが、遺物、炭などの広がりから土壌と判断した。その広がり範囲は、長軸0.79m、短軸0.62mで、おそらく土壌の底面と思われる。

遺物 壺 (Po126、127)、甕 (Po125) の口縁部片。脚部を欠く高坏 (Po128) などの他、土玉が全部で12個 (Po548) 出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 43 (挿図47)

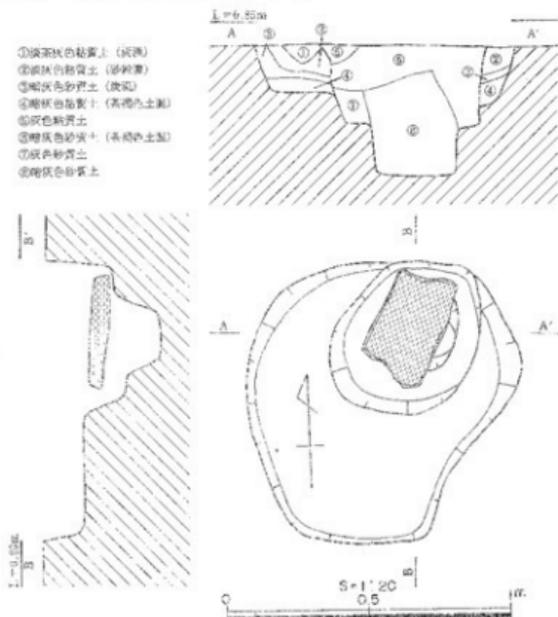
位置 8 Dグリッドの中央部に位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形はいびつな円形である。掘り方の北側をピットが切る。ピット底面より板状の木が1枚横臥状態で出土した。土壌の断面形は逆梯状を呈する。規模は、(0.99×0.90-0.45) mを測る。

土層 埋土は4層で、①③層は少量ながら炭片を含む。

遺物 図化はしなかったが、埋土中で壺・甕の口縁部が出土している。櫛描平行沈線が施される複合口縁であった。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。



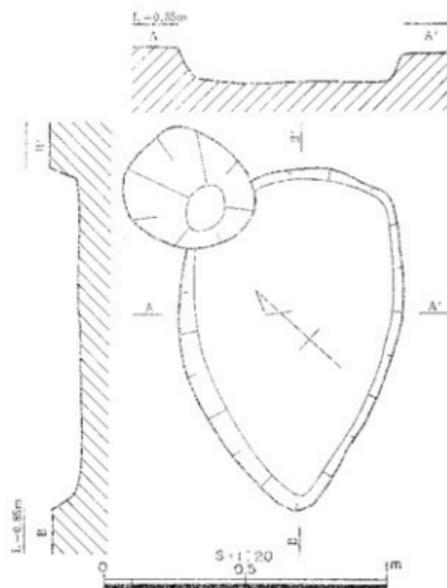
S K 44 (挿図43)

位置 8 Dグリッドの中央部、
S K 43の南西約0.5mに位
置する。青灰色粘質土上面
で掘り方を検出した。

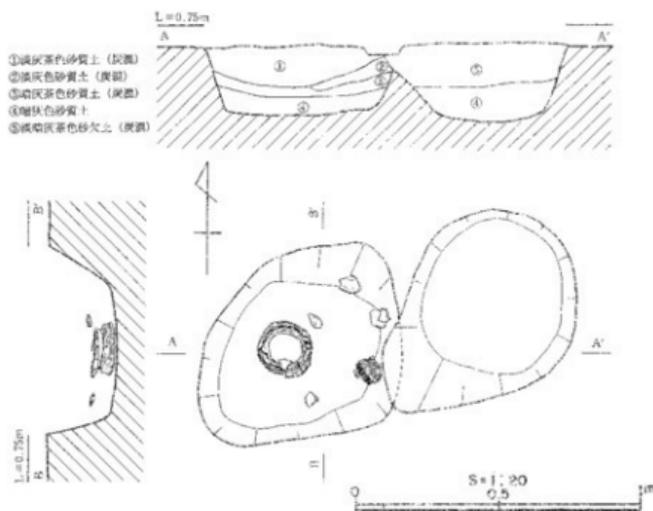
形態 平面形はいびつな楕円形
である。掘り方の北側がピ
ットによって切られている。
ピット内より炭と一部が赤
く焼けている石が出土した。
断面形は逆梯状を呈する。
規模は(1.21×0.80-0.13)
mを測る。主軸はN-48'-
Eの方向である。

土層 埋土は少量ながら炭片を
含んでいた。

遺物 図化はできなかったが、
埋土中で壺甕類と思われる



挿図43 S K 44遺構図



挿図45 S K 45遺構図

弥生土器片が出土した。

時期 出土土器より弥生時代の土壌であると思われる。

S K 45 (挿図49・108、図版07)

位置 8 Dグリッド中央やや西寄り、S K 44の西約1.5mに位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 平面形は、南東側が張るいびつな楕円形である。掘り方の東側がピットによって切られている。ピット底面で木片が出土した。土壌の断面形は逆梯状を呈する。規模は(0.86×0.68-0.25) mを測る。主軸はN-38°-Eの方向である。

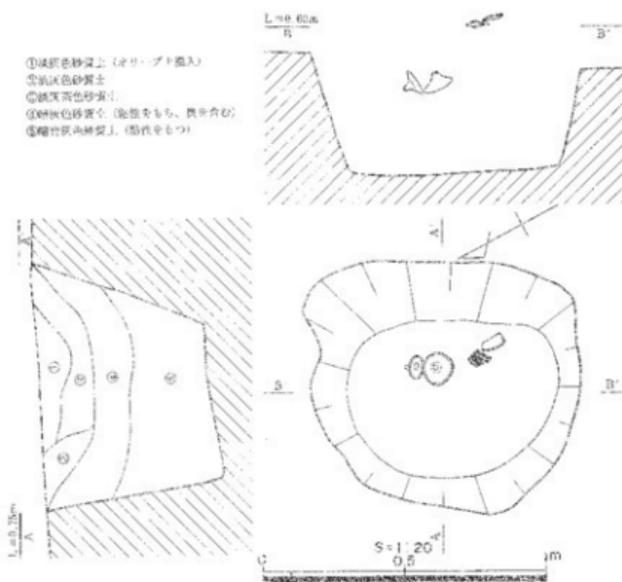
土層 埋土は4層で①層を除き少量ながら炭片を含む。

遺物 土壌のほぼ底面に頸部以下を欠く甕(Po132)が口縁を下に向けて出土した。埋土中で甕(Po131)が出土した。図化はしていないが、胴部に2列に並ぶスタンプ文が施される小型の壺片が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 46 (挿図50・108・146、図版07・27・49)

位置 8 Dグリッドの北西部に位置する。土器群02を取り上げ後、青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。



挿図50 S K 46遺構図

形態 平面形はいびつな楕円形で、断面形は逆梯状を呈する。規模は(0.95×0.86-0.62) mを測る。主軸はN-29°-Eの方向である。

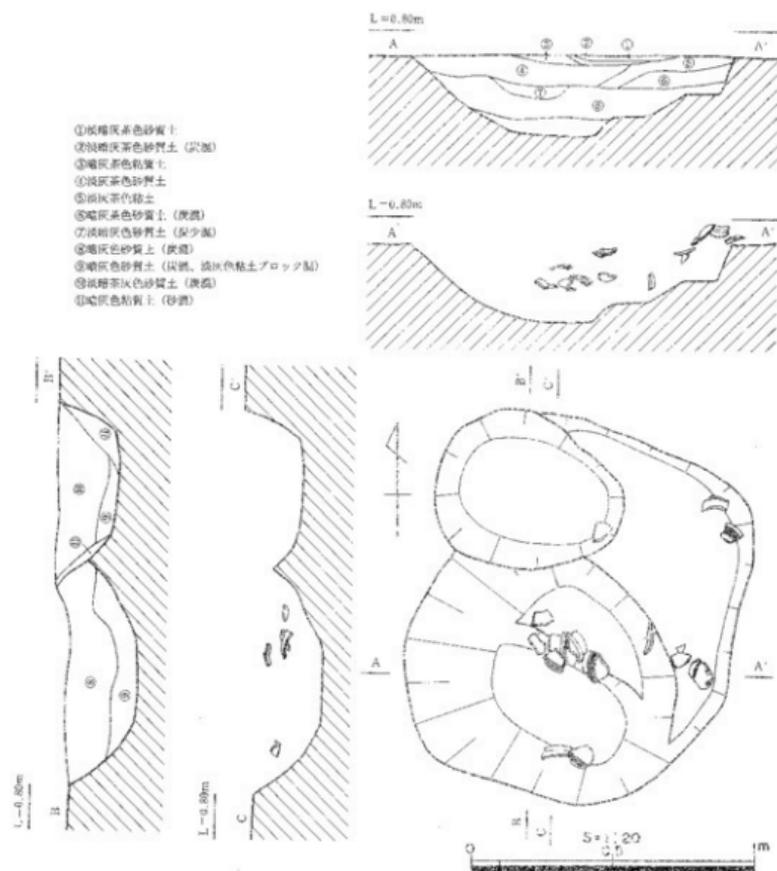
土層 埴土は5層で、④層内に4×15cm程度の炭化した木片が混入していた。

遺物 ④層内でほぼ完形の蓋(Po133・134)が2点出土した。またジャスパー製の管玉未成品(S3)が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 47 (挿図51・109、図版27)

位置 8 Dグリッドの中央、S K 44の東約1 mに位置する。青灰色粘質土上面で掘り方



を検出した。

形態 平面形はいびつな隅丸長方形で、掘り方の南西側をピットが切る。断面形は段を有する椀状を呈する。規模は(1.30×1.10-0.29)mである。主軸はN-26°-Eの方向である。

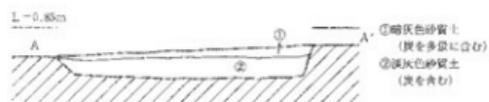
土層 埋土は9層で②⑥⑦⑧⑨層に炭片を含む。

遺物 ⑧層中及び⑨層より上層で土器(甕Po135~138、器台Po139、蓋Po140)、石(凝灰質砂岩)が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

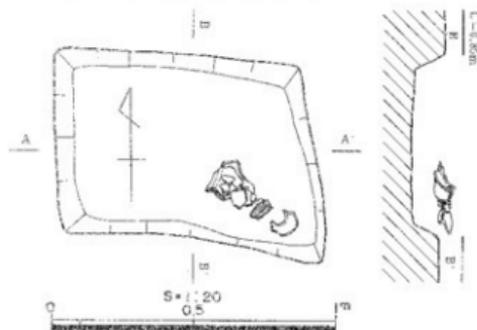
S K 48(挿図52・109、図版27)

位置 8 Dグリッドの南西部に位置する。背灰色粘質土上面で、掘り方を検出した。



形態 平面形はいびつな長方形で、断面形は逆梯状を呈する。規模は(0.92×0.65-0.11)mを測る。主軸は東西方向である。

土層 埋土は2層で、①層は炭片を多量に含んでおり、さらに、4×10cm程度の炭化した木片が混入していた。



挿図52 S K 48遺構図

遺物 掘り方の南東隅、①層中で甕(Po141)、甕(Po142)が出土した。Po141は、ほぼ1個体分が内面を上に向けた状態で、まとまって出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期と思われる。

S K 49(挿図53)

位置 8 Dグリッドの南東部に位置する。

形態 平面形は一方の長辺がやや張る隅丸長方形である。断面形は逆梯状を呈する。規模は(1.72×1.17-0.21)mを測り、主軸はN-56°-Wの方向である。

遺物 埋土中で弥生土器片が出土したが、図化できなかった。掘り方内ではないが、掘り方の西約1m辺りで握り拳大の凝灰岩質砂岩が出土した。

土層 埋土は砂質土で、炭片を含まない。

時期 出土土器より弥生時代の土壌であると思われる。

S K 50 (挿図54・111、図版08・29)

位置 2 Eグリッドのほぼ中央に位置する。東側にS D 13がある。

形態 平面形は楕円形をなし、断面形は逆柳状である。規模は(1.76×0.89-0.12) mで、主軸はN-22°-Eである。

遺物 土師器の甕(Po152)が出土している。

時期 出土した甕より古墳時代後期と思われる。

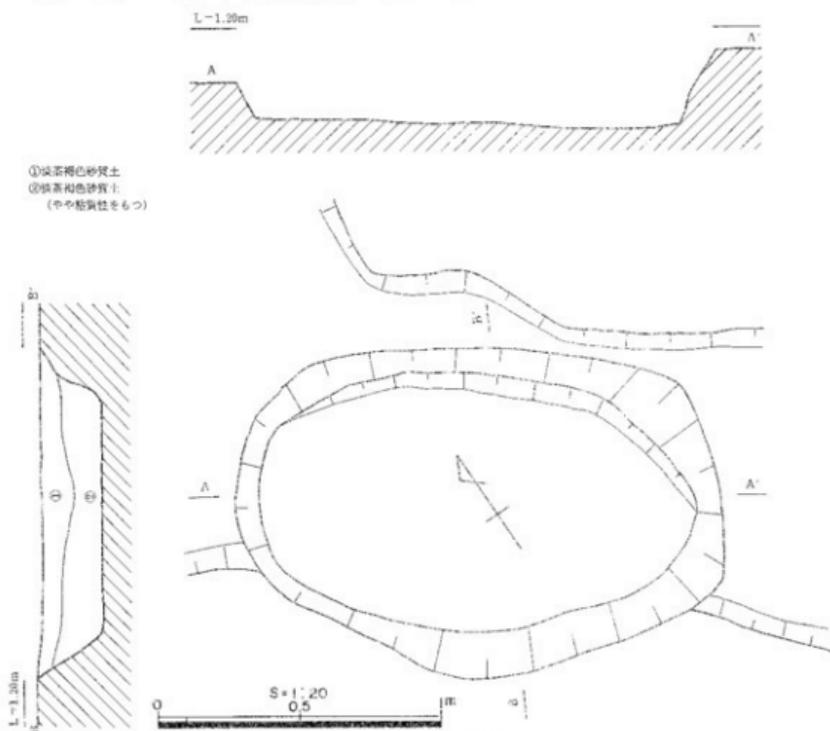
S K 51 (挿図55・111、図版08・29)

位置 3 Eグリッドの北西部に位置する。S D 13によって切られている。

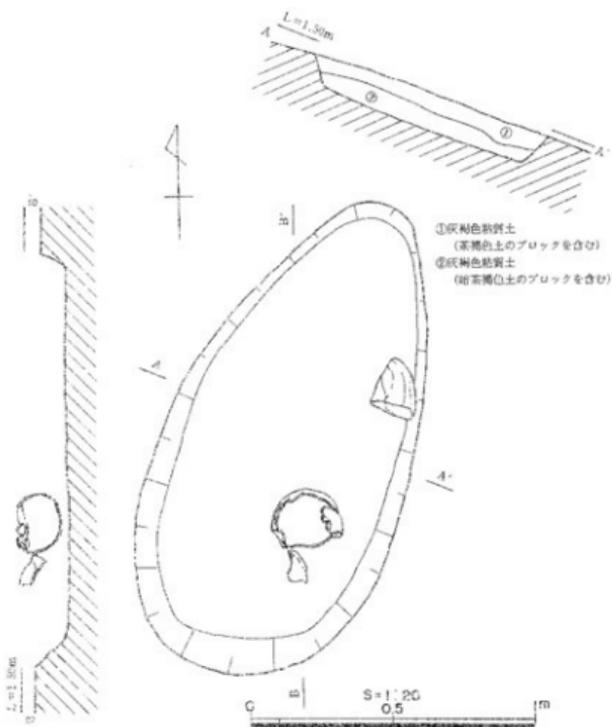
形態 平面形は楕円形をなし、断面形は逆柳状である。規模は(1.11×0.7以上-0.08) mで、主軸はN-40°-Eである。

遺物 土師器の甕(Po152)が出土している。

時期 出土した甕より古墳時代後期と思われる。



挿図53 S K 49遺構図



挿図54 S K 50遺構図

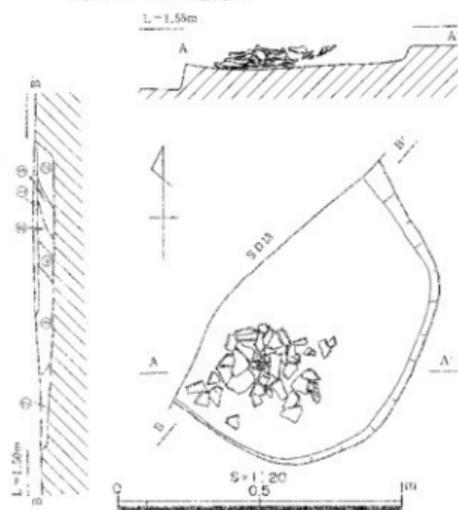
① 灰褐色粘質土

② " (茶褐色土のブロックを多く含む)

③ " (茶褐色土のブロックを含む)

④ " (茶褐色土のブロックを含む)

⑤ " (茶褐色土のブロックを含む)



挿図55 S K 51遺構図

S K 52 (挿図56・111、図
版08・29)

位置 4 Cグリッドの北西
部に位置する。西側半
分は調査区域外である。

形態 平面形は長楕円形を
なすが、底面形および
土層断面から少なくとも
2時期以上に分ける
ことができる。断面形
はほぼ椀状をなす。規
模は(2.24以上×0.57
以上-0.35) mで、主
軸は真北を向いている。

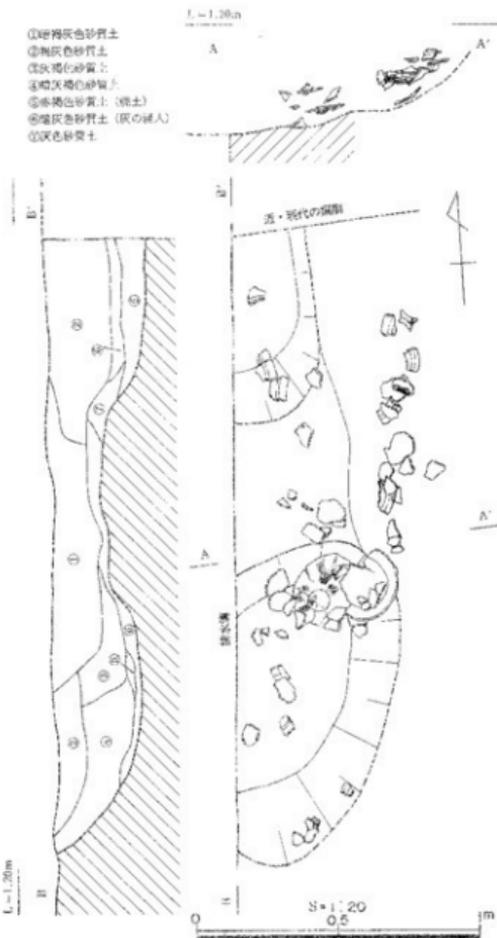
土層 底面に炭、灰の集積
がみられ、その下に焼
土が広がっている。

遺物 炭、灰の上に廃棄す
るようなかたちで土器
が出土している。主な
出土遺物は、甕
(Po154~156)、高坏
(Po157)などが出土し
ている。

性格 焼土がかなり残っ
ていることから、土壌内
で相当火を使用してい
ると思われる、また、そ

の後に土器を廃棄していることから、祭祀に関する何等かの行為が行われていたものと思われる。

時期 出土土器より古墳時代前期であると思われる。なお、排水のための溝切り作業中に、土師器に混じって弥生土器が数点出土していることから、遺構は確認できなかったが弥生時代後期の遺構も、この下にあったものと思われる。



挿図56 S K 52遺構図

S K 53 (挿図57・111、図版08・29)

位置 4 Eグリッドの南東部に位置する。

形態 平面形はいびつな長楕円形である。ピット状の落込みが、底面に3ヶ所みられる。

規模は(1.97×1.03-0.09) mである。主軸はN-64°-Eである。

土層 細かい炭片が埋土中に散らばっていた。

遺物 破碎されたと思われる土器片が土壌内全体に散らばっていた。主な出土遺物は、甕(Po159)、高坏脚部(Po160)、低坏脚部(Po161)などである。その他の土器は細片がほとんどで図化できなかった。

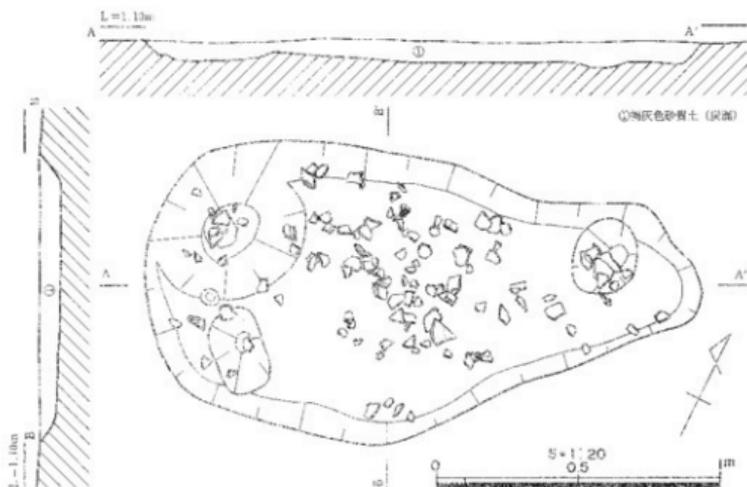
時期 出土土器より古墳時代前期と思われる。

S K 54 (挿図58・112、図版09・30)

位置 4 D枕の北、4 D・4 Eグリッドにまたがっている。

形態 平面形は長楕円形をなすと思われるが、土層の出土状況により土壌を確認したため掘り方を一部検出できておらず、明かではない。検出段階での規模は(1.33×1.15-0.17) mである。主軸はN-10°-Wで、ほぼ真北を向いている。

遺物 器台が供献的な状況で出土しているが、その他は破碎されたと思われる土器が、土壌の主軸に沿う形で出土している。主な出土遺物は、甕(Po162・164)、甕(Po165-167)、高坏脚部(Po168)、器台(Po169)等がある。これらの中でPo167は、外面をタキ調整しているもので、その器形や胎土などからも、他地方からの搬入品であると思われる。



挿図57 S K 53遺構図

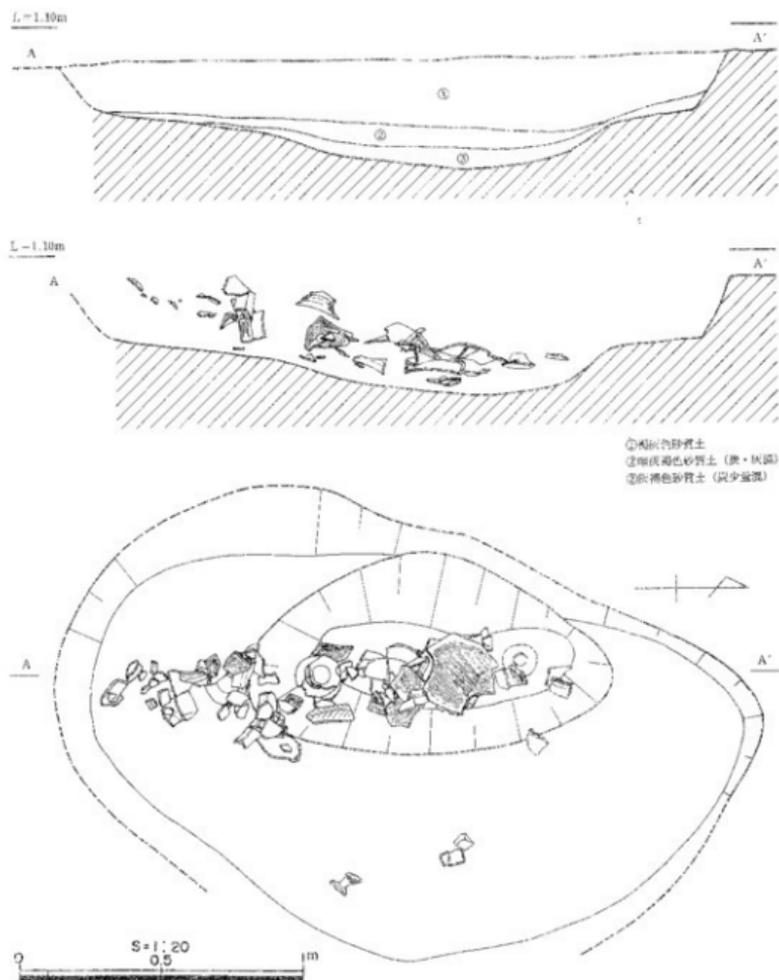
性格 土壌墓的な性格が考えられる。

時期 出土土器より古墳時代前期と思われる。

S K 55 (挿図59・113、図版09・31)

位置 5 E グリッドの南西部、S K 54の南東約4.5mに位置する。

形態 褐灰色砂質土掘り下げ中に土師器片がまとまって出土した。掘り方は検出できな



挿図58 S K 54遺構図

かったが、土器の出土状況より土壇状の掘り込みがあったものと判断した。

遺物 甕、高杯、器台、低脚杯が出土したが、ほとんどのものが細片であった。出土した土器のうち甕(Po171・172)、高杯(Po173)、器台(Po175)、低脚杯(Po174)を図化した。

時期 出土遺物より古墳時代前期と思われる。

S K 56 (埴図60・113、図版09・31)

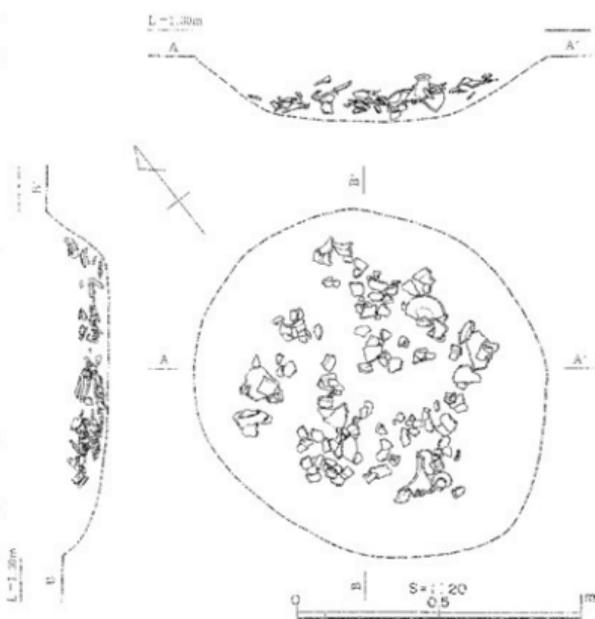
位置 5 Fグリッドの北西部に位置する。薄灰色砂質土中で掘り方を検出した。

形態 平面形は楕円形で、断面形は、逆樹状を呈する。規模は(0.68×0.48-0.13)mを測る。主軸はN-56°-Eの方向である。

土層 埋土は1層で、粘質土であった。

遺物 底面からやや浮いた状態で、土師器高杯(Po176)、須恵器杯蓋(Po177)が出土した。

時期 出土した須恵器より古墳時代末の土壇であると思われる。



埴図59 S K 55遺構図



埴図60 S K 56遺構図

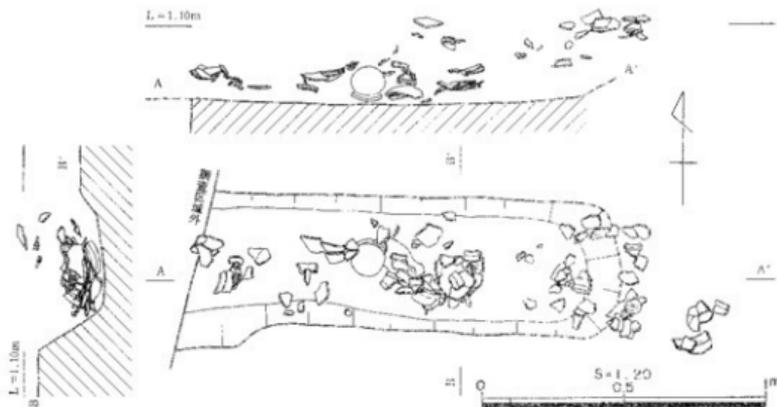
S K 57 (挿図61・113、図版10・31)

位置 5 Cグリッドの南西隅に位置する。褐灰色砂質土を掘り下げ中に土器がまとまって出土したことから土壌を想定して掘り方の検出に努めた。

形態 掘り方の西側が調査区外に延びていくため全貌は明らかではないが、平面形は帯状を呈するものと思われる。断面形は、短軸方向が逆梯状、長軸方向は土器の出土状況から推し量ると皿状を呈していたものと思われる。

遺物 小型の壺(Po178)、甕(Po179～181)、底脚環、底部(Po182)が出土した。Po178は、完形品で、土壌の底面で口縁を下向きにした状態で出土した。Po181・182は同一個体であると思われ、Po178のそばで破片がまとまって出土した。

時期 出土土器より古墳時代前期と思われる。

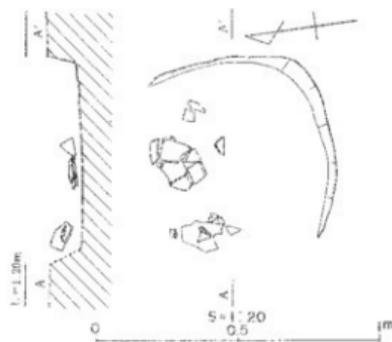


挿図61 S K 57遺構図

S K 58 (挿図62・113、図版10)

位置 5 Eグリッドの中央やや南西より、S K 55の南東約4 mに位置する。褐灰色砂質土掘り下げ中に土器がややまとまって出土したことから、土器の周側にベルトを残して掘り下げたところ、断面に土壌状の落込みを確認した。

形態 掘り方の全貌を確認することはできなかったが、掘り方の一部を



挿図62 S K 58遺構図

確認することができた。規模、主軸とも不明である。

遺物 底面近くで、土師器高坏 (Po183) が出土した。

時期 出土土器より古墳時代前～中期の土壌であると思われる。

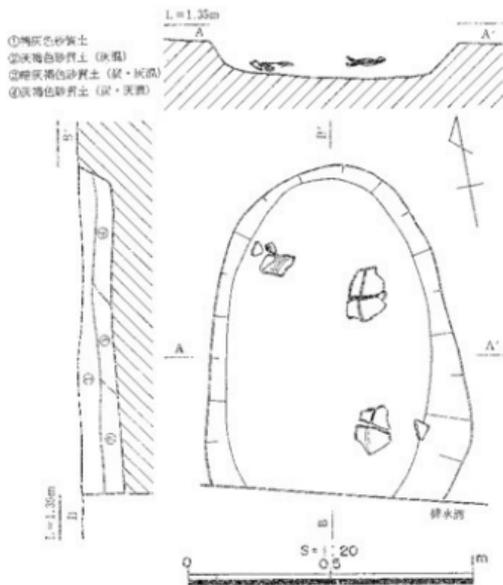
S K 59 (挿図63・113、図版10・31)

位置 6 Eグリッドの南西部に位置する。褐色砂質土中で掘り方を検出した。

形態 掘り方の南側が調査時の配水溝によって切られているが、平面形は長楕円形を呈していたものと思われる。断面形は逆梯状を呈する。規模は(1.17以上×0.88-0.13) mを測る。主軸はN-16°-Eの方向である。

土層 埋土は4層で、②③④層に炭片を混ざる。

遺物 底面近くで、土師器残片、高坏 (Po184・185)、軽石が出土した。



挿図63 S K 59遺構図

時期 出土土器より古墳時代前期と思われる。

S K 60 (挿図64・114、図版10・31)

位置 7 Eグリッド北西隅に位置する。試掘調査 (1988年) 時の S K 02である。

形態 平面形は円形で、断面形は逆梯状を呈する。規模は(0.72×0.66-0.29) mを測る。

土層 埋土は1層で、粘質土であった。

遺物 掘り方の南東側、底面近くで、埴 (Po186) が、口縁部を上に向け傾いた状態で出土した。

時期 出土土器より古墳時代の土壌であると思われる。

S K 61 (挿図65・114、図版11)

位置 7 Dグリッドの南東部に位置する。褐色砂質土掘り下げ中に土師器片がまよって出土した。掘り方は検出できなかったが、土器の出土状況より土壌状の落込み

があったものと思われる。

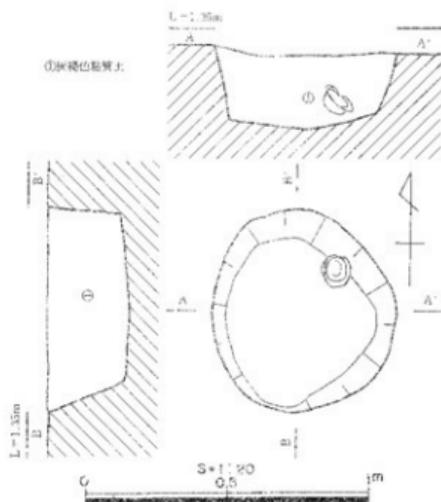
形態 平面形は不明である。断面形は土器の出土状況より皿状を呈していたものと推定される。規模、主軸とも不明である。

遺物 土師器片が多数出土した。壺 (Po187・188)、罌台 (Po189・190) を図化した。

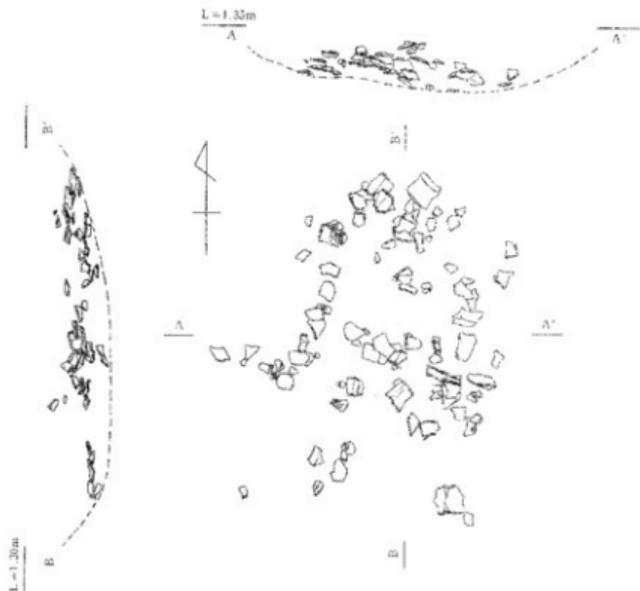
時期 出土土器より古墳時代前期と思われる。

S K 62 (挿図66、図版11)

位置 7Dグリッドの中央南端に位置する。褐灰色砂質土中で、炭を含む③層が環状に広がることにより掘り方を検出した。



挿図64 S K 60遺構図



挿図65 S K 61遺構図

形態 平面形は長楕円形で、断面形は逆梯状をなし、2段掘りとなる。一部ピットに切られている。規模は(1.25×0.99-0.20)mで、主軸はN-78°-Wである。

遺物 土壌の中央に、底面から浮いた状態で、口縁部を含む上半部を欠く壺(Pol91)が出土した。

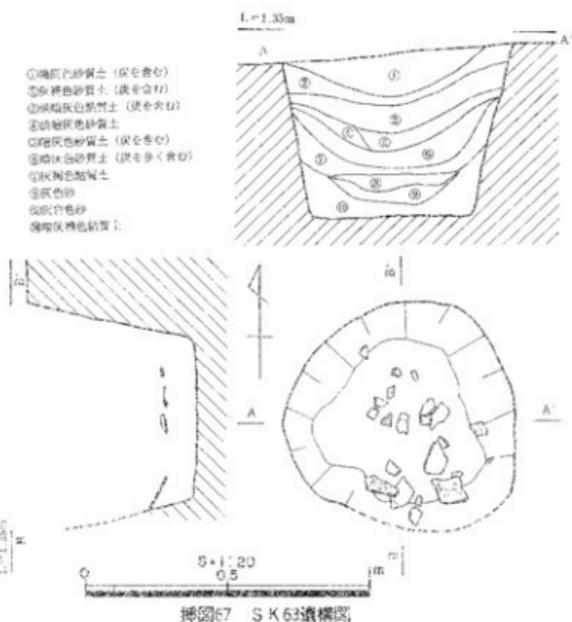
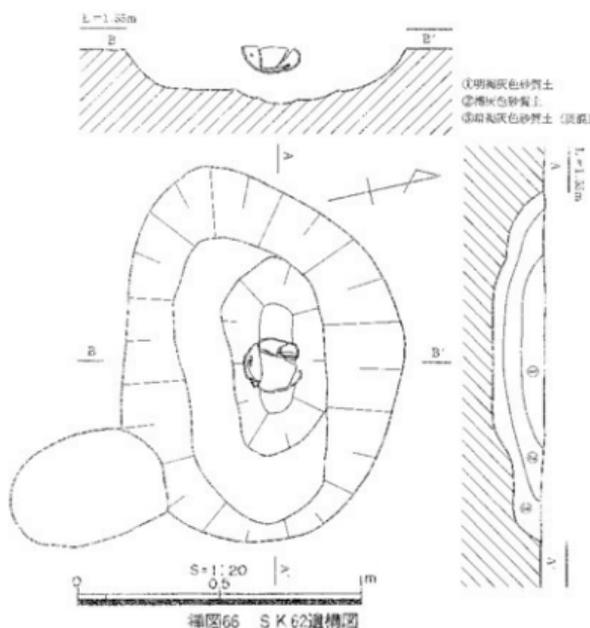
時期 出土した甕より、古墳時代前期から中期にかけてのものと思われる。

S K 63 (挿図67、図版11・114)

位置 7Dグリッドの南西部に位置する。褐灰色砂質土中で掘り方を検出した。

形態 平面形はいびつな円形で、断面形は逆梯状を呈する。規模は(0.82×0.80-0.58)mを測る。

土層 大きくみて粘質



土と砂質土が交互に堆積していた。

遺物 ⑩層より上層で土師器甕、高坏が出土した。甕 (Po192) を図化しておく。

時期 出土土器より古墳時代前～中期と思われる。

S K 64 (挿図68・114、図版11・32)

位置 8 Eグリッドのほぼ中央に位置する。褐色砂質土中で掘り方を検出した。

形態 掘り方の西側がSD16によって切られているが、南北方向に長軸をもつ楕円形であると思われる。断面形は皿状を呈する。規模は(1.10×0.56以上-0.1)mを測る。主軸はN-20°-Eと推定される。

土層 埋土は灰茶色砂質土1層であった。

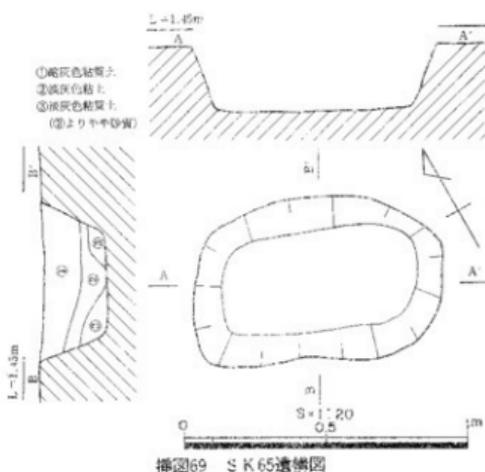
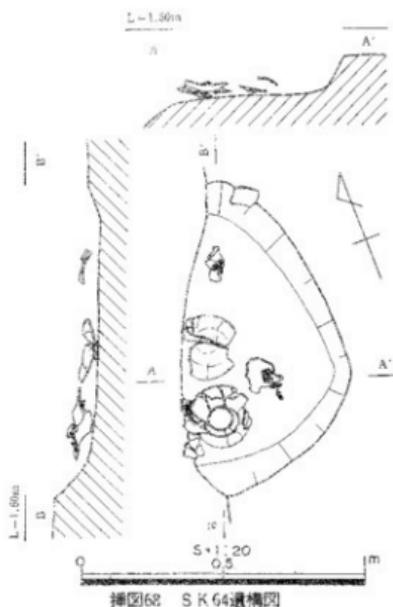
遺物 土壌底面に土師器器台 (Po193)、低脚坏 (Po194) が置かれたような状態で出土した。図化はできなかったが、底面からやや浮いた状態で土師器甕片が出土した。

時期 出土土器より古墳時代前期と思われる。

S K 65 (挿図69)

位置 8 Cグリッド南東部に位置する。SD24の埋土を切って掘り込まれていた。

形態 平面形は隅丸長方形で、断面形は逆梯状を呈する。規模は、(0.88×0.57-0.24)mを測る。主軸はN-60°-Wの方向



である。

土層 埋土は3層で、すべて粘質土であった。

遺物 遺物は全く出土しなかった。

時期 不明である。

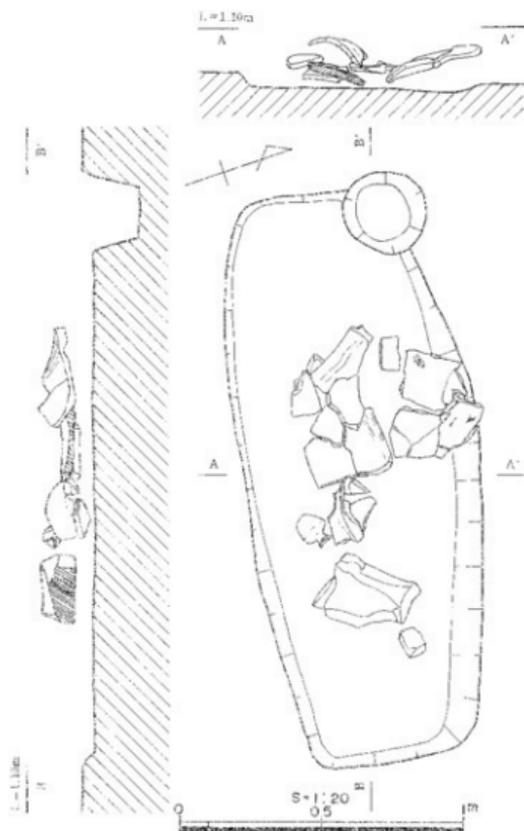
S K 66 (挿図70・115、図版12・32)

位置 8 Dグリッド南西隅に位置し、S D24の底面をわずかに掘り込んでいた。

形態 平面形は隅丸長方形で、断面形は逆梯状を呈する。規模は(2.03×0.85-0.04)mを測る。主軸はN-70°-Wの方向である。

土層 埋土は淡灰色粘質土1層であった。

遺物 土壌底面で甕(Po199)、須恵器甕(Po198)、自然石が出土した。Po199は、焼成



挿図70 SK 66遺構図

後に火を受けた痕跡はなくつぶれたような状態で出土した。S D24掘削後に、埋土及び底面を掘り込み竈、竈、自然石を廃棄したものであろうか。

時期 出土須恵器より古墳時代末と思われる。

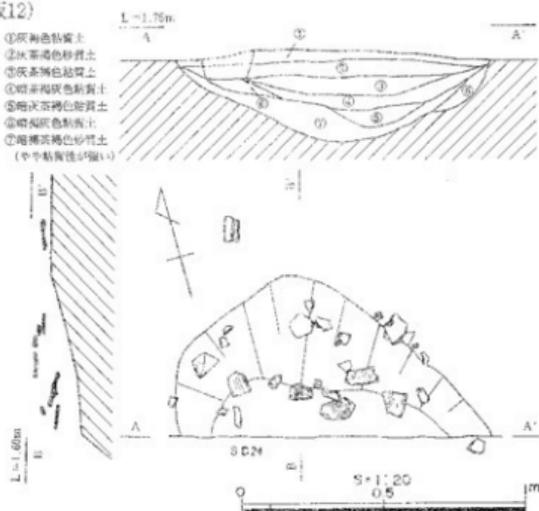
S K 67 (輝区71・114、図版12)

位置 9 Eグリッドの北西部に位置する。褐灰色砂質土中で掘り方を検出した。

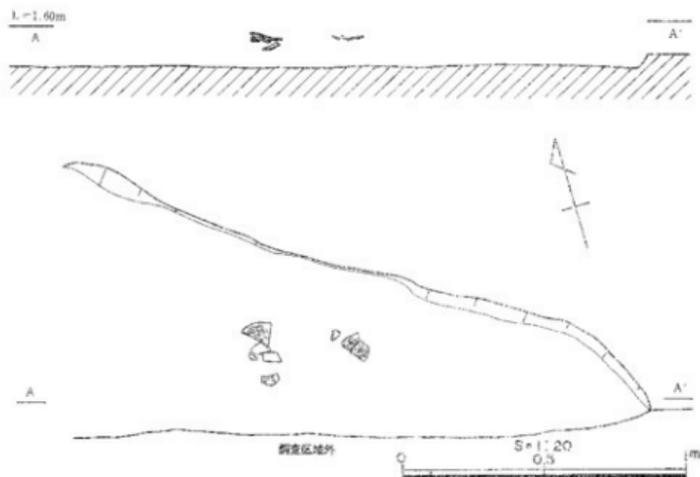
形態 掘り方の南側がS D24によって切られているため平面形は不明である。断面形は椀状を呈する。規模は(1.10×0.55以上-0.32) mである。

土層 埋土は7層で、

②⑦層が砂質土で、他は粘質土である。



挿図71 S K 67遺構図



挿図72 S K 68遺構図

遺物 埋土中で土師器壺、甕が破片の状態で出土した。口縁部2点 (Po195・196) を図
化しておく。

時期 出土土器より古墳時代前期とされる。

S K 68 (挿図72)

位置 調査区の南西隅に位置する。褐灰色粘質土中で検出した。

形態 掘り方の一部を検出するにとどまった。平面形、規模とも不明である。

遺物 図化はしなかったが、須恵器片が出土した。

時期 出土土器より古墳時代後期以降の土壌であると思われる。

S K 69 (挿図73・114)

位置 7 Eグリッドの北東部に位置する。S D16の底面で掘り方を検出した。

形態 平面形は南北に長い不整形である。土壌底面に断面椀状の落込みが検出された。
また、径10cm程度のピットが3個掘り方の縁部で検出された。断面形は皿状を呈す
る。規模は(1.46×0.96以上-0.13) mを測る。主軸はN-12°-Eの方向である。

土層 埋土は2層で、②層は鉄錆を混入していた。

遺物 瓦質の土縁 (Po197)

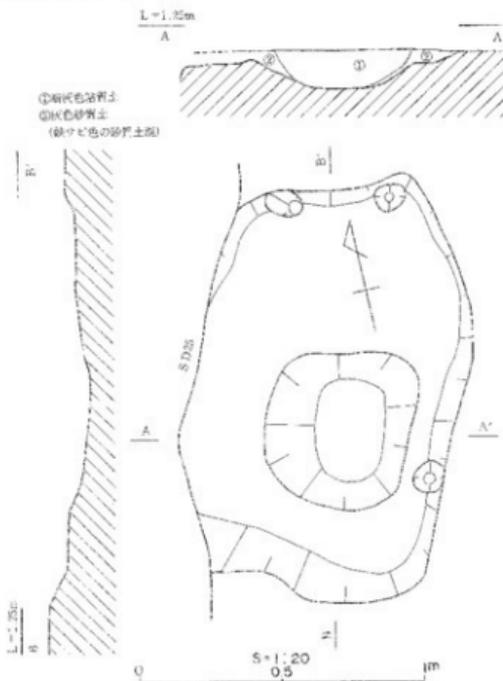
が出土した。

時期 出土土器より中世の
土壌であると思われる。

土器溜り01 (挿図74・109、 図版17・28)

位置 7 Eグリッドの南東
部に位置する。青灰色
粘質土土上で検出し
た。土器群06の中で土
器片の密集度が群内の
他の土器の出土状況に
比べて非常に高かった
ことから土器溜りとし
て捉えた。

形態 (1.35×0.55) mの
範囲で土器片が密集し
ていた。土器片の出土
レベル差は、約20cmで



挿図73 S K 69遺構図

あった。

遺物 壺 (Po143)、甕 (Po144~147)、器台 (Po148) が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期のものと思われる。

土器溜り02 (挿図75・110、図版12・28)

位置 7Dグリッドの南西隅に位置する。青灰色粘質土上面で検出した。土器群02の中で土器片が密集していた。

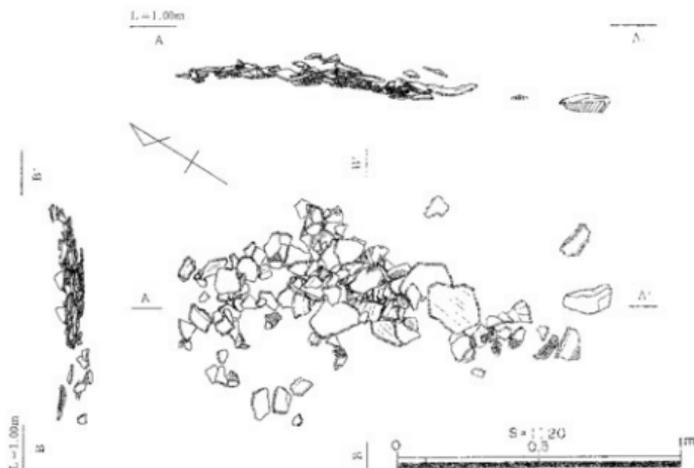
形態 (1.55×0.80)mの範囲で土器片が密集していた。土器片の出土レベル差は、約15cmである。

遺物 復元の結果3個体の土器片が重なりあっていただけが分かった。甕 (Po149・150)、脚 (Po151) がそれぞれある。

時期 出土土器より弥生時代後期のものと思われる。



挿図74 土器溜り01遺物出土状況



挿図75 土器溜り02遺物出土状況

第3節 溝状遺構

S D01 (挿図76、図版13)

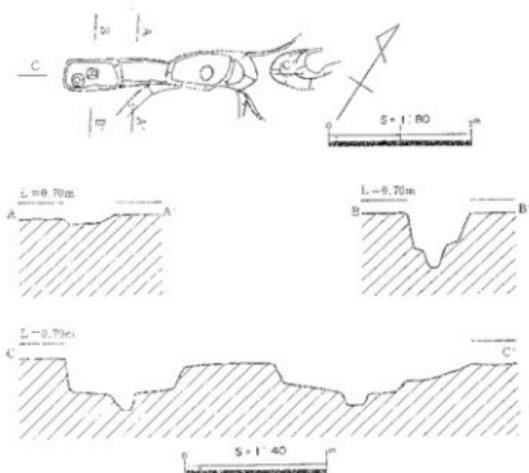
位置 6 Eグリッドの北西隅に位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 溝の走向はN-57°-Eの方向である。検出された溝の長さは約4mであるが、さらに北東方向に延びてゆくものと思われる。幅は0.2m内外で、北東端が幅広となる。深さは0.1m内外である。

断面形は逆靴状を呈する。底面で1~2個のピットを有する平面長方形の土塊状の掘り込みを検出した。溝掘削と同時に掘られたものか、それ以前のものであろう。

土層 溝の堀土は1層で、砂質土が堆積していた。
遺物 埋土中で土器片が出土した。

時期 掘り方検出面より弥生時代後期の溝であると思われる。

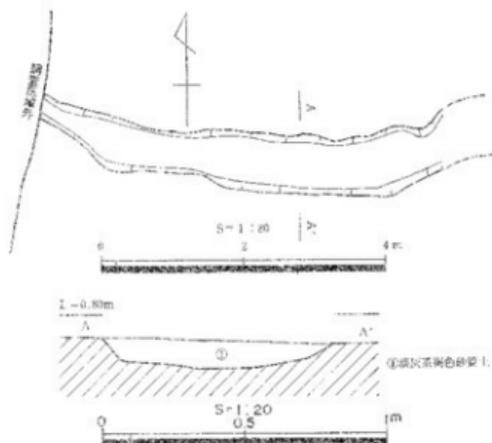


挿図76 S D01遺構図

S D02 (挿図77)

位置 6 Dグリッドの中央辺りから西方に延びる溝である。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 溝の走向は東西の方向である。長さ約6mにわたって検出することができたが、西側は調査区外に延び、東側はさらにS D03方向に延びていたものと推測される。



挿図77 S D02遺構図

幅は0.4m内外、深さは0.1m内外を測る。断面形は皿状を呈する。

土層 埋土は、1層で砂質土が堆積していた。

遺物 図化はしていないが、溝底面より平行沈線文を外面に施す複合口縁が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期の溝であると思われる。

S D03 (挿図79・116、図版33)

位置 6Eグリッド南西部から南東に延びる溝である。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 やや湾曲してはいるが、溝の走向はN-54°-Wの方向である。検出できた溝の長さは約5.8mであるが、南東側はひろがりながら調査区外へ延びてゆく。溝の北西端は閉じているが、S D02の方向へ延びてゆく可能性をもつ。土層断面及び底面を観察すると、溝が1度掘りかえされた形跡が窺われる。溝③が掘った時点で溝④が掘り込まれている。溝③は幅4.5m内外、深さ0.2m内外、溝④は幅0.5m以上、深さ0.2m内外を測る。溝③④は南東側でその区別が不明瞭となる。

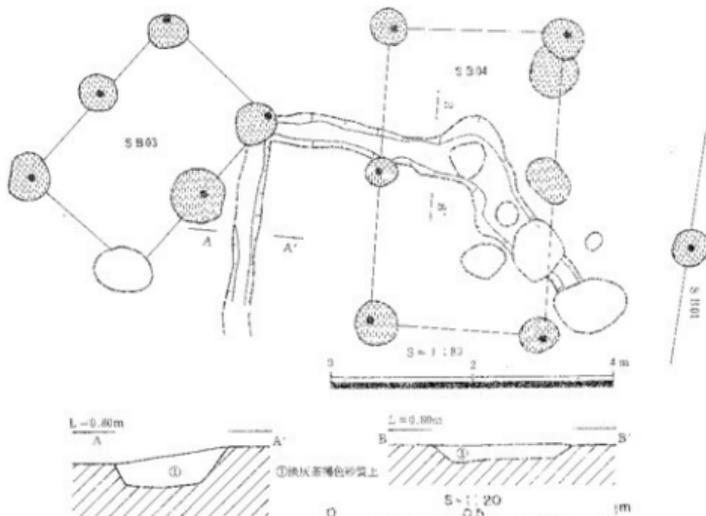
土層 埋土は溝③④とも砂質土である。

遺物 出土遺物のうち、甕の口縁を2点図化した (Po200・201)。

時期 出土土器より弥生時代後期の溝であると思われる。

S D04 (挿図78)

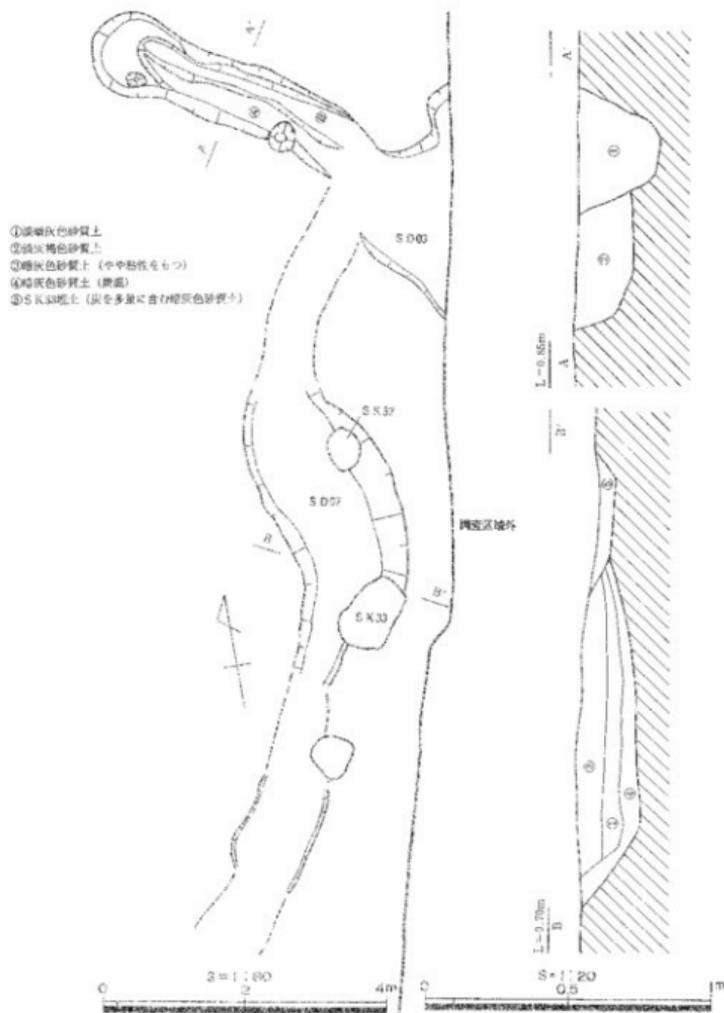
位置 7Dグリッドの中央付近に位置する。青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。



挿図78 S D04遺構図

形態 一度南北に約2.4m延びた後、東方向に約90°折れ曲がって、約3m延びる。さらに南東方向に約2m延びた後、わずかに南方向へ角度をふる。検出できた溝の長さは約7.5mであるが、さらに南方向に延びていたと思われる。幅は0.4~0.8mで深さは0.05~0.12mである。

土層 埋土は、砂質土であった。



挿図79 S D 03・07遺構図

遺物 埋土中で弥生土器片が出土したが、図化できなかった。

時期 出土土器より弥生時代の溝であると思われる。

S D05・06 (挿図80・116、図版13・14・33)

位置 8 Dグリッドに位置する。土器群02取上後、青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。

形態 両溝の走向方向から推測すると、直径12mの環状にめぐる溝があったものと考えられる。S D05は北西部で北西方向に延びてゆく枝溝を有する。S D05は幅0.5～1.0m、深さ0.15m内外、S D06は幅1.8m内外、深さ0.05m内外を測る。

土層 S D05の埋土は3層で、④層のみ粘質土、②層は炭片を少量ながら含む。S D06の埋土は1層で砂質土である。

土壌 S D05の北東部には、S K35・36が埋土を切って掘り込まれていた。S D05・06の内側にはS K43～47の土壌及び多数のピットが検出された。そのうちの4つのピット(P9・10・13・14)の底面では板状の木が横臥状態で出土した。また、S K44の掘り方の北側を切るピット(P12)内には炭片とともに焼石、S K47の西側のピット(P11)内には、径5mm程度の砂利とともに炭片がびっしりと充満していた。さらにまた、S K48の南西にあるピット(P15)内では、径1mm程度の円形の穿孔痕をもつ緑色化した流文岩質凝灰岩が出土した。ピット内では割れた状態で出土したが、接合することができた。

遺物 S D05・06とも弥生土器が底面及び埋土中で出土した。そのうち、壺(Po202・205・208・209)、甕(Po203・204・210)、高坏(Po211)、器台(Po206)、甕形土器(Po207)を図化した。

時期 出土土器より弥生時代後期の溝であると思われる。

S D07 (挿図79・117、図版34)

位置 7 Eグリッドに位置する。土器群06、土器溜り01取上後、青灰色粘質土上面で掘り方を検出した。埋土を切ってS K32・33が掘り込まれる。

形態 蛇行気味であるが、溝の走向はN-18°-Eの方向である。長さ約8mにわたって検出したが、さらに南北に延びゆくものと思われる。溝の底面は平坦ではなく、皿状の浅い窪みがいくつか見られた。溝の幅は1.0～1.7m、深さは0.1～0.2mである。

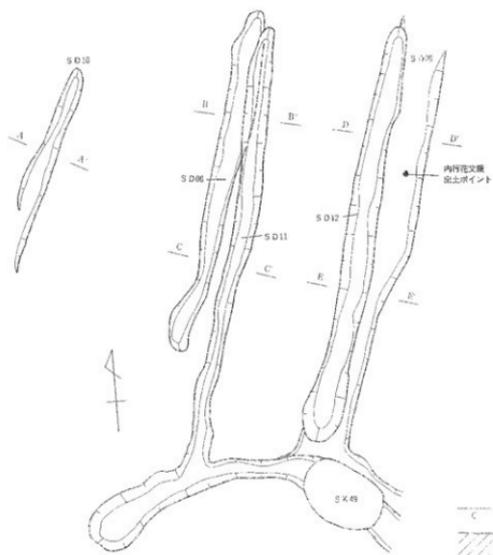
土層 埋土は3層で③④は炭片を含んでいた。

遺物 埋土中及び底面で弥生土器が出土した。その内、壺(Po212)、甕(Po213～218)、器台(Po219)、底部(Po220・221)を図化した。

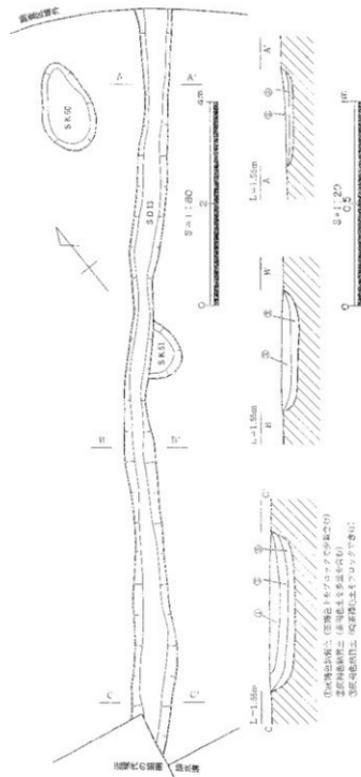
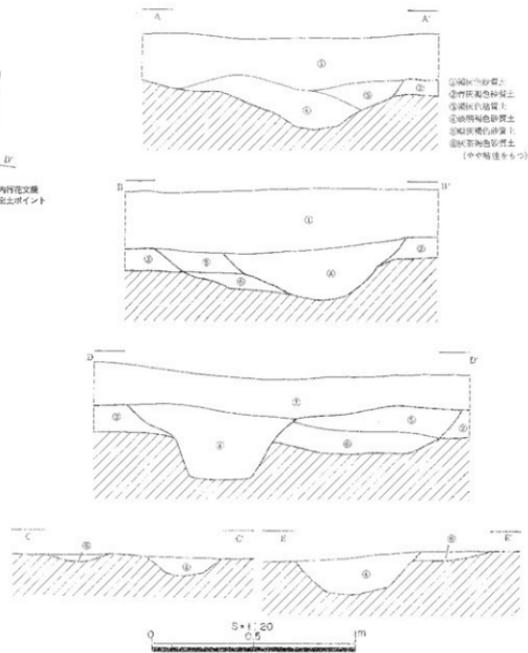
時期 出土土器より弥生時代後期の溝であると思われる。



挿図80 S D 05・06遺構図



挿図81 SD 08~12遺構図



挿図82 SD 13遺構図

S D 08 (挿図81・図版14)

- 位置 8 Dグリッドから7 Dグリッドにかけて延びる溝である。S D 09とほぼ平行する。青灰褐色砂質土中で掘り方が検出され、S D 11によって溝の北側が切られる。
- 形態 溝はN-18°-Eの定向で直線的に6.9m延び、溝の両端は閉じている。幅は0.3~0.6m、深さは0.17mを測る。
- 土層 埋土は2層で、いずれも砂質土であり、S D 09の埋土と同じである。
- 遺物 区化はしなかったが、底面からやや浮いた状態で、平行沈線文を施す複合口縁が出土した。
- 時期 出土土器より弥生時代後期の溝であり、埋土の状況よりS D 09と同時に存在していたものであると思われる。

S D 09 (挿図81・117・149、図版14・52)

- 位置 8 Dグリッドから7 Dグリッドにかけて、青灰褐色砂質土中で掘り方が検出された。S D 11・12に切られる。
- 形態 N-18°-Eの方向で直線的に約9m延びた溝は、南側で東西に分かれ弧状に延びてゆく。幅は1.0m内外、深さは0.20m内外である。
- 土層 埋土は2層で、いずれも砂質土である。S D 08の埋土と同じである。
- 遺物 底面で弥生土器が出土した。その内Pu222を区化しておく。また、溝掘り下げ中に⑤層より、溝の内側に流れ込むような状態で、内行花文鏡の破片が出土した。遺存状態が非常に良く緑錆もほとんど出ていなかった。鏡の破断面はきれいに磨かれていた。鏡背を観察すると、鈕の部分は不明であるが、鈕座に葉文と「宜」銘、内行花文の間には、山形文と結び目文がおかれる。その外には櫛齒文帯が巡る。復元実測の結果、径17cm内外、内行花文は8弧であると思われる。
- 時期 出土土器より弥生時代後期の溝でS D 08と同時に存在していたものであると思われる。

S D 10 (挿図81、図版14)

- 位置 8 Dグリッドから7 Dグリッドにかけて、青灰褐色砂質土中で掘り方を検出した。
- 形態 N-18°-Eの方向で直線的に約4.2mにわたって延びる溝である。北側端は閉じるが、南側はさらに延びてゆくものと思われる。幅は0.60m内外、深さは0.22m内外である。
- 土層 埋土は2層で、砂質土である。④層は、S D 11・12と同じ埋土である。
- 遺物 底面で弥生土器片が出土した。
- 時期 出土土器及び埋土の状況より、弥生時代後期、S D 11・12と同時に存在した溝であると思われる。

S D11 (挿図81、図版14)

位置 8 Dグリッドから7 Dグリッドにかけて、青灰褐色砂質土中で掘り方を検出した。

形態 N-15°-Eの方向で直線的に約8.7m延びた溝は、南側で東西に分かれ、弧状に延びてゆく。西側に延びた溝は約1.5mで閉じる。東側に延びた溝は、S D15によって切られる。幅は0.35~0.90m、深さは0.30m内外である。

土層 埋土は1層で砂質土であり、S D10・12と同じである。

遺物 図化はしなかったが、底面で、平行沈線文が外面に施される複合口縁が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期の溝であり、S D10・12と同時に存在したものであると思われる。

S D12 (挿図81・117、図版14)

位置 8 Dグリッドから7 Dグリッドにかけて、青灰褐色砂質土中で掘り方を検出した。

形態 N-15°-Eの方向で約8.3m直線的に延びる溝である。溝の両端は閉じている。幅は0.50~0.80mで、深さは0.35m内外である。

土層 埋土は1層で砂質土であり、S D10・11と同じ埋土である。

遺物 底面で弥生土器が出土したが、その内壺(Po223)、甕(Po224)を図化した。

時期 出土土器より弥生時代後期の溝で、S D10・11と同時に存在していたものであると思われる。

S D13 (挿図82、図版16)

位置 3 Dグリッドから3 Eグリッドにかけて褐色砂質土中で掘り方を検出した。S K51を切って掘り込まれていた。

形態 南端は近代以降の掘削によって破壊されており、北端は調査区外に延びている。N-42°-Eの方向で直線的に約14m延びる。幅は0.40~0.85m、深さは0.04~0.12mである。

土層 埋土は3層で、全て粘質土である。

遺物 埋土中で須恵器片・土師器片が出土したが、図化できなかった。

時期 出土土器より古墳時代後期以降の溝であると思われる。

S D14 (挿図83)

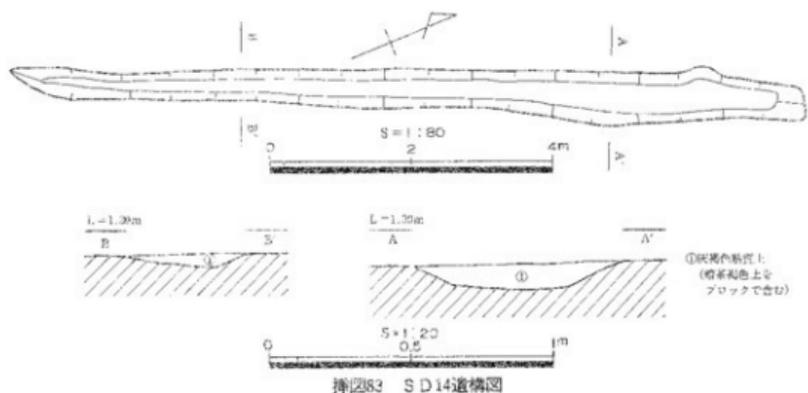
位置 5 Dグリッドから3 Dグリッドにかけて、褐色砂質土中で検出した。

形態 N-24°-Eの方向で直線的に約11.3m延びる。溝の両端は閉じる。幅は0.35~0.75mで、深さは0.05~0.09mを測る。

土層 埋土は1層で粘質土である。

遺物 埋土中より須恵器の細片が出土した。

時期 出土土器より古墳時代後期以降の溝であると思われる。



S D 15 (挿図87・118、図版15)

位置 調査区の南東部で、調査区を斜行気味に縦断している。掘り方の東側はS D 16によって切られ、埋土中にはS D 25の掘り込みが至る。褐灰色砂質土上面より掘り込まれる。

形態 溝の両端が調査区外に延びるため、全貌は明らかではないが、31.5mにわたって検出することができた。断面形は逆梯状を呈する。幅は1.50m内外で、深さは0.70m内外である。溝の走向はN-24°-Eの方向である。

土層 土層断面を観察すると、溝に堆積した土砂が2回掘り上げられた様子が窺われる。⑬⑭層の堆積後、⑮層の堆積後の2回である。埋土は全て砂質土である。

遺物 埋土中で土師器片 (Po225)、須恵器片 (Po226~228) が出土した。

時期 出土土器より古墳時代後期の溝であると思われる。

S D 16 (挿図87・120・121、図版16・35)

位置 調査区の南東部で調査区を斜行気味に縦断している。掘り方の西側はS D 25によって切られる。

形態 溝の両端が調査区外に延びるため、全貌は明らかではないが、26mにわたって検出することができた。幅は2m内外と思われる。深さは0.70m内外である。溝の走向はN-24°-Eである。溝の底面には、長楕円形を呈する足跡状の窪みが多数検出された。

土層 埋土は11層である。ほとんど粘質土であるが、⑬⑭⑮⑯層はやや手ざわりがザラザラしていた。⑳層は径2mm程度の砂粒を含んでいた。

遺物 底面の足跡状の窪みの中で口縁を下に向け押しつぶされた様な状態で土師質の皿

(Po255)が出土した。Po255は底面に回転糸切り痕が見られる。埋土中で土師器環(Po252)、土師甕皿(Po256)、黒色土器A類(Po253・254)、土師器壺(Po249～251)、須恵器坏(Po258～260)、須恵器(Po257)、須恵器片(Po261～262)、格子状の叩き目をもつ須恵質土器片(Po263)、土師質の土鍋(Po264)、瓦質の土鍋(Po265～271)、瓦質の鉢(Po272)が出土した。土鍋類は⑤層で出土したものが多かった。Po261・262の須恵器片は溝の壁面に包含されていたものが溝内に流れ落ちたと思われる。

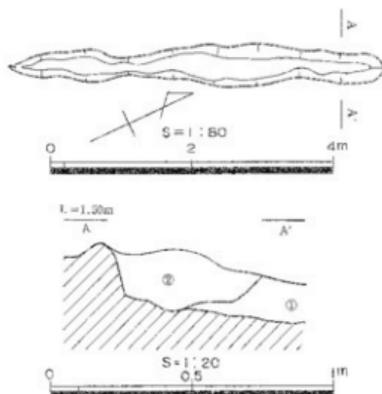
時期 出土土器より鎌倉時代に掘られ、埋まった溝であると思われるが、Po249・251、258～260が出土していることと、S D 15の存在を考え合わせると、奈良時代から存在していた溝が鎌倉時代に改めて掘られたものであると思われる。

S D 17 (挿図84)

- 位置 8 Eグリッドの北西部に位置する。S D 16の埋土を切って掘り込まれていた。
- 形態 N—24°—Eの方向で、約5.3mにわたって検出した。溝の河端は閉じる。幅は0.4～0.6m、深さは0.2m内外である。
- 土層 埋土は1層で粘質土であった。
- 遺物 全く出土しなかった。
- 時期 S D 16よりは新しいが、不明である。

S D 18 (挿図85)

- 位置 8 Eグリッドの北東部に位置する。褐灰色砂質土中で検出された。
- 形態 溝の西側はS D 16によって切られ、東側は調査区外に延びるため全貌は明らかで



挿図84 S D 17遺構図



挿図85 S D 18遺構図

はないが、約2.5mにわたって直線的に延びる。幅は0.3m内外、深さは0.05m内外である。

遺物 全く出土しなかった。

時期 不明である。

S D19～23 (挿図86・121、図版36)

位置 9 Eグリッドから8 Eグリッドにかけて南南西から北北東方向にのびる数条の溝を検出した。褐灰色砂質土中で掘り方を検出した。

形態 S D19、幅0.4m、深さ0.12m、S D20は幅0.7m、深さ0.12m、S D21は幅0.3m、深さ0.04m、S D22は幅0.34m、深さ0.07m、S D23は幅0.4m、深さ0.05mを測る。S D19・21・22は両端が閉じる。S D20は調査区外にのびてゆく。溝の走向はS D19がN-14°-E、S D20がN-23°-E、S D21がN-15°-E、S D22がN-25°-E、S D23がN-15°-Eである。

土層 埋土は全て砂質土で、同じ埋土である。

遺物 S D19埋土中で、ほぼ完形の須恵器の壺 (Po273) が出土した。

時期 埋土の状況、検出レベルが同じことから、ほぼ同時期の溝であると思われる、S D19出土須恵器より奈良時代の溝であると思われる。

S D24 (挿図86・121、図版15・16・35)

位置 調査区の南端で、調査区を横断する。褐灰色砂質土中で掘り方を検出した。

形態 溝の東西が調査区外に延びるため、全貌は明らかではないが、長さ約22mにわたって検出することができた。溝の走向はN-72°-Wであり、S D15・16・25とほぼ直交し、S D16・25に東西に分断される。

土層 埋土は東側と西側で様相を異にする。東側の埋土は3層で、底面に砂質土が堆積する。西側の溝底面には粘質土が堆積する。東側の溝の底面は西側へわずかに傾斜する。

遺物 東側の溝の底面で須恵器 (Po273) が出土した。口縁部が内側に折れ曲がり、特異な形態を示すが、坏蓋と思われる、天井部内面に墨の痕跡を残す。東側の溝の④層でつまみが付く須恵器坏蓋 (Po277) と須恵器双耳壺片 (Po276) が出土した。Po277と276は、重なって出土した。Po277の天井部内面には擦痕が認められる。転用瓦と思われる。西側の溝で土師器壺 (Po274) が出土した。

時期 出土須恵器より、古墳時代末～奈良時代の溝であると思われる。

S D25 (挿図88・118・119・149、図版15・34・52)

位置 調査区の南東部で斜行気味に調査区を縦断している。S D15の埋土を掘り込み、S D16の西側掘り方を切る。

形態 溝の両端は調査区外へ延びているため、全貌は明らかではないが、長さ32mにわたって検出することができた。幅は2.5m内外で、深さは1.5m内外である。溝の走向はN-24°-Eの方向である。

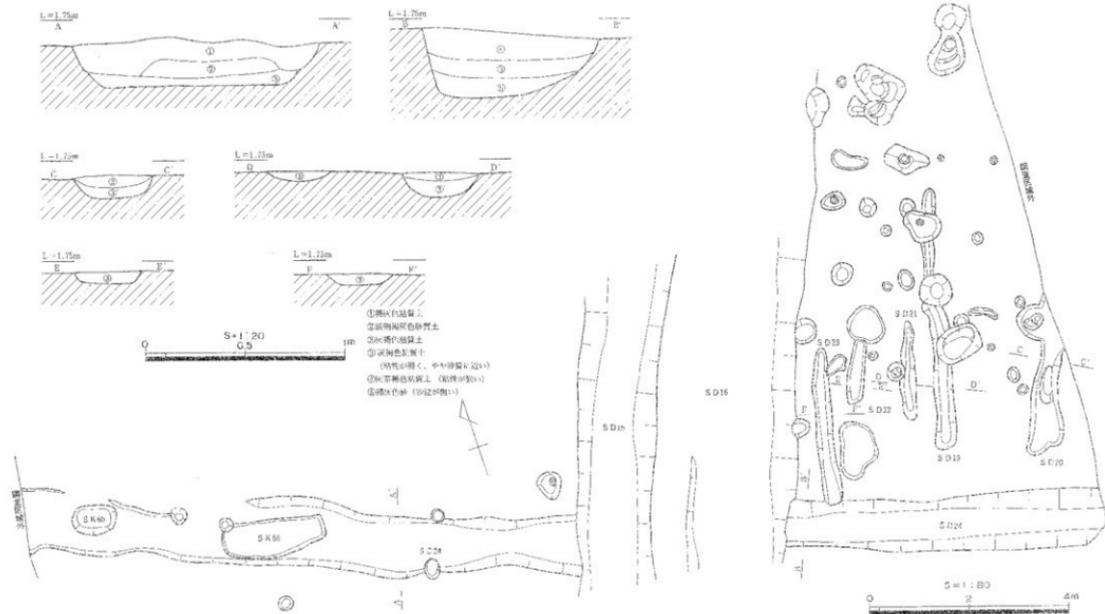
土層 埋土は10層に分けることができた。底面には粘質土⑩層が堆積しており、⑨層と⑩層の間には粒子の粗い砂が約1cm堆積していた。⑨層では広葉樹の葉・小枝が面的に出土した。⑧層は粒子の細かい砂であった。⑥層は粘質土、⑦層は砂質土であった。⑤層より上層は厚く粘質土が堆積していた。

遺物 埋土中で、須恵器坏 (Po229)、須恵器片 (Po230~236)、須恵質土器片 (Po238)、須恵質甕 (Po245)、底部 (Po247)、瓦質の釜 (Po244)、こね鉢 (Po246・248)、備前焼の大甕 (Po239)、搦鉢 (Po240・241)、越前焼の大甕 (Po243) が出土した。また、埋土中で靴口 (F3) が出土した。

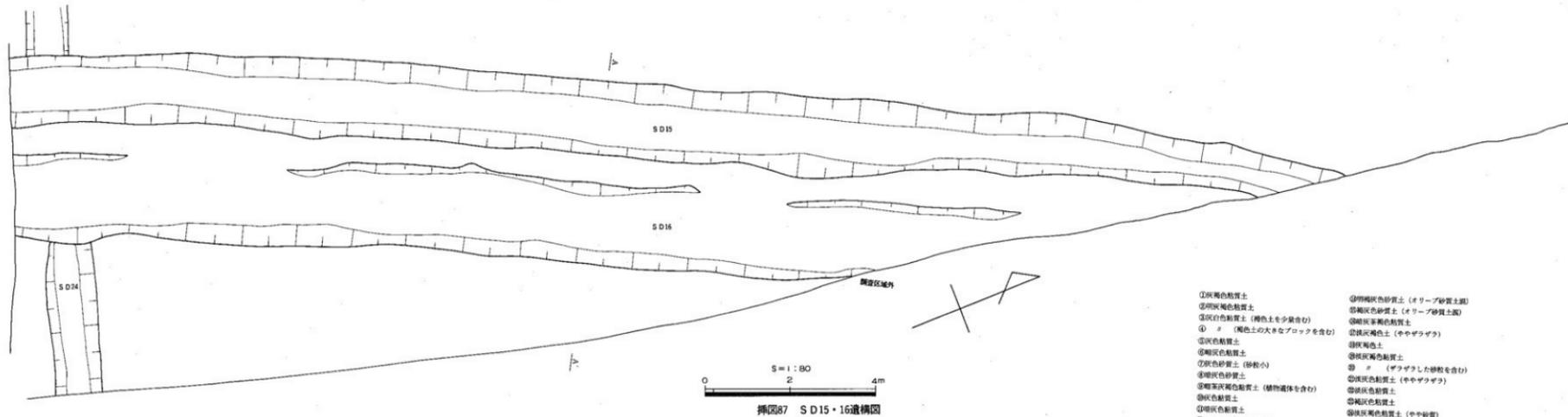
時期 出土した備前焼より室町時代(15世紀頃)の溝であると思われる。



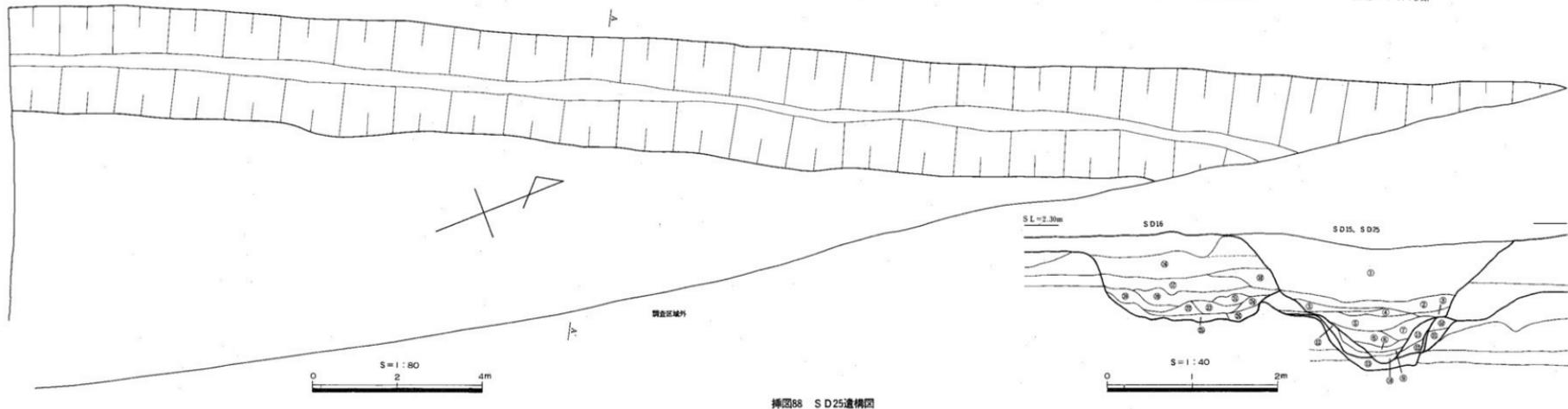
写真8 S D15発掘



擇區86 S D 19~24遺構圖



- | | |
|---------------------------|---------------------|
| ① 灰褐色粘質土 | ⑭ 暗褐色粘質土 (オリーブ砂質土混) |
| ② 灰褐色粘質土 | ⑮ 暗褐色粘質土 (オリーブ砂質土混) |
| ③ 灰白色粘質土 (褐色土も少量含む) | ⑯ 暗褐色粘質土 |
| ④ 赤褐色粘質土 (褐色土の大きなブロックを含む) | ⑰ 灰褐色土 (ヤヤツツヤツ) |
| ⑤ 灰褐色粘質土 | ⑱ 灰褐色粘質土 |
| ⑥ 暗褐色粘質土 (砂粒小) | ⑲ # (ガラガラした砂粒を含む) |
| ⑦ 暗褐色粘質土 | ⑳ 灰褐色粘質土 (ヤヤツツヤツ) |
| ⑧ 暗赤褐色粘質土 (植物腐体を含む) | ㉑ 暗褐色粘質土 |
| ⑨ 灰褐色粘質土 | ㉒ 暗褐色粘質土 (ヤヤツツヤツ) |
| ⑩ 暗褐色粘質土 | ㉓ 暗褐色粘質土 (ヤヤツツヤツ) |
| ⑪ # (ヤヤ粘質性をもつ) | ㉔ 灰褐色土 (ヤヤ砂質) |
| ⑫ オリーブ砂質土 | ㉕ 灰褐色土 (ヤヤ砂質) |



第4節 土器群

土器群01 (挿図89・122、図版36)

位置 5Eグリッドの北側、4Dグリッド、4Eグリッドに平面的に広がる。褐色砂質土の下層を掘り下げ中に検出した。

形態 広がり平面形は不整形で、その範囲は、東西に17m、南北に14mである。広がり南東部の土器の密度が高い。

遺物 壺、甕、高坏、器台、が破片の状態で出土した。出土土器のうちPo268～272を図化した。

時期 出土土器より弥生時代後期のものであると思われる。

土器群02 (挿図89・123～128・149、図版17・18・36～40・52)

位置 調査区の南端、7C・7Dのグリッドの南端、8C・8Dグリッドに位置する。

形態 調査区の南端で褐色砂質土から青灰色粘質土掘り下げ中に弥生土器がまとまって出土する状況がみられたため、その都度出土状況を実測しながら土器を取り上げた。土器の出土位置をまとめると平面形は環状を呈することが分かった。最も高いレベルで出土した土器は標高約1.4m、最も低いレベルで出土した土器は標高約0.9mで出土し、比高差0.5mを測る。土器を取り上げ後、青灰色粘質土まで掘り下げたところ、土器群の北側部及び東側部でSD05を検出した。また土器群の南側部ではSD06が検出された。土器群の西側部では、溝状遺構は検出されなかったが、浅い不整形の窪みが数個、SD05の北西端とSD06の北西端を結ぶライン上に検出された。土器群02の土器は、SD05・06に伴う遺物とも考えられる。

遺物 多数の土器が出土した。壺19個体 (Po286～304)、甕32個体 (Po305～336)、高坏13個体 (Po337～349)、器台13個体 (Po350～362)、蓋4個体 (Po363～366)、底部14個体分 (Po367～380) を図化しておく。壺はやや長めの頸部から複合口縁に至るもの (Po286～291)、頸部からそのまま立ち上がり口縁端部に至るもの (Po293～297)、小型のもの (Po298～301)、スタンプ文が施される壺 (Po302～304) がある。Po303・304はスタンプ文は確認できていないが、施文パターンからスタンプ文が施されると考える。高坏は、坏部口縁が複合口縁になるもの (Po337)、坏部が屈曲後外反するもの (Po338・342)、坏部が屈曲後外傾するもの (Po341)、坏部が屈曲せず外反して立ち上がるもの (Po339・340)、坏部が碗状を呈するもの (Po343) がある。Po343は、筒胴部が非常に短い。器台は、長めの筒部を持つもの (Po351～353)、短めの筒部を持つもの (Po354～356)、太めの筒部を持つもの (Po361) がある。Po354～356は、受部と台部外面にスタンプ文が施される。底甕は、平底のもの (Po367～375)、上げ底状のもの (Po377～379)、ほぼ丸底化した平底 (Po380) がある。Po369は、底面

に焼成後穿孔してあるものである。Po378は、外面に不規則にスタンプ文が施される。
土器のほか、ジャスパー片4点、磁石（砂岩）、鉄鏝（F2）が出土した。

時期 出土土器より弥生時代後期であると思われる。

土器群03（挿図89・129、図版41）

位置 6Eグリッドの南西部を中心に平面的に広がる。青灰褐色砂質土掘り下げ中に検出した。

形態 広がり平面形は南北方向に長楕円形で、その範囲は東西に約4m、南北に約7mである。土器の出土レベルは、標高約0.8～0.9mの間にほぼまとまっていた。土器を取り上げ後、青灰色粘質土上面でSK20・23を検出しており、また出土位置が、6Eグリッドにある土壌群の上層にあたることから、これらの土壌に伴う遺物とも考えられる。

遺物 壺、甕、器台などが破片の状態出土した。出土土器のうちPo382～392を図化した。

時期 出土土器より弥生時代後期であると思われる。

土器群04（挿図89・130、図版18・41）

位置 6Dグリッドの南西部に平面的に広がる。青灰褐色砂質土の下層を掘り下げ中に検出した。

形態 広がり平面形は不整形で、その範囲は東西に約6m、南北に約4mである。土器の出土レベルは、標高約0.8mであった。土器を取り上げ後、青灰色粘質土上面でSK26、27およびSD02を検出しており、土器群として取り上げた土器は、ほぼそれらの上層にまとまっていることから、土器群04は、SK26、27およびSD02にそれぞれ伴う遺物とも考えられる。

遺物 壺、甕、高坏、器台などが破片の状態出土した。出土土器のうちPo393～407を図化した。

時期 出土土器より弥生時代後期であると思われる。

土器群05（挿図89・131、図版18）

位置 6Eグリッドの北東部に平面的に広がる。青灰褐色砂質土掘り下げ中に、一部ややまとまったかたちで検出した。

形態 広がり平面形は南北に長い帯状をなし、その範囲は東西に約2m、南北に約4mである。土器の出土レベルは、標高約0.8～0.9mの間にほぼまとまっていた。土器を取り上げ後、青灰色粘質土上面でSK10・17を検出したが、それらに伴うと思われるものはない。しかし、まとまって土器が出土した部分に関しては、土壌状の落込みは検出できなかったものの、土壌底面である可能性もある。



押図89 土器群01~06遺物出土ポイント



押図90 土器群07遺物出土ポイント

遺物 壺、甕、高環などが破片の状態で出土した。出土土器のうちPo408～413を図化した。

時期 出土土器より弥生時代後期であると思われる。

土器群06 (挿図89・132・133、図版18・42)

位置 7Eグリッドのほぼ中央を南北に縦断するように広がる。褐灰色砂質土下層を掘り下げ中に検出した。

形態 広がり平面形は南北に長い帯状をなし、その範囲は東西に約2m、南北に約8mである。南側で土器の出土した密度が高く、北側には土器溜り01としてとらえた土器の集積がある。土器の出土レベルは、最も高いレベルで標高約0.9m。最も低いレベルで標高約0.6mで、比高差は0.3mを測る。土器を取り上げ後、淡灰色粘質土上面でSK32、33およびSD07を検出した。

遺物 土器の出土した密度の高い南側で、ほぼ完形にまで復元できた壺(Po415)と甕(Po417)が出土しているほか、壺、甕、高環、器台などが散乱してはいるものの、ほぼ1ヶ所にまとまって出土した。出土土器のうちPo414～423を図化した。これら土器群06から出土した土器のうち数点の土器片は、下層で検出したSD07および位置的には違うもののSK38、土器群02出土の土器と接合しており、接合資料はないもののSK32、33も含めた遺構に、土器群06は伴うものということが遺物の点から考えることができる。特にSD07とはその主軸が同じであることから、ほとんどがSD07に伴うものであろう。

時期 出土土器より弥生時代後期であると思われる。

土器群07 (挿図90・134・135、図版17・43)

位置 8Eグリッドの中央南端を中心に、8E、9Eグリッドにかけて平面的に広がる。褐灰色砂質土掘り下げ中に検出した。

形態 広がり平面形は北西から南東へと帯状をなし、その範囲は北西-南東軸約5m、北東-南西軸約3mである。土器の出土状況は、密度の高い3ヶ所を中心に広がっており、それらがまとまって一つの土器群をなしている。北西側はSD16により切られていることがその埋土より明かであることから、土器群07は更に広い範囲に広がっていた可能性もある。土器の出土レベルは、標高約1.3～1.4mの間にまとまっているが、その幅の中でも密度の高かった3ヶ所では、掘り方はないものの、土器の出土状況に浅い凹状の落ちを確認できることから、土器群07は土壌が数基集まっていたという可能性もある。

遺物 壺、甕、高環、器台など多数の土器が、破片の状態で出土している。これらの中で無頸小型壺(Po426)は完形のまま伏せた状態で出土している。またミニチュアと

思われる高坏坏部 (Po437)も伏せた状態で出土している。これらの他、出土土器のうちPo424~439を盗化した。

時期 出土土器より古墳時代前期であると思われる。

第5節 掘立柱建物跡

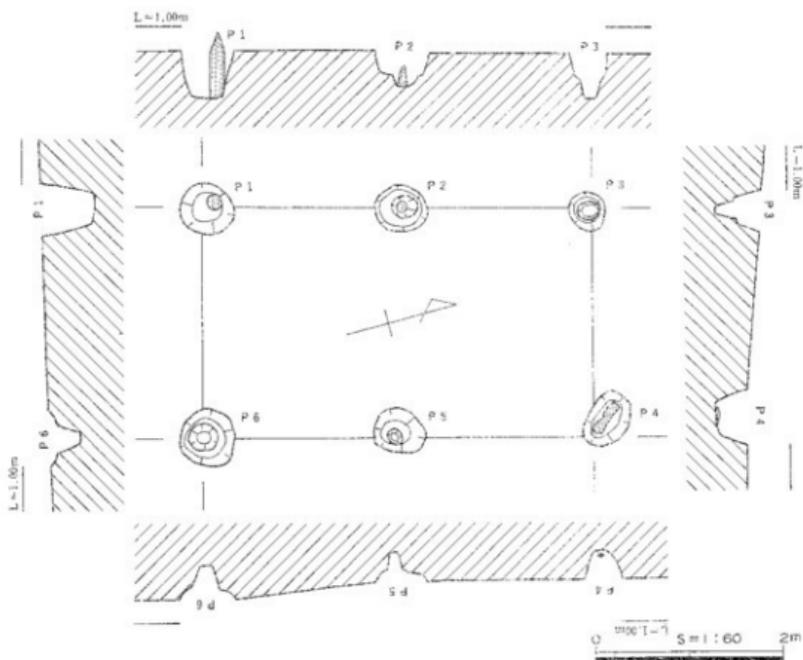
S B01 (挿図91・150、図版20・52)

位置 7Eグリッドの南西隅、S B04のすぐ東に位置する。青灰色粘質土上面で柱穴を検出した。

形態 梁間1間(2.46m)、桁行2間(4.16m)の建物で、主軸はN-16°-Eである。

柱穴 柱穴は6個である。各柱穴間距離は、P1より2.0、2.0、2.42、2.13、2.20、2.52mを測る。各柱穴プランは、P1より(58×54-59)、(58×50-37)、(44×39-50)、(62×43-33)、(56×47-30)、(62×60-35)cmである。

遺物 柱根がP1・P2より、板状の木がP4のほぼ底面から出土した。柱根は杉を円柱状に加工したもので、底面および側面に加工痕が認められる。その規模は、P1(21.



挿図91 S B01遺構図

5×14.0) cm, P 2 (66.0×15.5) cm (W 3) である。その他、柱穴より弥生土器片が出土している。また、柱穴検出レベルより約10cm上面で (3.5×1.5) m 程度の炭の面的な広がり検出された (挿図89)。

時期 出土土器および柱穴の検出レベルより弥生時代後期であると思われる。

S B 02 (挿図92・145・147~150、図版20・21・48・49・51・53)

位置 7 Cグリッドの北

東隅、S B 03のすぐ西に位置する。青灰色粘質土上面で柱穴を検出した。建物の西側は調査区外に延びてゆいため全貌は明らかではない。

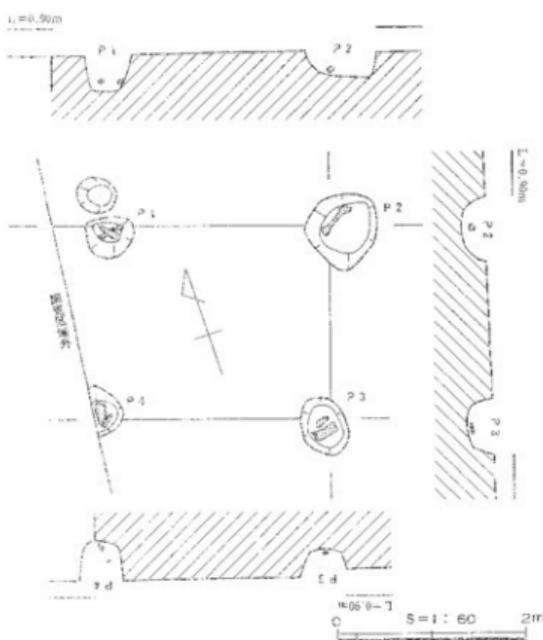
形態 梁間1間 (2.05 m)、桁行は不明であるが、2間以上になるものと思われる。主軸はN-70° Wの方向である。

柱穴 柱穴は4個のみ検出することができた。各柱穴間距離は、P 1より2.35、1.97、2.37、1.87mを測る。

各柱穴プランは、P 1より (51×45-39)、(79×73-28)、(65×48-29)、(52×29以上-43) cmである。

遺物 検出できたすべての柱穴の底面で、板状の木もしくは棒状の木が横臥状態で出土した。P 2出土の木は、葎鈴状を呈していた (W 8)。その他、柱穴掘り下げ中に弥生土器片が出土している。また、柱穴検出レベルより約10cm上面で柱穴が囲む辺りで (1.7×2.5) mの範囲で炭の広がりを検出した (挿図89)。さらに同レベルで、P 3の北西に敲石 (S 39)、管玉未成品 (S 32)、砥石 (S 42)、有孔門板 (Po 551) が出土している。

時期 柱穴出土の土器および柱穴検出レベルより弥生時代後期の建物であると思われる。



挿図92 S B 02構構図

S B03 (挿図93・136、図版19・43)

位置 7Dグリッドの南西部、S B02とS B04にはさまれる。青灰色粘質土上面で柱穴を掘出した。

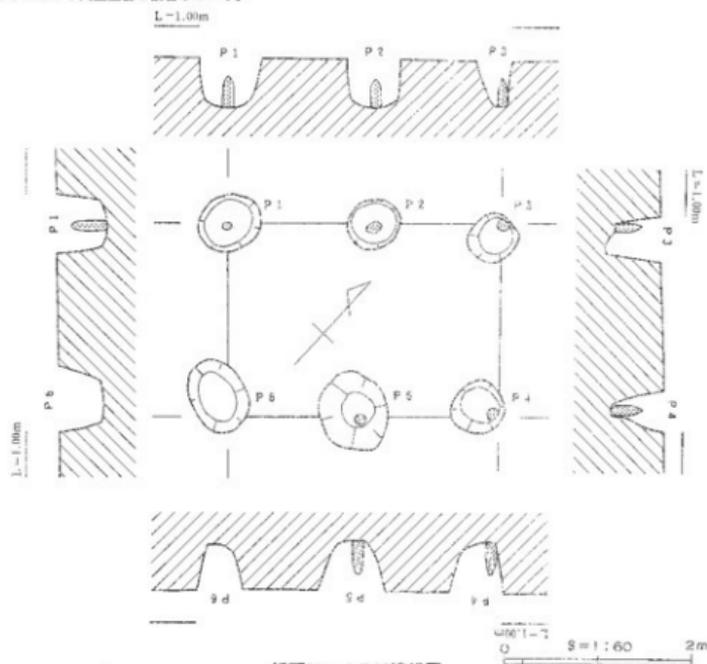
形態 梁間1間(2.06m)、桁行2間(2.90m)、の建物で、主軸はN-47°-Eの方向である。

柱穴 柱穴は6個で、柱穴間距離は、P1より1.57、1.67、1.30、1.42、1.16、1.60mを測る。各柱穴プランは、P1より(70×60-53)、(57×53-52)、(52×49-59)、(57×55-57)、(87×72-55)、(78×58-55)、(78×58-49)cmである。

遺物 P6を除く全ての柱穴より柱根が出土した。柱根はすべて杉を円柱状に加工したものである。柱根の規模は、P1(38.5×10.0)cm、P2(32.0×9.5)cm、P3(31.0×10.55)cm、P4(35.5×10.0)cm、P5(37.5×10.0)cmである。その他、柱穴掘り下げ中に弥生土器片(Po440)*が出土している。また、柱穴検出レベルより約20cm上面、P4・P5のあたりで(1.5×1.0)mの灰の平面的な広がりを検出した(挿図89)。

時期 柱穴内出土土器および柱穴検出レベルより弥生時代後期の建物であると思われる。

* S B05のP1出土土器と接合している。



挿図93 S B03透視図

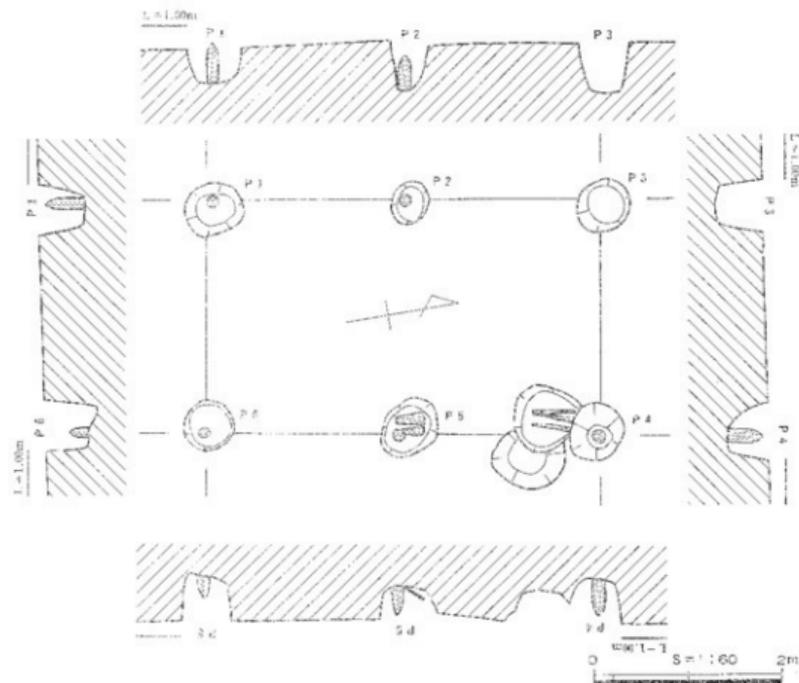
S B04 (挿図94、図版19～21)

位置 7 Dグリッドの中央東寄り、S B03とS B01にはさまれる。青灰色粘質土上面で柱穴を検出した。

形態 梁間1間(2.5m)、桁行2間(4.2m)の建物で、主軸はN-10°-Eの方向である。

柱穴 柱穴は6個で、各柱穴間距離はP 1より1.58、1.36、2.20、1.42、1.40、2.00mを測る。各柱穴プランはP 1より(70×60-50)、(57×53-52)、(59×49-59)、(57×55-57)、(87×72-55)、(78×58-49) cmを測る。

遺物 全ての柱穴で柱根が出土した。P 3の柱根のみ檜の木であったが、他の柱穴出土の柱根は杉を円柱状に加工作したものであった。さらにP 5においては、板状の木が2枚底面で出土し、そのうち1枚は柱根のそこにはいり込むような状態で出土した(図版20)。また、S B04の柱穴ではないが、P 4の南側で検出されたピットの底面には棒状の木が3本横臥状態で出土した(図版21)。各柱根の規模は、P 1(14.5×11.1) cm、P 2(58.0×14.7) cm、P 3^{*}、P 4(46.0×14.5) cm、P 5(30.0×



挿図94 S B04遺構図

14.0) cm、P 6 (45.0×12.0) cmである。その他、柱穴掘り下げ中に弥生土器片が出土した。また、柱穴検出レベルより約10cm上面のP 5・P 6のあたりで(2.5×1.2) mの炭の平面的な広がりを検出した(挿図89)。同レベルにおいて注口土器(Po 458)が出土した。

時期 出土土器および柱穴検出レベルより弥生時代後期の建物であると思われる。

* P 3については試掘での出土であり、既に石埋中であったため、計測できなかった。

S B 05 (挿図95・136、図版43)

位置 9 Eグリッドの北西隅、調査区の南東隅に位置する。青灰色粘質土上面で柱穴を検出した。

形態 建物南側が調査区外に延びるため、全貌は明らかではないが、梁間1間、桁行2間(3.2m)の建物であると思われる。主軸はN-82°Wと推定される。

柱穴 柱穴は3個検出することができた。柱穴間距離は、P 1より1.6、1.6mである。各柱穴プランはP 1より(49×45-32)、(71×60-41)、(50×50-35)を測る。

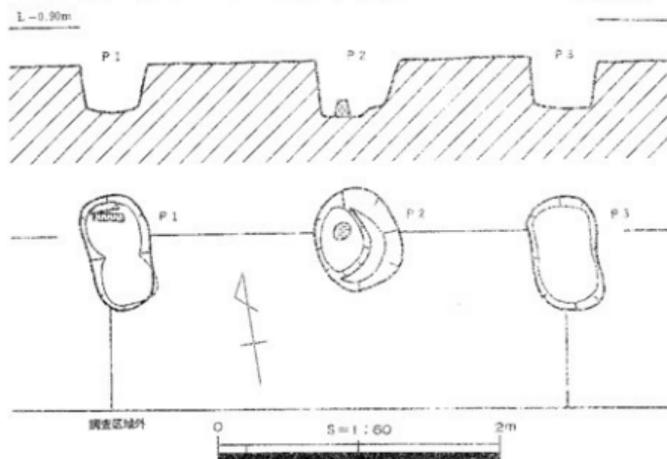
遺物 P 1内でPo440、また底面で板状の木が横臥状態で2枚出土した。

時期 柱穴検出レベルより弥生時代後期の建物であると思われる。

S B 06 (挿図96・136、図版19)

位置 8 Eグリッドの南部、S D16の東側に位置する。褐灰色砂質土中で柱穴を検出した。

形態 建物の東側が調査区外に延びるため、全貌は不明であるが、梁間1間以上(1.6m以上)、桁行4間(5.55m)の建物で、主軸はN-1°Eでほぼ南北方向である。



挿図95 S B 05遺構図

柱穴 7個の柱穴を検出することができた。柱穴間距離は、P1より、1.57、1.67、1.30、1.42、1.16、1.70mである。各柱穴プランはP1より(78×66-30)、(108×64-43)、(70×53-44)、(76×58-27)、(68×62-38)、(96×65-59)、(73×55以上-14)cmである。

遺物 柱穴内で、須恵器坏(Po443)、須恵器椀(Po444)、土師器の壺(Po442)が出土した。

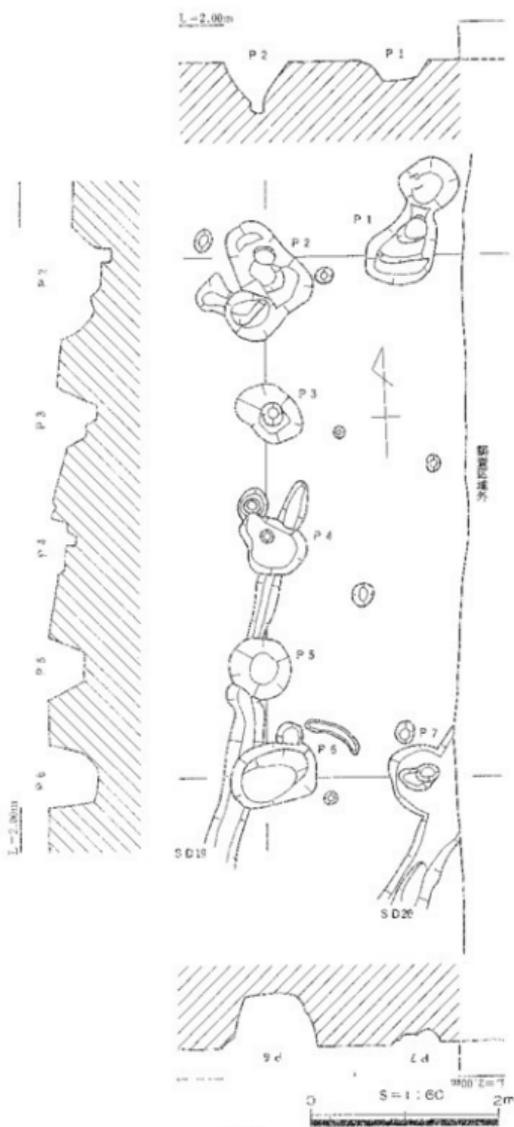
時期 柱穴内出土土器より、奈良時代以降の建物であると思われる。

S B07 (挿図97・136、図版19)

位置 S Dグリッドの東側部に位置し、褐色砂質土層で柱穴を検出した。

形態 建物東側をS D25によって切られるため、全貌は明らかではないが、梁間1間以上(3.35m以上)、桁行3間(7.26m)である。今回検出された掘立柱建物の中で、桁行長が最大値を示す。主軸はN-8°-Eで、南北方向からわずかに東にふる。

柱穴 5個の柱穴を検出することができた。柱穴間距離はP1より2.47、2.43、2.68、2.62mを測る。各柱穴プランはP1より(62×

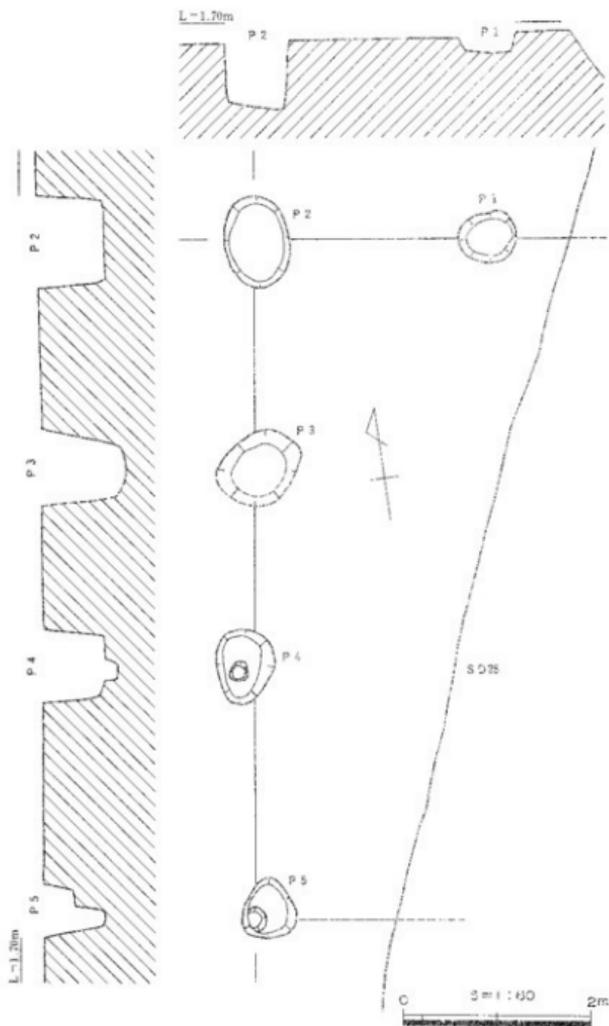


挿図96 SB06遺構図

54-23)、(99×69-73)、(88×72-96)、(79×62-79)、(65×57-65) cmである。

遺物 柱穴内で、須志器环 (Po441) が出土した。

時期 柱穴内出土土器より、奈良時代以降の建物であると思われる。



挿図97 S B 0 1 横構図

第6節 井戸跡

S E 01 (挿図98、図版22)

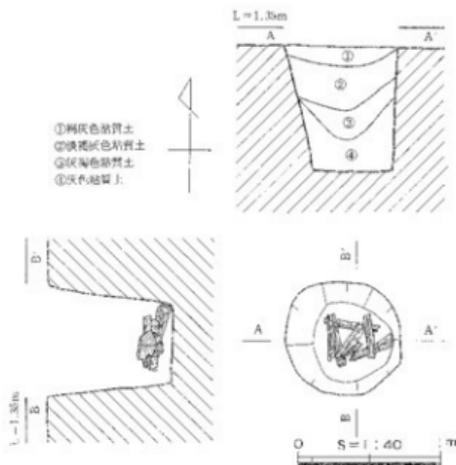
位置 7 Dグリッドの北東部、S E 02の北西部に位置する。試掘(1988年)のS E 01である。

形態 平面形は円形である。規模は(0.80×0.78-0.89)mを測る。

土層 埋土は4層で、全て粘質土であった。

遺物 ほぼ底面で、棒状の木が「井」の字が崩れたような状態で重ねられていた。井戸枠の横板と考える。

時期 中世の井戸であると思われる。



挿図98 S E 01遺構図

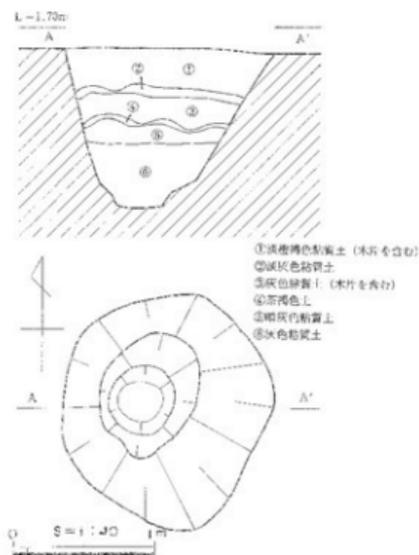
S E 02 (挿図99・136、図版22・43)

位置 7 Eグリッドの南西側、S E 03の北東約7.5mに位置する。掘り方の東側をS D 25によって切られる。褐色粘質土の上層で検出した。

形態 平面形は円形である。規模は(1.62×1.47-1.11)mを測る。底面にはビット状の掘り込みがみられた。

土層 埋土は6層で、④層を除き、全て粘質土であり、ほぼ水平に堆積していた。

遺物 埋土中で、木片、長さ20cm程度の棒状の木、曲げ物の襦袢の一部かと思われるもの、長さ10cm程度の篠竹、糸切り



挿図99 S E 02遺構図

痕をもつ土師器の底部 (Po445)、土師器片が出土した。

時期 中世の井戸であると思われる。

SE03 (挿図100、図版22)

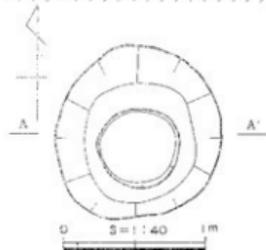
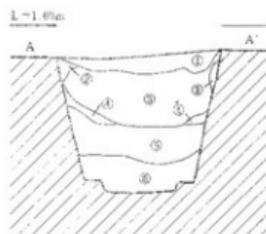
位置 8Dグリッドの北西部に位置する。

形態 平面形は円形で、底面にピット状の掘り込みがみられた。規模は(1.21×1.16-0.98)mを測る。

土層 埋土は6層で、②④層は砂質土、他は粘質土であった。ほぼ水平に近い堆積状況であった。

遺物 遺物は出土しなかった。

時期 中世の井戸であると思われる。



- ① 橙灰色粘質土
- ② 橙灰色砂質土
- ③ 暗灰色粘質土
- ④ 暗灰色砂質土
- ⑤ 淡褐色灰色粘質土
- ⑥ 暗灰色粘質土

挿図100 SE03遺構図

遺構名	平面形	断面形	傾斜 長軸×短軸×深さ(m)	主軸	出土遺物	炭層の有無 ○有・△無	時期
S K 01	不整形	逆梯状	1.19×0.62-0.39	—	土器	○	弥生時代後期
S K 02	不整形円形	逆梯状	1.63×1.29-0.76	N-57°-E	土器・石	△	弥生時代後期
S K 03	長楕円形	皿状・碗状	1.15以上×0.57-0.21	N-70°-W	土器	○	弥生時代後期
S K 04	不整形円形	皿状	1.45×1.11-0.20	N-1°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 05	不整形円形	皿状	1.75×1.48-0.28	N-45°-W	土器	○	弥生時代
S K 06	楕円形	—	2.09×1.26-0.37	N-36°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 07	楕円形	—	0.44以上×0.66-0.06	N-20°-W	土器	○	弥生時代後期
S K 08	楕円形	逆梯状	1.75×1.34-0.25	N-36°-W	土器	○	弥生時代後期
S K 09	不整形楕円形	碗状	1.53以上×0.96-0.29	N-36°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 10	隅丸長方形	逆梯状	2.43以上×1.47-0.15	N-77°-W	土器・石	△	弥生時代後期
S K 11	不整形円形	逆梯状	1.85×0.96-0.13	N-59°-W	土器・小石	○	弥生時代後期
S K 12	不整形円形	碗状	1.41×1.15-0.37	N-1°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 13	長楕円形	逆梯状	1.42×0.63-0.21	W-E	土器	○	弥生時代
S K 14	楕円形	皿状	1.34×0.84-0.28	N-51°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 15	隅丸長方形	皿状	1.04×0.79-0.20	N-49°-W	土器	○	弥生時代後期
S K 16	不明	皿状	0.66×0.44以上-0.12	N-41°-W	土器	○	弥生時代後期
S K 17	長楕円形	皿状	1.15×0.59-0.16	N-54°-W	土器	△	弥生時代
S K 18	不整形円形	碗状	0.75×0.56-0.21	N-14°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 19	不整形円形	皿状	3.09×2.86-0.46	N-37°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 20	不整形楕円形	皿状・逆梯状	2.68×0.72-0.15	N-65°-W	土器	△	弥生時代後期
S K 21	長楕円形	碗状	0.50以上×0.45-0.26	N-25°-W	土器	○	弥生時代
S K 22	長楕円形	皿状	0.74×0.42-0.36	N-75°-E	土器	○	弥生時代
S K 23	長楕円形	皿状	2.35×0.96-0.30	N-45°-E	土器・石	△	弥生時代後期
S K 24	隅丸長方形	逆梯状	1.38×0.96-0.19	N-89°-E	土器・石器	○	弥生時代後期
S K 25	楕円形	皿状	0.67以上×0.63-0.15	N-73°-W	土器	○	弥生時代後期
S K 26	隅丸長方形	逆梯状	1.16×0.88-0.14	W-E	土器・石	○	弥生時代後期
S K 27	隅丸長方形	逆梯状	1.14以上×0.38-0.30	N-72°-W	土器・石	△	弥生時代後期
S K 28	長楕円形	逆梯状	1.56×0.75-0.11	N-68°-E	土器・石	○	弥生時代後期
S K 29	不整形円形	皿状	1.51×0.83-0.19	N-27°-W	土器	○	弥生時代後期
S K 30	不整形円形	皿状	1.28×1.20-0.13	N-74°-W	土器	△	弥生時代後期
S K 31	楕円形	碗状	1.84×1.24以上-0.35	N-75°-W	土器・骨片	○	弥生時代後期
S K 32	楕円形	碗状	0.66×0.45-0.25	N-S	土器	○	弥生時代後期
S K 33	楕円形	皿状・逆梯状	1.15×0.74-0.10	N-45°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 34	隅丸長方形	逆梯状	2.62×0.94-0.56	N-S	土器・石器	○	弥生時代後期
S K 35	隅丸長方形	碗状	0.92×0.77-0.58	N-74°-E	土器	△	弥生時代後期
S K 36	長楕円形	碗状	1.27×0.55-0.25	N-80°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 37	隅丸長方形	逆梯状	1.49以上×1.22-0.25	N-70°-W	土器・石	○	弥生時代後期
S K 38	不整形長方形	碗状	1.41以上×1.12以上-0.30	N-6°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 39	楕円形	逆梯状	1.13×0.85-0.30	N-12°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 40	不整形	逆梯状	1.45×1.15-0.22	N-29°-E	土器	○	弥生時代後期
S K 41	不整形円形	皿状・逆梯状	0.38×0.66-0.36	N-37°-E	土器・刀子	○	弥生時代後期
S K 42	—	—	—	—	土器・土器	○	弥生時代後期

挿表01 土器一覧表

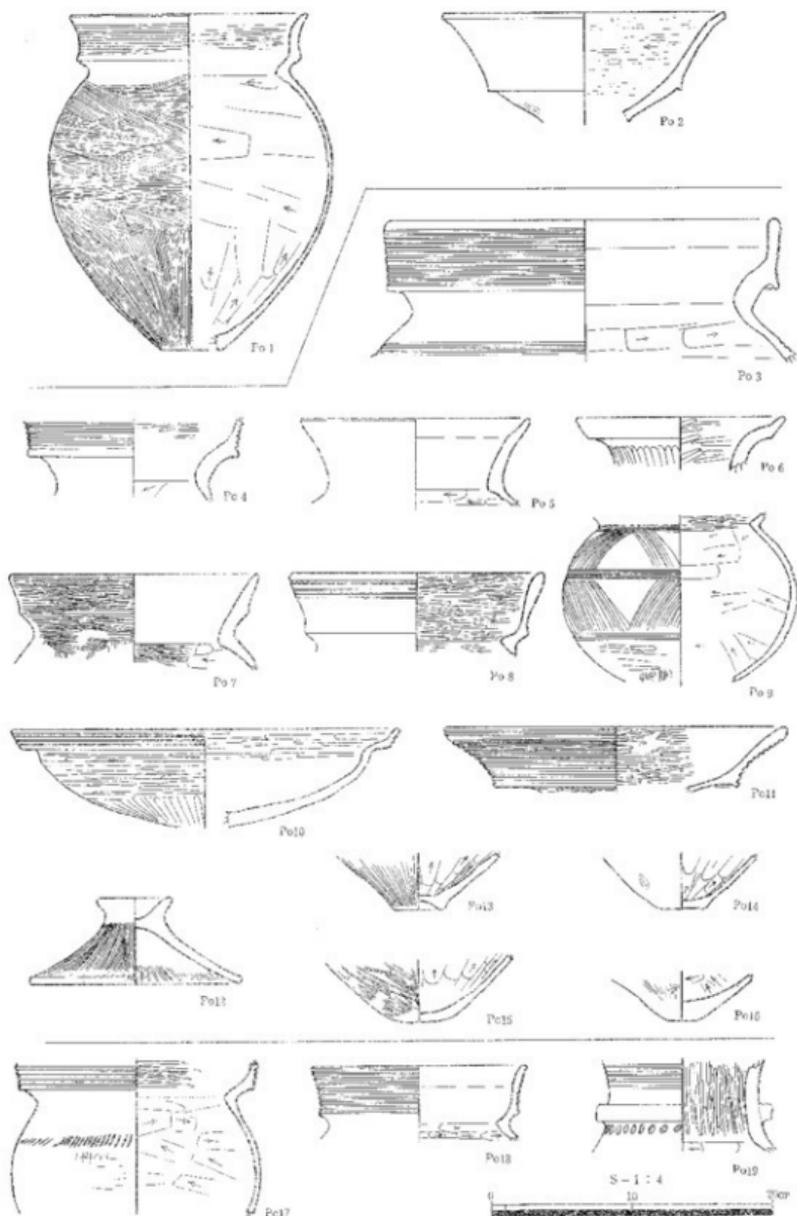
遺構名	平面形	断面形	規模		方位	出土遺物	炭屑の有無 ○有・△無	時期
			長軸×短軸-厚さ(m)					
S K 43	不整形	逆梯状	0.99×0.90-0.45		N-35°-E	土器	△	弥生時代後期
S K 44	不整形円形	逆梯状	1.21×0.80-0.13		N-48° E	土器・埴土	△	弥生時代
S K 45	不整形円形	逆梯状	0.86×0.68-0.25		N-38° E	土器・木	△	弥生時代後期
S K 46	不整形円形	逆梯状	0.95×0.86-0.62		N-29°-E	埴土・埴土	△	弥生時代後期
S K 47	不整形長方形	枕状	1.30×1.10-0.29		N-26°-E	土器・石	△	弥生時代後期
S K 48	不整形長方形	逆梯状	0.92×0.65-0.11		W-E	土器	○	弥生時代後期
S K 49	隅丸長方形	逆梯状	1.72×1.17-0.21		N-56°-W	土器	△	弥生時代後期
S K 50	楕円形	逆梯状	1.76×0.89-0.12		N-22°-E	土器・石	△	古墳時代後期
S K 51	楕円形	逆梯状	1.11×0.76以上-6.08		N-40°-E	土器	△	古墳時代後期
S K 52	長楕円形	枕状	2.34以上×0.57以上-0.55		N-S	土器	○	古墳時代前期
S K 53	不整形楕円形	-----	1.97×1.03-0.09		N-54°-E	土器	△	古墳時代前期
S K 54	長楕円形	-----	1.33×1.15-0.17		N-10°-W	土器	△	古墳時代前期
S K 55	-----	-----	-----		-----	土器	△	古墳時代前期
S K 56	楕円形	逆梯状	0.68×0.48-0.13		N-55°-E	土器	△	古墳時代後期
S K 57	帯状	逆梯状-両状	-----		-----	土器	△	古墳時代前期
S K 58	-----	-----	-----		-----	土器	△	古墳時代-中期
S K 59	長楕円形	逆梯状	1.17以上×0.88-0.13		N-10°-E	土器・埴土	△	古墳時代前期
S K 60	円形	逆梯状	0.72×0.66-0.25		-----	土器	△	古墳時代
S K 61	-----	皿状	-----		N-14°-W	土器	△	古墳時代前期
S K 62	長楕円形	逆梯状	1.25×0.99-0.20		N-78°-W	土器	△	古墳時代-中期
S K 63	不整形円形	逆梯状	0.82×0.80-0.58		W-E	土器	○	古墳時代-中期
S K 64	楕円形	皿状	1.10×0.56以上-0.10		N-20°-E	土器	△	古墳時代前期
S K 65	隅丸長方形	逆梯状	0.88×0.57-0.24		N-60°-W	-----	△	-----
S K 66	隅丸長方形	逆梯状	2.03×0.35-0.04		N-79°-W	埴土・埴土	△	古墳時代後期
S K 67	-----	枕状	1.10×0.55以上-0.32		-----	土器	△	古墳時代前期
S K 68	-----	-----	-----		-----	土器	△	古墳時代後期以降
S K 69	不整形	皿状	1.46×0.96以上-0.15		N-12°-E	土器	△	中世鎌倉時代

挿表02 土壌一覽表(2)

掘立番号	主 軸	梁間×桁行	梁間長×桁行長(m)	柱穴内出土柱根電		備考
S B 01	N-16° E	1×2	2.46×4.16	P 1 柱 (?) P 2 柱 (杉) P 3 ×	P 4 礎 (?) P 5 × P 6 ×	
S B 02	N-76°-W	1×不明	2.05×2.5以上	P 1 礎 (調) P 2 礎 (杉)	P 3 礎 (山崎) P 4 礎 (杉)	
S B 03	N-47° E	1×2	2.06×2.9	P 1 柱 (杉) P 2 柱 (杉) P 3 柱 (杉)	P 4 柱 (杉) P 5 柱 (杉) P 6 ×	
S B 04	N-10°-E	1×2	2.5×4.2	P 1 柱 (杉) P 2 柱 (杉) P 3 柱 (杉) 試掘	P 4 柱 (杉) P 5 柱 (杉) P 6 柱 (杉)	
S B 05	N-82°-W	不明×2	?×3.2	P 1 礎 (?) P 2 柱 (?)	P 3 ×	
S B 06	N-1°-E	不明×4	1.6以上×5.55	P 1 × P 2 × P 3 × P 4 ×	F 5 × P 6 × P 7 ×	
S B 07	N-8°-E	不明×3	3.35以上×7.26	P 1 × P 2 × P 3 ×	P 4 × P 5 ×	

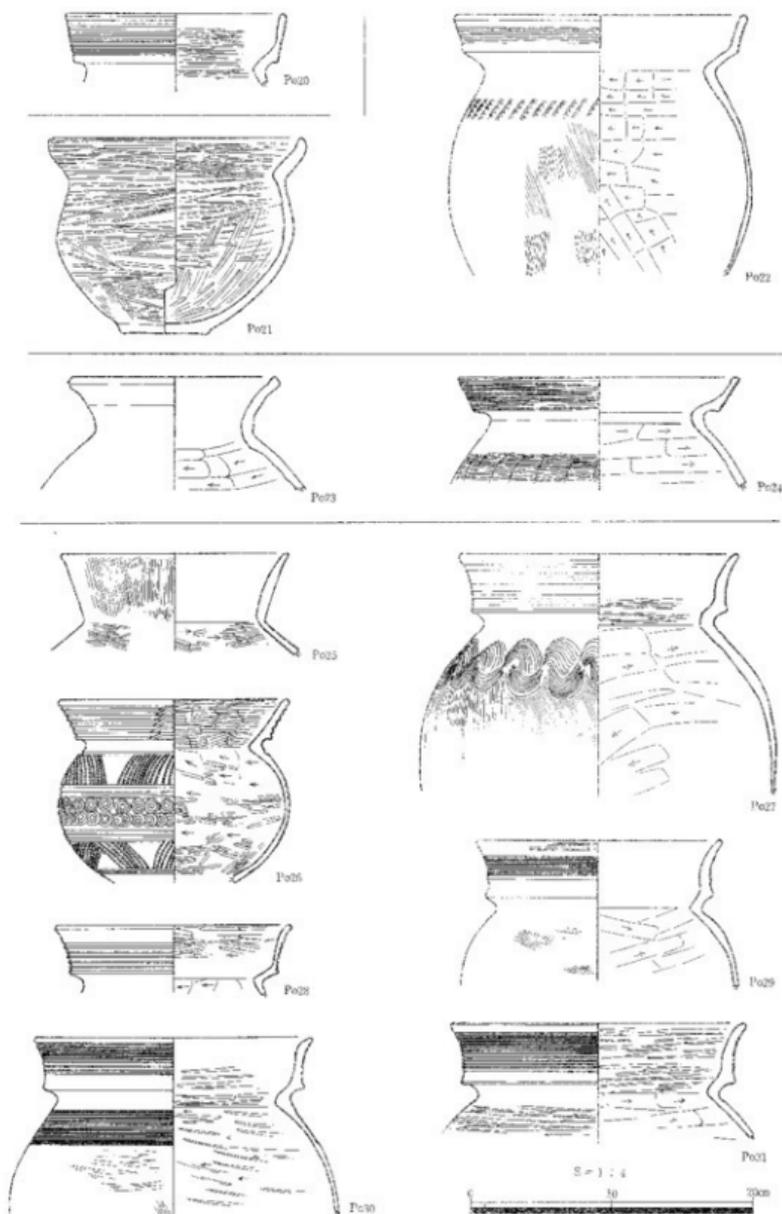
×印は木が出土せず

挿表03 掘立建物跡一覽表



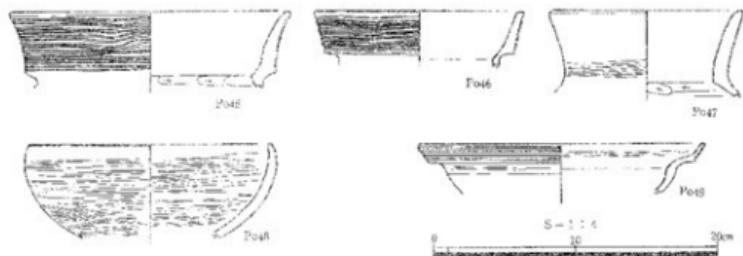
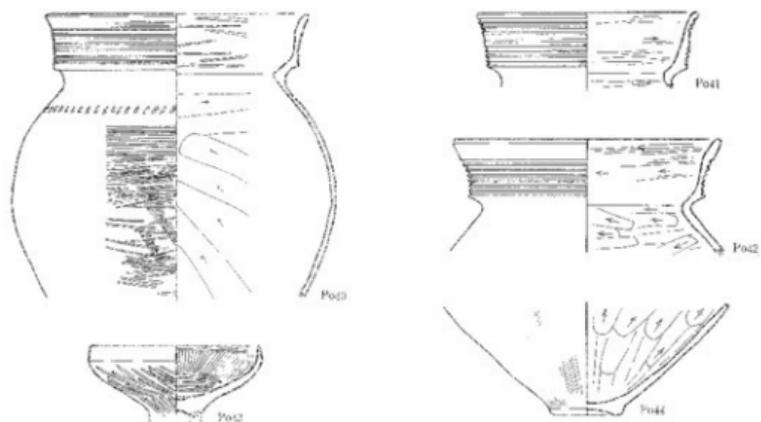
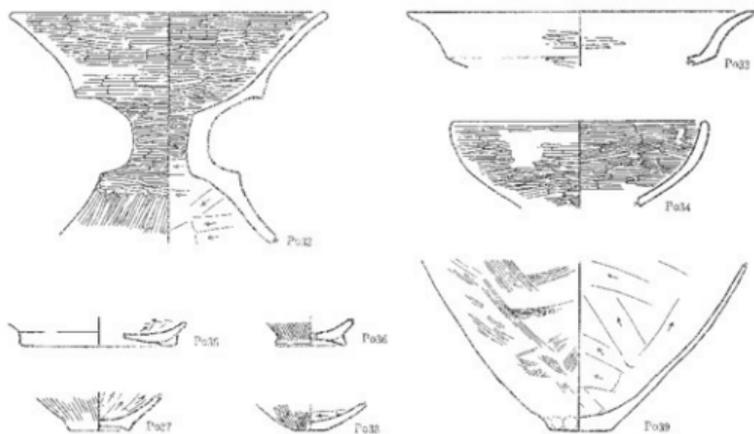
(S K01(Po1-2), S K02(Po3~16), S K03(Po17~19))

插图101 S K01・02・03出土遺物



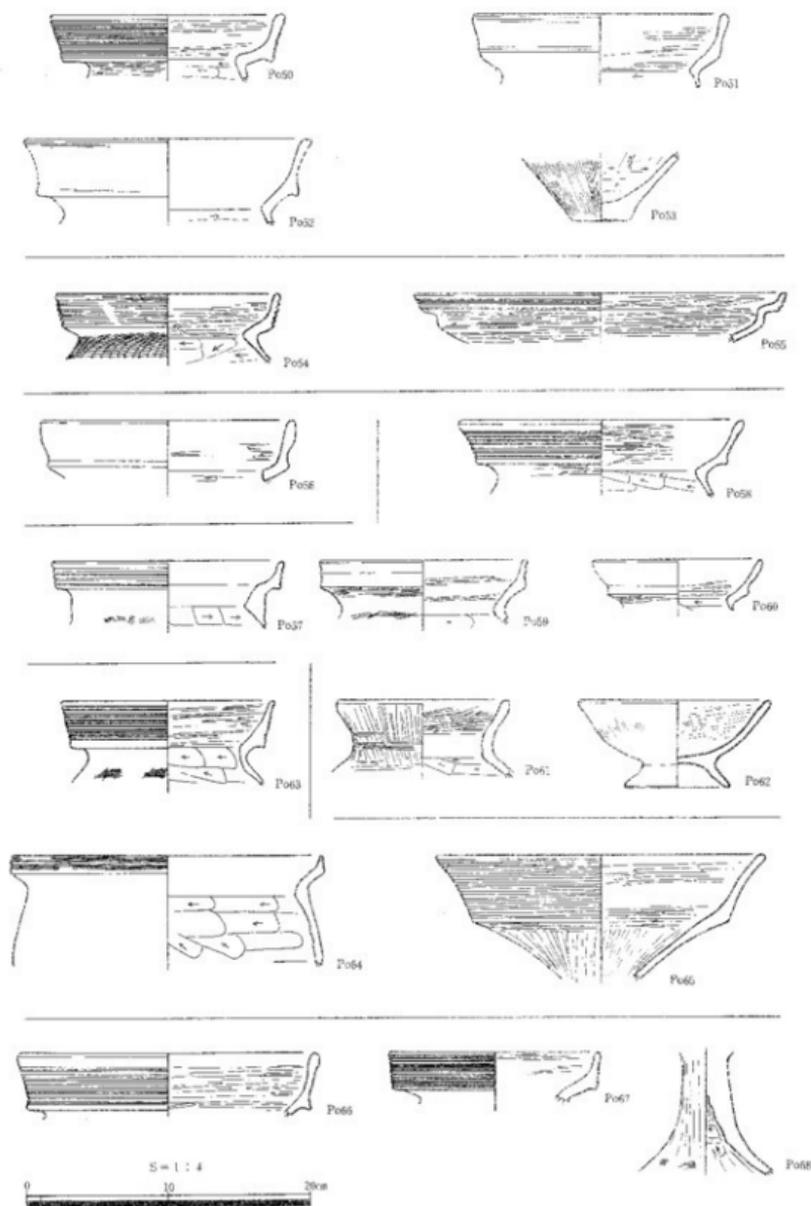
(S K04(Po20)、S K08(Po21・22)、S K09(Po23・24)、S R10(Po25~31))

挿図102 S K04・08・09・10出土遺物



(S K 10(Po32~39), S K 11(Po40~44), S K 12(Po45~49))

插图103 S K 10・11・12出土遺物

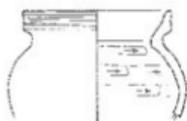


(S K14(Po50~53), S K16(Po54~55), S K18(Po56), S K19(Po57~62), S K20(Po63~65), S K23(Po66~68))

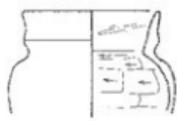
挿図104 S K14・16・18・19・20・23出土遺物



Po69



Po70



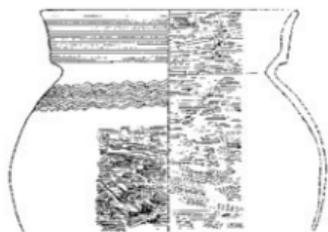
Po71



Po72



Po73



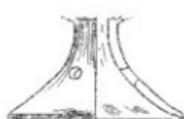
Po74



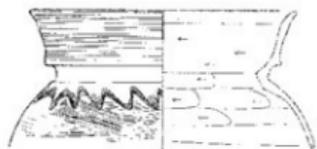
Po75



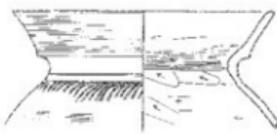
Po76



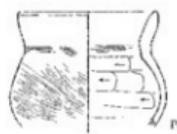
Po77



Po78



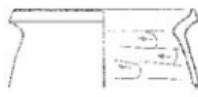
Po79



Po80



Po81



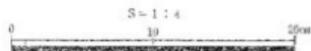
Po82



Po84



Po82

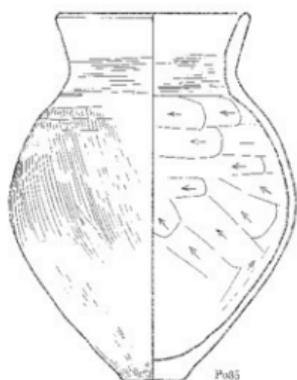


S=1:4

0 10 20cm

〔S K 21 (Po69~73)、S K 26 (1'674~77)、S K 27 (P:78~80)、S K 28 (Po81~84)〕

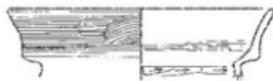
挿図:05 S K 24・26・27・28出土遺物



Po85



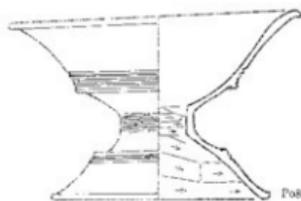
Po88



Po86



Po87



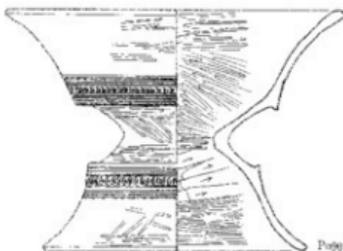
Po89



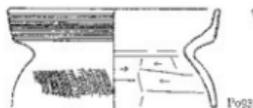
Po91



Po92



Po90



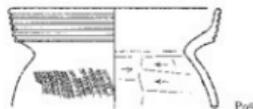
Po93



Po95



Po99



Po94



Po100



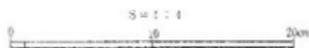
Po96



Po97

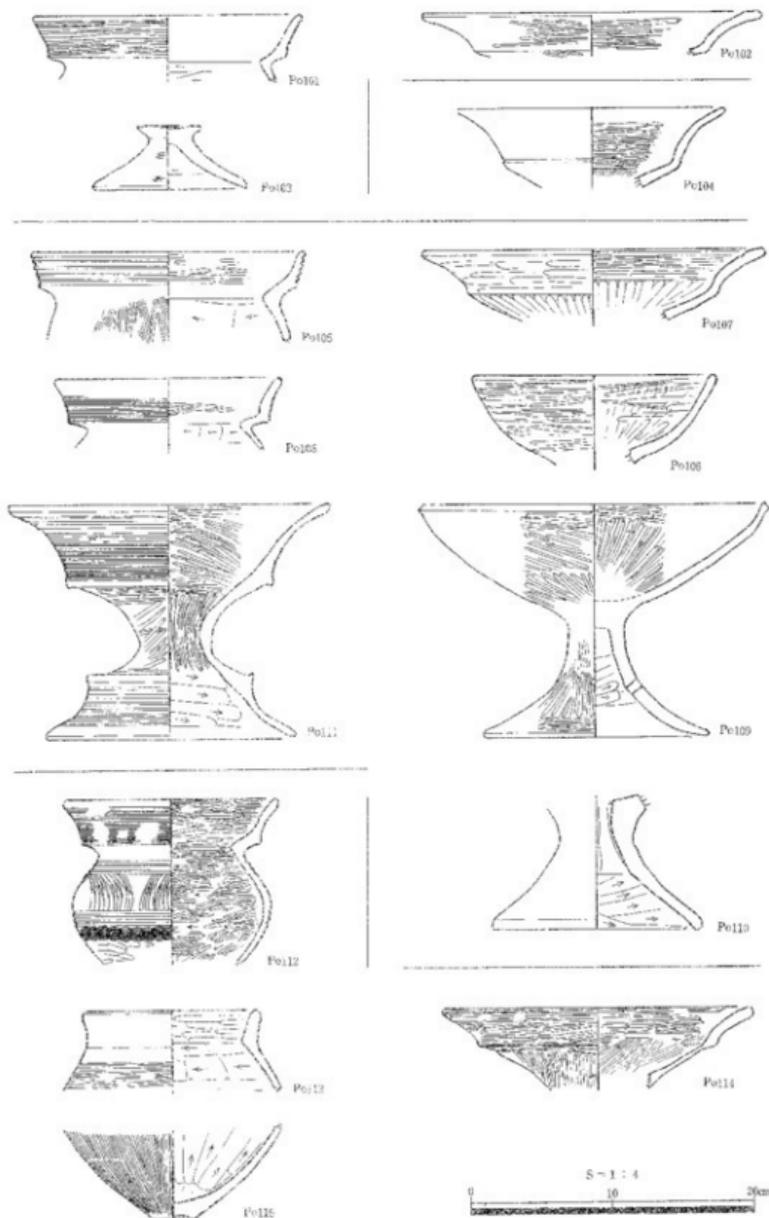


Po98



(S K 31(Po85~90)、S K 32(Po91・92)、S K 34(Po93~100))

挿圖106 S K 31・32・34出土遺物

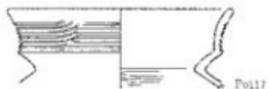


(S K35(Po101~103)、S K36(Po104)、S K37(Po105~111)、S K38(Po112~115))

棟岡107 S K35・36・37・38出土遺物



Po116



Po117



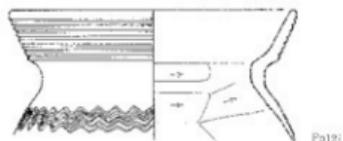
Po118



Po119



Po120



Po121



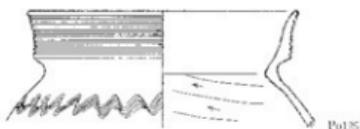
Po122



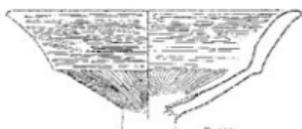
Po123



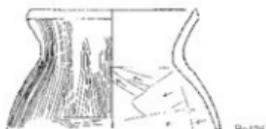
Po124



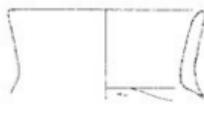
Po125



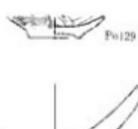
Po126



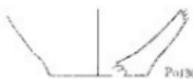
Po128



Po127



Po129



Po130



Po131



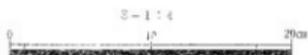
Po132



Po134



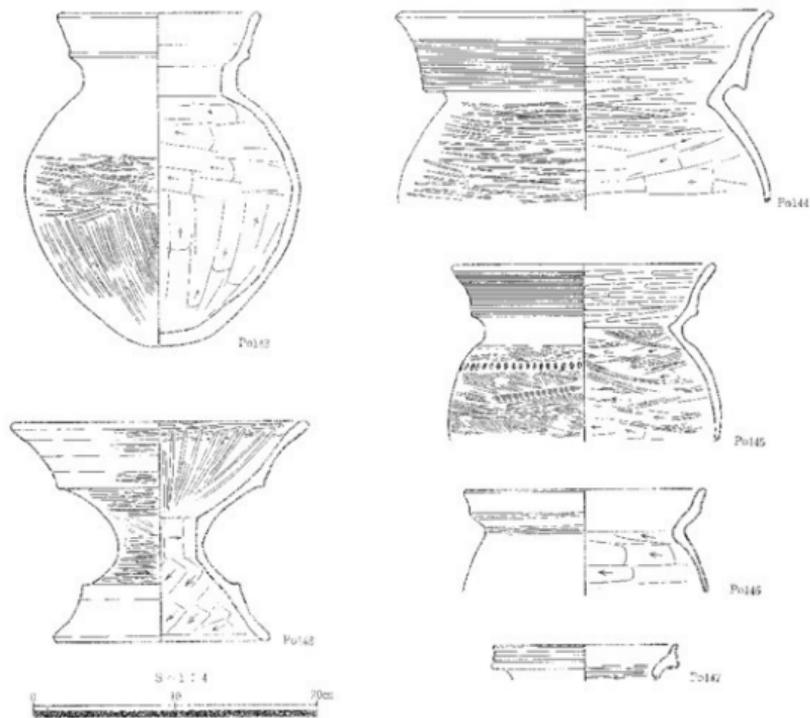
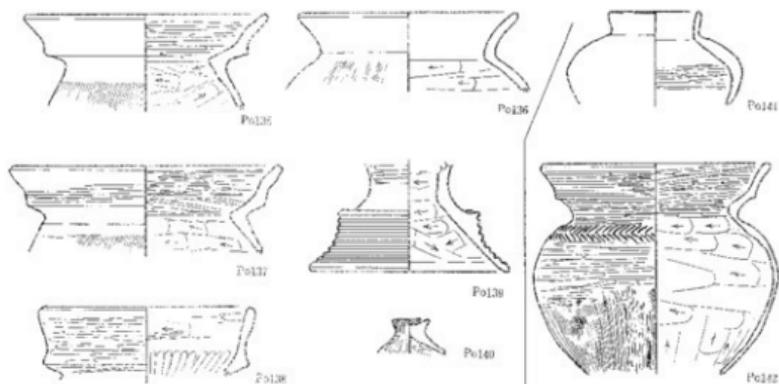
Po133



1/4

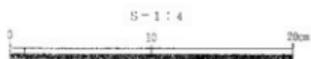
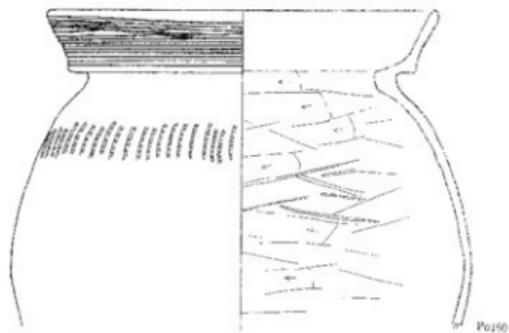
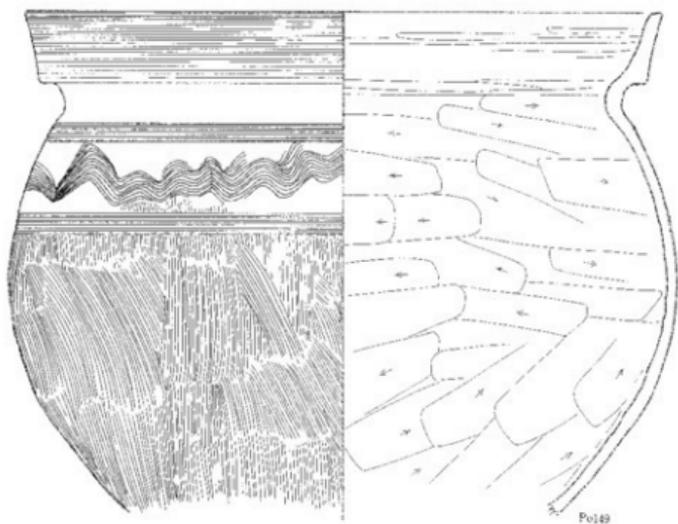
(S K39(Po116-117), S K40(Po118~120), S K41(Po121~124), S K42(Po125~130), S K43(Po131-132), S K45(Po133-134))

挿圖108 S K 39・40・41・42・45・46出土遺物

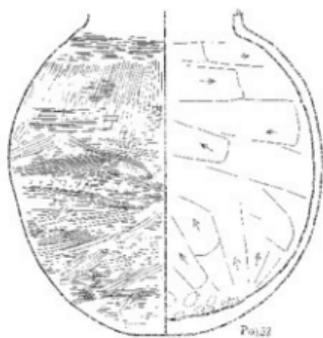


(S K 47(Po:135~140)、S K 48(Po:141・142)、土器溜り91(Po143~148))

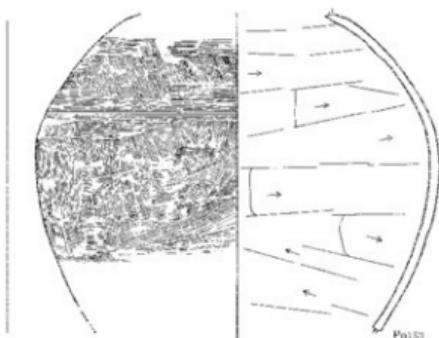
舞岡109 S K 47・48土器溜り91出土遺物



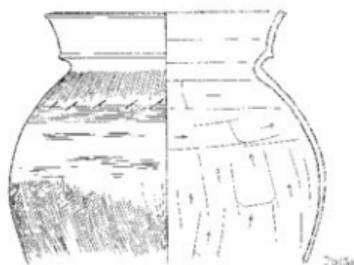
挿図110 土器溜り02出土遺物



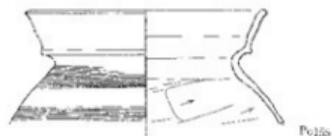
Po122



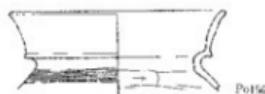
Po123



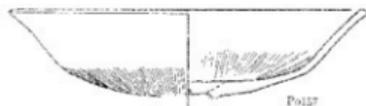
Po154



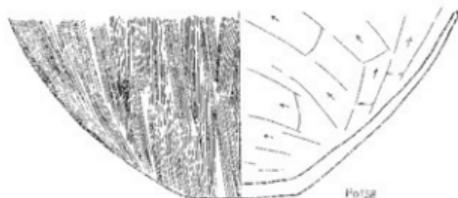
Po155



Po156



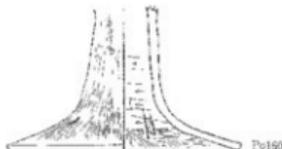
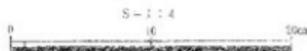
Po157



Po158



Po159



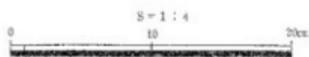
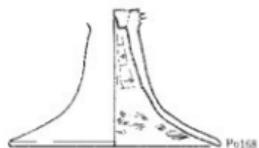
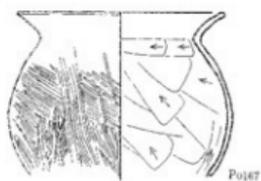
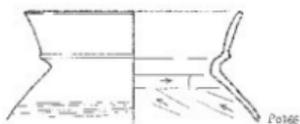
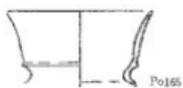
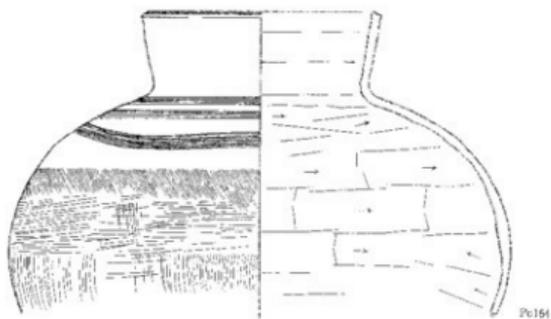
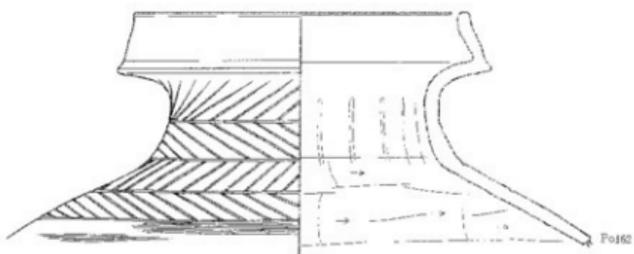
Po160



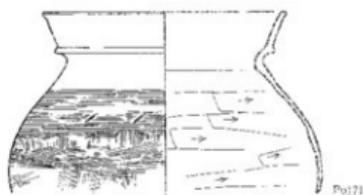
Po161

(S K 50 (Po152), S K 51 (Po153), S K 52 (Po154~158), S K 53 (Po159~161))

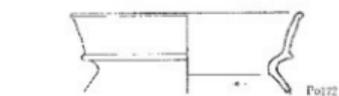
插图111 S K 50・51・52・53出土遺物



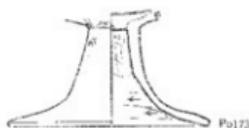
挿図112 S K54出土遺物



Po171



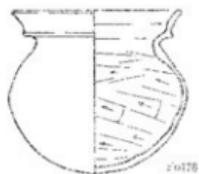
Po172



Po173



Po174



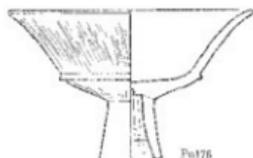
Po175



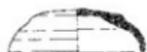
Po176



Po177



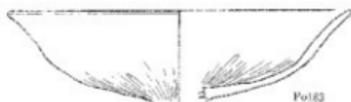
Po178



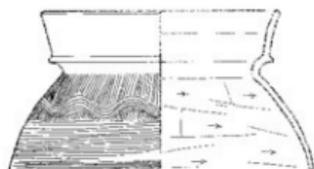
Po179



Po180



Po181



Po182



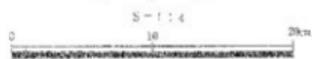
Po183



Po184

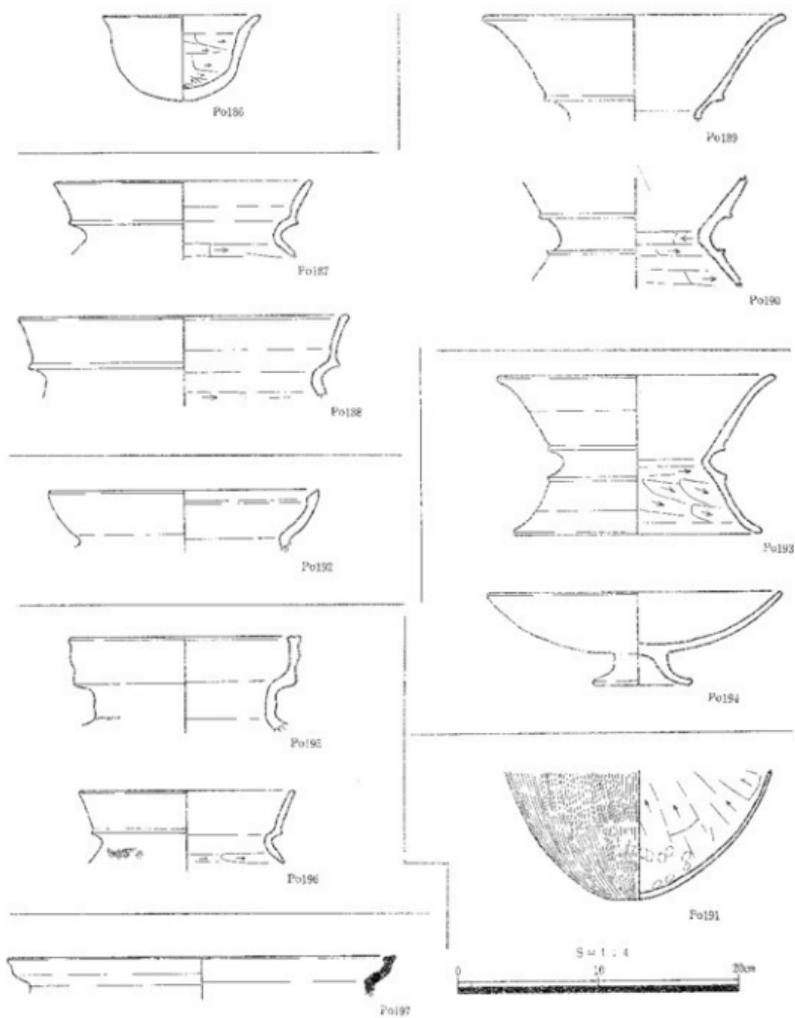


Po185



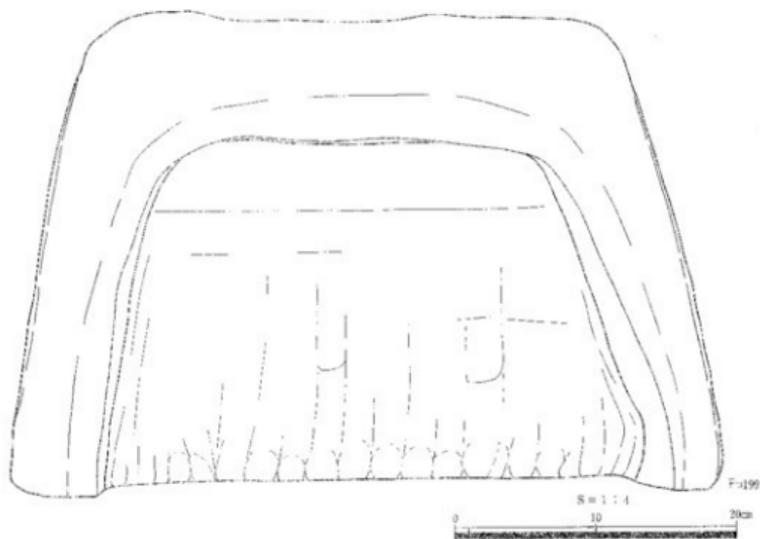
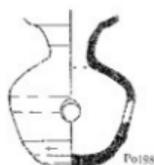
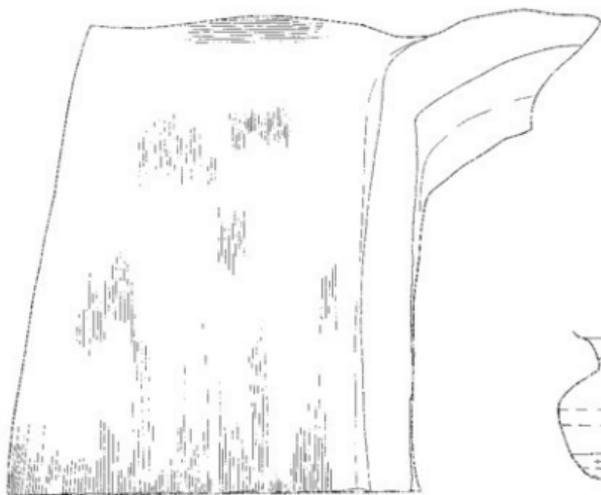
(S K55(Po171~176)、S K56(Po176~177)、S K57(Po178~182)、S K58(Po183)、SK59(Po184~185))

插图113 S K55~59出土遺物

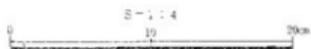
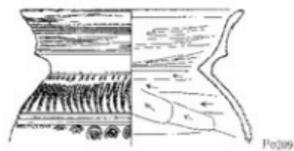
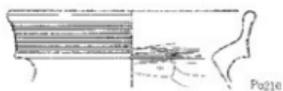
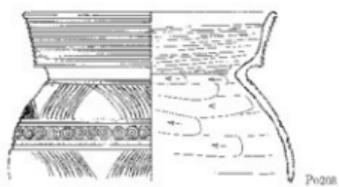
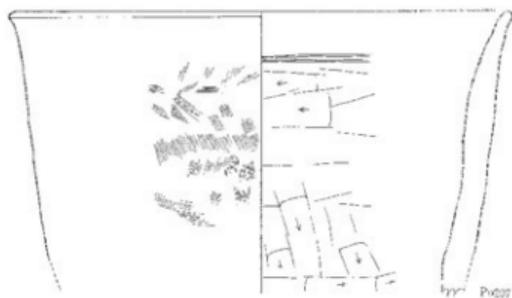
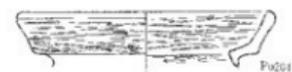


(S K60(Po186)、S K61(Po187~190)、S K62(Po191)、S K63(Po192)、S K64(Po193-194)、S K67(Po195-196)、S K69(Po197))

挿図114 S K 60・61・63・64・67・69出土遺物

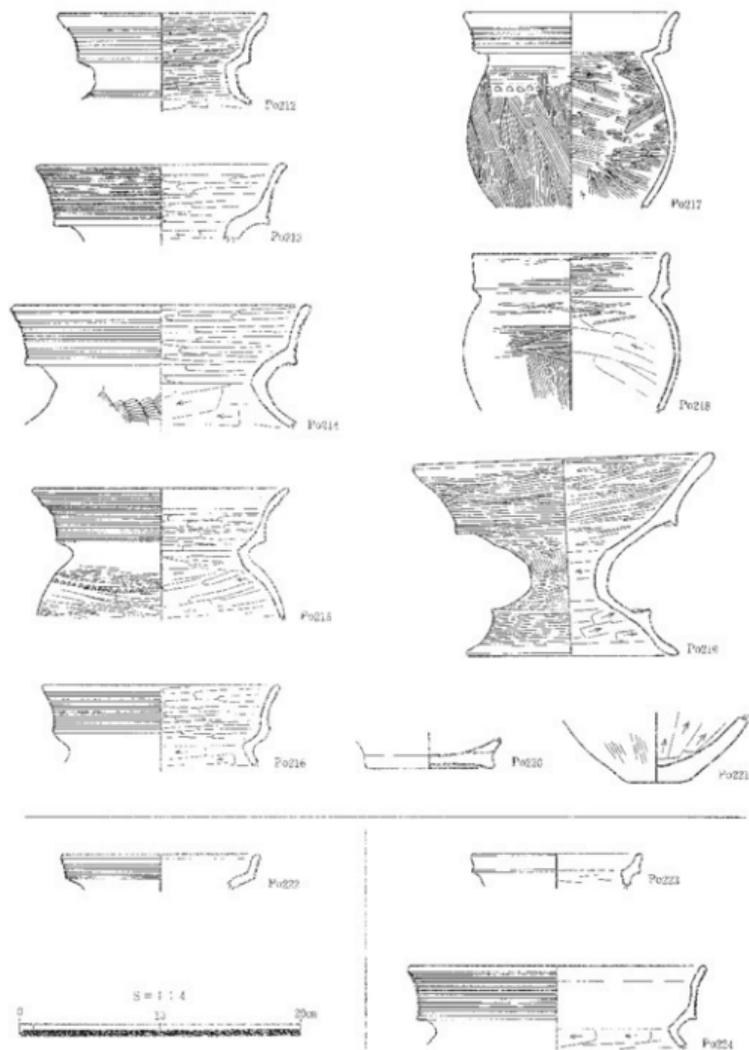


挿図115 S K 66出土遺物



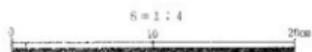
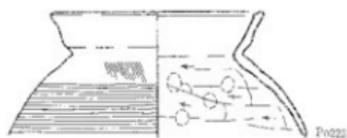
(S D03(Po200・201)、S D05(Po202~207)、S D06(Po208~211))

挿圖116 S D03・05・06出土遺物



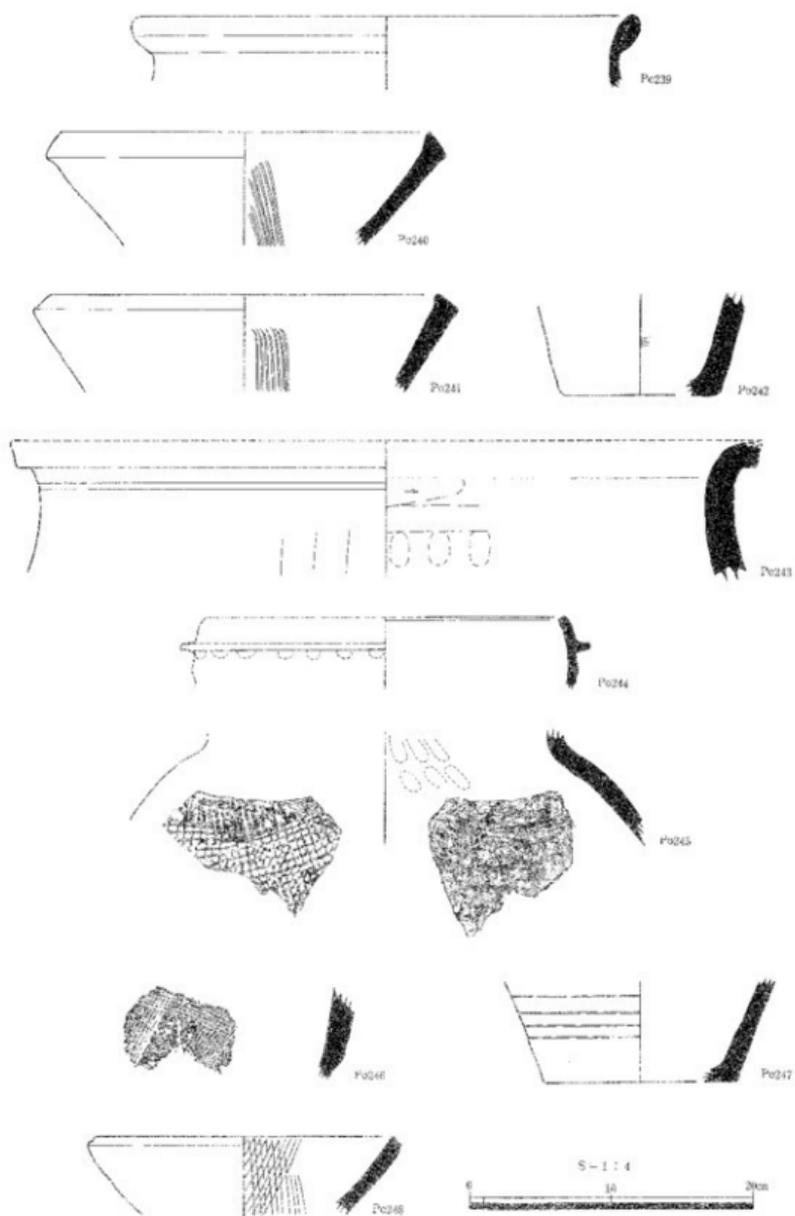
(S D 07(Po212~221)、S D 08(Po222)、S D 12(Po223~224))

插图117 S D 07 - 09 - 12出土遗物

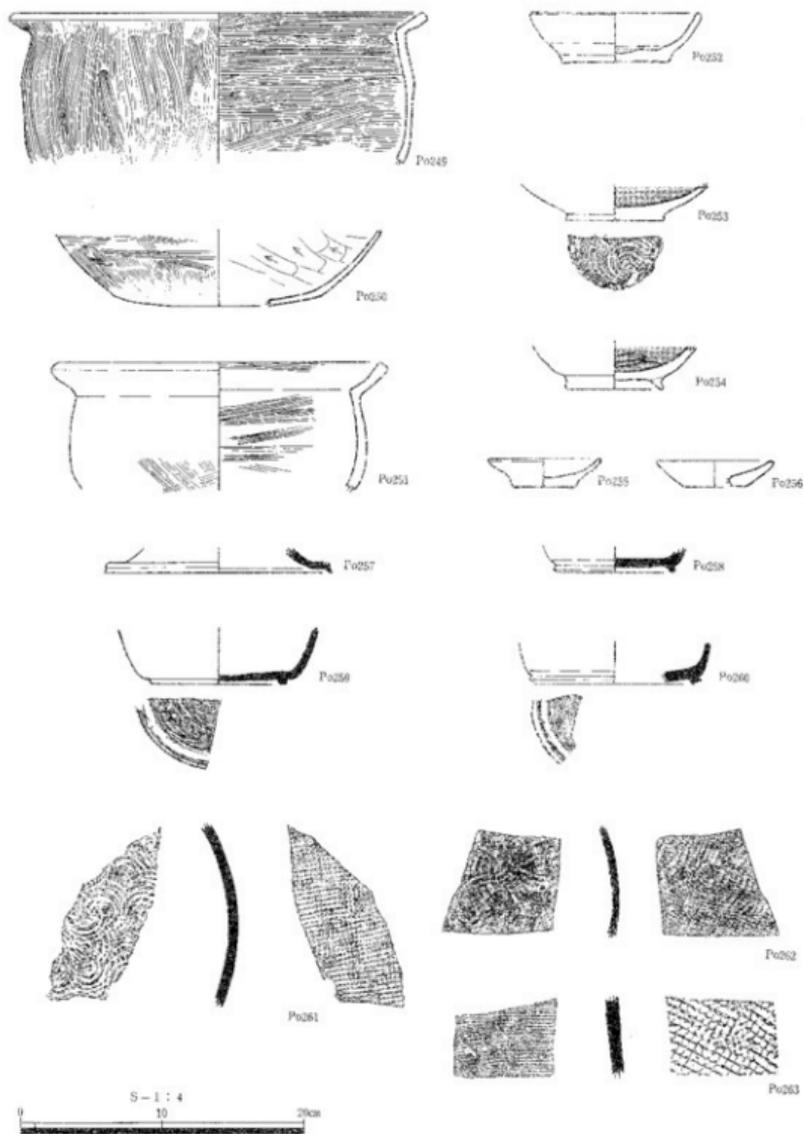


(S D 15(Po225~228)、S D 25(Po229~238))

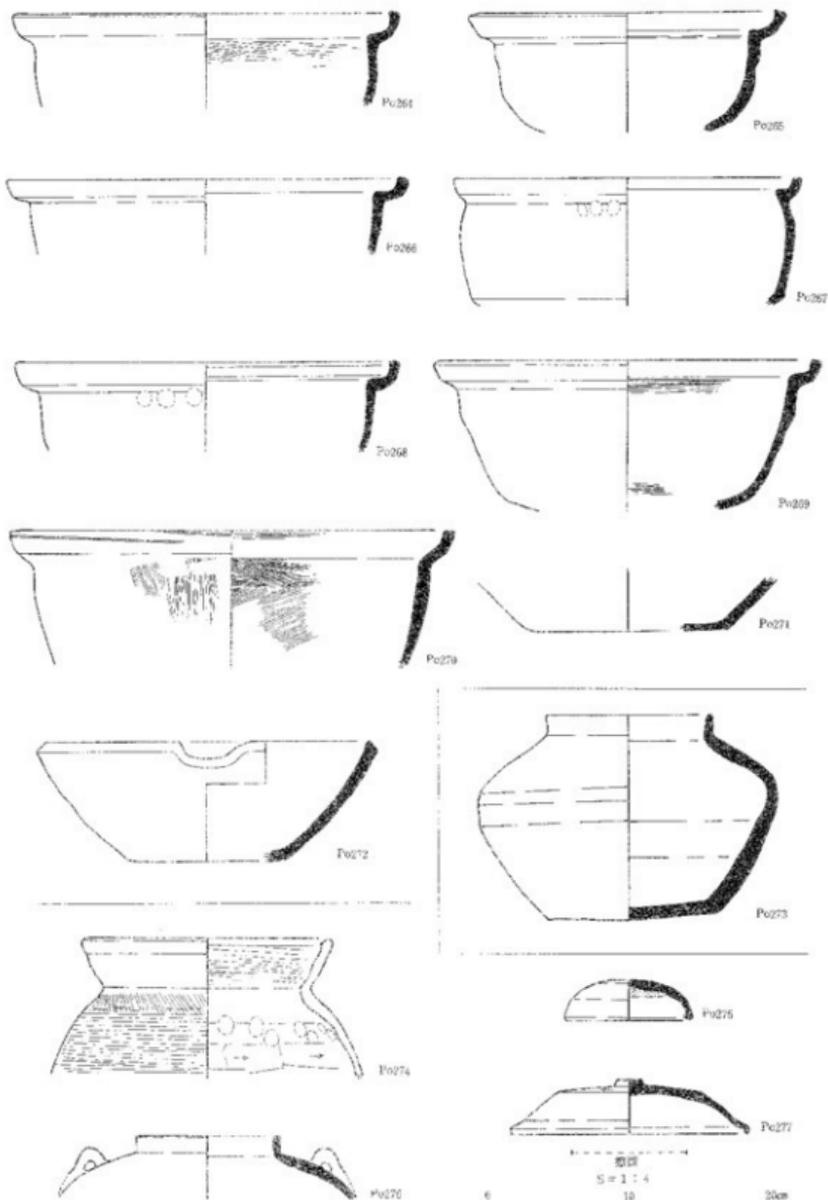
挿圖118 S D 15・S D 25出土遺物



博圖116 S D25出土遺物



挿図120 S D 16出土遺物



(S D 16(Po264~272)、S D 19(Po273)、S D 24(Po274~277))

挿圖121 S D 16・19・24出土遺物

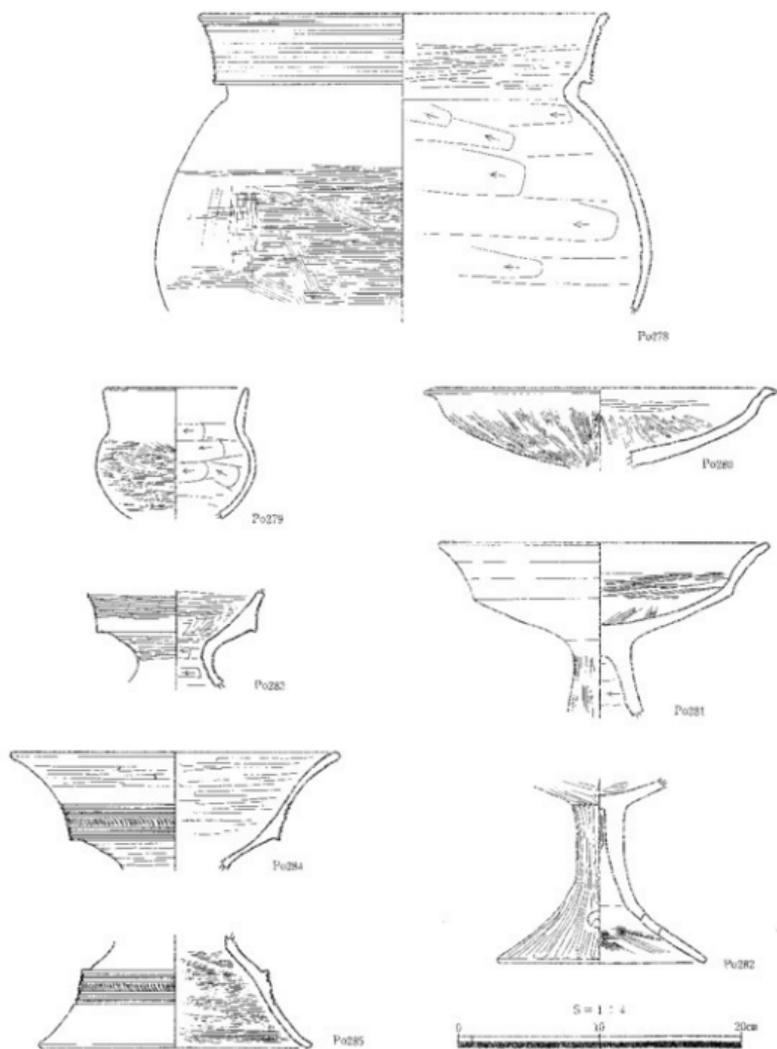


插图122 土器群C1

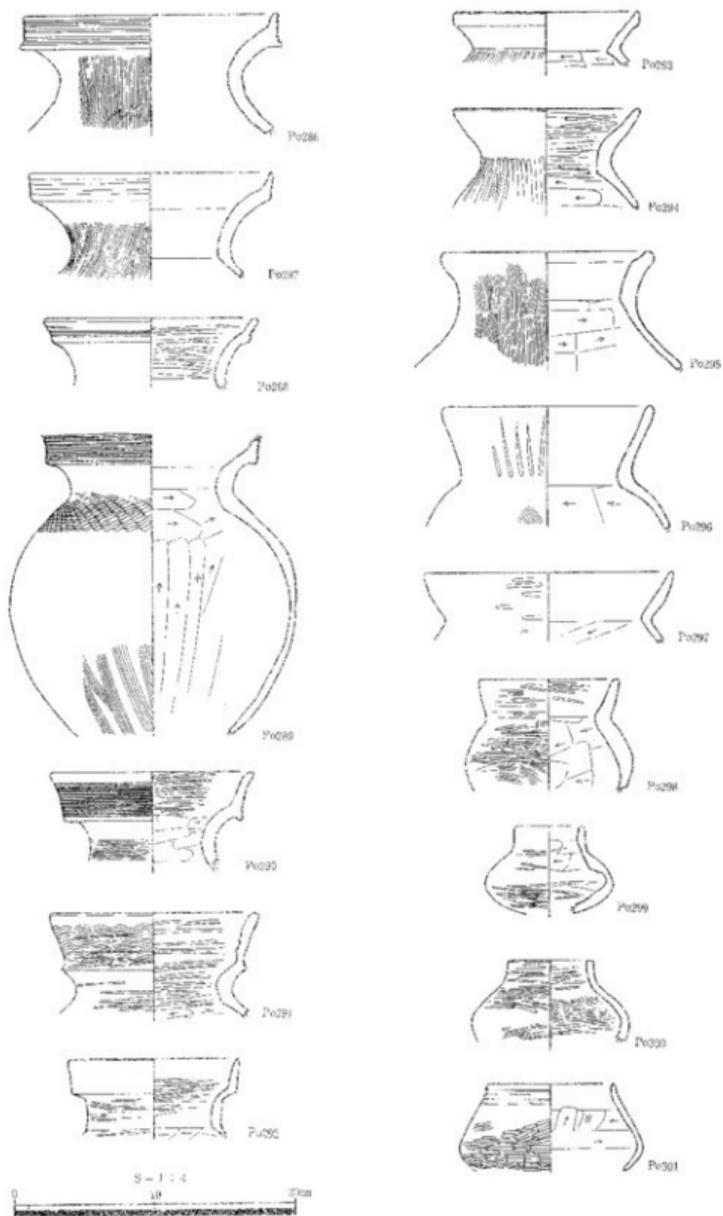


插圖123 土器群02(1)

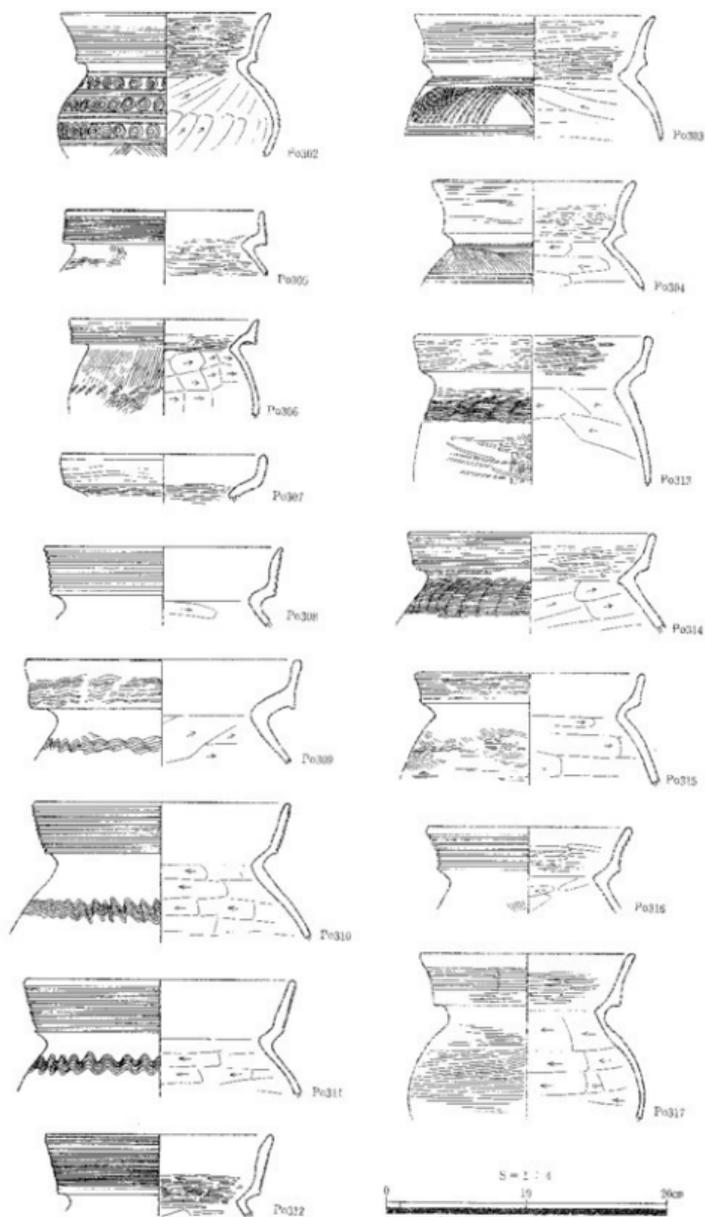
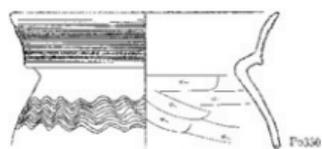
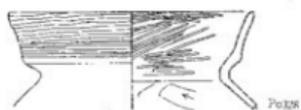
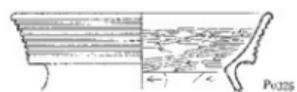
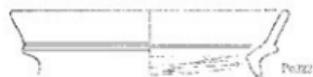
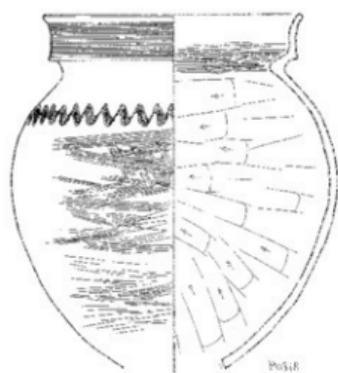


插图124 土器群02(2)



S 1 : 4

0 30 20cm

神岡125 土器群(2/3)

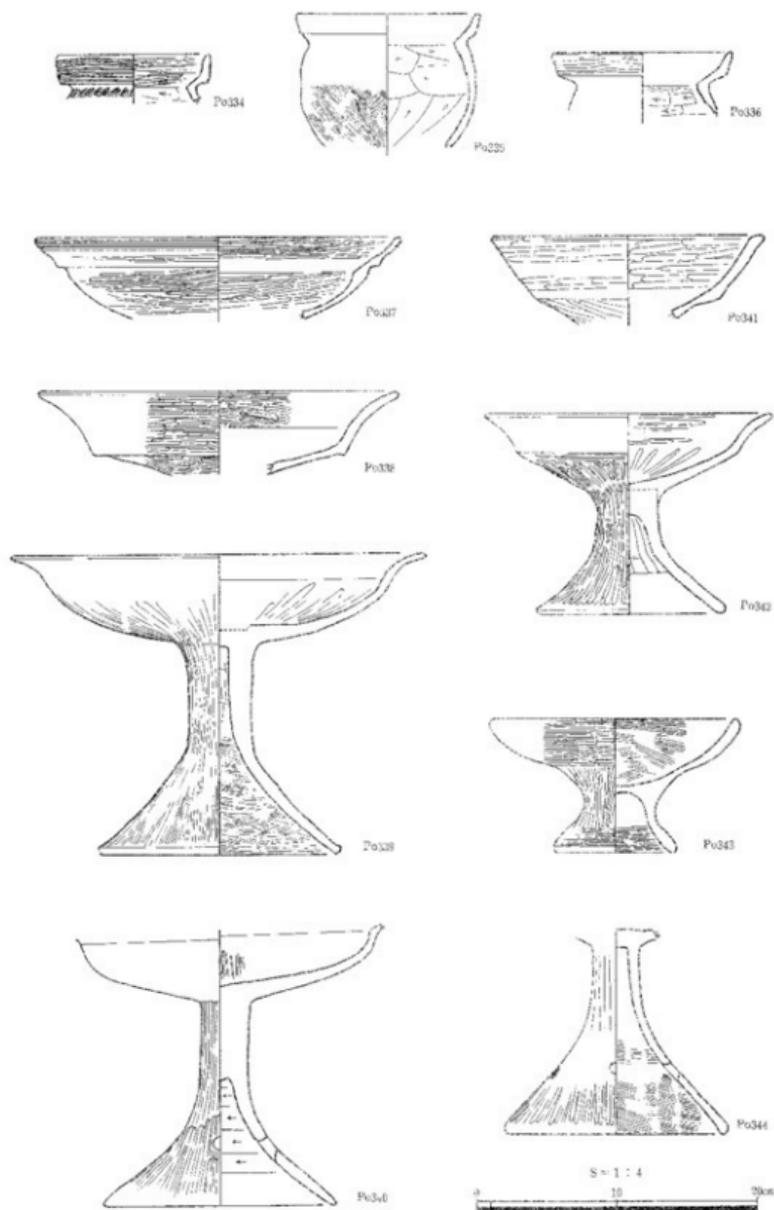
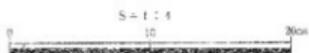
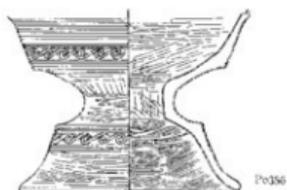
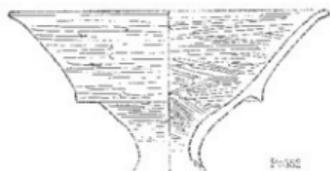
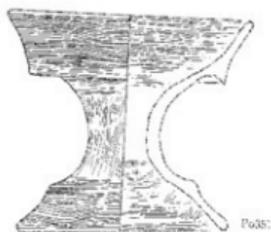
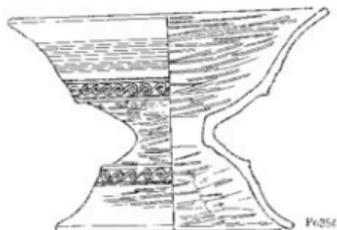
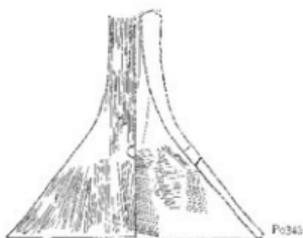
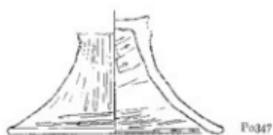


插图126 土器群02(4)



挿圖127 土器群(02/5)

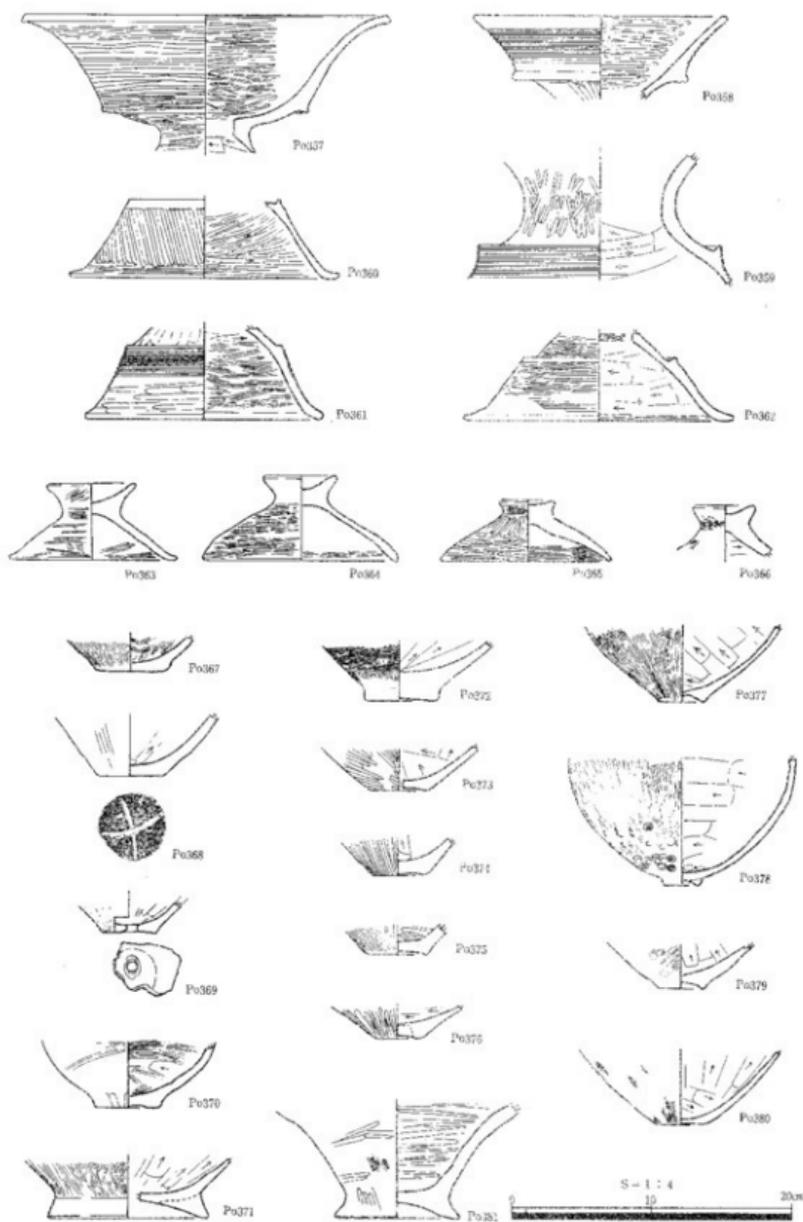
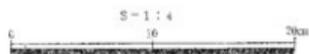
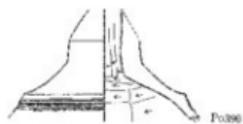
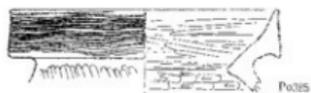
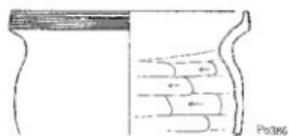
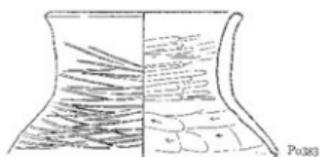
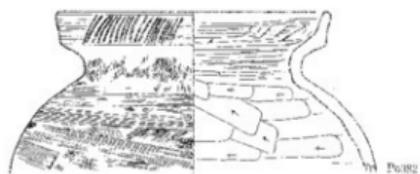
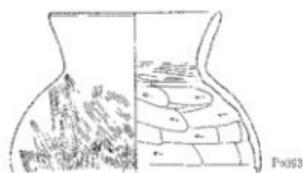
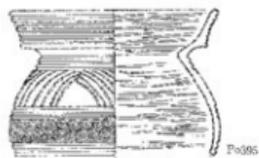


插图128 土器群02(6)





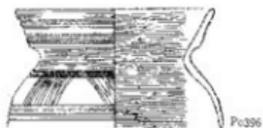
Po383



Po385



Po384



Po386



Po387



Po400



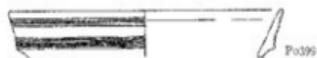
Po401



Po388



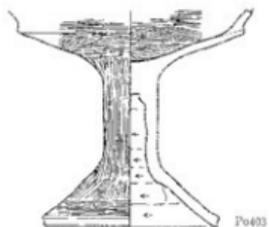
Po402



Po389



Po405



Po403



Po406



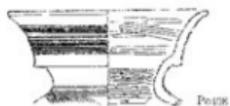
Po407



Po404



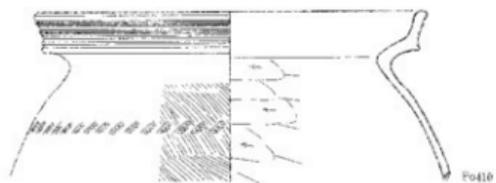
插图130 土器群04



F0408



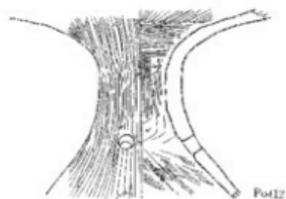
F0409



F0410



F0411



F0412



F0413

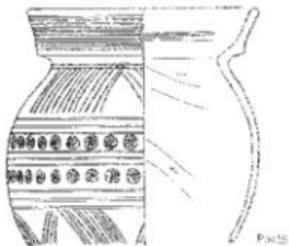
插图131 土器群05



F0414



F0416



F0415



F0417

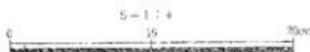
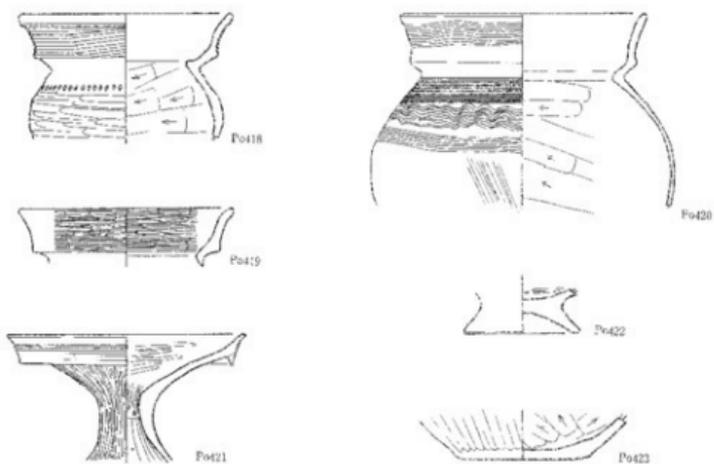
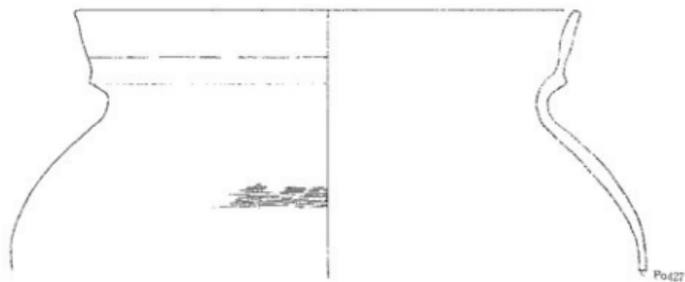
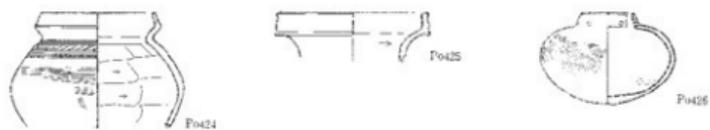


插图132 土器群06(1)



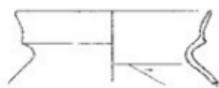
挿図133 土器群06(2)



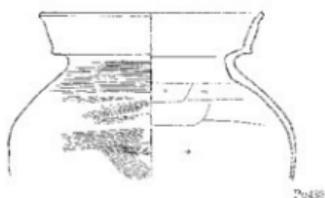
挿図134 土器群07(1)



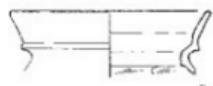
Po426



Po429



Po430



Po431



Po433



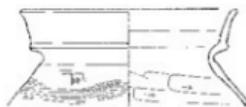
Po432



Po434



Po435



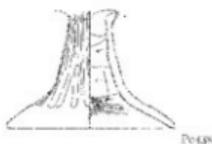
Po436



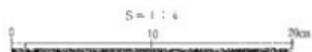
Po437



Po439



Po438

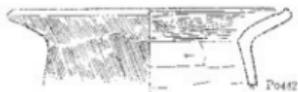




Po440



Po441



Po442



Po443



Po445



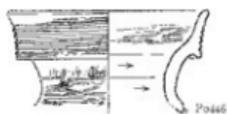
Po444



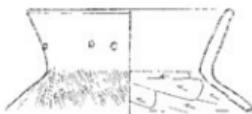
Po446

(S B 03·05(Po440)、S B 06(Po441)、S B 07(Po442~444)、S E 02(Po445))

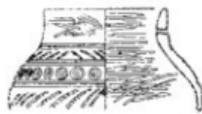
挿図136 S B 03・05・06・07、S E 02出土遺物



Po446



Po447



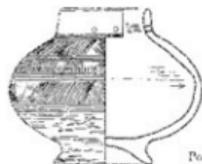
Po448



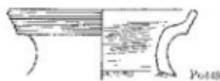
Po447



Po449



Po450



Po448



Po451



Po449



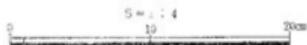
Po452



Po453



Po450



挿図137 遺構外出土遺物(1)

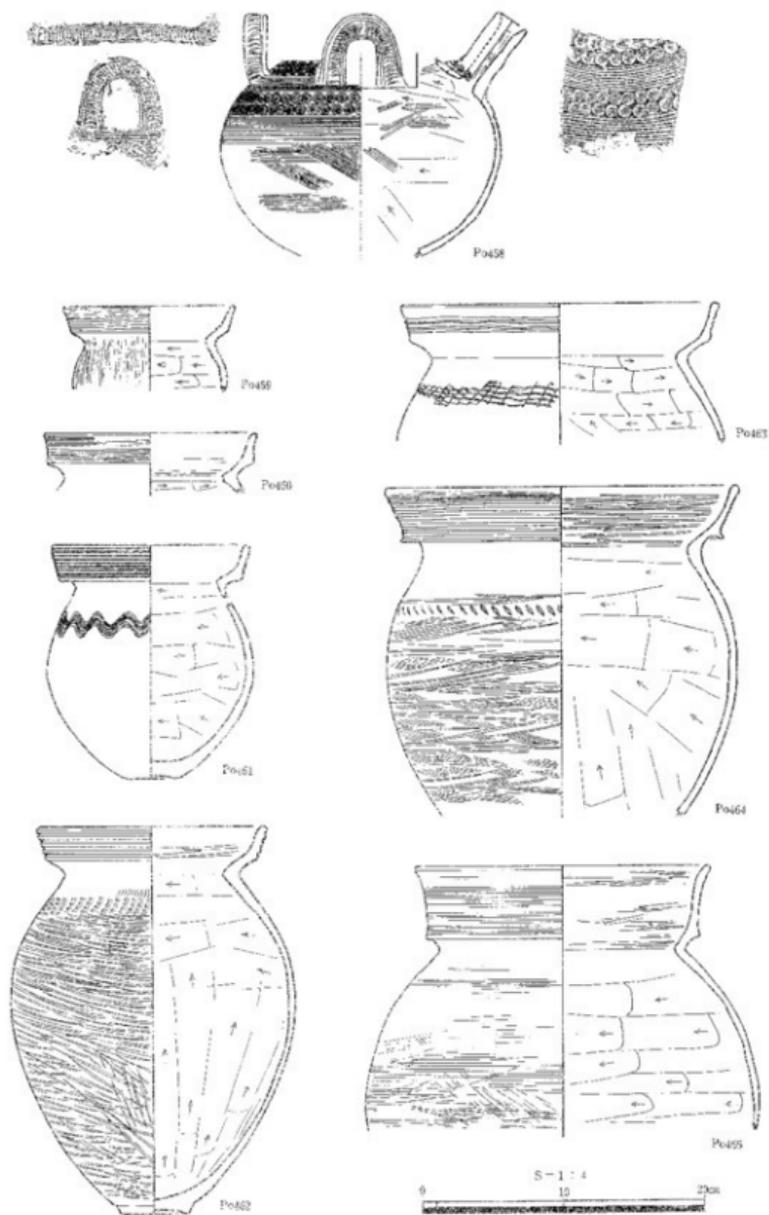
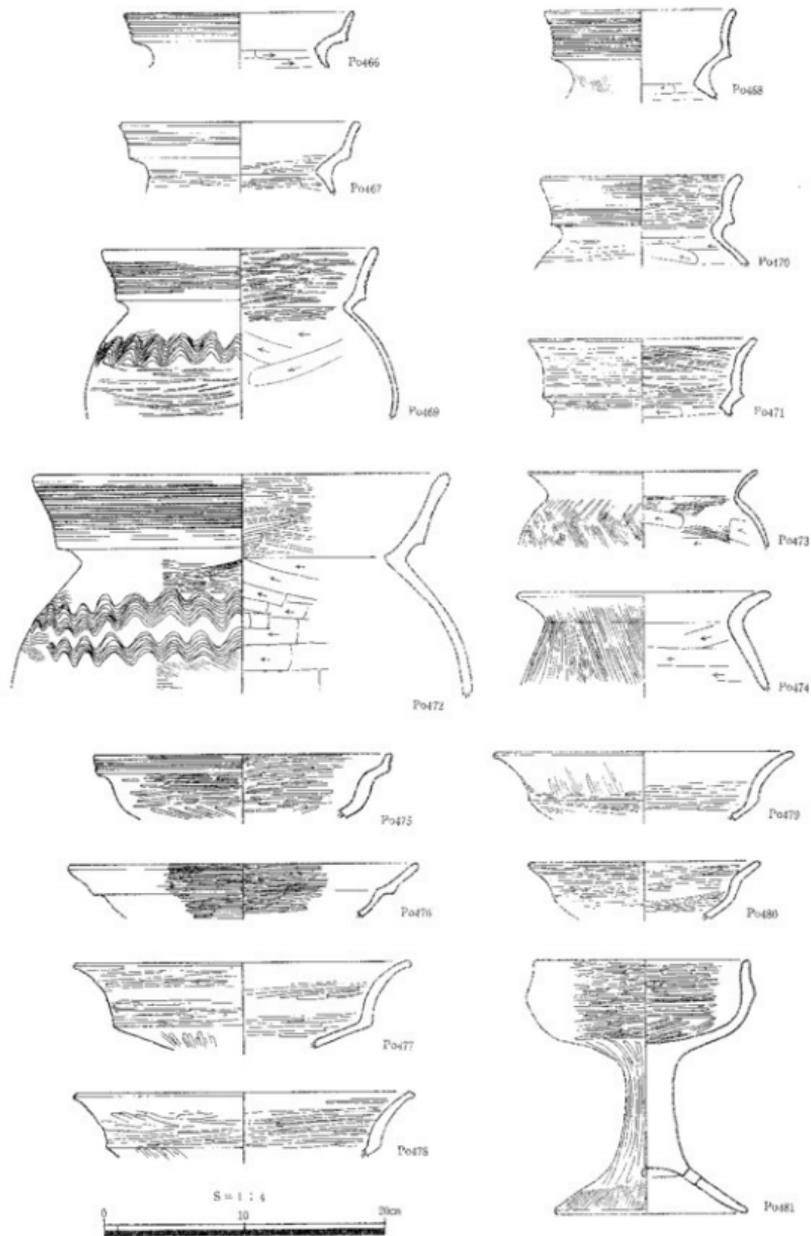


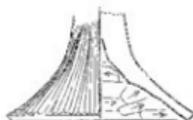
插图138 遗物出土文物(2)



挿図139 遺構外出土遺物(3)



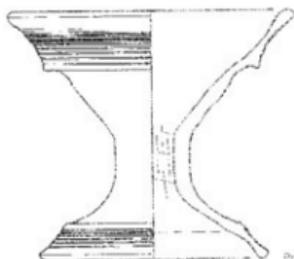
Po482



Po483



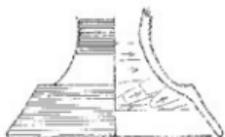
Po484



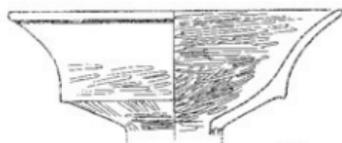
Po485



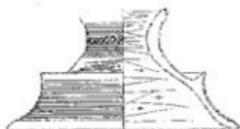
Po490



Po486



Po491



Po487



Po492



Po488



Po493



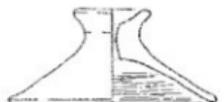
Po489



Po494

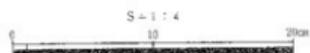
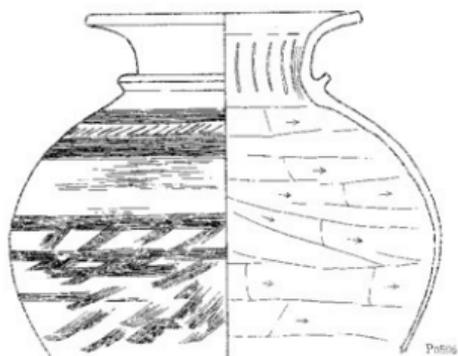
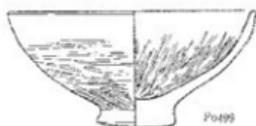
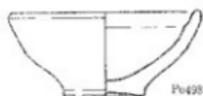
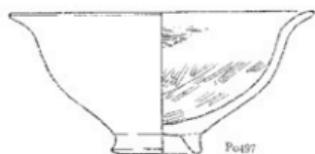


Po495

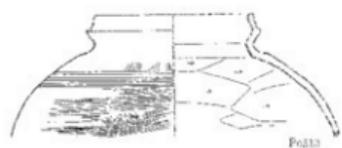


Po496

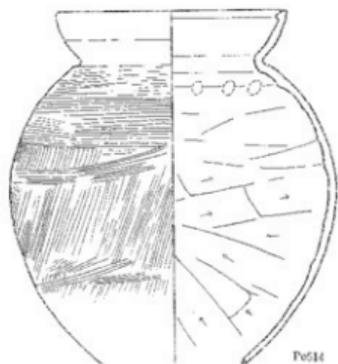
插图140 清境外出土遺物(4)



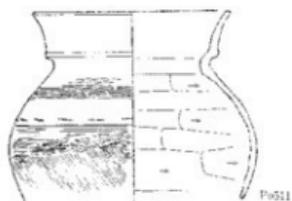
挿圖142 遺構外出土遺物(5)



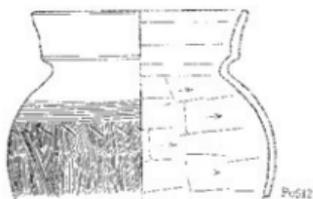
P613



P614



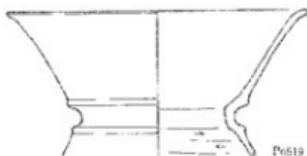
P611



P612



P615



P619



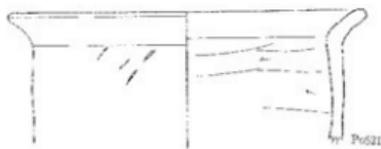
P613



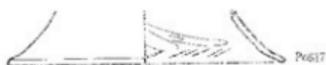
P620



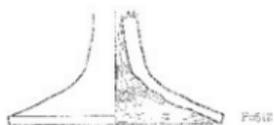
P616



P621



P617



P618

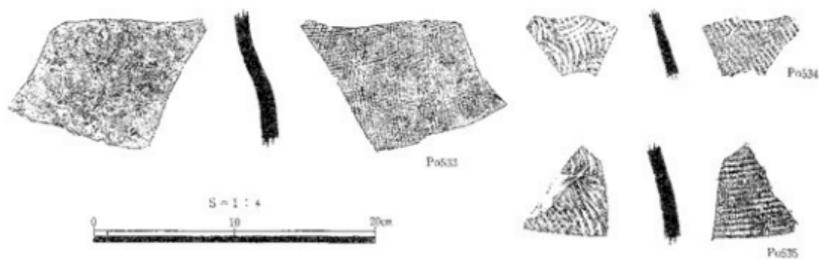
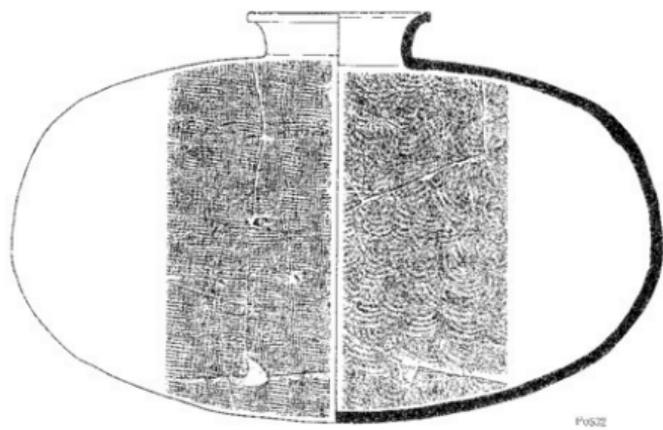
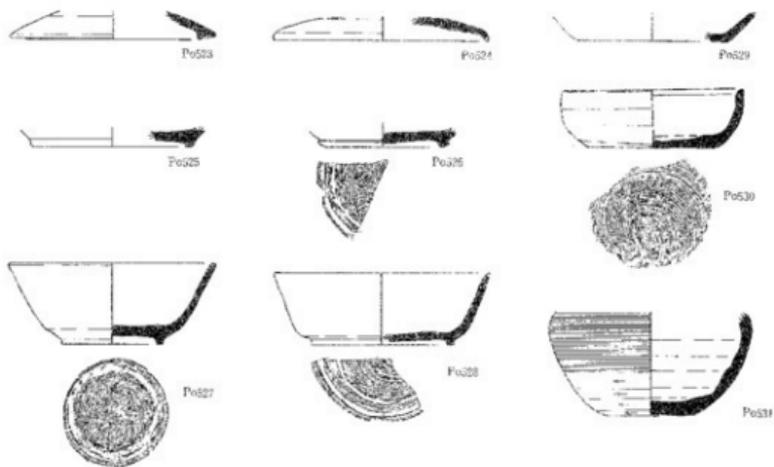


P622

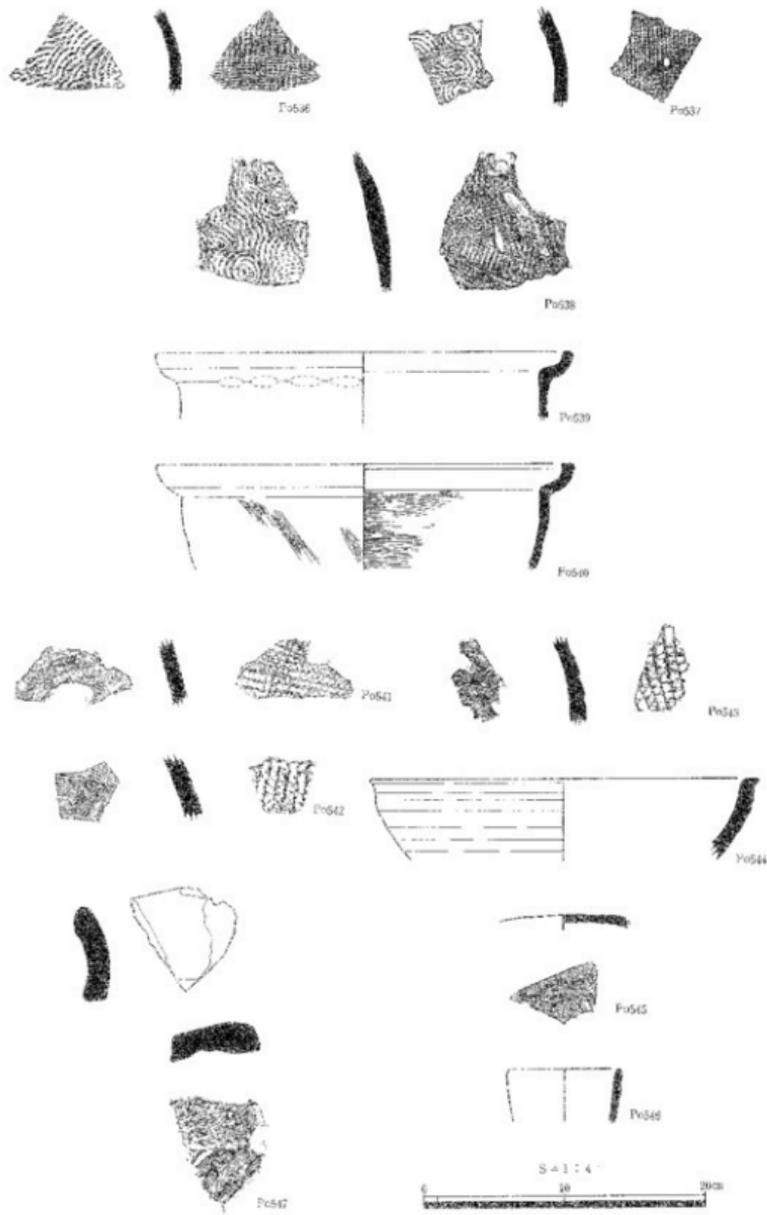


S-1:4

挿図142 遺構外出土遺物(6)



挿図143 遺構外出土遺物(7)



挿圖144 遺構外出土遺物(6)

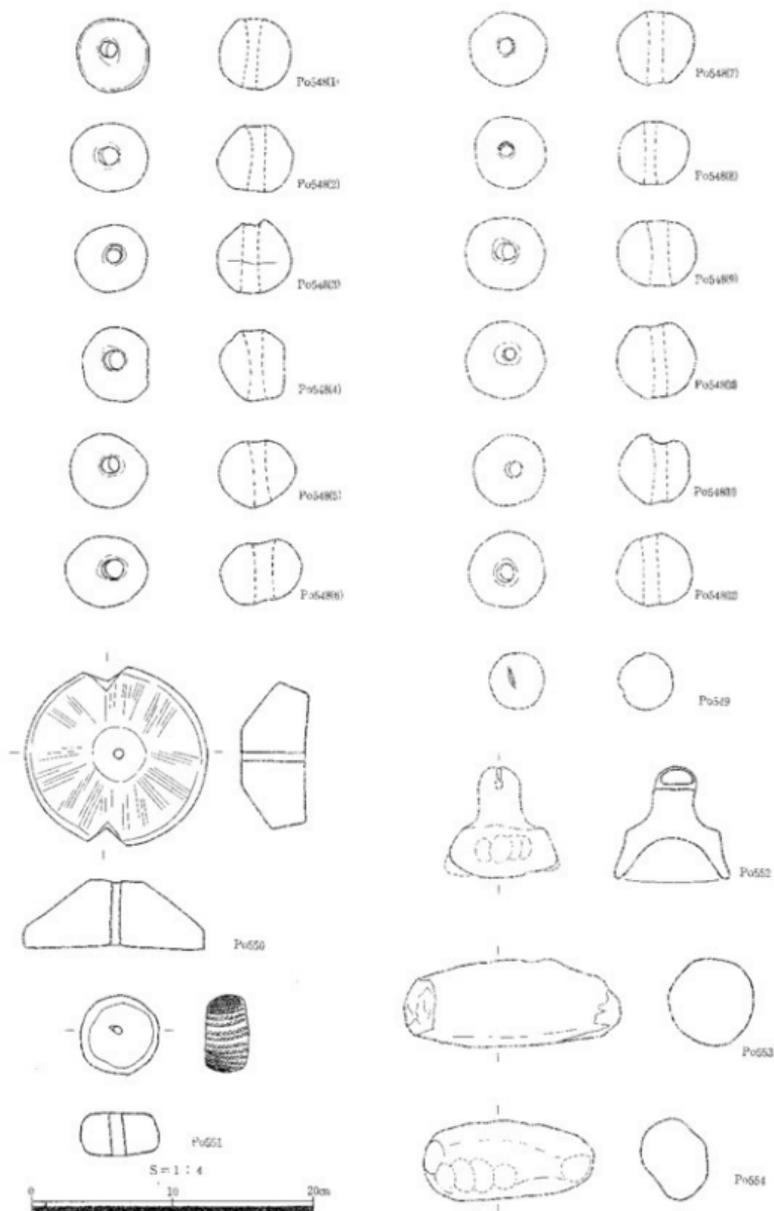


插图145 土製品

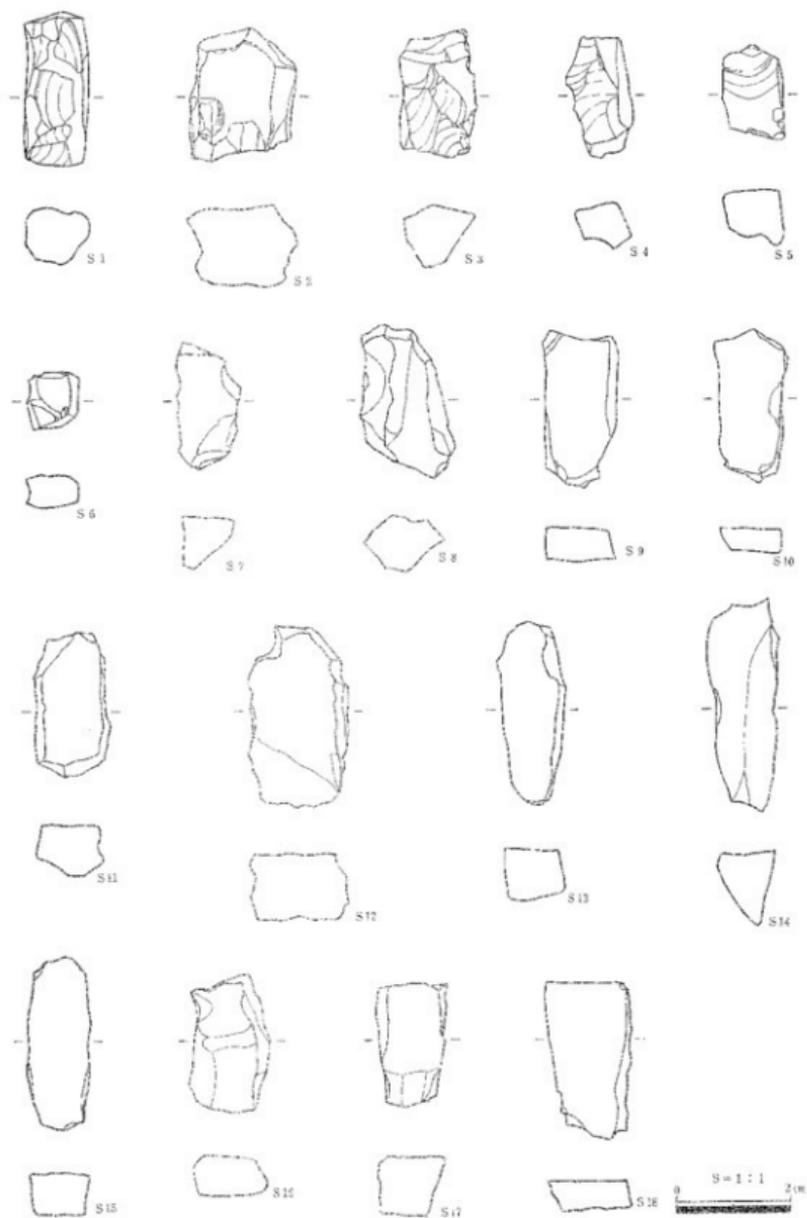


插图146 管玉未成品



插图147 管玉未成品(2)·石制品

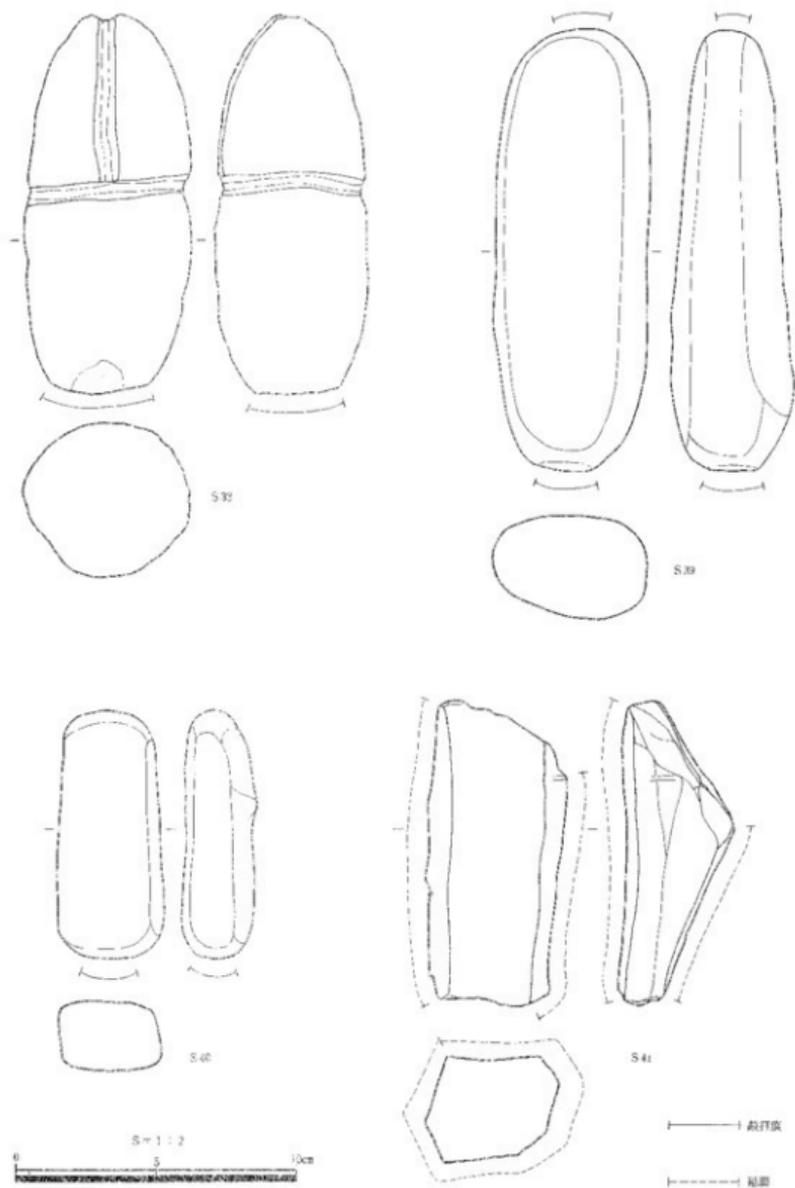
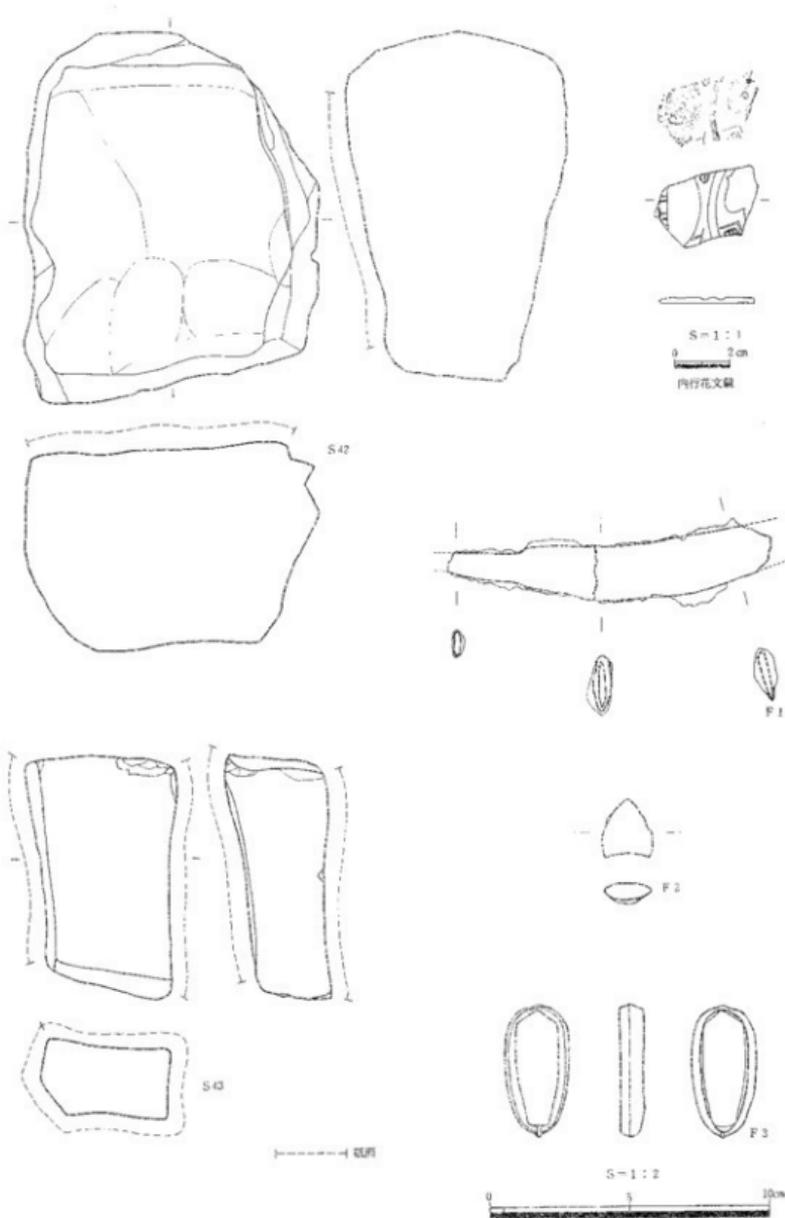
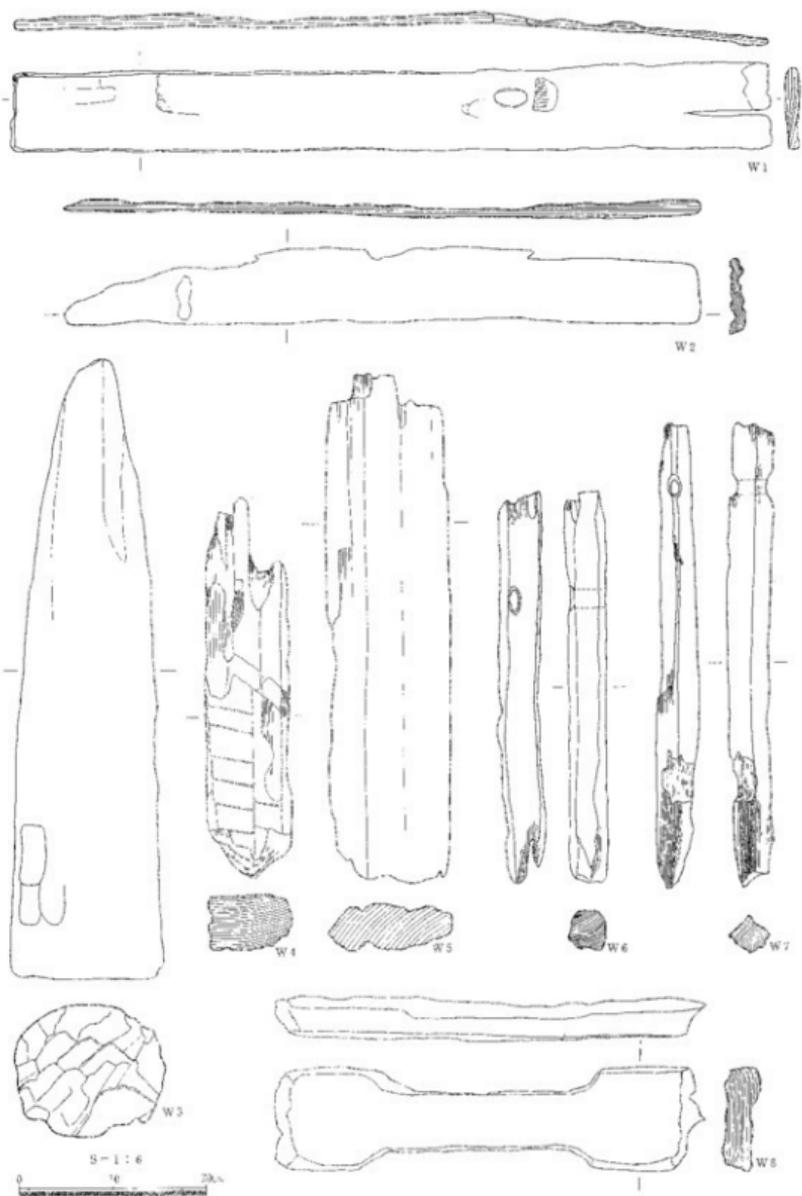


插图148 有溝石鏟·敲石·砥石(1)



挿図149 砥石(2)・鏡・鉄製品他



挿図156 柱根・不明木製品

報告時	調査時	報告時	調査時	報告時	調査時	
	SK01 SK12		SK39 SK130		SD96 SD21	
	SK02 SK47		SK40 SK129		SD07 SK136・165 166・169	
	SK03 SK53		SK41 SK128		SD08 SD16	
	SK04 SK30		SK42 SK127	溝	SD09 SD15	
	SK05 SK42		SK43 SK119		SD19 SD14	
	SK06 SK106		SK44 SK114		SD11 SD13	
	SK07 SK108		SK45 SK159		SD12 SD12	
	SK08 SK107		SK46 SK147	状	SD13 SD01	
	SK09 SK199		SK47 SK118		SD14 SD02	
土	SK10 SK89	土	SK48 SK117		SD15 SD03	
	SK11 SK55		SK49 SK35		SD16 SS01	
	SK12 SK41		SK50 SK01	溝	SD17 SD05	
	SK13 SK40		SK51 SK02		SD18 SD09	
	SK14 SK77		SK52 SK14		SD19 SD07	
	SK15 SK78		SK53 SK07		SD20 SD08	
	SK16 SK79		SK54 SK13	溝	SD21 SD11	
	SK17 SK96		SK55 SK17		SD22 SD10	
	SK18 SK37		SK56 SK98		SD23 SD06	
	SK19 SK31		SK57 SK16		SD24 SD04	
SK20 SK105	SK58 SK25		SD25 SD03			
塙	SK21 SK58	塙	SK59 SK24	土	土器群01 土器群01	
	SK22 SK57		SK60 SK15		土器群02 土器群02・03・04 06・10・11・12	
	SK23 SK104		SK61 SK23		土器群03 土器群07	
	SK24 SK61		SK62 SK26	器	土器群04 土器群08	
	SK25 SK60		SK63 SK32		土器群05 土器群09	
	SK26 SK66		SK64 SK46		土器群06 土器群13	
	SK27 SK67		SK65 SK29	群	土器群07 土器群05	
	SK28 SK63		SK66 SK22		掘立柱建物跡	SB01 SB07
	SK29 SK59		SK67 SK38			SB02 SB06
	SK30 SK80		SK68 SK28	SB03 SB05		
	SK31 SK64		SK69 SK54	SB04 SB04		
	SK32 SK168		土器群01 SK136	SB05 SB03		
	SK33 SK172		土器群02 土器群02	SB06 SB02		
	SK34 SK131		SD01 SD18	井戸跡	SB07 SB08	
	SK35 SK123		SD02 SD24		SE01 SE01	
	SK36 SK121		SD03 SD19		SE02 SE02	
	SK37 SK135		SD04 SD25		SE03 SE03	
	SK38 SK135		SD05 SD20・23			

挿表04 遺構番号対照表

遺物資料 目録番号 調査年度 調査区画 調査番号	出土位置	種類	土量 (cm) ①埋深 ②埋高 ③最大埋深 ④底面深	形 態	手 法	計 測	土 質	色 調	備 考
Po19 1218 101	SK03	溝 (覆)	①埋深5.4	外反する溝状。下底に断面形状の変移がみられる。	外側、東岸上部に5m以上の埋土。東岸部は、築岸部分コナテラ後、下底に固定されたもの。内面コナテラヘラミダキ、扇部コナテラヘラミダキ。	ヤ中層、2.0m以上の埋土を含む。	良好	内外面 淡褐色	一部スス 付着
Po20 751 102	SK04	溝	①埋深5.8 ②埋高5.8	中や外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。	口縁部外側コナテラ後、内面コナテラヘラミダキ。扇部、内面コナテラヘラミダキ。コナテラヘラミダキ。	底、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色 ～灰褐色	一部スス 付着
Po21 107・120 102	SK08		①埋深2.0 ②埋高2.4 ③埋高3.0	内反する複合口縁。口縁部は、上方へつまみ出すようにして丸くおさめる。扇部は、前方に長い鋭形をなし、突出した部分がつく。	口縁部内面コナテラヘラミダキ。扇部外側コナテラヘラミダキ。内面コナテラヘラミダキ。内面コナテラヘラミダキ。内面コナテラヘラミダキ。内面コナテラヘラミダキ。	底、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色 ～灰褐色	スス付着 内面底部 に磁器片
Po22 1367 102	SK08		①埋深2.0 ②埋高3.0	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	口縁部外側、築岸部分に丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	底、砂粒を含む。	良好	外側淡 褐色 内面淡 褐色 ～明褐色	スス付着
Po23 1328 102	SK09		①埋深1.2 ②埋高3.0	外反する口縁部。口縁部は、外側に半円錐をなす。	口縁部内面コナテラ後、扇部外側コナテラヘラミダキ。内面、左方向ヘラミダキ。	ヤ中層、1～2.0mの埋土を含む。	良好	外側淡 褐色 ～灰褐色 内面淡 褐色 ～灰褐色	一部スス 付着
Po24 1328 102	SK09	溝	①埋深4.7 ②埋高5.5	かなり外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。扇部の縁は、下方へつまみ出すように突出する。	口縁部外側、築岸部分に丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	ヤ中層、1～2.0mの埋土を含む。	良好	外側淡 褐色 ～灰褐色 内面淡 褐色 ～灰褐色	スス付着
Po25 1477 102	SK10		①埋深6.0 ②埋高6.9	丸くおさめる。扇部は、前方に長い鋭形をなし、突出した部分がつく。	口縁部外側コナテラ後、コナテラ。内面コナテラヘラミダキ。扇部外側コナテラヘラミダキ。内面コナテラヘラミダキ。内面コナテラヘラミダキ。	ヤ中層、1～2.0mの埋土を含む。	良好	内外面 淡褐色 ～明褐色	一部スス 付着
Po26 103・105 102 24	SK13	溝	①埋深8.0 ②埋高8.0 ③埋高12.0	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	口縁部外側、築岸部分に丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	底、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色 ～灰褐色	スス付着
Po27 1475 102 24	SK10		①埋深4.0 ②埋高4.8	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	口縁部外側、築岸部分に丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	底、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色 ～灰褐色	スス付着
Po28 1439 102	SK10	溝	①埋深4.8	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	口縁部外側、築岸部分に丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	底、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色 ～灰褐色	一部スス 付着
Po29 1475 102	SK10		①埋深6.0 ②埋高6.5	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	口縁部外側、築岸部分に丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	底、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色 ～灰褐色	一部スス 付着
Po30 105・105 102	SK10		①埋深2.6	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	口縁部外側、築岸部分に丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	底、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色 ～灰褐色	スス付着
Po31 107・308 102	SK10	基台	①埋深6.0 ②埋高6.0	中や外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。扇部の縁は、ほぼ水平方向へ突出する。	口縁部外側、築岸部分に丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	底、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色 ～灰褐色	スス付着 一部埋 没
Po32 108・105 107・105 102	SK10		①埋深8.0 ②埋高8.0	突高、脚部とも外反する。扇部は、丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	突高、脚部とも外反する。扇部は、丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	底、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色 ～灰褐色 ～灰褐色	埋没有り
Po33 1439 103	SK10		①埋深2.0 ②埋高3.8	扇部外反する外縁。口縁部は、丸くおさめる。扇部は、水平方向へ突出する。扇部は、鋭形をなし、基部を欠く。	内外面ともコナテラヘラミダキがみられるが、扇部のため観察不能。	底、砂粒を含む。	良好	外側淡 褐色 ～明褐色 内面淡 褐色	腐化が著 しい
Po34 1478 103	SK10	①埋深6.1	傾斜の平坦。口縁部は、丸くおさめる。	内外面コナテラヘラミダキ。	底、砂粒を含む。	ヤ中層、良好	外側淡 褐色 ～灰褐色 ～灰褐色	埋没有り	

挿表6 出土土器観察表(2)

遺物番号 出土位置 調査 図記号	出土位置	型 式	注 記 (寸法) 口径 の長さ の長さ の長さ	形 状	手 法	土 質	土 色	色 調	備 考
P43 1439 103	SK10	底 部	①底径1.5 ②1.0 (図)	扁半球状の台を貼り付けた底部。	外面、底面ナデ、内面、下から上 および上方へラズリ。	やや中 砂粒を多 く含む。	良好	外面淡 褐色 内面淡 褐色	スス付着
P65 1439 103	SK10		①底径1.6 ②0.9 (図)	外面へ底を貼り付けた底部。	外面クナハク、底面ナデ、内面ス ス付着のため観察不詳。	泥、砂粒 を含む。	良好	外面淡 褐色 内面淡 褐色	スス付着
P67 149 + 300 103	SK10		①底径1.5 ②1.3	上げ底状の半球。	外面タテハク、底面付近ナデ、 内面下から上へのラズリ、底 面ナデ。	泥、砂粒 を含む。	良好	外面淡 褐色 内面淡 褐色	スス付着
P43 1439 103	SK10		①底径1.3 ②0.9	かなり丸味を帯びた小さな平底。	外面クナハク後、タナ方向へラミ ゴキ、内面ラズリ。	泥、砂粒 を含む。	良好	外面淡 褐色	スス付着
P45 2027 103	SK10		①底径1.3 ②0.5	外側で立ち上がる管状の底部 から、外上方にのびる体部。	外部内面ナメハク後ナデ、内面 右上方へラズリ、底部平打 後ナデ。	泥、1〜 2mmの石 灰、砂石 を含む。	良好	外面淡 褐色 内面淡 褐色	スス付着
P40 140 + 106 103 + 101 103 24	SK11	類	①口径 ②底径3.4	外反する楕円口縁、口縁部は、 やや平直な管。口縁部の後、 はやや反り上へむきに出る。 基部は、楕円形をなし、底 面平直。	1: 縁部外面、縁部平行直線後、内面 右コナナ後、一部はコナナへミ ゴキ、左面外縁部、背縁部 による筋目をのぞく。以下コナ ナメハク後、下部コナナ向へミ ゴキ、内面底面下方向へラズ リ後ナデ。以下左方向へラズ リ。	やや中 砂粒を多 く含む。	良好	内面淡 褐色 外側淡 褐色	黒色有り
P41 140 + 103 103	SK11 SK35		①口径2.0 (図) ②底径1.5	ほぼ平直口縁に立ち上がった後、 やや外反する口縁、口縁部は、 つまみ出すようにして丸く出る。 口縁部の後、ほとんど 反り出す管部へとつながる。	1: 縁部外面、縁部平行直線後、口 縁部中折の辺から、一部は上半を コナナによってラズリ、内面 右方向へラズリ後ナデ。一部は コナナ方向へミゴキ。	泥、砂粒 を含む。	良好	外面淡 褐色 内面淡 褐色 外側淡 褐色	スス付着 土塊附 着
P42 1422 103 21	SK11		①口径4.0 (図) ②底径1.5	やや外反する楕円口縁。口縁部 は、丸く出る。口縁部の 後、水平方向にわずかに突出 する。	口縁部外面、縁部平行直線後、底 面付近をコナナによりラズリ、 内面左方向へラズリ後、コナ ナ方向へミゴキ、縁部外面ナデ、内 面左方向へラズリ。	泥、粗い 砂粒を含む。	不詳	外面淡 褐色 内面淡 褐色 外側淡 褐色	スス付着
P43 1321 103 21	SK11		①口径 ②底径4.9	内径、縁部を成立させる管部。	外面、縁部コナナ。以下ナメ 方向へミゴキ。内面縁部コナ ナ方向へミゴキ。以下コナナ ミゴキ、内面左側面へミゴキ。	泥、砂粒 を含む。	良好	外面淡 褐色 内面淡 褐色 外側淡 褐色	スス付着
P44 1422 103	SK11		①底径1.7 ②1.5	上げ底状の扁球形の底部。	外部外側ナデ、ナメ方向へラミ ゴキ、内面下から上へのラズリ、底 面ナデ。	泥、1〜 2mmの石 灰、砂石 を含む。	良好	外面淡 褐色 内面淡 褐色	スス付着
P45 1028 103	SK12	要	①口径2.0 (図) ②底径1.1	やや外反して立ち上がる楕円口 縁、縁部を丸く出せる。	外面は口縁部に1/3本の縁部平行直 線が認められる。縁部コナナ。 内面は、口縁部コナナ。縁部以 下右方向へラズリ。	やや粗、 砂粒を多 く含む。	良好	外面淡 褐色 内面淡 褐色	スス付着
P46 1028 103	SK12		①口径3.0 (図) ②底径1.8	やや外反して立ち上がる楕円口 縁、縁部を丸く出せる。	外面は、口縁部を縁部平行直線 をなし、上部コナナ。内面は、口 縁部コナナ。	泥、粗い 砂粒を含む。	良好	内面淡 褐色 外側淡 褐色	スス付着
P47 1125 103	SK12		①口径3.0 (図) ②底径1.8	やや外反する口縁。口縁部は、 丸く出る。	口縁部外面コナナ、縁部付近に ミゴキコナナ方向へミゴキ。内 面コナナ。縁部以下外側コナ ナ。内面左方向へラズリ。	泥、1〜 2mmの石 灰を多 く含む。	やや平 良	外面淡 褐色 内面淡 褐色 外側淡 褐色	スス付着
P48 1075 103	SK12		①口径3.0 (図) ②底径1.6	前方の管部、口縁部は、丸 く出る。	口縁部内外面コナナ。以下内 面ミゴキ。わずかにハクメの痕跡 あり。内面右方向へラズリ後 ナデ。	泥、粗い 砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色	スス付着
P49 1146 103	SK12		①口径3.0 (図) ②底径1.3	短く外反して立ち上がる管部 をなし、口縁部は、丸 く出る。	口縁部は、内面に縁部平行直線 をなし、内面はコナナ後、コナ ナ方向へミゴキ。以下内面とも コナナ方向へミゴキが認められ る。	泥、粗い 砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色	スス付着
P46 1428 104	SK14	要	①口径1.0 (図) ②底径0.4	外反する楕円口縁、口縁部は、 丸く出る。口縁部の後には 平直する。	1: 縁部外面、縁部平行直線後、内面 右コナナ方向へミゴキ、縁部外面 コナナ方向へミゴキ、内面左方 向へラズリ。	やや中 砂粒を多 く含む。	良好	内外面 褐色	黒色有り
P45 1425 104	SK14		①口径1.0 (図) ②底径0.5	外反する楕円口縁、口縁部は、 丸く出る。口縁部の後、 ほとんど突出する。なだらかに 管部へとつながる。口縁部の上 部は、飛び出すように出る。	1: 縁部外面、縁部平行直線後、ナ メ方向へミゴキ。口縁部の後、 縁部外側ナデ。内面左方向へラ ズリ後ナデ。	泥、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色	黒色有り
P45 1426 104	SK14		①口径1.0 (図) ②底径0.5	外反する楕円口縁、口縁部は、 丸く出る。口縁部の後、 ほとんど突出する。口縁部の上 部は、飛び出すように出る。	1: 縁部外面、縁部平行直線後、ナ メ方向へミゴキ。口縁部の後、 縁部外側ナデ。内面左方向へラ ズリ後ナデ。	泥、1〜 2mmの石 灰を含む。	良好	内外面 淡褐色	黒色有り
P45 1426 104	SK14		①口径1.0 (図) ②底径0.5	外反する楕円口縁、口縁部は、 丸く出る。口縁部の後、 ほとんど突出する。口縁部の上 部は、飛び出すように出る。	1: 縁部外面、縁部平行直線後、ナ メ方向へミゴキ。口縁部の後、 縁部外側ナデ。内面左方向へラ ズリ後ナデ。	泥、1〜 2mmの石 灰を含む。	良好	内外面 淡褐色	黒色有り
P45 1426 104	SK14		①口径1.0 (図) ②底径0.5	外反する楕円口縁、口縁部は、 丸く出る。口縁部の後、 ほとんど突出する。口縁部の上 部は、飛び出すように出る。	1: 縁部外面、縁部平行直線後、ナ メ方向へミゴキ。口縁部の後、 縁部外側ナデ。内面左方向へラ ズリ後ナデ。	泥、1〜 2mmの石 灰を含む。	良好	内外面 淡褐色	黒色有り

挿表07 出土土器観察表(3)

遺物番号 出土位置 図記号	出土位置	層 種	位置 (cm) ①埋 ②敷 ③土 ④大 ⑤埋 ⑥埋	形 態	手 法	動 土	表 成	色 調	備 考
Po53 1426 104	SK14	墓 部	①埋 ②敷 ③土 ④大 ⑤埋 ⑥埋	安定した平部。	外周下方方向へ傾斜。真面内面、傾斜より方にヘラケズ。以下から上へのヘラケズ。	前、1-2 mmの心灰 を含む。	良好	外面淡 褐色 内面淡 褐色 一面灰 褐色	一部スス 付着
Po54 1425 101	SK16	墓	①15.4 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	やや外傾する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。断面部は、ほとんど平坦だが、なだらかに傾斜へとつながる。	口縁部外側、縁部平行沈積。空面ココ方向へ傾斜。断面部は、傾斜縁による傾斜は、内面下方へ傾斜する。	前、1-2 mmの心灰 を含む。	良好	内外面 淡褐色	黒灰有り
Po55 1425 104	SK16	高坪	①12.8 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	縁部後、複合口縁状に上方へ傾斜のくびる形。縁部は、つまみ出すようにしておさめる。	口縁部内面、縁部平行沈積。内面ココ方向へ傾斜。	前、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色	黒灰有り
Po56 1067 104	SK18	墓	①11.4 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	口縁部縁に、やや外傾する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。断面部の縁は、丸くおさめる。縁部の縁は、水平方向に丸く突出する。	口縁部内面、縁部平行沈積。内面ココ方向へ傾斜。断面部は、丸くおさめる。	前、1-2 mmの心灰 を少し含 む。	良好	外面明 淡褐色 一面黒 灰有り 断面明 褐色	一面褐色 断面黒 灰有り
Po57 581 104	SK19		①16.1 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	ほぼ直立する短い複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。断面部の縁は、下方へわずかに突出する。断面の縁部は、ほぼ垂直。	口縁部内面、縁部平行沈積。内面ココ方向へ傾斜。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、下方へわずかに突出する。	前、1-2 mmの心灰 を含む。	良好	外面明 淡褐色 内面淡 褐色	
Po58 711 104	SK19	墓	①14.4 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	ほぼ直立する短い複合口縁。口縁部は、つまみ出すようにしておさめる。断面部の縁は、水平方向にわずかにつまみ出される。	口縁部外側、平行沈積で出しのたものと思われる。断面部はココ方向へ傾斜。内面ココ方向へ傾斜。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、水平方向にわずかにつまみ出される。	前、1-2 mmの心灰 を含む。	良好	内外面 淡褐色	
Po59 58 104	SK19		①11.9 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	やや内傾する複合口縁部。口縁部は、丸くおさめる。	口縁部外側、タテ方向へ傾斜。内面ココ方向へ傾斜。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、水平方向にわずかにつまみ出される。	前、1mm 程度の心 灰を含む。	良好	内外面 明褐色	
Po60 1432 104	SK19		①19.8 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	外傾する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。断面部の縁は、下方へわずかに突出する。	口縁部外側、縁部平行沈積。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、下方へわずかに突出する。	前、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色	スス付着
Po61 742 104	SK19	墓	①11.7 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	内面直しながら、右上方へ傾く複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。断面部の縁は、ほぼ水平方向に突出する。内面の縁部はゆるやかなである。	口縁部内面、縁部平行沈積。内面ココ方向へ傾斜。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、ほぼ水平方向に突出する。内面の縁部はゆるやかなである。	前、やや粗 粒の心灰 を含む。	良好	内外面 淡褐色	スス付着
Po62 653 104	SK19	陣付塚	①13.1 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	口縁部縁を丸くおさめた複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。断面部の縁は、ほぼ水平方向に突出する。	口縁部外側、縁部平行沈積。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、ほぼ水平方向に突出する。	前、やや粗 粒の心灰 を含む。	良好	外面淡 褐色 内面淡 褐色へ 黒灰色	裏の可成 特有
Po63 1432 104	SK20	墓	①14.7 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	外傾する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。断面部の縁は、やや下傾する。	口縁部外側、縁部平行沈積。内面ココ方向へ傾斜。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、やや下傾する。	前、やや粗 粒の心灰 を含む。	良好	内外面 淡褐色 断面明 褐色	スス付着
Po64 1433 104	SK20	墓	①21.4 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	直立する短い複合口縁。口縁部は、つまみ出すようにしておさめる。断面部の縁は、ほぼ垂直。縁部へとつながる。縁部は、傾がわずかに傾斜へとつながるものと思われる。	口縁部外側、縁部平行沈積。内面ココ方向へ傾斜。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、ほぼ垂直。縁部へとつながる。縁部は、傾がわずかに傾斜へとつながるものと思われる。	前、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色	
Po65 1430 104	SK20	高坪	①22.6 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	やや外反する安定。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、なだらかに傾斜へとつながる。	外面、縁部平行沈積。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、なだらかに傾斜へとつながる。	前、1-3 mmの心灰 を含む。	良好	外面淡 褐色 一面灰 褐色 内面淡 褐色	黒灰有り
Po66 1436 104	SK23		①20.6 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	やや内傾する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。断面部の縁は、ほぼ垂直である。断面部の縁は、ほぼ垂直。	口縁部外側、縁部平行沈積。内面ココ方向へ傾斜。	前、1mm 程度の心 灰を含む。	良好	外面淡 褐色 内面淡 褐色	スス付着
Po67 1473 104	SK23	墓	①14.6 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	ほぼ直立する短い複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。断面部の縁は、ほぼ垂直。	口縁部外側、縁部平行沈積。内面ココ方向へ傾斜。	前、砂粒 を含む。	良好	外面明 淡褐色 内面明 褐色	一部スス 付着
Po68 1434 104	SK23	高坪	②敷 ③土 ④大 ⑤埋 ⑥埋	やや長目で細い溝部。断面部は、丸くおさめる。	断面部外側、タテ方向へ傾斜。内面ココ方向へ傾斜。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、ほぼ垂直。	前、1mm 程度の心 灰を含む。	良好	内外面 淡褐色	
Po69 1365 105	SK24	墓	①15.7 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	外反する複合口縁。口縁部は、つまみ出すようにして、丸くおさめる。断面部の縁は、やや下傾する。	口縁部外側、縁部平行沈積。内面ココ方向へ傾斜。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、やや下傾する。	前、	良好	内外面 淡褐色	一部スス 付着
Po70 1362 105	SK24	小部屋	①10.4 (覆) ②埋 ③敷 ④土 ⑤埋 ⑥埋	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。断面部の縁は、丸くおさめる。断面部の縁は、丸くおさめる。	口縁部外側、縁部平行沈積。断面部は、丸くおさめる。断面部の縁は、丸くおさめる。	前、やや粗 粒の心灰 を含む。	良好	内外面 淡褐色	風化が著 しい

挿表08 出土土器観察表(4)

遺物番号 市下博物館 収蔵番号	出土位置	器種	口径 (cm) ①口径 ②底径 ③最大径 ④底厚	形 態	手 法	胎 土	成 色	備 考	
P671 1362 165 23	SK24	小笠笠	①9.3 (底) ②口径4.2 ③11.6 (底)	やや外反する複合口縁。口縁端部は丸くおさめられる。胴部腹の縁は、突出せず、直線につながらず、凹み、縁部を欠く。	外側は、意匠の刻線が美しく、磨製下地。体部外側をミナコ半の陶器がわずかに認められる。口縁部内面ヨコ方ヘラミダギ。体部内面ヨコ方ヘラミダギ。内面左方向ヘラミダギ。	やや良 好	外側褐色 ～黒褐色 内面灰 褐色	外側斜縁 が深い。	
P672 1368 165	SK24	笠	①17.6 (底) ②底径5.7	やや外反する複合口縁。口縁端部は、丸くおさめられる。胴部腹の縁は、水平方向につまみ出している。	口縁部外側、縦線平行状線。内面ヨコ方ヘラミダギ。体部外側、内面左方向ヘラミダギ。	やや中 好	やや良 好	内外面 褐色色	
P673 1302 165	SK24	瓦甕	①口径10.1 ②底径3.4 (底)	可成。	外側タテハ。内面下から上へのヘラミダギ。	やや粗 悪	良好	内外面 褐色	
P674 106 + 105 106 + 106 165 23	SK26	笠	①12.1 ②底径4 (底)	やや外反する複合口縁。口縁端部は、つまみ出すようにしておさめられる。胴部腹の縁は、突出せず、凹みにつながらず、体部は、ほぼ球形をなし、底面を欠く。	口縁部外側、縦線平行状線。内面ヨコ方ヘラミダギ。体部外側、腹面に縦状文。以下ナメ。ナメ方向ヘラミダギ。内面腹面付左右ナメ。以下左方向ヘラミダギ。全体ヨコ方ヘラミダギ。	やや粗 悪	良好	内外面 淡褐色 ～灰褐色	スズ付物
P675 1311 165	SK26		①10.4 (底) ②底径4.3	やや外反する複合口縁。口縁端部は、内面を凹み出すようにしておさめられる。胴部腹の縁は、下側を欠く。	口縁部外側、縦線平行状線。内面ヨコ方ヘラミダギ。内面右方向ヘラミダギ。体部外側、内面右方向ヘラミダギ。	やや粗 悪	良好	外側褐色 内面褐色	一部スズ 付物
P676 1392 165 23	SK28	台付笠	①口径7.7 ②底径3.1	やや外反する複合口縁。口縁端部は、つまみ出すようにしておさめられる。胴部腹の縁は、下側を欠く。	体部外側ヨコ方ヘラミダギ。内面中央部右方向ヘラミダギ。全体ナメ。胴部内面ナメ。	やや粗 悪	良好	外側褐色 内面褐色 灰褐色	縁部有り 褐色形跡 残有り
P677 108 + 101 165	SK26	高杯	①口径17.1 ②底径12.2	杯口の縁部から「ハ」の半状に近く傾斜。縁部腹は、上方へわずかにつまみ出されている。	腹面外側タテハ方向ヘラミダギ。内面腹面付左右ナメ。胴部外側ヨコ方ヘラミダギ。内面ナメ。ナメ方向ヘラミダギ。全体ナメ。胴部内面ナメ。内面以下内面左方向ヘラミダギ。	やや粗 悪	良好	外側褐色 内面褐色	縁部がす りむ
P678 1460 163	SK27		①17.1 (底) ②底径9.5	やや外反する複合口縁。口縁端部は、つまみ出すようにしておさめられる。胴部腹の縁は、やや下側を欠く。	口縁部外側縦線平行状線。内面腹面付左右ナメ。胴部外側、ヨコ方ヘラミダギ。体部外側、ヨコ方ヘラミダギ。内面以下内面左方向ヘラミダギ。	やや粗 悪	良好	外側褐色 内面褐色	一部スズ 付物
P679 1438 165	SK27	壺	①口径2.1 (底) ②底径5.6	外反する複合口縁。口縁端部は、つまみ出すようにしておさめられる。胴部腹の縁は、水平方向にわずかに突出する。	口縁部外側、縦線平行状線。内面ヨコ方ヘラミダギ。体部外側、腹面に2本の凸線を描く。その下に負線状線による意匠。以下ナメ。内面、左方向ヘラミダギ。	粗。1～2 mmの石炭 灰を多く 含む。	やや中 好	外側褐色 内面褐色	スズ付物
P680 1437 165	SK27	壺 (胴付)	①9.3 (底) ②底径5.1	やや外反する口縁部。口縁端部は、つまみ出すようにしておさめられる。胴部は、ほぼ球形をなし、底面を欠く。	口縁部内外面ヨコ方ヘラミダギ。内面左方向ヘラミダギ。ヨコ方ヘラミダギ。体部外側ナメ。内面左方向ヘラミダギ。	やや粗 悪	良好	外側褐色 内面褐色 灰褐色	一部スズ 付物
P681 1322 165	SK28	壺	①19.1 (底) ②底径9.6	やや外反する複合口縁。口縁端部は、丸くおさめられる。胴部腹の縁は、やや下側を欠く。	口縁部外側、縦線平行状線を少なからずとも入れる。内面ヨコ方ヘラミダギ。体部外側ナメ。内面左方向ヘラミダギ。	やや粗 悪	良好	外側褐色 内面褐色 ～灰褐色	
P682 1348 163	SK28	壺	①17.4 (底) ②底径5.5	ほぼワケ口縁。	口縁部内外面および胴部外側ヨコ方。胴部内面左方向ヘラミダギ。	粗。1～2 mmの石炭 灰を多く 含む。	良好	内外面 褐色	スズ付物
P683 1320 165	SK28	壺	①15.7 (底) ②底径4.3	外反する複合口縁。口縁端部は、丸くおさめられる。胴部腹の縁は、やや下側を欠く。	口縁部外側、縦線平行状線。内面ヨコ方ヘラミダギ。内面左方向ヘラミダギ。	粗。赤褐色 を含む。	良好	外側褐色 内面褐色	スズ付物
P684 1363 165	SK28	高杯	①口径7.9 ②底径4.6	平面的な形をとりどるが、かなり丸みを帯びてくるが、かなり「ハ」の字状に外反する口縁。口縁端部は、丸くおさめられる。胴部は、ほぼ球形をなし、底面を欠く。	外側タテハ。内面下から上へのヘラミダギ。体部外側、内面腹面付左右ナメ。以下左方向ヘラミダギ。全体ナメ。胴部内面ナメ。内面以下内面左方向ヘラミダギ。	粗。1～3 mmの石炭 灰を含む。	良好	内外面 褐色色	スズ付物
P685 104 + 103 104 + 105 23	SK21	鉢口壺	①13.6 (底) ②口径4 ③口径8	やや外反する複合口縁。口縁端部は、丸くおさめられる。胴部は、ほぼ球形をなし、底面を欠く。	口縁部内外面ヨコ方ヘラミダギ。体部外側、腹面ヨコ方ヘラミダギ。内面以下ナメ。ナメ方向ヘラミダギ。全体ナメ。胴部内面ナメ。内面以下内面左方向ヘラミダギ。	粗。1～4 mmの石炭 灰を含む。	良好	外側褐色 内面褐色 ～灰褐色	底面磨し い
P686 1317 169	SK21	壺	①16.3 (底) ②底径4.8	外反する複合口縁。口縁端部は、丸くおさめられる。胴部腹の縁は、上方へわずかに突出する。	口縁部外側、縦線平行状線。内面ヨコ方ヘラミダギ。体部外側ヨコ方ヘラミダギ。内面左方向ヘラミダギ。	やや粗 悪	やや中 好	内外面 褐色	スズス 付物

掲載(9) 出土土器調査表(5)

遺物番号 出土層 所在地	山位階	西	東	南	北	土	物	色	質	詳	考
Po87 1387 106	SK1	小竪堀	①13.4 (厚) ②残存高5.2 ③9.3 (厚)	外壁とせながらほぼ直立する直立 の土壁。土壁上部は、丸くおさ め、上部部は、水平方向 に突出する。	土壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色		一部スス 付着	
Po88 132・135 106 125	SK21	注口土壁	①13.8 (厚) ②14.9 ③14.1 (厚) ④12.3	外壁とせながらほぼ直立する直立 の土壁。土壁上部は、丸くおさ め、下部は、水平方向に突出 する。土壁は、ほぼ直立する 土壁。土壁上部は、丸くおさ め、下部は、水平方向に突出 する。土壁は、ほぼ直立する 土壁。土壁上部は、丸くおさ め、下部は、水平方向に突出 する。	土壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色		黒化が すむ	
Po89 132・135 106 125	SK31		①19.4 ②11.4 ③14.7	壁部、脚部とも外反し、上部は 外へ折れ曲がるようにして外側 に平直部をなす。壁は、それぞ れ下れ上方向へ突出する。脚部 は、やや上向きに傾いている。	壁部、脚部とも壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、1～3 mmの砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色		一部スス 付着 赤褐色 痕有り	
Po90 132・135 106 125	SK31	竪穴	①21.5 ②17.4 ③18.3	壁部、脚部とも外反し、上部は 外へ折れ曲がるようにして外側 に平直部をなす。壁は、それぞ れ下れ上方向へ突出する。脚部 は、やや上向きに傾いている。	壁部、脚部とも壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色			
Po91 1077 106	SK32		①20.0 (厚) ②残存高5.3	外壁とせながらほぼ直立する直立 の土壁。土壁上部は、丸くおさ め、下部は、水平方向に突出 する。	土壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色		一部スス 付着	
Po92 107・108 106	SK32	竪	①20.0 (厚) ②残存高5.0	ほぼ直立する壁の残存部分。土 壁上部は、丸くおさめ、下部 は、水平方向に突出する。土 壁は、ほぼ直立する土壁。土 壁上部は、丸くおさめ、下部 は、水平方向に突出する。	土壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色			
Po93 104・106 106	SK34	竪	①14.4 (厚) ②残存47.0	ほぼ直立する壁の残存部分。土 壁上部は、丸くおさめ、下部 は、水平方向に突出する。土 壁は、ほぼ直立する土壁。土 壁上部は、丸くおさめ、下部 は、水平方向に突出する。	土壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、2～5 mmの砂粒 を含む。	良好	外側面 淡褐色 →灰褐色		スス付着	
Po94 1753 106	SK34	竪	①16.2 (厚) ②残存45.6	やや外傾する壁の残存部分。土 壁上部は、丸くおさめ、下部 は、水平方向に突出する。土 壁は、ほぼ直立する土壁。土 壁上部は、丸くおさめ、下部 は、水平方向に突出する。	土壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色		黒化有	
Po95 1780 106	SK34		①12.6 (厚) ②残存44.6	やや内傾する壁の残存部分。土 壁上部は、丸くおさめ、下部 は、水平方向に突出する。土 壁は、ほぼ直立する土壁。土 壁上部は、丸くおさめ、下部 は、水平方向に突出する。	土壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色		スス付着	
Po96 136・137 106	SK34	竪	①21.6 (厚) ②残存49.0	ほぼ直立的に外上へひねる壁部。 上部は、丸くおさめ、下部は、 下折する。	壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	外側面 淡褐色 →灰褐色			
Po97 138・139 126	SK34	竪	①15.0 ②15.8 ③15.8	直線的に「ハ」の字状に強く傾 斜し、しっかりしたつまみがつ く。	壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色		スス付着	
Po98 1796 106 26	SK34	竪	①16.2 (厚) ②残存46.2	直線的に「ハ」の字状に強く傾 斜し、しっかりしたつまみがつ く。土壁上部は、丸くおさめ、 下部は、水平方向に突出する。	壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	外側面 淡褐色 →灰褐色		スス付着	
Po99 136・137 106	SK34	竪	②残存高3.2 ③0.3	水平上り足跡の証部。	壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色			
Po100 1796 106	SK34	竪	②残存高3.3 ③残存47.3	「ハ」の字状に強く傾く脚部。 脚部は、丸くおさめ、下部は、 下折する。	壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色			
Po101 1740 107	SK35	竪	①18.5 (厚) ②残存高4.7	やや外傾する壁の残存部分。土 壁上部は、丸くおさめ、下部 は、水平方向に突出する。	壁部外側、壁面平行に凹凸一 列。コノナゲに比べてコノナゲ 内側、上部部は、ほぼ直立する 土壁。その下部は、コノナゲ 内側以下外側へコノナゲ、 内側上方向へコノナゲ後ナ ゲ。	西、1～2 mmの砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色 →灰褐色		黒化有	

挿表10 出土土器観察表(6)

遊物番号 取上番号 取揚番号	出上位置	樹 種	径 (cm) 心口 心径 心径大径 心径小径	形 態	手 法	産 地	樹 土	積 成	内 質	備 考
Po135 1583 199 27	SK47		①17.0 (取) ②残存葉6.3	外反する接合口縁。口縁部は、丸くおさめる。葉部の葉は、ほぼ水平方向に突出する。	口縁部外反りコナテ。内面はほぼコナテ。以下ココ方向へツラズリ。体部外側部はコナテハテ。内面はココ方向へツラズリ。一部上方向へツラズリ。	中や中 1～2mm の石炭を含む。	良好	外側淡褐色→淡黄色 内面淡褐色	黒炭有り	
Po136 1627 199	SK47		①15.4 (取) ②残存葉5.5	やや外反する口縁部。口縁部は、丸くおさめる。	口縁部内反りコナテ。内面はほぼコナテハテ。内面左方向へツラズリ。	中や中 1mm程度の石炭を含む。	良好	外側淡褐色→淡黄色 内面淡褐色	黒炭有り	
Po137 1628 199	SK47	葉	①19.9 (取) ②残存葉6.1	外反する接合口縁。口縁部は、丸くおさめる。葉部の葉は、水平方向に突出する。	口縁部外側。葉部平行状縁部が顕著。内面ココ方向へツラズリ。葉部外反りコナテハテ。内面左方向へツラズリ。	中や中 1mm程度の石炭を含む。	良好	外側淡褐色→淡黄色 内面無褐色	黒炭有り	
Po138 1628 199	SK47		①15.0 (取) ②残存葉4.3	やや外反する接合口縁。口縁部は、丸くおさめる。葉部の葉は、水平方向に突出する。葉部は、葉部が平らに広がる。葉部は、葉部が平らに広がる。葉部は、葉部が平らに広がる。	外側、ココ方向へツラズリ。内面左方向へツラズリ。内面はココ方向へツラズリ。内面はココ方向へツラズリ。	中や中 1mm程度の石炭を含む。	中等	外側淡褐色→淡黄色 内面淡褐色	スス付着	
Po139 1630 199	SK47	葉	①14.0 (取) ②残存葉7.1	1/2の葉部。葉部は、水平方向に突出する。葉部は、水平方向に突出する。葉部は、水平方向に突出する。	口縁部外側。葉部平行状縁部が顕著。内面はココ方向へツラズリ。葉部外反りコナテハテ。内面左方向へツラズリ。	中や中 良	良好	外側淡褐色→淡黄色 内面淡褐色	黒炭有り	
Po140 1607 199	SK47	葉	①18.0 (取) ②残存葉2.4	上葉中大の形の子葉のみ。	外側ココ方向へツラズリ。内面ココ方向へツラズリ。	中や中 良	良好	外側淡褐色→淡黄色 内面淡褐色		
Po141 1638 199 27	SK48	葉	①6.4 (取) ②残存葉3.3	直立する短かい枝部に、精肉の体部。口縁部は、丸くおさめる。	内面はココ方向へツラズリ。内面はココ方向へツラズリ。	中や中 1～3mmの石炭を含む。	良好	内側淡褐色 外側淡褐色		
Po142 BR-X02 199 27	SK48		①13.0 (取) ②残存葉10.0 ③17.1	やや外反する接合口縁。口縁部は、丸くおさめる。葉部の葉は、水平方向に突出する。葉部は、葉部が平らに広がる。葉部は、葉部が平らに広がる。	口縁部外側。葉部平行状縁部が顕著。内面はココ方向へツラズリ。葉部外反りコナテハテ。内面左方向へツラズリ。一部上方向へツラズリ。	中や中 良	良好	外側淡褐色→淡黄色 内面淡褐色	一部スス付着	
Po143 1809 199 28	土器類01		①24.4 ②24.0 ③19.5	外反する接合口縁。口縁部は、丸くおさめる。葉部の葉は、水平方向に突出する。葉部は、葉部が平らに広がる。葉部は、葉部が平らに広がる。	口縁部外側。葉部平行状縁部が顕著。内面はココ方向へツラズリ。葉部外反りコナテハテ。内面左方向へツラズリ。一部上方向へツラズリ。	中や中 1～3mmの石炭を含む。	良好	外側淡褐色→淡黄色 内面淡褐色	スス付着 炭化が若干有り	
Po144 661-674 675-676 1809 199 28	土器類01	葉	①27.8 ②残存葉12.4	外反する接合口縁。口縁部は、丸くおさめる。葉部の葉は、水平方向に突出する。葉部は、葉部が平らに広がる。葉部は、葉部が平らに広がる。	口縁部外側。葉部平行状縁部が顕著。内面はココ方向へツラズリ。葉部外反りコナテハテ。内面左方向へツラズリ。	中や中 良	良好	内側淡褐色 外側淡褐色	スス付着	
Po145 186-192 199 28	土器類01		①19.4 (取) ②残存葉2.2	外反する接合口縁。口縁部は、丸くおさめる。葉部の葉は、水平方向に突出する。葉部は、葉部が平らに広がる。葉部は、葉部が平らに広がる。	口縁部外側。葉部平行状縁部が顕著。内面はココ方向へツラズリ。葉部外反りコナテハテ。内面左方向へツラズリ。	中や中 良	良好	外側淡褐色→淡黄色 内面淡褐色	スス付着	
Po146 187 199 28	土器類01		①16.0 (取) ②残存葉2.2	外反する接合口縁。口縁部は、丸くおさめる。葉部の葉は、水平方向に突出する。葉部は、葉部が平らに広がる。葉部は、葉部が平らに広がる。	口縁部外側。葉部平行状縁部が顕著。内面はココ方向へツラズリ。葉部外反りコナテハテ。内面左方向へツラズリ。	中や中 良	良好	内側淡褐色 外側淡褐色	炭化が若干有り	
Po147 1766 199	土器類01	葉	①12.0 (取) ②残存葉2.4	やや外反する接合口縁。口縁部は、丸くおさめる。葉部の葉は、水平方向に突出する。葉部は、葉部が平らに広がる。葉部は、葉部が平らに広がる。	口縁部外側。葉部平行状縁部が顕著。内面はココ方向へツラズリ。葉部外反りコナテハテ。内面左方向へツラズリ。	中や中 良	良好	内側淡褐色 外側淡褐色		
Po148 205-188 188 199 28	土器類01	葉	①23.4 (取) ②残存葉2.4 ③15.5 ④14.5	短葉。葉部も外反り葉部は丸くおさめる。葉部の葉は、水平方向に突出する。葉部は、葉部が平らに広がる。葉部は、葉部が平らに広がる。	外側ココ方向へツラズリ。葉部外反りコナテハテ。内面左方向へツラズリ。葉部外反りコナテハテ。内面左方向へツラズリ。	中や中 良	良好	内側淡褐色 外側淡褐色	炭化が若干有り	
Po149 204-193 193 28	土器類02	葉	①44.2 (取) ②47.3	やや外反する接合口縁。口縁部は、丸くおさめる。葉部の葉は、水平方向に突出する。葉部は、葉部が平らに広がる。葉部は、葉部が平らに広がる。	口縁部外側。葉部平行状縁部が顕著。内面はココ方向へツラズリ。葉部外反りコナテハテ。内面左方向へツラズリ。一部上方向へツラズリ。	中や中 良	良好	外側淡褐色→淡黄色 内面淡褐色	一部スス付着	

補表12 出土土器類表(9)

遺物番号 土器の 出た 場所	出土位置	器 形	寸法 (cm) ①口徑 ②底徑 ③高さ ④口径	形 態	手 法	胎 土	土 質	色 調	備 考
Pe186 432 114 31	SK60	甕	①10.9 ②6.1	いびつな甕。口縁部は、外側へつまみ出さうにしておきめる。	①縁部外側コナダ。内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	灰、1-2mmの石子を含む。	良好	外側淡褐色。内側淡褐色。内面淡褐色。	一部スズ付
Pe187 642 114	SK61	甕	①17.2 (腹径) ②17.5 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、わずかに平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。灰い砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側淡褐色。	一部スズ付
Pe188 648 114	SK61	甕	①22.8 (腹径) ②22.8 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、中や硬へつまみ出し、肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。灰を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	風化すむ
Pe189 641 114	SK61	甕	①20.3 (腹径) ②19.5 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	風化著しい
Pe190 629 114	SK61	甕	①21.7 (腹径) ②21.7 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付
Pe191 601 114	SK62	甕	①20.5 (腹径) ②20.5 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側淡褐色。	スズ付
Pe192 867 114	SK63	甕	①18.8 (腹径) ②18.8 (底径)	内側したがる口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付
Pe193 1127 114 32	SK64	甕	①18.5 (腹径) ②18.5 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	風化が著しい
Pe194 1136 114 32	SK64	甕	①20.5 (腹径) ②20.5 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付
Pe195 1108 114	SK67	甕	①15.8 (腹径) ②15.8 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付
Pe196 1108 114	SK67	甕	①14.8 (腹径) ②14.8 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付
Pe197 1251 114	SK69	甕	①27.0 (腹径) ②27.0 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付
Pe198 538 119 32	SK66	甕	①24.4 (腹径) ②24.4 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付
Pe199 537 115 32	SK66	甕	①23.0 (腹径) ②23.0 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付
Pe200 1469 116	SD03	甕	①19.6 (腹径) ②19.6 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付
Pe201 2023 116 30	SD03	甕	①21.7 (腹径) ②21.7 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付
Pe202 1737 116	SD05	甕	①15.0 (腹径) ②15.0 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付
Pe203 1738 116	SD05	甕	①18.9 (腹径) ②18.9 (底径)	外側する複合口縁。口縁部は、外側に平直部をなすが、ほぼ丸くおさめる。肩部の縁は、水平方向に大きく突出する。	内側外側コナダ。②縁部内側コナダ。③縁部内側コナダ。④縁部内側コナダ。	中や硬。砂粒を含む。	良好	内側淡褐色。外側淡褐色。	一部スズ付

挿表16 出土土器観察表(2)

遺物番号 出土遺物 出土遺物 出土遺物	出土位置	種類	土層 (層) 出土層 出土層	形制	特徴	手続	出土	状態	色調	備考
Pe204 1664 116	SD05	蓋	(1)17.2 (覆) 出土層高5.9	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部内面、縁部平行に波打。胴部内面は、内面左方向へラリアス。口縁部は、以下左方向へラリアス。	底、砂粒を含む。	やや不良	外面は褐色、内面は白色。	スズ付蓋	
Pe205 1664 116 33	SI05	蓋	(1)13.6 (覆) 出土層高6.7	縁部以上をつまみ出すように、丸くおさめる。胴部の縁は、外反し、肩部が膨らみ、胴部が薄型へとつながる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面左方向へラリアス。	底、砂粒を含む。	良好	外面は褐色、内面は白色。	一部スズ付蓋	
Pe206 1747 116 33	SI06	蓋付	(1)12.6 (覆) 出土層高6.5	やや外反しなごらぬく変型。胴部は、丸くおさめる。縁は、下方へ突出し、胴部の縁が平ら。胴部を欠く。	底部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、1mm程度の石膏を含む。	良好	外面は褐色、内面は白色。	黒斑有り	
Pe207 III + IV 150 116 33	SI05 土層部III	蓋	(1)16.6 (覆) 出土層高27.9	口縁部へびねる体積。口縁部は、外側へ押しつぶされたように出ている。	口縁部内面、縁部平行に波打。胴部は、胴部平行に波打。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、1~2mmの石膏を含む。	良好	内外面は褐色、内面は白色。	黒斑有り 遺構面にて発見	
Pe208 I05 + I06 116 33	SI06	蓋	(1)17.3 (覆) 出土層高11.9	やや外反しなごらぬく変型。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、砂粒を含む。	良好	内外面は褐色、内面は白色。	スズ付蓋	
Pe209 1709 116 33	SI06	蓋	(1)15.3 (覆) 出土層高7.3	内反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、水平方向に突出する。胴部は、肩部が膨らみ、胴部が薄型へとつながる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、やや粗い石膏を含む。	良好	外面は褐色、内面は白色。	一部スズ付蓋	
Pe210 1794 116	SI06	蓋	(1)17.1 (覆) 出土層高5.0	外反しなごらぬく変型。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、砂粒を含む。	良好	外面は褐色、内面は白色。	一部スズ付蓋	
Pe211 1794 116	SI06	蓋付	(1)23.3 (覆) 出土層高1.4	内面左方向へ外反しなごらぬく変型。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、砂粒を含む。	良好	内外面は褐色、内面は白色。	黒斑有り	
Pe212 I05 + I06 116 33	SI07	蓋	(1)14.7 (覆) 出土層高6.1	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、砂粒を含む。	良好	内外面は褐色、内面は白色。	黒斑有り	
Pe213 2002 117	SI07	蓋	(1)17.6 (覆) 出土層高7.4	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、石膏を含む。	良好	内外面は褐色、内面は白色。	黒斑有り	
Pe214 2005 117	SI07	蓋	(1)21.2 (覆) 出土層高7.8	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、1mm程度の石膏を含む。	良好	外面は褐色、内面は白色。	黒斑有り	
Pe215 1796 117 34	SI07	蓋	(1)18.6 (覆) 出土層高7.2	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、砂粒を含む。	良好	外面は褐色、内面は白色。	黒斑有り	
Pe216 2004 117	SI07	蓋	(1)18.6 (覆) 出土層高7.5	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、砂粒を含む。	良好	外面は褐色、内面は白色。	スズ付蓋	
Pe217 2202 117	SI07	蓋	(1)14.6 (覆) 出土層高13.9	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、砂粒を含む。	良好	内外面は褐色、内面は白色。	スズ付蓋	
Pe218 1999 117 34	SI07	蓋	(1)13.2 (覆) 出土層高11.1	実質する短かい複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、砂粒を含む。	やや不良	外面は褐色、内面は白色。	スズ付蓋	
Pe219 I05 + I06 117 34	SI07	蓋付	(1)20.4 (覆) 出土層高14.4	外反しなごらぬく変型。口縁部は、丸くおさめる。胴部の縁は、下半部を覆うラリアることにより、わずかに突出した形をとる。	口縁部外側、縁部平行に波打。内面は、内面右方向へラリアス。胴部は、以下左方向へラリアス。	底、1~2mmの石膏を含む。	良好	内外面は褐色、内面は白色。	黒斑有り	

表17 出土土器観形表③

遺物番号 出土位置 調査年度 図版番号	出土位置	種類	材質 (mm)	形状	寸法	用途	土質	焼成	色	備考
Po20 2012 117	SD07		①14.0 (厚) ②10.0 (底)	平らな舟を彫り付けた器蓋。	内側ナデ。底面化のたの溝が不明。	茶。砂粒を多量に含む。	良好	外側淡褐色の陶質。内側白色。	黒化が強い。	
Po21 1996 117	SD07	底面	①14.0 (厚) ②4.9 (底)	平坦した平床。	外まわりにプラヘクが彫られる。内側下から上へのヘラズリ。茶黒化のための肌彫不明。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色の陶質。内側白色。	黒化が強い。	
Po22 1054 117	SD09	蓋	①14.0 (厚) ②10.0 (底)	外側平らな舟の横溝に縁。縁部は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、外側厚。なだらかに縁部へとながら。	口縁部外側。縁部付けた。内側ナデナデ。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。	スズ付。	
Po23 1025 117	SD12	蓋	①12.0 (厚) ②4.0 (底)	外側平らな舟の横溝に縁。縁部は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	口縁部外側。縁部付けた。内側ナデナデ。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po24 1035 117	SD12		①21.0 (厚) ②10.7 (底)	外側平らな舟の横溝に縁。縁部は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	口縁部外側。縁部付けた。内側ナデナデ。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po25 187 118	SD15	蓋	①24.6 (厚) ②10.7 (底)	外側平らな舟の横溝に縁。縁部は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	口縁部外側。縁部付けた。内側ナデナデ。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po26 235 238	SD16				外側は、タテコに平造りする。内側は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po27 725 118	SD13	煎茶器片			外側は、タテコに平造りする。内側は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po28 235 118	SD13				外側は、タテコに平造りする。内側は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po29 222 118	SD25	煎茶器片	①14.0 (厚) ②10.7 (底)	煎茶器部状の残片。裏面を有する。	外側は底面。器蓋部は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	不良	外側淡褐色。内側白色。		
Po30 141 118	SD25				外側は底面。器蓋部は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po31 170 118	SD25				外側は、タテコに平造りする。内側は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po32 150 118	SD25				外側は、タテコに平造りする。内側は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po33 170 118	SD25				外側は、タテコに平造りする。内側は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po34 170 118	SD25				外側は、タテコに平造りする。内側は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po35 144 118	SD25				外側は、タテコに平造りする。内側は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po36 141 118	SD25				外側は、タテコに平造りする。内側は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po37 160 118	SD25				外側は、タテコに平造りする。内側は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po38 157 118	SD25				外側は、タテコに平造りする。内側は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po39 170 117 34	SD25	煎茶器片	①11.5 (厚)	玉縁を有するの縁。	内側平らな舟の横溝に縁。縁部は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		
Po40 170 119 34	SD25	煎茶器片	①20.1 (厚) ②10.7 (底)	口縁部は、縁部を外下りので平造りを有し、上方へ急造する。	外側平らな舟の横溝に縁。縁部は、丸くおさまる。器蓋部の厚は、水平方向につまみだされる。	茶。砂粒を含む。	良好	外側淡褐色。内側白色。		

挿表18 出土土器類表10

通称/原題/邦題/原案	地上放送	種 類	放送日時	影 音 特 徴	子 供 供 給	活 土 産 色	調 色	備 考
P0211 171 119 34	SD25	自伝書牘	0207.3 (祝) 0208.1 (祝) 0208.8 (祝) 0208.15 (祝)	11巻目は、遠征に外下りの早急態をとって、上方にむすかに進歩する。	外陣は、母ナツ、内陣にも本編化した各巻編成が見られる。	巻、小さい砂袋を含む。	良好	外陣は、母ナツと、内陣編成。
P0212 162 119	SD25	偵探小説	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流の表現。	内外陣ともナツ。内陣に、愉快な異変がわずかに見える。	巻、小さい砂袋を含む。	良好	外陣は、母ナツと、内陣編成。
P0213 179 118 34	SD25	探偵小説	0208.1 (祝) 0208.15 (祝)	繰り返しの要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。内陣陣営に指定位置が認められる。	巻、やや大きな目力砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0214 176 119	SD25	上流	0208.1 (祝) 0208.15 (祝)	当調に反し、口輪郭は、内陣に調をとって、外陣につけたい心算がみえる。	内外陣ともコナツ。外陣下部は、音楽化度が高い。	巻、やや大きな目力砂袋を含む。	やや良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0215 197 119 34	SD25	探偵小説			外陣は、深い指す状況は、内陣はナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0216 193 115	SD25	探偵小説			外陣は、深い指す状況は、内陣はナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0217 144 119	SD25	探偵小説	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0218 144 119 34	SD25	探偵小説	0208.1 (祝) 0208.15 (祝)	上流に色調の平流要素もつ口輪郭を有する。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。内陣は、コナツ受、音楽化度が高い。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0219 207 120	SD16	探偵	0207.3 (祝) 0207.15 (祝)	外陣は、深い指す状況は、内陣はナツ。	外陣は、深い指す状況は、内陣はナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0220 222 120	SD16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0221 197 120 35	SD16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0222 222 120	SD16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0223 222 120	SD16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0224 197 120	SD16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0225 651 120 35	SD16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0226 281 125	S-16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0227 254 126	SD16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0228 197 120	SD16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0229 207 120	SD16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0230 197 120	SD16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。
P0231 207 120	SD16	探偵	0208.1 (祝) 0210.5 (祝)	平流な要素から驚くが反し、思く高調に立ち上がる口輪郭に平流。	内外陣とも、ハック状工具によるコナツ。	巻、砂袋は、小さい砂袋を含む。	良好	内外陣とも、母ナツと、内陣編成。

表19 地上放送番組表

遺物番号 出土層名 採取番号 図面番号	出土位置	部 種	寸法 (cm) ①口径 ②口径 ③口径 ④口径	形 態	予 測	厚 1	商 成	色 相	備 考	
Po282 197 120	SD16	模造品片			外周は、粘土より粗い質(見1)後ナデス。内周は、円筒状にナデテ居す。		厚、細い砂粒をわずかに含む。	黒肝	外周灰白色 内周灰白色	
Po283 197 120	SD16	瓦葺土器片			外周に粘土状の厚皮(4mm×4mm)あり。内周は、曲線的な凹凸(見1)あり。		厚、細い砂粒をわずかに含む。	黒肝	外周灰白色 内周灰白色	
Po284 38-3 121 35	SD16		①27.0 (見) ②残存高6.5	外方へ折れ曲がる頸部から、高直して立ち上がる口縁につづく。口縁部上縁は、平直部をもち、強いヨコナデにより内側にわずかに膨張する。頸部内面には筋をもつ。胴部は、直線的。	外周は口縁部ヨコナデ無効のフラナテ。内周は、ヨコナデ。胴部にヨコナテを施す。		厚、細い砂粒を含む。	やや黒良	外周淡褐色 内周淡褐色	外側にスチ付留
Po285 207 121	SD16		①20.8 (見) ②残存高5.5 ③1.9 (見)	外方へ折れ曲がる頸部から高直して立ち上がる口縁につづく。口縁部上縁は、平直部をもち、強いヨコナデにより内側にわずかに膨張する。胴部内面には筋をもつ。胴部は、直線的。	外周は、口縁部ヨコナテ。胴部以下ナデ。内周は、ヨコナテ。口縁部上縁部は、及び胴部以下に強いヨコナテを施す。胴部は、直線的にナデがわずかに認められる。		厚、細い砂粒を含む。	黒肝	外周灰白色 内周灰白色	外側にスチ付留
Po286 197 121	SD16		①28.4 (見) ②残存高5.1	外方へ折れ曲がる頸部から内周して立ち上がる口縁につづく。口縁部上縁は、平直部をもち、胴部内面には筋をもつ。	外周は、口縁部ヨコナテ。胴部に粗粒状の凹凸が認められる。		厚、砂粒をわずかに含む。	やや黒良	外周淡褐色 内周淡褐色	外側にスチ付留
Po287 207 121	SD16	丸蓋土器	①34.3 (見) ②残存高8.9 ③33.2 (見)	外方へ折れ曲がる頸部から内周して立ち上がる口縁につづく。口縁部上縁は、平直部をもち、胴部内面には、筋をもつ。	外周は、口縁部ヨコナテ。胴部に粗粒状の凹凸が認められる。強弱ナデ。		厚、砂粒を含む。	黒肝	外周灰白色 内周灰白色	外側にスチ付留
Po288 206 121	SD16		①27.2 (見) ②残存高6.2	外方へ折れ曲がる頸部から、内周して立ち上がる口縁につづく。口縁部上縁は、平直部をもち、内側にわずかに膨張する。胴部内面には、筋をもつ。	外周は、口縁部ヨコナテ。胴部以下ナデ。内周は、ヨコナテ。口縁部上縁部は、強くナデす。		厚、砂粒をわずかに含む。	やや黒好	外周淡褐色 内周淡褐色	外側にスチ付留
Po289 207 121	SD16		①27.2 (見) ②残存高10.5 ③33.2 (見)	外方へ折れ曲がる頸部から内周して立ち上がる口縁につづく。口縁部上縁は、平直部をもち、わずかに内側に膨張する。胴部内面には筋をもつ。胴部は、直線的。	外周は、口縁部ヨコナテ。胴部以下ナデ。内周は、ヨコナテ。口縁部上縁部は、強くナデす。		厚、砂粒をわずかに含む。	黒肝	外周淡褐色 内周淡褐色	外側にスチ付留
Po290 973 121	SD16		①31.3 (見) ②残存高8.4 ③28.0 (見)	外反する頸部から、内周部から外方へひろく口縁につづく。口縁部上縁は、平直部をもち、強いヨコナデにより、わずかに内側に膨張する。胴部内面は、筋をもつ。	外周は、口縁部ヨコナテ。胴部の上部は、直線的にナデす。胴部以下強いヨコナテ。		厚、粗粒をわずかに含む。	やや黒好	外周淡褐色 内周淡褐色	外側にスチ付留
Po291 197 121	SD16		①残存高4.3 ②14.0 (見)	平直の胴部。	外周は、ナデ。内周は、直線的に不明。		厚、砂粒をわずかに含む。	やや黒好	外周淡褐色 内周淡褐色	外側にスチ付留
Po292 38-2 121 35	SD16	瓦葺土器	①23.0 (見) ②5.5 (見) ③11.4 (見)	片口の鉢。平直な胴部から、わずかに内周部から斜め上方にのびて、口縁部に至る。口縁部は、内周する筋をもつ。	外周は、口縁部ヨコナテ。以下は、直線的ナデ。内周は、直線的にナデす。		厚、粗粒を多く含む。	やや黒良	内周淡褐色 外周淡褐色	
Po293 141 121 35	SD19	短流壺	①10.6 (見) ②14.5 (見) ③9.8 (見) ④12.1 (見)	ほぼ直立する短い口縁。やや斜めの立ち上がり高い体部でつなぐり立ち下すをもつ。	内周ヨコナテ。胴部内周ナデ。		厚、砂粒を含む。	黒肝	内周淡褐色 外周淡褐色	
Po294 929 121	SD24	壺	①17.2 (見) ②残存高9.7	外反するく、の字状口縁。口縁部は、内周部から外方へ膨張する筋をもつ。	口縁部内周ヨコナテ。内周は、ヨコナテ。胴部は、ナデ。内周は、直線的にナデす。胴部は、直線的にナデす。		厚、砂粒を含む。	黒肝	内周淡褐色 外周淡褐色	
Po295 129 121 35	SD24	蓋	①3.6 (見) ②2.9 (見)	丸蓋を覆った天部部からながら口縁部につなぐ。口縁部は、内周部から外方へ膨張する筋をもつ。	天部部外周、へら切りナデ。内周ナデ。蓋内周ヨコナテ。		厚、砂粒を含む。	黒肝	内周淡褐色 外周淡褐色	内側に蓋と結びつけるもの付留
Po296 896 121 35	SD24	炊飯器	①10.0 (見) ②残存高4.3	直立する短い口縁から、なだらかに開く頸部。胴部は上方にのびる頸部を斜めに行ける。	内周ヨコナテ。		厚、砂粒を含む。	やや黒好	内周淡褐色 外周淡褐色	
Po297 806 121	SD24	蓋 (取付部)	①18.5 (見) ②3.9 (見)	天部部外周、へら切りの口縁部。つまみも取り付ける。口縁部は、内周部から外方へ膨張する筋をもつ。	天部部外周、へら切りの口縁部。つまみも取り付ける。内周ヨコナテ。天部部内周部直線的。		厚、砂粒を含む。	黒肝	外周淡褐色 内周淡褐色	

挿表20 出土土器観察表(6)

遺物番号 出土層 調査年度 調査番号	出土位置	調査	出土 位置 (m) ①中心 の南東 の南西 の北西 の北東	形	材	厚	法	胎土	土	焼成	色	陶	備考
Pc278 201-00 28-01 122	土器群01	遺	①18.3(東) ②15.0(西) ③15.9(北)	外縁する腹面1段、1線縁部は、つまみ出すようにしてつくられている。胎土は、ほぼ縦筋をなす真鍮を欠く。	白磁		口縁部外面、裾輪平行沈線。内面ヨコ方向へラミギナ。裾部外面部から同部まで、以下不規則なハナテ。内面下方角ヘラズリ後、腰部付合ナテ。	胎、粗い	土	不良	灰褐色～灰青色 内面淡灰色	一部スス付着	
Pc279 206 122	土器群01	小豆竈	①10.2(東) ②焼成高さ9.4	やや外縁する口縁部。口縁部は、つまみ出すようにしてつくられている。胎土は、ほぼ縦筋をなす真鍮を欠く。	白磁		口縁部内外面ヨコナテ。腰部外面ヨコ方向へラミギナ。内面下方角ヘラズリ。	胎、砂粒を含む。	土	良好	外縁淡褐色～淡青色 内面淡褐色	スス付着	
Pc280 301-04 122	土器群01		①23.2(東) ②焼成高さ10.8	浅い皿状の平底。口縁部は外縁し、裾部は、外へつまみ出すようにしてつくられ、上面が平坦な面をなす。	白磁		口縁部内外面ヨコナテ。腰部外面ヨコ方向へラミギナ。内面裾部ヨコ方向へラミギナ。以下下方角ヘラミギナ。	胎、砂粒を含む。	土	良好	内面淡褐色～淡青色 内面淡褐色	裾縁有り	
Pc281 304-04 122	土器群01	高杯	①22.6(東) ②焼成高さ12.1	杯部と器部との境部で唇出し、外縁する口縁部。口縁部は、丸くつまみ出る。胎土は、その上を、テラするごとく、わずかに残さず、裾部断面へつながらせる。	白磁		杯部外面にクハナテがわずかに残る。外縁は風化のため遺跡不明。杯部内面ヨコ方向へラミギナ。口縁部ヨコ方向へラミギナ。腰部内面下方角ヘラズリ。	中や平	土	良好	内外淡褐色 内面淡褐色	一部炭灰有り 内面炭化著しい	
Pc282 421 122	土器群01		①焼成高さ12.1 ②脚径14.4(東)	縦溝と器部から広くクハ、の平状にして入り。	白磁		杯部外面ヨコ方向へラミギナ。内面下方角ヘラミギナ。裾部外面ヨコ方向へラミギナ。腰部内面下方角ヘラズリ。	胎、砂粒を含む。	土	良好	内外淡褐色	皿縁有り	
Pc283 430 122	土器群01		①焼成高さ10.2	口縁部を欠くが、ほぼ上1/3残状を呈する部と認められる。横は、下壁する。胎土は、かなり粗い。	白磁		底部外面、裾輪平行沈線。内面、ヨコ方向へラミギナ。裾部外面ヨコ方向へラミギナ。内面下方角ヘラズリ。	胎、砂粒を含む。	土	良好	内外淡褐色	皿縁有り	
Pc284 432 122	土器群01	器口	①22.5(東) ②焼成高さ9.4	外縁する底部。口縁部は、外縁する。胎土は、ほぼ縦筋をなす。	白磁		外縁、ヨコ方向へラミギナ後、一段クハ。器部の上には、上下に4本の脚印部ではさまれた風化がみられる。内面ヨコ方向へラミギナ。	中や粗	土	良好	内外淡褐色	Pc283と同一体か	
Pc285 436 122	土器群01		①焼成高さ7.9 ②脚径14.4(東)	外縁する唇部。胎土は、上方に突出する。	白磁		口縁部外面、裾輪平行沈線。裾部外面クハナテ。内面下方角ヨコナテ。	中や粗	土	良好	内外淡褐色	Pc284と同一体か	
Pc286 466-305 123	土器群02		①17.6(東) ②焼成高さ7.7	底面する短い唇部1段に外縁する唇部。口縁部は、つまみ出すようにしてつくられている。胎土は、ほぼ縦筋をなす。	白磁		口縁部外面、裾輪平行沈線。裾部外面クハナテ。内面下方角ヨコナテ。	胎、砂粒を含む。	土	良好	内外淡褐色		
Pc287 1059 123	土器群02		①15.9(東) ②焼成高さ7.4	底面する短い唇部1段に外縁する唇部。口縁部は、つまみ出すようにしてつくられている。胎土は、ほぼ縦筋をなす。	白磁		口縁部外面、裾輪平行沈線。裾部外面クハナテ。内面下方角ヨコナテ。	胎、砂粒を含む。	土	良好	外縁淡褐色～淡青色 内面淡褐色		
Pc288 131 123	土器群02		①14.8(東) ②焼成高さ4.6	外縁する短い唇部1段。口縁部は、丸くつまみ出す。胎土は、ほとんど突出せず縦筋をなす。	白磁		口縁部外面、裾輪平行沈線。内面ヨコ方向へラミギナ。裾部外面ヨコ方向へラミギナ。	胎、1-2mmの石炭を含む。	土	良好	内外淡褐色		
Pc289 1059 123 36	土器群02	皿	①焼成高さ21.0	外縁すると思われる唇部1段。口縁部は、丸くつまみ出す。胎土は、ほぼ縦筋をなす。	白磁		口縁部外面、裾輪平行沈線。内面ヨコ方向へラミギナ。裾部外面ヨコ方向へラミギナ。以下下方角へラミギナ。	胎、1-3mmの石炭を含む。	土	良好	内外淡褐色	スス付着	
Pc290 1651 123	土器群02		①14.0(東) ②焼成高さ7.1	やや外縁する唇部1段。口縁部は、外縁へつまみ出すようにしてつくられている。胎土は、ほぼ縦筋をなす。	白磁		口縁部外面、裾輪平行沈線。内面ヨコ方向へラミギナ。裾部外面ヨコ方向へラミギナ。内面、右方向へラミギナ。	胎、砂粒を含む。	土	良好	外縁淡褐色 内面淡褐色		
Pc291 187-265 123	土器群02		①14.4(東) ②焼成高さ7.7	やや外縁する唇部と腹面口縁部。口縁部は、丸くつまみ出す。胎土は、水平方向につまみ出される。	白磁		口縁部外面、底状沈線ヨコ方向へラミギナ。内面ヨコ方向へラミギナ。腰部内面ヨコ方向へラミギナ。内面下方角ヘラズリ。	中や平	土	良好	内外淡褐色		
Pc292 1807 123	土器群02		①12.6(東) ②焼成高さ7.4	ほぼ外縁する唇部1段。口縁部は、つまみ出すようにしてつくられている。胎土は、ほぼ縦筋をなす。	白磁		口縁部外面、裾輪平行沈線。内面ヨコ方向へラミギナ。裾部外面ヨコ方向へラミギナ。腰部内面下方角ヘラズリ。	胎、1-2mmの石炭を含む。	土	良好	内外淡褐色	スス付着	
Pc293 1648 123	土器群02		①13.0(東) ②焼成高さ7.3	外縁した腹、裾部を欠く。つまみ出す口縁部。口縁部は、つまみ出すようにしてつくられている。	白磁		口縁部内外面ヨコナテ。裾部外面クハナテ。内面下方角ヘラズリ。	胎、1mm程度の石炭を含む。	土	良好	内外淡褐色	一部スス付着	
Pc294 174 123	土器群02	皿1段	①12.8(東) ②焼成高さ7.0	外縁する口縁。口縁部は、丸くつまみ出す。	白磁		口縁部外面ヨコナテ。口縁部は、裾部内面ヨコ方向へラミギナ。裾部外面クハナテ。内面下方角ヘラズリ。	胎、砂粒を含む。	中や平	土	内外淡褐色		

解説2 出土土器類表(初)

遺跡の名称 所在地 国土地理院 図幅番号 図尺	出土位置	面積	法量 (m) ①口縁 ②口縁 ③最大径 ④高さ	形	装	出	仙	七	商	色	観	備	考
Po127 141 125	土器群02		①18.6 (口) ②口縁高10.0	中や外反する複合口縁。口縁部は、つまみ出すようにしてつくられている。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	スス付着		
Po128 162 125	土器群02		①17.2 (口) ②口縁高5.3	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	スス付着		
Po129 149 125	土器群02		①17.0 (口) ②口縁高5.3	中や外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	スス付着		
Po130 141 + 144 125 38	土器群02		①18.5 (口) ②口縁高9.7	外反する複合口縁。口縁部は、つまみ出すようにしてつくられている。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。胴部は、比較的なるかである。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	一部スス付着		
Po131 143 125	土器群02		①17.4 (口) ②口縁高5.5	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	スス付着		
Po132 185 125	土器群02		①22.0 (口) ②口縁高3.4	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	黒線有り スス付着		
Po133 141 + 144 125 38	土器群02		①23.6 (口) ②口縁高11.9	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	スス付着		
Po134 167 126	土器群02		①19.8 (口) ②口縁高3.2	内反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	スス付着		
Po135 196 126 38	土器群02		①12.7 (口) ②口縁高9.5	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	スス付着		
Po136 197 126	土器群02		①12.4 (口) ②口縁高4.1	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	スス付着		
Po137 189 126	土器群02		①25.8 (口) ②口縁高5.8	口縁部が、複合口縁状と成る。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	一部スス付着		
Po138 163 126	土器群02		①25.0 (口) ②口縁高16.7	口縁部が、複合口縁状と成る。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	スス付着		
Po139 167 126	土器群02		①25.8 (口) ②口縁高16.7	口縁部が、複合口縁状と成る。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	スス付着		
Po140 141 + 144 125 38	土器群02		①25.8 (口) ②口縁高16.7	口縁部が、複合口縁状と成る。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	スス付着		
Po141 184 126 38	土器群02		①19.1 (口) ②口縁高6.3	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	黒線有り		
Po142 146 126 38	土器群02		①19.8 (口) ②口縁高12.5	外反する複合口縁。口縁部は、丸くおさめる。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	黒線有り スス付着		
Po143 135 126 38	土器群02		①17.0 (口) ②口縁高5.6 ③最大径13.1 (口)	口縁部が、複合口縁状と成る。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	黒線有り		
Po144 146 + 148 126 38	土器群02		①25.8 (口) ②口縁高16.7 ③最大径13.1 (口)	口縁部が、複合口縁状と成る。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	黒線有り		
Po145 137 126	土器群02		①25.8 (口) ②口縁高16.7 ③最大径13.1 (口)	口縁部が、複合口縁状と成る。胴部は厚く、下方へわずかに張り出す。体部は、胴部が膨らむ。	口縁部外側、胴部平行径線、内面ヨコナテ。胴部外側は状況、胴部内面ヨコナテ、胴部以下内面方向へツクス。	中や、砂粒を含む。	良好			内外面 淡褐色	黒線有り		

挿表24 出土土器類表(6)

遺物番号 出土層 調査番号	出土位置	種類	長さ (cm)	形	態	手	法	出土状況	色	調	備考
Pc316 187-193 127 39	土層群02	高坪	①21.6 (厚) ②24.7 (径) ③1.0 (厚)	縦長い筒筒から、なだらかに「ハ」の字状と展開。縦筋は、筒筋に方に「形」の道しが入るものと思われ。	筒筋外部周テラ方向へラミギタ。筒筋内面縦筋。筒筋内面テラ方向へラミギタ。	器、砂粒を含む。	良好	内面褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		
Pc347 1022 127	土層群02		①21.6 (厚) ②24.7 (径) ③1.0 (厚)	太く短かい筒筒に「ハ」の字状に開く基部。	筒筋外部テラ方向へラミギタ。内面右上方へテラ方向へラミギタ。筒筋内面テラ方向へラミギタ。	器、砂粒を含む。	良好	外側褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		
Pc348 1850 127	土層群02	高坪	①21.6 (厚) ②24.7 (径) ③1.0 (厚)	短「ハ」の字状に広がる筒筒。	中開口、右方向へテラ方向へラミギタ。内面、右方向へテラ方向へラミギタ。外周風化のため調査不明。	やや密、1～2mmの石を多く含む。	良好	内面褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		風化がすすむ
Pc349 1809 127	土層群02		①21.6 (厚) ②24.7 (径) ③1.0 (厚)	大きく「ハ」の字状に広がる筒筒。	内外面右方向へラミギタ。	器、1～2mmの石、灰石を含む。	良好	外側褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		透スス付着
Pc350 1896 127	土層群02	高坪	①21.6 (厚) ②24.7 (径) ③1.0 (厚)	外上方へやや反折した筒筒に短かい基部。筒筋は、上方へつまるようにしておき、下側する部を、縮らけていたと思われるが、調査している。	筒筋外部、筒筋平行紋線。内面右方向へラミギタ。筒筋内面、右方向へラミギタ。筒筋外部、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。筒筋外部、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。	器、砂粒を含む。	良好	外側褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		風化がすすむ
Pc351 1835 127 39	土層群02		①16.0 (厚) ②18.1 (径) ③1.2 (厚)	筒筋、筒筋ともやや反折しながら外へ開き、短かい基部となる。筒筋の基部は、深く平らな筒筒に、筒筋に開かない。筒筋は、やや反折である。	筒筋外部、筒筋平行紋線。内面右方向へラミギタ。筒筋内面、右方向へラミギタ。筒筋外部、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。	器、1～2mmの石、灰石を含む。	良好	外側褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		風化有り
Pc352 201-202 127	土層群02	高坪	①22.6 (厚) ②25.6 (径) ③1.1 (厚)	外側から筒筒。筒筋は、外部へつまるようにしておき、下側する部を、縮らけていたと思われるが、調査している。	筒筋、筒筋とも内面右方向へラミギタ。	器、1～2mmの石、灰石を含む。	良好	外側褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		風化有り
Pc353 1585 127 39	土層群02		①22.6 (厚) ②25.6 (径) ③1.1 (厚)	大きく「ハ」の筒筒に「ハ」の字状に開く。筒筋は、上方へつまる。	筒筋外部、右方向へラミギタ。内面左方向へラミギタ。筒筋内面、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。筒筋外部、右方向へラミギタ。筒筋内面、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。	中開口、2～3mmの石を多く含む。	良好	外側褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		風化有り
Pc354 106-108 107-108 127 39	土層群02	高坪	①22.7 (厚) ②25.6 (径) ③1.0 (厚)	筒筋、筒筋とも反折し、筒筋は筒筋に平行開く。筒筋は、筒筋に開かない。筒筋は、短かい。	筒筋外部、筒筋平行紋線。内面右方向へラミギタ。筒筋内面、右方向へラミギタ。筒筋外部、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。	器、砂粒を含む。	良好	内面褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		
Pc355 1903 127	土層群02		①25.3 (厚) ②28.3 (径) ③1.3 (厚)	外側する筒筒。筒筋は、やや平らな筒筒となる。筒筋は筒筋が筒筒に、短かい筒筒になる。	筒筋外部、右方向へラミギタ。筒筋内面、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。筒筋外部、右方向へラミギタ。筒筋内面、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。	やや密、砂粒を多く含む。	良好	内側褐色～赤褐色	内側褐色～赤褐色		風化有り
Pc356 107-108 127 40	土層群02	高坪	①22.7 (厚) ②25.6 (径) ③1.0 (厚)	筒筋は、筒筋を欠くが、筒筋、筒筋とも反折したものと思われる。筒筋の基部は、上方へつまるように開く。筒筋は、筒筋に開かない。筒筋は、筒筋に開かない。	筒筋外部、筒筋平行紋線。内面右方向へラミギタ。筒筋内面、右方向へラミギタ。筒筋外部、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。	器、1mm程度の石、灰石を含む。	良好	外側褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		
Pc357 107-108 128 40	土層群02		①20.4 (厚) ②23.4 (径) ③0.9 (厚)	外側する筒筒。筒筋基部は、外部へつまる筒筒をもち、上下にやや反折する。筒筋は、やや平らな筒筒に、筒筋に開かない。	筒筋外部短、筒筋平行紋線。内面右方向へラミギタ。筒筋外部短、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。	器、砂粒を含む。	良好	外側褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		風化有り
Pc358 1643 125	土層群02	高坪	①17.7 (厚) ②20.7 (径) ③0.9 (厚)	筒筋の外上方へびる筒筒。筒筋は、上方にやや平らな筒筒となり、筒筋にやや平らへ開く。	外側、筒筋平行紋線。内面右方向へラミギタ。筒筋外部短方向へラミギタ。	器、砂粒を含む。	良好	外側褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		風化有り
Pc359 1589 125	土層群02		①22.7 (厚) ②25.6 (径) ③1.0 (厚)	筒筋、筒筋とも反折する筒筒。筒筋は、筒筋に平行開く。筒筋は、筒筋に開かない。	筒筋外部短方向へラミギタ。内面右方向へラミギタ。筒筋外部短、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。	やや密、砂粒を含む。	良好	外側褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		
Pc359 1894 125	土層群02	高坪	①22.7 (厚) ②25.6 (径) ③1.0 (厚)	「ハ」の字状に筒筒に広がる筒筒。筒筋は、筒筋に平行開くように外側する筒筒。筒筋の基部は、上方へつまる。	筒筋、筒筋とも内面右方向へラミギタ。筒筋外部短、筒筋平行紋線。筒筋内面、右方向へラミギタ。	器、1～2mmの石を含む。	良好	内面褐色～赤褐色	内面褐色～赤褐色		

挿表25 出土土器観察表(2)

遺物番号 出土層	遺物名	器種	特徴	形状	用途	出土状況	備考
Pos29 164 126	土器片	底部	①底面(裏) ②口縁部	上縁折れの平縁。	外周がナメハケ、内周、直上方向へハラスリ。底面ナメ。	中層、1-2mの白土、黄土を含む。	灰紅褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos30 164 126	土器片	底部	①底面(裏) ②口縁部	平縁。全体に曲線が強い。	外周がナメハケナリ。内周内面直上方向へハラスリ。底面ナメ。	中、1-2mの黒土を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos31 163 40	土器片	口縁部	①口縁部(裏) ②口縁部	底縁が細く、口縁部が平縁。	外周、直上方向へハラスリ。内周、直上方向へハラスリ。底面ナメ。	中、1-2mの白土、黄土を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos32 131 129 41	土器片	底部	①底面(裏) ②口縁部	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	中、1-3mの白土、黄土を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos33 131 129	土器片	口縁部	①口縁部(裏) ②口縁部	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	中、1m程度の白土、黄土を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos34 116 129	土器片	底部	①底面(裏) ②口縁部	底縁が平縁。口縁部が平縁。	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	中層、黄褐色を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos35 125 129	土器片	口縁部	①口縁部(裏) ②口縁部	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	中、1-2mの白土、黄土を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos36 125 129 41	土器片	口縁部	①口縁部(裏) ②口縁部	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	中、1m程度の白土、黄土を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos37 128 129	土器片	口縁部	①口縁部(裏) ②口縁部	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	中、1-2mの白土、黄土を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos38 115 129	土器片	口縁部	①口縁部(裏) ②口縁部	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	中、1m程度の白土、黄土を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos39 116 129	土器片	口縁部	①口縁部(裏) ②口縁部	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	中、1-2mの白土、黄土を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos40 116 129 41	土器片	口縁部	①口縁部(裏) ②口縁部	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	中、1-2mの白土、黄土を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。
Pos41 116 129 41	土器片	口縁部	①口縁部(裏) ②口縁部	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	口縁部が平縁。口縁部が平縁。	中、1-2mの白土、黄土を含む。	外周黄褐色、内面黄褐色。スズ付。

図版27 出土土器類(複製)

遺物番号 出土場所 調査番号	出土位置	形 態	材 質	形 態	手 法	胎 土	装 成	色 調	備 考
P0394 1166 130	土器群04	①15.0 (重) ②残存高5.9	外反する1線部、口縁部は3 外面に平均的な。体底は、 何部か異なる。	口縁部内外側ナテ、体部がワケテ、 胎底にわずかにヘラズミがみられる。 胴部は水方向へラズミが、胎 部の胎底にみられる。ヘラズミ による胎底を4本入れる。	胎、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色		
P0395 1300 41	土器群04	①14.6 (重) ②残存高10.4	やや外反する複合口縁、口縁部 は、丸くおさまる。胎底部の 縁は、やや下方へラズミする。 胎部から胎底へなだらかに開き れば球部の体部をなす。胎部を 欠く。	口縁部外面、胎部平行凹線、内面 コソコソ方向へラズミ。胎部は胎 底部に胎底縁による胎底成 成による胎底を、(下字成文、 丸)を胎部へ丸くおさめること による胎底縁に胎底にたわった ものである。胎部は胎底縁の コソコソ方向へラズミが みられる。	胎、砂粒 を含む。	良好	外側淡 褐色～ 赤褐色 内側淡 褐色		
P0396 100 + 101 130	土器群04	①13.9 (重) ②残存高8.5	外反する複合口縁、口縁部は、 丸くおさまる。胎底部の縁は、 突出する。胎部へラズミする。 体底は、何部か異なる。	口縁部外面、胎部平行凹線、胎 部外面コソコソ方向へラズミ。以下 胎部は、胎底に平行凹線に下字 成文による胎底縁による胎底成 成を胎する。口縁部以下内面を方 向へラズミ後、コソコソ方向へラズ ミが みられる。	胎、砂粒 を含む。	良好	外側淡 褐色～ 赤褐色 内側淡 褐色		一部ス ス付着
P0397 1404 130 41	土器群04	①16.2 (重) ②残存高10.6 ③14.9 (重)	外反する複合口縁、口縁部は、 丸くおさめる。胎底部の縁は、 突出して球部へつつながる。胎 部は、胎部内に長い胎底縁をな す。胎部を欠く。	口縁部外面、胎部平行凹線、ワケ テナテ、胎部外面、胎部は胎底縁 による胎底成文、胎部以下内面、内 面、左方向へラズミ後ナテ。	胎、砂粒 を含む。	良好	外側淡 褐色～ 赤褐色 内側淡 褐色		一部ス ス付着
P0398 1178 130	土器群04	①18.7 (重) ②残存高6.9	外反する複合口縁、口縁部は、 丸くおさまる。胎底部の縁は、 ほとんど突出しないが、鋭く隆 起する。	口縁部外面、胎部平行凹線、内面 コソコソ方向へラズミ。胎部は胎 底部に胎底縁による胎底成 成による胎底縁を、(下字成文、 丸)を胎部へ丸くおさめること による胎底縁に胎底にたわった ものである。	胎、砂粒 を含む。	良好	外側淡 褐色～ 赤褐色 内側淡 褐色		スス付着
P0399 1178 130	土器群04	①18.9 (重) ②残存高3.4	外反する複合口縁、口縁部は、 丸くおさめるようにおさまる。 胎底部の縁は、突出せず、内面 の胎部もゆるやかである。	口縁部外面、胎部平行凹線、胎 部ナテナテ。内面へラズミ後ナ テ。	胎、砂粒 を含む。	良好	内側淡 褐色の		一部ス ス付着
P0400 100 + 102 30	土器群04	①19.0 (重) ②残存高3.7	外反する複合口縁、口縁部は、 丸くおさまる。胎底部の縁は、 ほとんど突出している。	外側淡褐色。内面へラズミ後、 コソコソ方向へラズミナテ。	胎、砂粒 を含む。	良好	外側淡 褐色 内側淡 褐色		スス付着
P0401 1179 130	土器群04	①14.7 (重) ②残存高3.4	やや内側面に外反する複合口 縁、口縁部は、丸くおさまる。 胎底部の縁は、水平方向へつま み出される。	口縁部外面、胎部平行凹線にナ テナテ。内面へラズミ後、コソ コソ方向へラズミ。胎部は胎 底部に胎底縁による胎底成 成による胎底縁を、(下字成文、 丸)を胎部へ丸くおさめること による胎底縁に胎底にたわった ものである。	胎、砂粒 を含む。	良好	外側淡 褐色 内側淡 褐色		スス付着
P0402 1182 130	土器群04	①13.7 (重) ②残存高1.9	外反する複合口縁、口縁部は、 丸くおさめるようにおさまる。 胎底部の縁は、水平方向 に突出する。	胎部は胎底縁、口縁部内側1/2平均 コソコソ方向へラズミ後、コソコソ 方向へラズミ。胎部以下内面、 左方向へラズミ後、コソコソ方向へラズ ミが みられる。	胎、砂粒 を含む。	良好	外側淡 褐色		
P0403 108 + 103 130	土器群04	②残存高15.3 ③胎底11.4	縁部は胎底と「ハ」の字状に開 く小さな胎底。胎底は、胎部 に平均的な胎底をなす。胎部は、胎 部へラズミするものと見られる。	胎底部内外面コソコソ方向へラズミが みられる。胎部は胎底縁による胎底 成文による胎底縁を、(下字成文、 丸)を胎部へ丸くおさめること による胎底縁に胎底にたわった ものである。	胎、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色		
P0404 1183 130	土器群04	②残存高5.0 ③胎底14.7 (重)	縁部は胎底に低く開く胎底。胎 部は、丸くおさまる。胎底上方へ のわずかにつまみ出される。	外側、胎部、胎部平行凹線、胎部 は、胎部方向のヘラズミがみられる が、胎底縁による胎底成文による胎 底縁に胎底にたわったものである。	胎、砂粒 を含む。	良好	外側淡 褐色 内側淡 褐色		胎底がナ テ
P0405 1182 130	土器群04	①21.0 (重) ②残存高6.0	外反する胎部。胎部は、つまみ 出すようにおさまる。胎底 部の縁は、突出しない。	内外面コソコソ方向へラズミが みられる。	胎、砂粒 を含む。	良好	外側淡 褐色 内側淡 褐色		
P0406 1180 130	土器群04	②残存高5.6 ③胎底5.7	「ハ」の字状に開く胎部。内 面胎底に外上方向へらする胎部。 口縁部を欠く。	胎部外面、胎部平行凹線、内面 コソコソ方向へラズミがみられるが、 胎部は胎底縁による胎底成文による胎 底縁に胎底にたわったものである。	胎、砂粒 を含む。	良好	外側淡 褐色 内側淡 褐色		胎底縁に スス付着
P0407 1182 130	土器群04	②残存高2.2 ③胎底0.2	胎部から、内側しながら低く開 く胎部。	外側、胎部と胎部コソコソ方向へラズミ がみられる。胎部は胎底縁による胎 底成文による胎底縁に胎底にたわ ったものである。	胎、砂粒 を含む。	良好	外側淡 褐色 内側淡 褐色		スス付着
P0408 1265 131	土器群05	①14.0 (重) ②残存高6.7	外反する複合口縁、口縁部は、 丸くおさめるようにおさまる。 胎底部の縁は、ほぼ水平方向へ 突出する。胎部は、外反し、胎 部を欠く。	口縁部外面、胎部平行凹線、内面 コソコソ方向へラズミ。胎部は胎 底縁に胎底縁による胎底成文による胎 底縁に胎底にたわったものである。 胎部は胎底縁による胎底成文による胎 底縁に胎底にたわったものである。	胎、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色		
P0409 1264 131	土器群05	①15.3 (重) ②残存高6.3	外反する口縁部。口縁部は、 外面に平均的な胎部をなす。	口縁部内外面コソコソ方向へラズミが みられる。胎部は胎底縁による胎底 成文による胎底縁に胎底にたわ ったものである。胎部は胎底縁による胎 底成文による胎底縁に胎底にたわ ったものである。	胎、砂粒 を含む。	良好	内外面 淡褐色		胎底縁に スス付着

挿表28 出土土器群表(2)

遺物番号 取上げ場所 図面番号	出土位置	期 様	口径 (cm) 口縁高 底径 底面径 底面厚	形 状	手 法	胎 土 状態	色 調	備 考	
Pos26 1058 124 43	土器群07	瀬部川遺跡	①13.2 (復) ②底径26.5 ③底厚9.4	外縁する複合口縁、口縁部は、つまみ出すようにしておさめらる。外縁は、腰方向に傾いた形状をなす。口縁部から胴部へのくぼれ部分に2ヶ所の射筋する射筋に針4ヶ所小孔を穿つ。	口縁部は外面が2つ折部非貫入。外、体部外縁はコゴ、ツブノハケ、内面はツブナツ。	灰、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色	風化が若干有り
Pos27 1101 134 43	土器群07		①10.7 (復) ②底径18.4	外縁する複合口縁、口縁部は平ら面をなす。胴部部は、水平方向に突出する。胴部の縁は、水平方向に突出し、底面がやや凹む。	体部外縁は、コゴがわずかに残るが、全体に風化のため観察不能。	灰、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色	風化が著しい
Pos28 1102 135	土器群07		①11.4 (復) ②底径25.1	外縁する複合口縁、口縁部は、平ら面をなす。胴部部は、水平方向に突出し、底面がやや凹む。	口縁部は外面がコゴナツ。胴部は、右方向へラクスリ。	灰、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色	
Pos29 092 135	土器群07		①11.5 (復) ②底径25.2	外縁する複合口縁、口縁部は、つまみ出すようにしておさめらる。胴部部は、水平方向に突出する。胴部の内面は、傾くナツで丸められている。口縁部の裏面は、かなり凹みだす。	胴部内面、右方向へラクスリ。その凹み化のため観察不能。	灰、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色	風化が著しい
Pos30 093 136 43	土器群07		①13.4 (復) ②底径18.7	外縁する複合口縁、口縁部は、外側にややつまみ出す。胴部部は、水平方向に突出する。胴部の内面は、傾くナツで丸められている。口縁部の裏面は、かなり凹みだす。	口縁部は外面がコゴナツ。体部外縁はコゴがわずかに残るが、内面はコゴナツ方向へラクスリ。	灰、砂粒を含む。	良好	外面淡褐色 内面淡褐色 口縁部淡褐色	赤色塗料の付着 底面有りの 淡褐色
Pos31 034 135 136	土器群07		①11.8 (復) ②底径24.2	外縁する複合口縁、口縁部は、つまみ出す。胴部部は、水平方向に突出する。胴部の内面は、傾くナツで丸められている。口縁部の裏面は、かなり凹みだす。	口縁部は外面がコゴナツ。胴部は、右方向へラクスリ。	灰、砂粒を含む。	良好	外面淡褐色 内面淡褐色 口縁部淡褐色	一部スリヤ
Pos32 1103 135	土器群07		①15.6 (復) ②底径25.6	外縁する複合口縁、口縁部は、外側にややつまみ出す。胴部部は、水平方向に突出する。胴部の縁は、水平方向に突出する。	口縁部内外面がコゴナツ。胴部内面は右方向へラクスリ。	灰、砂粒を含む。	良好	外面淡褐色 内面淡褐色 口縁部淡褐色	黄色塗料の付着 底面有りの 淡褐色
Pos33 1224 135	土器群07		①13.8 (復) ②底径16.3	外縁する複合口縁、口縁部は、外側にややつまみ出す。胴部部は、水平方向に突出する。	口縁部内外面がコゴナツ。胴部内面はコゴナツがやや出た。コゴナツが入れらる。内面、底面はツブナツ。	灰、砂粒を含む。	良好	外面淡褐色 内面淡褐色 口縁部淡褐色	口縁部外面に射筋 後コゴナツの可 能性有り
Pos34 1222 132	土器群07		①15.2 (復) ②底径14.4	外縁する複合口縁、口縁部は、外側にややつまみ出す。胴部部は、水平方向に突出する。	口縁部内外面がコゴナツ。胴部内面は右方向へラクスリ。	灰、砂粒を含む。	良好	外面淡褐色 内面淡褐色 口縁部淡褐色	
Pos35 1101 135	土器群07		①14.7 (復) ②底径16.3	外縁する複合口縁、口縁部は、外側にややつまみ出す。胴部部は、水平方向に突出する。	口縁部内外面がコゴナツ。胴部内面は右方向へラクスリ。胴部以下内面は右方向へラクスリ。	灰、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色	
Pos36 1225 135	土器群07	①14.8 (復) ②底径16.7	外縁する複合口縁、口縁部は、外側にややつまみ出す。胴部部は、水平方向に突出する。	口縁部内外面がコゴナツ。胴部内面はコゴナツがやや出た。内面は右方向へラクスリ。	灰、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色	口縁部外面に射筋 後コゴナツの可 能性有り	
Pos37 1055 135 43	土器群07	高坪	①19.6 (復) ②底径27.9	直状の浅い口縁。	口縁部内外面がコゴナツ。胴部内面は右方向へラクスリ。胴部以下内面は右方向へラクスリ。	灰、砂粒を含む。	良好	外面淡褐色 内面淡褐色 口縁部淡褐色	赤色塗料の付着 底面有りの 風化が著しい
Pos38 1052 135 43	土器群07		①底径28.0 ②底厚11.5	やや丸みの胴部と、低くハの字状に広がる胴部。	胴部内面、右方向へラクスリ。胴部内面は、右方向へラクスリ。胴部以下内面は右方向へラクスリ。	灰、砂粒を含む。	良好	外面淡褐色	
Pos39 1064 135	土器群07		①20.6 (復) ②底径27.6	直線的に外上方へ広がる胴部。胴部は、外側にややつまみ出す。胴部の縁は、水平方向に突出する。	外面は、表伏式の上下にやや丸みがあり、底面には傾いた形状による凹凸を有する。内面はツブナツがコゴナツ。	灰、砂粒を含む。	良好	外面淡褐色 内面淡褐色 口縁部淡褐色	
Pos40 208 136 43	S&G-35		①底径24.6 ②底厚17.0(復)	やや丸みの胴部と、低くハの字状に広がる胴部。胴部は、外側にややつまみ出す。胴部の縁は、水平方向に突出する。	胴部内面、右方向へラクスリ。胴部内面は、右方向へラクスリ。胴部以下内面は右方向へラクスリ。	灰、砂粒を含む。	良好	外面淡褐色	
Pos41 216 136	SP07		①底径24.1 ②底厚16.8 (復)	平直の胴部に筒倉を貼りつけた。胴部は、外方にややつまみ出す。	胴部は、傾斜したコゴナツ。胴部内面は、傾斜したコゴナツ。胴部以下内面は右方向へラクスリ。	灰、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色	

挿表30 出土土器観察表(6)

遺物番号 出土層の 詳細な 図説番号	出土位置	内 容	説 明	手 法	胎 土	施 色	色 調	備 考
Pos42 743 136	SB06	瓦	①11.2 (B) ②残存高4.5	外縁より内縁部から底部で外縁し、そのまゝ外縁にて口縁部に至る。口縁部は、わずかに内縁へむき上げ、肩部内縁には線をそとつ。	外縁は、口縁上縁はタテハ後ナシ、以外はタテハナシ、内縁は、口縁部よりココハ、肩部は強くナゲテ。肩部以下ナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	内外面 淡茶褐色
Pos43 869 136	SD06	横立破片	②残存高1.1 ③残存高3.4	平直な断面と縁部との間隙部に、溝を貼りつける。内面口、外縁はコシコシナシ。	外縁は、縁部短縮コシナシ。断面は、平直な断面と縁部との間隙部に、溝を貼りつける。内面口、外縁はコシコシナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	内外面 淡白色
Pos45 427 136 43	SE03	瓦	②残存高1.7 ③残存高2.6	しっぺりした野手の平直。	内外面ナシ。縁部短縮ナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	内外面 明褐色
Pos46 2022 137	遺構外		①13.7 (B) ②残存高4.5	外縁する際、外縁に、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	口縁部外縁部平行に沈む。内面はココハナシ。外縁は、タテハ後、ココハ後ヘラミダシ。内面、右方向ヘラミダシ後ナシ。	中や中、1mm程度の石炭をまむ。	良好	外縁部 褐色～ 内面淡 灰褐色
Pos47 1231 137	遺構外		①13.2 (B) ②残存高4.3	外縁する際、口縁部は、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	口縁部外縁部平行に沈む。内面はココハナシ。外縁は、タテハ後、ココハ後ヘラミダシ。内面、右方向ヘラミダシ後ナシ。	中や中、1mm程度の石炭をまむ。	良好	内外面 淡褐色～ 灰褐色
Pos48 1439 137	遺構外		①17.1 (B) ②残存高2.6	外縁する際、口縁部は、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	口縁部外縁部平行に沈む。内面はココハナシ。外縁は、タテハ後、ココハ後ヘラミダシ。内面、右方向ヘラミダシ後ナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	外縁部 褐色～ 内面淡 灰褐色
Pos49 983 137	遺構外		①13.0 (B) ②残存高4.6	外縁する際、口縁部は、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	口縁部外縁部平行に沈む。内面はココハナシ。外縁は、タテハ後、ココハ後ヘラミダシ。内面、右方向ヘラミダシ後ナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	内外面 淡茶褐色
Pos50 344 137	遺構外		①12.5 (B) ②残存高4.3	外縁する際、口縁部は、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	内外面コシコシナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	内外面 淡褐色
Pos51 1119 137	遺構外		①1.3 (B) ②残存高0.7	外縁する際、口縁部は、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	外縁は、口縁部コシコシナシ。断面は、平直な断面と縁部との間隙部に、溝を貼りつける。内面口、外縁はコシコシナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	内外面 淡褐色
Pos52 1743 137	遺構外		①15.4 (B) ②残存高4.2	外縁する際、口縁部は、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	外縁は、口縁部コシコシナシ。断面は、平直な断面と縁部との間隙部に、溝を貼りつける。内面口、外縁はコシコシナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	内外面 淡褐色
Pos53 1074 137	遺構外	直口蓋	①0.1 ②残存高7.7	外縁する際、口縁部は、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	口縁部外縁部平行に沈む。内面はココハナシ。外縁は、タテハ後、ココハ後ヘラミダシ。内面、右方向ヘラミダシ後ナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	外縁部 褐色～ 内面淡 灰褐色
Pos54 979 137 44	遺構外		②残存高6.0	外縁する際、口縁部は、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	口縁部外縁部平行に沈む。内面はココハナシ。外縁は、タテハ後、ココハ後ヘラミダシ。内面、右方向ヘラミダシ後ナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	内外面 淡茶褐色
Pos55 1082 137 44	遺構外		①0.2 (B) ②残存高7.3	外縁する際、口縁部は、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	内外面全体はコシコシナシ。断面は、平直な断面と縁部との間隙部に、溝を貼りつける。内面口、外縁はコシコシナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	内外面 淡褐色
Pos56 1329 137 44	遺構外		①0.1 ②17.5 ③残存高5.5	外縁する際、口縁部は、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	内外面全体はコシコシナシ。断面は、平直な断面と縁部との間隙部に、溝を貼りつける。内面口、外縁はコシコシナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	内外面 淡褐色
Pos57 541 137	遺構外	瓦	①17.5 (B) ②残存高2.5	外縁する際、口縁部は、おや外縁する際、口縁部は、外縁にむきあがるようにしておこる。肩部の縁は、下をそとつ。	口縁部外縁部平行に沈む。内面はココハナシ。外縁は、タテハ後、ココハ後ヘラミダシ。内面、右方向ヘラミダシ後ナシ。	施、砂粒をまむ。	良好	内外面 淡褐色

神奈川出土土器観察表(7)

遺物番号 若し番号 同出番号	出土位置	器 型	図名 (cm)	形 態	手 法	胎 土	土 質	色 調	備 考
Pa472 152 139 44	遺構外		①28.5 (器) ②残存高15.7	やや反り気味に外反する椀口。口縁部は、丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	口縁部外側、縁部平行状。内面は、コナメ方向へツギガタ。縁部外側、口部によつて2層にわたる。縁部は、その上層をコナメ方向へツギガタ。下部は、コナメ方向へツギガタ。内面、左、右上方へツギガタ。口部は、厚肉が厚い。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	赤、1-2mmの石炭を含む。	良好	内面淡褐色	
Pa473 136 139 44	遺構外	差	①11.9 (器) ②残存高5.3	片反する1層部。口縁部は、丸くおさめる。	1層部外側ツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面は、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面は、コナメ方向へツギガタ。	中や赤、1-2mmの石炭を含む。	良好	外面明褐色 内面明褐色 淡褐色	
Pa474 209 139	遺構外		①17.4 (器) ②残存高6.8	「く」の字状に外反する口縁部。縁部は、丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	1層部内外面ツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面は、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面は、コナメ方向へツギガタ。	中や赤、1-4mmの石炭を含む。	良好	外面明褐色 内面明褐色 淡褐色	
Pa475 2034 139	遺構外		①21.0 (器) ②残存高4.6	縁部が褐色1層部をなす。縁部は、丸くおさめる。	縁部外側平行状。内面は、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面は、コナメ方向へツギガタ。	赤、砂粒を含む。	良好	外面淡褐色 内面淡褐色 明褐色	
Pa476 1733 139	遺構外		①29.9 (器) ②残存高3.8	縁部が縁部に開く縁部。内面は、丸くおさめる。	コナメ方向へツギガタ。	赤、1-2mmの石炭を含む。	良好	内面淡褐色	
Pa477 1434 125	遺構外		①25.3 (器) ②残存高6.2	一度反曲してから外反する口縁部。口縁部は、丸くおさめる。	外面、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。	赤、1mmの石炭を含む。	良好	外面淡褐色 内面淡褐色	
Pa478 1499 139	遺構外		①21.3 (器) ②残存高5.6	一度反曲した際、外反する口縁部。縁部は、丸くおさめる。	内外面口縁部ツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。	赤、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色 淡褐色	
Pa479 1492 139	遺構外	高杯	①20.6 (器) ②残存高4.6	縁部外反する口縁部。口縁部は、丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	縁部内外面ツギガタ。以下内面ツギガタ。コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。	赤、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色	スズ付
Pa480 1316 139	遺構外		①25.2 (器) ②残存高7.0	内面は、丸くおさめる。口縁部は、丸くおさめる。	内面は、コナメ方向へツギガタ。	中や赤、良好	良好	外面淡褐色 内面淡褐色	一部スズ付
Pa481 138 139 45	遺構外		①16.9 (器) ②残存高2.4	縁部の縁部。口縁部は、内面は丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	縁部内外面ツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。	赤、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色	高縁有り
Pa482 221 140	遺構外		①26.6 (器) ②残存高2.8	2層にわたって外反する口縁部。縁部は、丸くおさめる。	外面は、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。	赤、1-2mmの石炭を含む。	良好	内外面淡褐色	一部スズ付
Pa483 221 140	遺構外		①残存高2.3 ②残存高2.2	「く」の字状に開く縁部。縁部は、丸くおさめる。	外面、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。	中や赤、1-3mmの石炭を含む。	良好	外面淡褐色 内面淡褐色	高縁有り
Pa484 2032 149	遺構外	鉢	①残存高2.2 ②残存高2.2	やや内面外側に「ハ」の字状に開く縁部。	縁部外側ツギガタ。コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。コナメ方向へツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。コナメ方向へツギガタ。	赤、1-2mmの石炭を含む。	良好	内外面淡褐色	
Pa485 186 140 45	遺構外		①29.9 (器) ②残存高11.0	唇部、縁部とも反り気味に外反する口縁部。縁部は、丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	唇部、縁部とも反り気味に外反する口縁部。縁部は、丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	中や赤、1-3mmの石炭を含む。	良好	外面明褐色 内面明褐色	褐色さしい 赤色を帯び 高縁有り
Pa486 1334 139 45	遺構外	茶台	①外側高2.2 ②残存高1.9	縁部外側、口部以上の縁部。縁部は、丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	縁部外側、口部以上の縁部。縁部は、丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	赤、1-2mmの石炭を含む。	良好	内外面淡褐色	
Pa487 1252 149	遺構外		①残存高2.5 ②残存高2.4	唇部、縁部とも外反する。縁部は、丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	唇部外側、口部以上の縁部。縁部は、丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	赤、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色	
Pa488 1273 140	遺構外		①外側高2.0 ②残存高1.0	口部は「ハ」の字状に開く。縁部は、丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	唇部、縁部とも内面はコナメ方向へツギガタ。	赤、砂粒を含む。	良好	内外面淡褐色	高縁有り
Pa489 1861 140	遺構外		①残存高2.2 ②残存高1.5	縁部は、丸くおさめる。縁部は、平らに突出する。内面は、厚肉が厚い。	唇部外側、口部、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。縁部外側ツギガタ。内面、コナメ方向へツギガタ。	赤、1-2mmの石炭を含む。	良好	内外面淡褐色	高縁有り

海表33 出土土器観察表09

遺物番号 出土位置 発掘時期 調査団番号	出土位置	器種	図説 (cm) ①口径 ②底径 ③最大径 ④高さ	形 状	装 飾	土 質	特 徴	出 土 状況	色 調	備 考
Po490 1170 1160 45	遺構外		①11.0 (底径) ②9.0 (底径) ③13.8	内径すぼみ。底縁は、丸くおさめる。縁は、下巻する。脚部は、漸次欠く。縁は、上方から突出する。胎部は細い。	突起、縁部と内径間のコナが若干ある。外側一部はコナがハッキリする。脚部内径はコナがハッキリする。内径、底縁は、底縁をそれた縁部の上と下に4本の平行筋。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色～灰褐色		
Po491 1980 140	遺構外		①22.4 (底径) ②19.8	内径すぼみ。底縁は、丸くおさめる。中や下方におぼろげに突出する。	突起外部、縁部は平行筋。以下はコナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。コナがハッキリする。内径、底縁は、底縁をそれた縁部の上と下に4本の平行筋。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色～明褐色	内面淡褐色	
Po492 1001 104 110	遺構外		①15.4 (底径) ②14.0 (底径) ③15.8	外径すぼみ。口縁部は、肥厚し、丸くおさめる。縁は、下巻する。	突起外部、縁部は平行筋。底、コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色	一部スス付着	
Po493 01 05 110	遺構外		①13.4 (底径) ②14.0 (底径) ③15.8	中や内径すぼみ。口縁部は、丸くおさめる。縁は、下巻する。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色		
Po494 1434 140	遺構外		①13.5 (底径) ②14.0 (底径) ③15.8	外縁すぼみ。口縁部は、肥厚し、丸くおさめる。縁部は、下巻する。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色	赤色塗彩痕あり	
Po495 717 140	遺構外		①10.8 (底径) ②9.4 (底径) ③14.1	中や内径すぼみ。口縁部は、丸くおさめる。縁は、下巻する。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色		
Po496 231 140	遺構外	蓋	①14.4 (底径) ②14.0 (底径) ③15.8	中や内径すぼみ。口縁部は、丸くおさめる。縁は、下巻する。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色		
Po497 30 113 110 45	遺構外	台付鉢	①21.4 (底径) ②19.2 (底径) ③5.6	口縁部が外反する深い底縁の器種に似る。ハの字状に閉じ、縁は、上方から突出する。胎部は、下巻する。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	外表面淡褐色～明褐色	底縁著しい	
Po498 229 141	遺構外	前	①13.0 (底径) ②11.6 (底径) ③9.4	しっかりした胎部から、内径すぼみ。口縁部は、丸くおさめる。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	外表面淡褐色～明褐色	底縁著しい	
Po499 3029 141 45	遺構外	台付鉢	①17.0 (底径) ②15.4 (底径) ③5.6	なるやかに傾斜して立ち上がる胎部。口縁部は、丸くおさめる。胎部は、中や内径すぼみ。縁は、上方から突出する。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色～明褐色		
Po500 1213 141	遺構外		①20.0 (底径) ②18.6 (底径) ③6.2	しっかりした胎部から、外上方へ肉付して立ち上がる胎部。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色	底縁が若干付着	
Po501 1871 141	遺構外	真直	①20.0 (底径) ②18.6 (底径) ③6.2	安定した胎部。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色	底縁著しい	
Po502 1248 141	遺構外		①20.0 (底径) ②18.6 (底径) ③6.2	上げ真縁の胎部。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色		
Po503 1179 141	遺構外	脚台部	①20.0 (底径) ②18.6 (底径) ③6.2	底を上下巻にしたような胎部。胎部は、中や内径すぼみ。縁は、上方から突出する。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色		
Po504 105 106 141	遺構外	コップ形土器	①24.8 (底径) ②21.2 (底径) ③3.1	平底の中や内径すぼみ。口縁部は、外側に肉を付す。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色		
Po505 1551 141	遺構外	実地上部	①24.8 (底径) ②21.2 (底径) ③3.1	胎部によって肉付した胎部から、外上方に肉付する胎部。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色		
Po506 496 141	遺構外	甕	①19.4 (底径) ②18.0 (底径) ③6.2	底を外反する口縁部に、ほぼ直立する胎部をもつ。胎部は、中や内径すぼみ。縁は、上方から突出する。胎部は、横方向に長い筒筒形をなすものと認められる。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色		
Po507 347 141	遺構外		①15.0 (底径) ②14.0 (底径) ③6.2	外縁すぼみ。口縁部は、肥厚し、丸くおさめる。胎部は、中や内径すぼみ。縁は、上方から突出する。胎部は、比較的だんらである。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色		
Po508 369 141	遺構外	甕	①14.8 (底径) ②14.0 (底径) ③6.2	外反無縁に外反する縁口縁。口縁部は、丸くおさめる。胎部は、中や内径すぼみ。縁は、上方から突出する。胎部は、比較的だんらである。	突起外部、縁部は平行筋。内径コナが若干ある。縁部と内径間のコナがハッキリする。	やや硬い。黄砂を含有。	良好	内外面淡褐色		

挿表34 出土土器類表(3)

遺物番号 出土番号 所在地	出土位置	器 種	形 式	要 素	手 法	胎 土	施 成	色 調	備 考		
Po509 402 141	遺構外	築	①11.6 (器) ①11.9 (器)	①11.6 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.6 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器) ①11.9 (器)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部以下内面は、方角ヘラツクスリを付、異化のための金網に磨削不明。	赤、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色	異化がす すむ	
Po510 1143 142	遺構外		①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外外面、胴部ヘラツクスリ。胴部工具による平行沈線、以下ヨコナデメシ、内面右方向ヘラツクスリ。	赤、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色		
Po511 96 142	遺構外		①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外外面、胴部工具による平行沈線の下に異化磨削による平行沈線、以下ヨコナデ後メシメシ、内面右方向ヘラツクスリ。	赤、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色	一重スス 付着	
Po512 129+108 46 142	遺構外		①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外外面、胴部工具による平行沈線の下に異化磨削による平行沈線、以下ヨコナデ後メシメシ、内面右方向ヘラツクスリ。	赤、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色	スス付着	
Po513 109 142	遺構外		①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外外面、胴部工具による平行沈線の下に異化磨削による平行沈線、以下ヨコナデ後メシメシ、内面右方向ヘラツクスリ。	赤、砂粒を含む。	良好	内外面 淡褐色		
Po514 48+38 142	遺構外		築	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)
Po515 111 142	遺構外			①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)
Po516 519 142	遺構外			①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)
Po517 645 142	遺構外		築	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)
Po518 436 142	遺構外			①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)
Po519 359 142	遺構外	①11.9 (器) ①11.9 (器)		①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	
Po520 534 142	遺構外	築	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	
Po521 219 142	遺構外		①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	
Po522 2064 142	遺構外		①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	
Po523 2055 143	遺構外	築	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	
Po524 2051 143	遺構外		①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	
Po525 36 143	遺構外		①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	
Po526 117 143	遺構外	築	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	
Po527 343 143 47	遺構外		①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	①11.9 (器) ①11.9 (器)	

神葬35 出土土器観察表(3)

遺物番号 出土位置 調査年度	出土位置	形状	寸法 (cm) 口径 高さ 最大径 その他	形 態	手 法	土 質	色 調	備 考	
Ps28 53 143	遺構外	杯	①15.0 (腹) ②5.2 ③10.1 (脚)	平皿状底部から外縁まで口縁部 に至る。口縁部は、凸起リス 状。底部と縁部の間に下割 れがあり外方へ傾斜する高さ を配りつける。	外縁は、奥部凹縁の切り、口縁部 にかけてはロコナテ。内縁は、 奥部ソテ。口縁部にかけてはロコ ソテ。	赤、黒か いれを施 わずかに 含む。	良好	内外面 灰褐色 ～灰色	
Ps29 767 143	遺構外	須恵器杯	①口径12.0 ②10.7 (脚)	平皿状の底部から内縁部まで立ち 上がる。口縁部は、内縁部 を施す。	内外面ともソテ。	赤、黒か いれを施 わずかに 含む。	良好	内外面 灰褐色 内面灰 白色	
Ps30 258 143 47	遺構外	須恵器杯	①12.5 ②4.7 ③9.0	平皿状の底部から内縁部まで立ち 上がる。口縁部は、内縁部 を施す。	内外面ともソテ。底部内面ソテ。 内縁部は灰白色。	赤、砂鉄 を含む。	良好	外表面 灰褐色～ 灰白色 内面灰 白色	
Ps31 894 143	遺構外	須恵器片	①残存高さ7.4 ②5.3	口縁部のある状態で、断面した平 皿がつく。内縁部を欠く。	外縁、縁部の2/3を占める口縁部は 下1/3突起のヘクスリス、内面 ヨコナテ。内面ヘラガリ捺ソテ。	赤の粉。 砂鉄を 含む。	良好	内外面 灰褐色	
Ps32 2062 143 47	遺構外	須恵器片	①12.8 (腹) ②2.7 ③4.0 (脚)	丸みのある平底。大きく裂ける傾 斜。口縁部は外反し、縁部には 窪みをつける面をもつ。	外縁は、椅子よう突き目縁のイリ。 内縁は、同心円状後ソテ。中 外に若干の目取がある。縁部は内 縁部の陥しである。	赤、砂鉄 を含む。	良好	外表面 灰褐色 内面灰 白色	
Ps33 136 143	遺構外	須恵器片			外縁は、椅子よう突き目縁のイリ (2mm×1mm)。内面はソテ。	赤、黒か いれを施 わずかに 含む。	良好	外表面 灰褐色～ 灰白色 内面灰 白色	
Ps34 112 143	遺構外	須恵器片			外縁平背のイリ後方半目、内面は、 白成文。	赤、砂鉄 を含む。	良好	内外面 灰褐色	
Ps35 2055 143	遺構外	須恵器片			外縁に、椅子よう突き目後方半目。 内面は、内成文。	赤、砂鉄 を含む。	良好	内外面 灰褐色	
Ps36 749 143	遺構外	須恵器片			外縁は、椅子よう突き目縁のイリ。 内面は行成文。	赤、砂鉄 を含む。	良好	内外面 灰褐色	
Ps37 2082 144	遺構外	須恵器片			外縁は、椅子よう突き目縁のイリ。 内面は、同心円状後ソテ。一 部ソテ。	赤、砂鉄 を含む。	良好	内外面 灰褐色	
Ps38 112 143	遺構外	須恵器片			外縁は、椅子よう突き目縁のイリ 状のソテ。内面は、同心円状。	赤、砂鉄 を含む。	良好	外表面 灰褐色 内面灰 白色	
Ps39 2066 144	遺構外	瓦質土類	①29.3 (腹) ②残存高さ4.5	狭いヨコナテより、外方へ向 た丸みのある底部から、内縁まで 立ち上がる口縁につづく。口縁部 は平反し、平背面をもち、狭い ヨコナテにより、わずかに内縁に 肥厚する。断面内面に割れをもつ。	外縁は、口縁部ヨコナテ。断面に 折れ花形が認められる。内面は、 ヨコナテ。	赤、黒か いれを施 わずかに 含む。	やや不 良	外表面 灰褐色 ～灰白色 内面黒 色	外縁にス ス付着
Ps40 112 143	遺構外	瓦質土類	①29.5 (腹) ②残存高さ7.4	外方へ折れ曲がる底部から内縁 まで立ち上がる口縁につづく。 口縁部は平反し、平背面をもち、 わずかに内縁に肥厚する。断面 内面に割れをもつ。断面は、狭い。	外縁は、口縁部ヨコナテ。断面に 下イテマハ後ソテ。内面は口縁 部ヨコナテ。上縁部、皿下段イ ソテ。ヨコナテが認められる。	赤、黒か いれを施 わずかに 含む。	やや不 良	内外面 灰褐色 ～灰白色	外縁にス ス付着
Ps41 1210 144	遺構外	須恵器片			外縁は、椅子状突き目。内面は、 ソテ。	赤、砂鉄 を含む。	良好	内外面 灰褐色	
Ps42 2066 144	遺構外	須恵器片			外縁に椅子状突き目 (3.5mm×3 mm)、内面にクマヨコのハツ工 突目。	赤、黒か いれを施 わずかに 含む。	良好	外表面 灰褐色 内面灰 白色	
Ps43 2066 144	遺構外	須恵器片			外縁に椅子状突き目 (4mm×4mm) 内面はソテ。	赤、3mm 位の砂鉄 を含む。	良好	内外面 灰褐色	
Ps44 2066 144	遺構外	須恵器片	①27.5 (腹) ②残存高さ5.6	内面縁部に外縁まで立ち上がる 口縁は、上縁部に平背面をもち、 外方へ引き出される。	外縁、内面とも縁部ヨコナテ。	赤、砂鉄 を含む。	良好	外表面 白色 内面灰 褐色 ～灰白色	
Ps45 267 144	遺構外	須恵器片			外縁に緑色の釉が施されている。	赤、砂鉄 を含む。	良好	外表面 緑色 内面灰 褐色	
Ps46 967 144	遺構外	須恵器片	①7.7 (腹) ②残存高さ3.7	わずかに外縁して立ち上がる口 縁。	内外面に緑色の釉が施される。	赤、砂鉄 を含む。	良好	内外面 緑褐色	
Ps47 112 144 47	遺構外	丸瓦				赤、黒か いれを施 わずかに 含む。	良好	表面白 色 内面白 色～黒 色	
Ps53 1208 132 44	遺構外	須恵器片		断面片、断面は大抵部に断面二 角形の上縁の凸部を施す。断面 は、内縁部は、両面縁文が施され、 口縁部の上縁には浅溝、比喩 文にスタンプ文 (連続入組等 文) を施す。	内面は、ヘラノズリ段イロガテ。	赤、黒か いれを施 わずかに 含む。	良好	内外面 灰褐色 外縁に赤 色断面 割れ面 に若干	

挿表36 出土土器観察表32

選別番号	取上番号 押戻番号 国産番号	出土位置	種別	法量 (g)	形態	手法	動上	焼成	色調	備考
Po548 (1)	1774 145 48	S K42	土玉	①2.5 ②0.6	やわいびつな球型。 ほぼ中心に穿孔してある。	手置の成形後ナダ。	密。砂粒を含む。	良好	緑灰褐色 ～灰褐色	黒煙有り
Po548 (2)				①2.7 ②0.7						
Po548 (3)				①0.7 ②0.8						
Po548 (4)				①2.6 ②0.7						
Po548 (5)				①2.7 ②0.6						
Po548 (6)				①2.9 ②0.7						
Po548 (7)				①2.7 ②0.6						
Po548 (8)				①2.5 ②0.6						
Po548 (9)				①2.8 ②0.7						
Po548 (10)				①2.8 ②0.5						
Po548 (11)	①2.5 ②0.6									
Po548 (12)	①2.7 ②0.6									
Po549	1777 145 48	6 E		①2.9	ほぼ球形をなし、一面に凹みが入る。	手置の成形後ナダ。	密。砂粒を含む。	良好	灰褐色	
Po550	1543 145 48	S K27		①2.9	ほぼ球形をなし、一面に凹みが入る。	手置の成形後ナダ。	密。砂粒を含む。	良好	灰褐色	
Po551	572 145 48	6 E	短筒状	①6.4 ②2.4 ③3.3 ④3.4	断面が各形状をなし、相対する2ヶ所に三稜形の凹みが入る。	手置の成形後ナダ。側面に白磁塗層による黒文。	密。砂粒を含む。	良好	灰褐色	
Po551	580 145 48	7 C	穿孔円盤	①2.8 ②0.3 ③0.4	やわいびつな円柱状をなし、中央に穿孔がある。	手置の成形後ナダ。側面に白磁塗層による黒文。	密。砂粒を含む。	良好	黒色	はずみ車か
Po552	1624 145 48	十郎塚02	不明土製品	①3.6 ②0.6	形状をなし、ペルに似た形。つまり上部に穿孔があり、そこから上部に凹みがある。	手置の成形後ナダ。側面に白磁塗層による黒文。	密。砂粒を含む。	良好	内外黄褐色	

挿表37 土製品観察表

①長さ ②幅 ③厚さ ④穴径

番号	取上番号 押戻番号 国産番号	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	材質	備考
			長さ	幅	穴径			
S 1	1594 146 49	8 E	2.79	1.08	—	5.1	ジャスパール	
S 2	1528 146 49	7 D	2.32	1.80	—	7.9	ジャスパール	
S 3	1794 146 49	S K45	2.50	1.29	—	4.1	ジャスパール	
S 4	1445 146 49	6 D	2.65	1.12	—	2.4	ジャスパール	
S 5	1445 146 49	6 F	1.73	1.04	—	2.6	ジャスパール	
S 6	1429 146 49	S K14、75、18	1.93	0.93	—	0.8	ジャスパール	
S 7	1445 146 49	6 D	2.17	1.13	—	2.6	ジャスパール	
S 8	1445 146 49	6 D	2.76	1.55	—	4.8	緑色化した凝灰岩	
S 9	2061 146 49	5 D・E	2.76	1.38	0.16	4.0	緑色化した凝灰岩	穿孔状有り

挿表38 管玉未成品他観察表(1)

番号	取上番号 挿入番号 図版番号	出 産 位 置	計測値 (cm)			重量 (g)	材 質	備 考
			長さ	幅	穴径			
S10	2061 146 49	S D・E	2.65	1.31	—	2.5	緑色化した凝灰岩	
S11	2056 146 49	6 D土壌群	2.56	1.31	—	4.1	緑色化した凝灰岩	
S12	2061 146 49	S D・E	3.27	1.75	—	10.9	緑色化した凝灰岩	
S13	2062 146 49	廃土	3.10	1.24	—	5.3	緑色化した凝灰岩	
S14	2062 146 49	廃土	3.72	1.20	—	5.8	石英安山岩	
S15	2062 146 49	廃土	3.05	1.08	—	4.4	石英安山岩	
S16	2062 146 49	廃土	2.44	1.36	—	4.1	石英安山岩	
S17	2062 146 49	廃土	2.08	1.18	—	4.4	石英安山岩	
S18	2062 146 49	廃土	2.78	1.42	—	3.5	石英安山岩	
S19	1415 147 49	6 D	1.58	0.61	—	1.1	ジャスパー	
S20	2037 147 49	S D・E	0.90	0.63	—	0.4	ジャスパー	
S21	2036 147 49	6 D・E土壌群	1.80	0.81	—	2.4	緑色化した凝灰岩	
S22	2036 147 49	6 D・E土壌群	1.53	0.92	—	1.8	緑色化した凝灰岩	
S23	2062 147 49	廃土	1.15	0.62	—	0.6	緑色化した凝灰岩	
S24	2037 147 49	6 D・E	2.17	0.91	0.10	2.7	緑色化した凝灰岩	穿孔準備痕有り
S25	2062 147 49	廃土	2.36	1.30	—	2.7	石英安山岩	
S26	2062 147 49	廃土	1.27	0.53	—	0.6	石英安山岩	
S27	2062 147 49	廃土	1.17	0.60	—	0.8	緑色化した凝灰岩	
S28	2061 147 49	S D・E	2.33	0.85	0.36	3.1	緑色化した凝灰岩	穿孔準備痕有り
S29	1445 147 49.50	6 D	1.49	0.82	0.30	0.8	緑色化した凝灰岩	両側穿孔
S30	1445 147 49	6 D	1.84	1.02	0.34	3.1	石英安山岩	穿孔準備痕の為の刺突痕

挿入表39 管玉未成品活観察表(2)

番号	取上番号 標記番号 図版番号	出地位置	計測値 (cm)			重量 (g)	材 質	備 考
			長さ	幅	穴径			
S31	2036 147 40	6 D・E土壌群	1.35	0.98	0.24	1.8	石英安山岩	
S32	1412 147 49	7 D	2.22	0.50	—	1.6	ジャスパー	
S33	1636 147 50	7 D	4.14	3.90	0.55	12.6	角閃石安山岩転石	勾玉未成品カ
S34	2061 147 50	5 D・E	2.69	1.74	0.28	1.2	緑色化した凝灰岩	垂飾未成品カ
S35	203E 147 50	6 D・E土壌群	3.10	1.75	0.15	11.4	緑色化した凝灰岩	穿孔痕有り

挿表40 管玉未成品他観察表(3)

遺物 番号	取上番号 標記番号 図版番号	出土地置	類 別	最大径 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	備 考
F 1	1759 149 52	S B 41	刀子	11.40	2.1	0.7	34.7	刃部長は8.2cm以上。斜角面は刃身は反り、土器が付着する。
F 2	957 149 52	土壌群D	針	2.1	1.8	0.7	1.8	基部に、浅い狭入をもつ無頭のもの。
F 3	175 149 52	S D 25	鋸口	4.7	2.3	0.5	7.4	副製品である。
S38	991 148 51	7 D 褐色砂質土中	青銅石類	13.6	3.9	3.5	554	無蓋筒内筒片安山岩製。中央部およびそれに直交する一方にだけに溝が切つてある。溝のない一方の端面は叩き石として転用されている。
S39	1376 148 51	7 C	磁石	15.7	3.4	4.3	556	肉緑瑠璃岩製。内面に敲打痕がみられる。
S40	1395 148	S K 26	?	8.9	3.5	2.5	157	花崗岩質アブライド製。一面に敲打痕がみられる。
S41	1395 148 51	S K 26	磁石	10.80	4.9	3.8	209.5	流紋岩製。断面は7角形をなし、それぞれの面を使用しており、中央が反く凹む。
S42	1841 149 51	8 C	?	15.2	10.3	7.7	1190	角閃石安山岩製。一面のみ使用している。表面は、かなり粗く、気泡と思われるものである。使用面は、強く凹んでいる。
S43	959 149 51	S K 19	?	8.7	3.5	3.6	290	流紋岩製。断面は5角形をなし、それぞれの面を使用しており、中央が強く凹む。

挿表41 鉄・銅製品、および石製品観察表

(※残存品)

出 土 位 置	標 別	取上番号	樹 種	寸 法		備 考
				残存長 (cm)	残存径 (幅) (cm)	
S B 01 P 1	柱根	1781	水楡定	21.5	14.0	
S B 01 P 2	柱根	1549	杉	55.0	15.5	W 3
S B 01 P 4	礎板	2583	水楡定	43.4	5.6	
S B 01 P 4	礎板	2550	水楡定	42.9	7.7	
S B 02 P 1	礎板	1529	水楡定	30.3	7.2	
S B 02 P 1	礎板	1530	杉	21.0	7.8	
S B 02 P 1	礎板	1531	水楡定	15.7	6.5	
S B 02 P 2	礎板	1547	杉	42.5	9.8	
S B 02 P 2	礎板	1542	杉	45.0	11.0	W 5
S B 02 P 3	礎板	1527	水楡定	18.7	4.8	
S B 02 P 3	礎板	1518	水楡定	32.0	8.2	
S B 02 P 4	礎板	1521	杉	22.8	8.2	
S B 02 P 4	礎板	1512	杉	21.5	16.3	
S B 02 P 4	礎板	1515	水楡定	29.5	6.2	

挿表42 柱穴及びピット内出土木製品他一覧表(1)

出土位置	種別	取上番号	樹種	法量		備考
				残存長 (cm)	残存径 (mm)	
S B03 P 1	柱根	1538	杉	38.5	10.0	
S B03 P 2	柱根	1539	杉	32.0	9.5	
S B03 P 3	柱根	1540	杉	31.0	10.5	
S B03 P 4	柱根	1537	杉	35.5	10.0	
S B03 P 5	柱根	1536	杉	37.5	10.0	
S B04 P 1	柱根	1532	杉	14.5	11.5	
S B04 P 2	柱根	1534	杉	58.0	14.7	
S B04 P 3	柱根	試掘 1988年	榎	—	—	
S B04 P 4	柱根	1521	杉	46.0	14.5	
S B04 P 5	柱根	1525	杉	—	—	
S B04 P 5	礎板	1526	杉	30.4	13.5	
S B04 P 5	礎板	1527	杉	27.4	8.5	
S B04 P 6	柱根	1535	杉	45.0	12.0	
S B05 P 1	礎板	2052	未鑑定	28.4	7.5	
S B05 P 1	礎板	2053	未鑑定	30.0	7.5	
S B05 P 2	柱根	2051	未鑑定	32.5	12.0	
P 1	礎板	1533	榎	43.0	8.7	
P 1	礎板	1544	榎	20.2	7.6	
P 1	礎板	1545	未鑑定	40.5	7.8	
P 2	木片	1543	未鑑定	—	—	
P 3	礎板	1513	杉	37.7	5.9	
P 3	礎板	1514	杉	45.5	8.7	
P 3	礎板	1516	未鑑定	41.5	4.5	W 6
P 4	礎板	1522	未鑑定	49.5	4.5	W 7
P 4	礎板	1523	杉	44.9	4.0	
P 4	礎板	1524	未鑑定	51.0	6.3	
P 5	礎板	1519①	未鑑定	22.3	6.0	
P 5	礎板	1519②	未鑑定	12.7	6.0	
P 6	礎板	1520	未鑑定	30.6	11.5	
P 7	木片	1521	未鑑定	—	—	
P 8	礎板	1525	未鑑定	20.5	13.5	
P 9	木片	1526	未鑑定	—	—	
P 10	礎板	1082	未鑑定	40.6	24.0	
P 13	礎板	1078	未鑑定	37.0	5.9	
P 13	礎板	1079	未鑑定	44.6	6.4	
P 13	礎板	1080	未鑑定	54.5	7.5	
P 13	礎板	1081	未鑑定	32.0	9.3	
P 14	礎板	1913	未鑑定	42.2	7.5	
P 14	礎板	1914	未鑑定	40.5	9.0	
P 14	礎板	1915	未鑑定	45.5	8.8	
P 14	礎板	1916	未鑑定	40.0	8.0	
P 16	柱根	1998	未鑑定	30.0	11.0	

挿表43 柱穴及びピット内出土木製品他一覧表(2)

* 樹種鑑定は奈良国立文化財研究所光谷拓実氏による。但し、S B04 P 3のみは、築山段帯で出土したもので、鳥取県工業試験場研究員佐藤公彦氏の鑑定による。

第4章 まとめ

第1節 遺構について

弥生時代後期～室町時代に至る遺構が確認できた。その内訳については、第2章第1節で述べた通りである。ここでは、遺構数の多い弥生時代のものについて概観する。弥生時代の遺構は後期のものに限られる。遺構はその検出面から新旧の2時期に分けられる。新時期のものは、青灰褐色砂質土で、旧時期のものは青灰色粘質土上面で検出した。新時期の遺構の数は少なく、S D 08～12、S K 49である。ただし、新時期の遺構の検出が、青灰褐色砂質土中で出来ず、下層の青灰色粘質土上面で検出できた場合も考えられるので、新時期の遺構が若干増える可能性もあるが、総じてその数の変動は少ないものと思われる。まず、旧時期の遺構について概観する。土壌は平面形・断面形・主軸とも様々であり、規則性は見い出せない。埋土に着目すると、炭片を多量に含むものと、炭片をバラバラと混入するものがある。前者の土壌は、炭片の集積する層がレンズ状もしくは帯状に堆積しており、白っぽい灰・炭化した種子・骨片状のものを含んでいる場合もある(以下この層を「炭層」と呼ぶ)。炭層の上層、



挿図151 弥生時代(旧)遺構配置図

下層には炭片をバラバラと混入する埋土が堆積していた。炭層をもつ土壌の場合、土器は炭層内もしくはそれより上層で出土する点数が、炭層より下層で出土する点数より圧倒的に多い。土器は内面を上に向けて出土したものが多く、破片の状態のものが多かった。復元の結果、異なる土壌の土器片の接合が見られた¹⁾。また、全てを復元できる個体はなかった。以上の観察より炭層をもつ土壌は、土壌の中に何らかのものを入れた後、火を燃やしたものであると思われる。土器は既に破砕されたものが、火を燃やす前か、火を燃やした後に入れ込まれたと考える。炭層をもつ土壌の中で特異なものはS K 34である。断面で板状の木が出土し、木棺墓の可能性をもつ。炭層をもたない土壌は、炭層をもつものに比べてその数は少ない。土器が上層で出土しているもの、底面近くで出土しているものがある。弥生時代の旧時期の遺構は溝によって区画された4つのグループに分けることができる(挿図151)。Aグループに属するものは、土壌、溝、ピットである。P 1、P 2からは礎板状の木が出土したことから礎物礎があった可能性がある。土壌はほとんどが炭層をもつものである。Bグループは土壌、溝、掘立柱建物跡(S B 01～04)、ピットが属する。土壌はAグループのもの

同様に炭層をもつものが多い。Cグループは、土壌と掘立柱建物跡によって構成される。土壌は炭層をもつものが多い。DグループはSD05・06の内側にあり、ピット・土壌で構成される。P9・10・13・14からは礎板状の木、P12では炭と火を受けた痕跡を残す石、P15では、小孔が数ヶ所に穿たれた緑色の凝灰岩（玉材）が出土した。P11には、炭と径5mm程度の砂利がびっしりとつまっていた。土壌は全て炭層をもたないものである。SD05・06の内側には何らかの建物があった可能性がある⁽²⁾。新時期の遺構は調査区の南側のみで検出された。この内、SD09・11は調査区の南端で環状にのびてゆく。調査区内では環状の溝の内側にピット等は検出できなかったが、溝で区画される部分（円）の中心が調査区域外にあることを考えると、旧時期のSD05・06と同様の溝であると考えられる。SD09埋土中より内行花文鏡片が出土している。弥生時代の遺構から出土した遺物のうち注目されるのは、スタンプ文施文土器、玉未成品、鏡片である。スタンプ文施文土器を出土した遺構は、SD05・06・07、SK10・11・19・23・38、土器群02・04・06、土器溜り02である。いずれも遺構のグループを区画する溝やグループの境界付近での出土である。玉未成品は、SB02の上層、SK05～09辺り、SK14～16、SK46で第3工段（後述—第3章）以後のものが出土している。図化はしていないが、SK05～16辺りで荒割り時の剥片、SK14内で明らかに火を受けている玉材（凝灰岩質砂岩）が出土している。これらの土壌は全て炭層をもつものである。鏡片は上記のようにSD09からの出土である。玉未成品や玉材の出土から玉作工房が調査地内にあったことは充分に考えられる（第3節で詳述）。検出された遺構の内、工房としての可能性をもつものは、掘立柱建物跡か何らかの建物の存在が考えられるSD05・06（SD09・11）の円の内側である。さらに炭層をもつ土壌も何らかの形で玉作りに関係していたのではないかとと思われる。これは全く推測の域を出ないのであるが、SK14内で火を受けた玉材、SK05～16の辺りで荒割り時の剥片が出土していることを考えれば、土壌内で玉材を加熱→急冷することで、玉材に亀裂を生じさせ荒割りをやりやすくしたものではないかと思われる⁽³⁾。土器は玉材がこげつきや変色を必要以上におこさせないための下敷きであったと考えることもできる。スタンプ文施文土器が、遺構群の境界付近及び区画の溝で出土したことは、スタンプ文という「祭紋」⁽⁴⁾で玉という呪術的なものを生産する場所を守るという意識が当時の人々にあったことを物語っていると思われる。いかにいえば、スタンプ文施文土器に斎串的な役割りを担わせたのであろう。このことは、SD09から鏡片が出土したことにも通じるものではないかと思われる。

註1) SK24とSK25・SK31・土器群04、SK25とSK26・SK31、SK26とSK31。その他SB03柱穴内出土土器とSB05柱穴内出土土器が接合（P0440）した。

(2) Cグループは南・東・北に、Bグループは西に、Aグループは東→北東にさらに、調査区域外へひろがるものであると思われる。

(3) 加藤晋平・鶴丸俊明共著『図録石器の基礎知識Ⅱ』柏書房 1980年でインディアンの石鏡作り例が紹介されているが、国内の遺跡で確認された例は知らない。

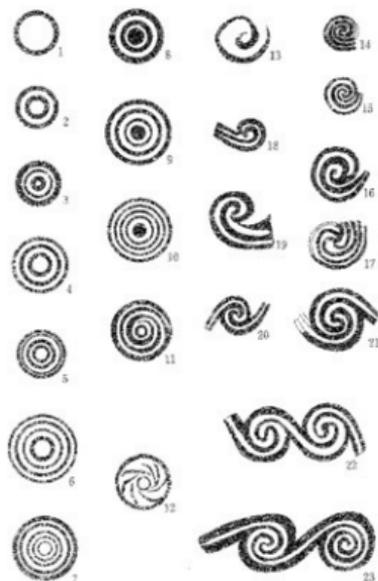
(4) 第2節註2)

第2節 弥生土器のスタンプ文について

今回の調査で出土した弥生土器にスタンプ文が施されているものはいくつかあったので、スタンプ文の形式、施文パターンについて概観しておく。スタンプ文が施される土器は、壺形土器、壺形土器、器台形土器、注口土器である。土壇・土器溜り・溝状遺構・土器群で出土した。

1. スタンプ文の形式

スタンプ文の形式分類については、名越勉・甲斐志彦両氏によって1973年におこなわれている¹³⁾。その中で両氏は、渦文・同心円文の類をA；単体の渦文で渦の外周がきつすぐに延びるもの、B；連続渦文、C；同心円文を斜線で連結して連続渦文に擬したものの、D；S（またはZ）字状渦文、E；同心円文に大別整理している。そしてスタンプ文産文土器の分布と時期を概観した後、D類スタンプ文と特殊章の分布の重なりから、弥生時代末ないしは古墳時代初頭における瀬戸内、山陰、北陸の葬送にともなう祭祀の類似性を説き、弥生期古墳の様相の究明への見通しをたてている。以後の研究は、両氏の分類を基礎として、資料追加、粗別し、その出自及び弥生終末期の祭祀について論じたものである。ここで、今回の調査で確認できたスタンプ文について、まずその形式分類を試みる。スタンプ



押図152 スタンプ文の形式

文の番号は、押図152中の番号である。図は陰刻部分を黒で表した。①同心円分類(1～10)、②渦文類(11、13～23)、③風車文(12)がある。今回の調査では、鳥形文、鋸歯文、名越・甲斐分類のA・C類は出土していない。又、浮文による施文はなく、全て型押しによるものである。以下の記述は①③については、陰刻部分(図の黒部分)、②は隆の部分(図の白部分)の文様をもって表現する。

①同心円文類

1重の円文から5重の円文を見せるものまである。名越・甲斐分類のE類に当たる。今回の調査で確認できたスタンプ文の中で、一番多くみられるものである。最も内側の円の中心部が凸円状になるもの(1～7)と凹円状になるもの(8～10)がある。押図44～45では、凹円状になる同心円文を「3重+●」と表した。凸円状になるもの内、3重圓～4重圓のものは、大・小の2種類がある。器台形土器受部・群台部、壺形土器胴部、壺形土器肩部、注口土器胴部・注口部に1列から3列で横方向に連続して施される。

②渦文類

a 〈陰刻渦文〉 1本の線が渦状に巻くものである。渦の中心部は円文となり、渦の外周は延びて行かない(11)。横方向に連続して施される。

b 〈J字状渦文〉 名越・甲斐分類のD類に属すると思われるが、渦が1つしかなく、S(Z)字状にならないものである(13~17)。13以外は単純な渦ではなく、2~4本の線が入り組んで同じ方向に出ていく。渦



挿図153 出土特殊壺実測図

からはなれて直線的に出てゆくもの(18・19)と渦に沿って出てゆくもの(13~17)がある。18と19は渦の巻き方が逆である。18は縦位で連続して、19は横位で連続して横方向に施される。14~16はほぼ同じ形であるが、16は2本の線の外側を回る1本の渦が中心部まで至らない。14・15は2本の線が渦の中心部で入り組む。17は、4本の線が入り組む。13は線が1本である。

c 〈入組渦文〉 2本の線が渦状に中心部で入り組み、それぞれの線が逆方向に出てゆくもの(20・21)である。20と21は渦の方向が逆であり大きさが異なる。20は器台形土器の受部と脚台部に横位に連続して施されるものと、縦位に連続して施されるものがある。21は、壺形土器と思われるものの胴部に、横方向に連続して施される。

d 〈連続入組渦文〉 名越・甲斐分類のB類に当たる。cが単体のものであるのに対し、cが2つ連続した状態のものである(22)。

e 〈連続(入組渦文+陰刻渦文)〉 名越・甲斐分類のB類に当たるとと思われる。cとaが連結した状態で1単位になっているものである。ただし陰刻渦文部の中心には、円文をもたない。

③風車文

2重線の同心円文の外円と内円との間に、棒状の線が7本風車状に巻いているものである(12)。

2. スタンプ文の施文パターン

壺形土器(Po26・112・208・209・302・395・415・457)の場合スタンプ文が施されるのは胴部である(Po378のみ底部に施文される)。1~3条の沈線で上下を区画して施文帯を設け、そこに1列から2列で横方向に連続して型押しされる(ただしPo112は、スタンプ文の下に沈線が施されない)。施文帯は、ひとつの土器に1つから3つに施けられる。スタンプ施文帯の上下は、ほぼ例外なく、貝殻覆縁を用いた連続した刻み目文が向かい合うように施される。スタンプ文の施文方向は、胴部最大径より上位に施文される場合は、正面からみて、原体が右から左へと動く。胴部最大径より下位に施される場合は、原体の動きは左から右である。

器台形土器(Po354~356・361・440・494)の場合は、受部か脚台部の複合口縁状を呈している部分の外側に施文される。器台形土器の場合も、1条から数条の沈線を上下もしくは上だけに施すことによって、施文帯を設け、そこに1列で横方向に連続して施文される。施文帯は1つである。Po440の場合は、円文の間を波状文で飾る。原体の動きは、受部は左から右、脚台部は右から左である。スタンプ文が施される器台形土器は、胴部がかなり短縮したものであり、弥生最終末期の様相を示

す土器である。

壺形土器の場合、特殊壺と旨われるPo555は、胴部に2状の断面三角形を呈する突帯を張り付けその上下に連続入組渦文を施す。張り付け突帯の間は上下対称の2列の刻み目文が施される内面はヘラケズリのあと磨く(挿図152)。直口壺(Po455)には肩部に3重圏の同心円文を横方向に連続して施す。上下にはそれぞれ2条の沈線が施される。沈線の上下は、貝殻腹縁による刻み目文が施される。

注口土器(Po458)の場合には、注口部の付け根に3重圏の同心円文が1列、胴部上半～頸部にかけて4重圏の同心円文が2列で横方向に連続して施文される。後者の場合、沈線によって施文帯が2つ設けられる。

3. 小結

以上出土したスタンプ文の形式、施文パターンについて概観した。連続入組渦文、連続(入り組み渦文+陰刻渦文)はまさしく銅鐸の渦巻文と同じものである。連続入組渦文の分割されたものが、単体の入組渦文であり、横位で連結させるように施文され、連続入組渦文の様に連続させる意識があるものと、連続させる意識なく縦位に施文されているものがある。連続(入り組み渦文+陰刻渦文)の右半分だけが分割されたものが陰刻渦文である。J字状渦文は、線対称か点対称に並べれば、2倍1単位で連結するのであるが、連結させる意識無しに、同方向に型押しして連続施文している。銅鐸の文様にみられる連続入組渦文、連続(入り組み渦文+陰刻渦文)が渦文類のスタンプ文の本来的な文様であるとすれば、陰刻渦文、単体の入組渦文はその分割されたものであり、さらにその両者の文様が、省略されると同心円文として表現されるのではないかと思われる。J字状渦文については、入組渦文を連続させる意識が全くなくなったものなのか、それとも別の意匠をもつものなのかは分からない。

スタンプ文施文土器の県内出土例は、報告書で調べることが出来た範囲であるが、15遺跡・30個体を確認することが出来た(挿表46)。同心円文類のものが一番多い。出土した遺構を見ると、土壇3例、貯蔵穴1例、竅穴住居6例、溝状遺構1例、土器溜り1例、四隅突出型埴土墓1例である。今回の調査では、50個体以上出土しており、県内例をはるかに越える数字である。「祭紋」⁽²⁾であるスタンプ文施文土器が数多く出土したことと特殊壺が出土したことは、秋重遺跡の性格を強く物語るものである。

註(1) 名越敏・伊東忠彦「スタンプ施文土器の新例」(『考古学雑誌』第57巻 第4号 1972年)

(2) 今里兼次「櫻鹿弥生式土器の動脈」(『考古学研究』第16巻 第1号 1972年)

遺構名	器種・施文場所	スタンプ文	スタンプ文径	挿入	上巻番号
SK10	壺形土器 胴部	同心円文 (3重)	8mm	4	Po26
〃	〃	同心円文 (3重)	16mm	4	—
SK11	〃	同心円文 (2重)	7mm	2	—
SK19	〃 ?	了字状渦文 (丸、1本)	8mm	13	—
SK23	〃	同心円文 (3重)	7mm	3	—
SK38	〃	同心円文 (4重+●)	11mm	10	Po112
SK45	〃	了字状渦文 (丸、2本)	6mm	14	—
土器群02	〃	了字状渦文 (丸、2本)	9mm	16	—
SD05	器台形土器 受部	同心円文 (3重)	9mm	4	—
〃	壺形土器 胴部	了字状渦文 (丸、2本)	8.5mm	16	—
SD06	〃	同心円文 (5重)	7mm	3	Po208
〃	〃	同心円文 (3重)	10.5mm	11	Po209
SD97	壺形土器? 胴部	円文	8mm	1	—
土器群02	壺形土器 胴部	同心円文 (3重)	7mm	3	—
〃	〃	同心円文 (3重)	9mm	4	—
〃	〃	同心円文 (3重)	9mm	4	Po302
〃	〃	同心円文 (4重)	9mm	5	—
〃	〃	了字状渦文 (丸、2本)	8mm	14	—
〃	〃	同心円文 (3重+●)	12mm	9	—
〃	器台形土器 受部 脚台部	入組渦文	7mm	20	Po354
〃	〃	入組渦文	7mm	20	Po356
〃	〃 受部	同心円文 (3重)	9mm	4	Po355
〃	〃 脚台部	同心円文 (3重)	7mm	3	Po361
〃	壺形土器 胴部	同心円文 (2重)	6mm	2	—
〃	器台形土器 脚台部	同心円文 (2重)	6mm	2	—
〃	〃 受部	同心円文 (5重)	11mm	7	—
〃	〃	同心円文 (3重)	9mm	4	—
〃	底面	了字状渦文 (丸、2本)	6.5mm	15	Po378
土器群04	壺形土器 胴部	了字状渦文 (丸、2本)	5mm	16	Po395
土器群06	〃	風車文	9.5mm	12	Po415
土器群07	〃	同心円文 (2重)	7mm	2	—
遺構外	壺形土器 胴部	同心円文 (3重)	7mm	3	Po455
〃	〃 ? 口縁部	連続 (入組渦文+渦文)	9mm・9mm	23	—
〃	特殊形 胴部	連続入組渦文	10mm	22	Po555
〃	壺形土器 胴部	同心円文 (2重)	7mm	2	Po457
〃	〃 ?	同心円文 (3重)	9.5mm	4	—
〃	〃 ?	了字状渦文 (丸、2本)	8mm	16	—
〃	〃 ?	了字状渦文 (3本)	11.5mm	19	—
〃	〃 ?	同心円文 (3重)	7mm	3	—
〃	〃	同心円文 (3重)	7.5mm	3	—
〃	〃	同心円文 (3重)	9.5mm	4	—
〃	〃	尚必円文 (3重)	10mm	4	—
〃	〃	同心円文 (3重)	7mm	3	—
〃	〃	同心円文 (2重)	7mm	2	—
〃	〃	同心円文 (5重)	10mm	4	—
〃	〃	同心円文 (3重)	7mm	3	—
〃	〃	同心円文 (2重+●)	11mm	9	—

挿表44 秋里遺跡スタンプ文施文土器一覧表(1)

遺構名	器種、施工場所	スタンプ文	スタンプ文径	挿印	土器番号
〃	楕形土器 胴部	同心円文(3重)	6mm	3	—
〃	〃	同心円文(3重)	10mm	4	—
〃	〃	入組渦文(丸)	10mm	21	—
〃	〃	了字状渦文(丸、5本)	8mm	17	—
〃	注口土器胴部へ頸部注口部	肩部へ頸部同心円文(4重) 注口部 同心円文(3重)	8.5mm 7mm	5	Po458
〃	菊台形土器 頸部	連続入組渦文	8mm	22	Po494
〃	〃	同心円文(4重)	11mm	6	—
〃	〃	減文	11mm	11	—
〃	〃	同心円文(3重)	7mm	3	—
〃	〃	入組渦文(タテ)	7mm	19	—
〃	〃	連続(入組渦文1渦文)	9mm 9mm	22	—
〃	不明	了字状渦文(3本)	9mm	18	—

挿表45 秋里遺跡スタンプ文施文土器一覧表(2)

遺構名	所在地	器種	出土遺構	図号	報告書名
大形遺跡	巨勢町	壺形(胴部)	S K13	同心円文(4重④)	『大形遺跡』: 鳥取市教育委員会1979.3
西野遺跡	鳥取市	壺形(胴部)	西野出土壺形遺構	同心円文(2重)	『西野見遺跡』: 鳥取市教育委員会1981
岩古遺跡	鳥取市	壺形(胴部)	S K6e	同心円文(3重)	『岩古遺跡』: 1983鳥取市教育委員会
丸形遺跡	鳥取市	壺形(胴部)	遺構外	同心円文(3重)	『丸形遺跡』: 1983鳥取市教育委員会
山崎遺跡・天神山遺跡	鳥取市	壺形(胴部)	遺構外	同心円文(3重)	『山崎遺跡発掘調査報告』: 鳥取市教育委員会1981
栗谷遺跡	鳥取市	壺形(胴部)	S X61(上層部)	同心円文(2重)	『栗谷遺跡・天神山遺跡調査報告』: 鳥取市教育委員会1982
中塚遺跡	倉吉市	不明	24号注口部	同心円文(3重)、了字状渦文	『中塚遺跡発掘調査報告』: 鳥取市教育委員会1983
〃	〃	不明	遺構外	減文、鳥形文	『中塚遺跡発掘調査報告』
〃	〃	不明	遺構外	同心円文(3重)、了字状渦文	『中塚遺跡発掘調査報告』
〃	〃	不明	遺構外	同心円文(3重)、了字状渦文	『中塚遺跡発掘調査報告』
〃	〃	不明	遺構外	同心円文(3重)	『中塚遺跡発掘調査報告』
大形遺跡	倉吉市	壺形(胴部)	短穴注口部4号	減文	『大形遺跡発掘調査報告』: 倉吉市教育委員会1980
水俣7号竪穴遺跡	栗田町	壺形(胴部)	竪穴注口部6号	円文、連続入組渦文④	『水俣7号竪穴遺跡発掘調査報告』: 鳥取市教育委員会1982
〃	〃	壺形(胴部)	竪穴注口部11号	同心円文(2重)	『水俣7号竪穴遺跡発掘調査報告』: 鳥取市教育委員会1982
上塚5号遺跡	大塚町	壺形(胴部)	中塚2号	円文	『上塚3号竪穴遺跡発掘報告』
〃	〃	壺形(胴部)	中塚10号	同心円文(2重)	『上塚3号竪穴遺跡発掘報告』
〃	〃	壺形(胴部)	中塚10号	同心円文(3重)	『鳥取市東部大形町教育委員会1985.3』
由良遺跡	大塚町	壺形(胴部)	トロンテ	同心円文(2重)	『由良遺跡発掘調査報告』: 鳥取市教育委員会1976.3』
長瀬高武遺跡	岩手町	壺形(胴部)	遺構外	円文	『長瀬高武遺跡発掘調査報告』
〃	〃	壺形(胴部)	遺構外	同心円文(2重)	『長瀬高武遺跡発掘調査報告』
〃	〃	壺形(胴部)	遺構外	同心円文(2重)	『長瀬高武遺跡発掘調査報告』
〃	〃	壺形(胴部)	遺構外	同心円文(2重)	『長瀬高武遺跡発掘調査報告』
八重高3号遺跡	中山町	壺形(胴部)	S 1-03	同心円文(3重)	『八重高3号遺跡発掘調査報告』: 鳥取市教育委員会1982.3』
〃	〃	壺形(胴部)	遺構外	入組渦文	『八重高3号遺跡発掘調査報告』: 鳥取市教育委員会1982.3』
〃	〃	壺形(胴部)	遺構外	連続入組渦文	『八重高3号遺跡発掘調査報告』: 鳥取市教育委員会1982.3』
〃	〃	壺形(胴部)	S S-162	連続渦文	『八重高3号遺跡発掘調査報告』: 鳥取市教育委員会1982.3』

※報告書名、器種、出土遺構、図号は、調査報告書に記載されているものを示していることと相違ない。

挿表46 県内スタンプ文施文土器出土遺跡一覧表

第3節 管玉未成品について

古代玉作生産遺跡は、日本海グリーンタフ地帯という玉材産地の存在を背景に、日本海側を中心に分布している。鳥取県内においても現在までに玉作生産に関すると思われる遺跡が数多く見つかっており、1980年度には鳥取市布勢第2遺跡⁽¹⁾、東伯郡羽合町長瀬高浜遺跡⁽²⁾、同大栄町西高江遺跡⁽³⁾の3遺跡で玉作工房が県内で初めて確認された。これらはいずれも弥生時代のものであり、その他の玉作関連遺跡もほとんどが弥生時代のものである⁽⁴⁾。県内で確認された玉作関連遺跡の中で、特に長瀬高浜遺跡では弥生時代前期の玉作工房跡が確認されており、現在のところ弥生時代最古のものである。鳥取県東部地方においては、前述の布勢第2遺跡のほか湖山第2遺跡⁽⁵⁾、帆城遺跡⁽⁶⁾など湖山池周辺地域において未成品が出土しており、玉作集団の存在が推定されている。秋里遺跡では今回の本調査に先行して行われた試掘調査⁽⁷⁾でジャスパーが出土しているが、明らかに玉作に関係するといえるものではなかった。しかし今回の調査で、弥生時代後製後集の土器に伴って管玉未成品のほか多数の剣片が出土し、玉作工房の存在する可能性がでてきた。よって今回出土した資料をもとに、管玉製作工程と玉作工房の存在について考えてみたい。

1 石材

今回出土した管玉未成品はその材質から、ジャスパー（碧玉）、緑色化した凝灰岩（以下緑色凝灰岩と略す）、石英安山岩の3種類に類別できる。ジャスパーについては、深い緑色をしたものと淡い緑色をしたものの2種類あるが、材質の点では1種類として扱うことにする。また未成品は出土していないものの明らかに管玉製作に用いようとしたと考えられる凝灰質砂岩がある。これらの中で産出地から持ち込まれた状態に近いものとして、緑色凝灰岩と凝灰質砂岩の2種類の石材（挿図154）がそれぞれ1点ずつ出土している。この2点には自然面が2面しか残っておらず、原石というより荒削り工程の段階にあるものである。その大きさは緑色凝灰岩が長さ15.5cm、幅10.3cm、厚さ5.9cm、重さ1.2kg。凝灰質砂岩は長さ12.8cm、幅10.3cm、厚さ5.8cm、重さ1.1kgあり、実際に持ち込まれた時点での大きさは不明であるが、おそらくこの数値に近いものが原石として持ち込まれたのではないだろうか。ジャスパー、石英安山岩についても同様に考えたいが、この2種類の石材については全てが形割り工程以後の段階または剣片の状態でも出土しており、現段階では明らかにできない。

これら石材の産出地として、淡い緑色をしたジャスパーについては、鳥取砂丘に近接する多鶴ヶ池東側の露頭で産出されることが知られている。緑色凝灰岩、石英安山岩についても、近辺の産地から原石を持ち込んだものであろうと思われる。しかし、深い緑色をしたジャスパーについては、近辺の産出地から持ち込まれたと考えるより、島根県など他地方から搬入された可能性が高く、日本海側に広く分布する弥生時代の他の玉作遺跡との関連が考えられる。

2 製作工程

管玉の製作工程については、形割り工程以後の調整の違いから、いくつかの技法が提唱されている。

鳥取県内についてみると、清水真一氏が前述の布勢第2、長瀬高浜、西高江のそれぞれの遺跡から出土した未製品をもとに「布勢技法」、「長瀬高浜技法」、「西高江技法」の3技法を設定されている¹²⁾。これら既に述べられている管玉の製作技法を参考にしながら、今回秋屋遺跡で出土した未製品について、その技法をみていくことにする。今回の調査では管玉の完成品は出土しておらず、また緑色凝灰岩製のものは、角柱管玉を製作しようとしている違いはあるが、その工程は管玉の製作と同じであり、完成品も含めるとその製作工程を6段階に分けることができる。以下に順を追って見ていく。



挿図154 穿孔痕のある荒削り工程品

(1)第1工程

原石を打撃によって分割する荒削り段階である。この段階を示す資料としては、石材でもふれたように、緑色凝灰岩、凝灰質砂岩の2点がある。この段階では原石を打撃によって分割し平面面を作成している。ここで得られた平面面を利用して、次の段階からの形削り工程を行ったものであると考えられる。またこの段階で得られた割片の中で、形削りをしなくても管玉製作に使用できるものは、そのまま後の段階で利用されたと思われる、第3工程の未製品に、断面が不整形となるものがある点からも考えられる。

(2)第2工程

前工程で得られたものを細かく分割していく形削り段階である。この段階を示す資料は固化していないが数点出土している。それらの大きさは長さ9~10cm、幅5~7cm、厚さ3~4cmのもので、第1工程によって得られたものを大体半分にした大きさである。ここからさらに分割していくのであるが、この段階では細かく分割するために擦り切りによる施溝分割の技法を取る例がある。しかし秋屋遺跡においては、施溝分割の技法を用いた痕跡を残したものがなく、出土しなかったと考えられるよりも、むしろ施溝分割をせず、打撃のみにより細かく分割したものとされる。この工程において筆者の知る限りでは、他の玉作遺跡に見られない例として、第1工程によって得られた玉材の平面面に、深さ1mm程度の小孔を穿っているものがある(挿図154・図版50、S44)。この段階で穴を開ける理由として以下のことが考えられる。

- ①採取した原石が、管玉製作に使用できるかどうかを確認するためのテストピット¹³⁾。
- ②台石。
- ③細かく分割する際の割り付けを意図するもの。

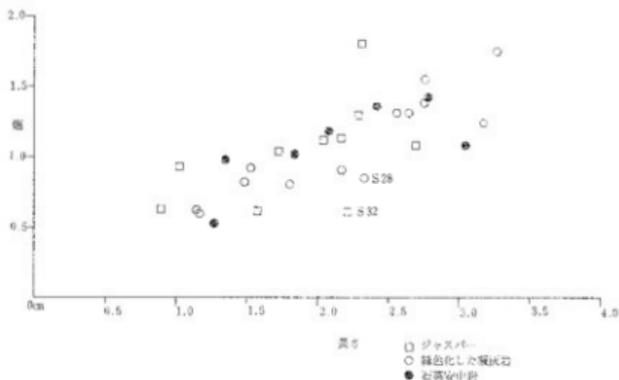
①に関して、テストピットであるならば、平面面の同じ様な場所に複数個も必要なく、また緑色凝灰岩については、他に完成品が出土していることから、小孔を穿たなくとも管玉製作に使用できることは明かであったと思われるため、テストピットである可能性は少ない。

②に関しては、管玉に穿孔する際の台石であるのであろうが、小孔のある面は平坦面であっても、その面は人工的に作られたものであり、また台石として安定するものではない。

③に関しては、島根県西川津遺跡において、形割工程の薄い板に割り付け線を入れ、それに従って擦り切り溝を入れる例が紹介されている¹⁰⁾。秋里遺跡においては施溝分割はしていないものの、第3工程の未成品の中で、その端部平坦面の角に、同じ様な小孔があるものがあり(S9)、これらの小孔を割り付けの目安として、打撃分割を行った可能性が考えられる。

(3)第3工程(挿図146 S 1~18、図版49)

前工程で細かく分割されたものを、四角柱状に加工する段階である。この段階では石材により、調整の方法に若干の相違がみられる。ジャスパーについては、用いられた技法が押圧剥離および間接打撃であるのに対し、緑色凝灰岩、石英安山岩については、押圧剥離による明かな調整痕がなく、ほとんど間接打撃によるものか、あるいは、第2工程による形割段階からすぐに第4工程の研磨に段階が移行したものと思われる。この際問題となるのは、緑色凝灰岩、石英安山岩の中に板状未成品がみられる点である。前述の清水氏によると「(弥生時代)後期に入ると、……施溝技法は原則として板状未成品にのみ用いられるように変化する¹¹⁾」とされており、第2工程と同様に、この段階においても擦り切り施溝の痕跡は認められないものの、板状未成品の存在から、第2工程以後に、擦り切り施溝による分割が行われていた可能性もある。ここで管玉未成品の大きさについてみてみる。管玉未成品の大きさは、角柱管玉を含め第5工程以前のものを挿図155に示した。出土点数が少ないという問題点もあるが、図に示したように長さ×幅の関係は、長さ×幅=2:1でほぼ一定しており、この数値を一つの目安として、形割を行い、さらには第4工程からの調整を行ったと考えることができる。また、図に示したものの中でS28、32は第5工程に含まれるもので、それぞれ角柱管玉と管玉の完成品に近いものであると判断されるもので、最終的にはこの程度まで研磨された



挿図 155 管玉未成品長幅相関図

可能性もあるが、完成品が出土していない現時点においては明確なものではない。

(4)第4工程 (押図147 S19~27、図版49)

四角柱状の未成品を研磨によって、多角柱から円柱化していく段階である。研磨の段階には、4角→8角→16角といった規則性はみられず、単に稜を落として円柱に近くしていったようである。研磨の丸向についてはヨコ方向がほとんどで、タテ方向および右上がりの斜め方向が少数例ある。このことは、緑色凝灰岩製のものが角柱管玉であること。また、玉磁石に用いられたと思われるもので、筋砥石は出土しておらず、平砥石のみが出土していることからもうかがうことができる。この段階では両端面も研磨によって平坦面を作出しており、長さ調節も行ったことがわかる。また、この段階において既に穿孔準備⁽¹²⁾をしたと思われるものが1点ある(S24)。この1点は端面の中心に穿孔しようとしており、第2工程でふれたもの(S9)とは、明らかに区別されるものである。さらに、研磨の状態が第5工程にあるものと比べ不十分であるため、第4工程に入るものと判断した。

(5)第5工程 (押図147 S28~31、図版49)

穿孔を行う段階である。穿孔は両側穿孔されたと考えられるが、穿孔に先立って、錘の振れを防止するための穿孔準備が行われている。河村好光氏は、石川県二子塚遺跡⁽¹³⁾出土の管玉未成品をもとに、「穿孔直前にあらかじめ小痕を付して銅ブレを防ぐ……技法」と紹介されており(「二子塚技法⁽¹⁴⁾」)、置田善昭氏はこの穿孔準備と穿孔とを別の工程とされている⁽¹⁵⁾。秋黒遺跡においても、穿孔準備と穿孔とは別工程として扱うべきであるかも知れないが、出土点数が少なく、また、片側ではある程度の深さまで穿孔してあるものの、もう一方には、穿孔準備の前段階とでも言える小さな刺突痕のあるもの(S35)があり、穿孔準備と穿孔とは、ほぼ同一段階にあると判断した。今回の調査においては、穿孔に用いた玉錘は出土しておらず、また穿孔技法も不明ではあるが、穿孔途中のものをみると、その穴の径が0.34~0.36cm。錘の先端の太さを推定できる穿孔準備のもので0.12~0.16cmであり、ほぼ円柱となっているS32の直径が0.6cmであることを考えると、かなり高等な技術を要したことがうかがえる。この第5工程において、以上のように穿孔準備および穿孔が行われるのであるが、ジャスパーについては、穿孔準備、穿孔とも行われているものが出土していない。ここでも第3工程と同じように石材による相違がみられ、角柱管玉を製作しようとした緑色凝灰岩は別としても、同じ管玉を製作しようとした石英安山岩は、面がかなり残された状態で穿孔が行われているのに対し、ジャスパーでは、ほぼ円柱化された状態で穿孔を行ったものと考えられる。

(6)第6工程

最終的な研磨を行い完成させる段階である。角柱管玉およびジャスパー製の管玉については、前工程ではほぼ形が整えられているため、表面に光沢を出すための磨きが行われたものと思われるが、石英安山岩製の管玉については、穿孔の段階で面がかなり残されており、この最終工程においても、かなり研磨する必要がある。この石英安山岩製のものについては、第5工程と最終工程である第6

工程の間に、あらためて研磨する工程を設定してもよいかもしれない。

(7) 工具

管玉等の製作に明らかに用いられたと思われる工具は残念ながら出土していないが、その可能性のあるものとして、各工程ごとにみていくと、以下のものが未成品とほぼ同じ場所出土している。

① 敲石 (挿図147 S39・40、図版51)

閃緑岩製 (S39) と花崗岩質アブライト製 (S40) の2点があり、荒削の際の打撃に用いられたと考えられる。

② 不明石製品 (挿図147 S36、図版50)

ジャスパー製で側面はかなり鋭利となっており、上端部には明らかに擦った痕跡を残す溝がある。施工分割を行っていたのであれば、その溝を切る際に用いられたとも考えられるが、緩やかに湾曲していることから、砥石的な要素もあると思われる。

③ 剣片石器 (挿図147 S37、図版50)

透明度の高い石英製で自然剥離ではなく、人工的に割られたと考えられるものである。押圧剥離に用いられたと考えられるが、長瀬高浜遺跡においては黒曜石の剣片を、石炭代わりに使用したと考えられている⁽¹⁰⁾。

④ 砥石 (挿図147 S41・43、図版51)

3点出土しているが、玉砥石として考えられるのは、流紋岩製の2点である。いずれも土壌内より出土しているが、その近辺で未成品、剣片が出土していることから、玉砥石の可能性もあるものとしておきたい。

⑤ 土製有孔円板 (挿図147 Po551、図版48)

穿孔する際の「はずみ車」として用いられた可能性がある。

以上の他に玉作に関連すると思われる工具は出土しておらず、特に玉錘が出土していない点に問題を残している。

(8) その他の玉類 (挿図147 S33~35、図版48)

S33は角閃石安山岩の転石製で玉材として用いられるようなものではないが、その形状および穿孔の位置から勾玉未成品と思われるものである。S34は緑色凝灰岩製でその形状から垂飾であると思われる。形削工程後に穿孔されており、研磨はされていない。S35は緑色凝灰岩製で一部研磨されており、形状的には縄文時代の丸玉に似たものであるが、穿孔痕が数カ所にみられ、何を製作しようとしたかは不明である。

3 玉作工房について

今回の調査では竪穴住居跡等明確に玉作を行っていたと考えられる工房跡は検出されていない。しかし管玉 (未成品) が作られた時期と同時期の掘立柱建物跡を5棟検出しており、SB02の検出面よりやや上層では、未成品 (S32)、敲石 (S39)、土製有孔円板 (Po551) がほぼ同レベルで出

土している。掘立柱建物跡は、柱根の上部が出土した段階で検出したもので、床面そのもののレベルはわかっておらず、未成品等が出土したレベルが床面とも考えられ、掘立柱建物内で管玉製作が行われていた可能性もある。また福井県下屋敷遺跡⁽¹⁷⁾では、浅い皿状の大型土坑が連なる二重の周溝が巡る中に、柱穴が円形に並ぶ住居跡が検出されており、住居内から玉作関係の遺物が出土していることから、玉作工房と推定されるものである。秋里遺跡においても、調査区の南側で溝状に巡るS D05・06内に、底面に木材の残るピットがあり、それぞれの関連性は見いだせないものの、建物跡があった可能性がある。また下屋敷遺跡の周溝の規模と、秋里遺跡のS D05・06との規模を比較すると、前者が直径約15.8～18.5m、後者が直径約13mと、両者はほぼ似たような規模である。秋里遺跡では掘立柱建物跡についてもS B01～04は、その周囲を溝(S D02・03・07)が巡っており、弥生時代中期中葉に位置づけられる下屋敷遺跡と、後期後葉に位置づけられる秋里遺跡との玉作についての関係が注目される。

4 まとめ

以上、秋里遺跡で出土した未成品をもとに、管玉等の製作工程について考察を試みてみた。今回復元した製作工程は石材により若干の相違があるが、「荒削り→形削り→押圧剥離→間接打撃→研磨→穿孔準備・穿孔→仕上げ」という5工程を考えた。この工程は、前述の「二子塚技法」と似かよっている。二子塚遺跡においても、秋里遺跡と同様に施工痕を持つ未成品や剥片が出土しておらず、また筋砥石も出土していない。これらのことから、弥生時代後期後葉の秋里遺跡で用いられた玉作の技法が北陸へと伝わり、古墳時代前期の二子塚遺跡での玉作にも用いられた可能性があると判断するのは、早計のそしりを受けかねるものかもしれないが、長瀬高浜遺跡で行れた、いわゆる「長瀬高浜技法」とは別の「擦切り→分厘→押圧剥離→研磨→穿孔」の工程をとる技法が、新潟県佐渡ヶ島の桂林遺跡を中心とした「新穂技法⁽¹⁸⁾」と同一であり、山陰で用いられた技法が北陸に伝播されたという考え⁽¹⁹⁾と一致する。この技法の面と玉作工房の形態では、秋里遺跡において先に述べたような可能性があるとすれば、該法とは逆に、北陸から山陰へと工房形態が伝播されたとも推定できる。これらのことは、日本海グリーンタフ地帯において、玉作関係のみならず、「技術」や「物」ひいては「人」の交流をも物語るものであると思われ、今後、資料の更なる増加が待たれる。最後に、この考察を書くにあたり、先行研究を参考にさせていただいたが、何分にも筆者は玉作関係だけでなく、考古学一般に関しても未熟であるため、その解釈等に不十分な点が多いと思われる。今後、この考察に対する御批判ならびに御指導をいただきたい。

註(1) 『布勢遺跡発掘調査報告書』鳥取県教育文化財団 1981年

(2) 『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書』V・VI 本文編 鳥取県教育文化財団 1983年

(3) 『東海江・西高江遺跡発掘調査報告書』大栄町教育委員会 1981年

(4) 『玉作り関係遺跡』『鳥取県生業遺跡分前調査報告書』鳥取県教育委員会 1984年

(5) 『南山第2遺跡発掘調査報告書』鳥取県教育文化財団 1982年

(6) 『帆越遺跡・天神山遺跡調査報告書』鳥取県教育委員会 1982年

(7) 『秋里遺跡発掘調査報告書(西岸竹地区)』鳥取県埋蔵文化財センター 1988年

- (8) 清水貞一 「鳥取県下の玉作遺跡について」『考古学研究』28巻 第4号 1982年
- (9) 表現方法としては不適切であるかもしれないが、玉材の質を確かめるための小孔に、この言葉を用いることにした。
- 00 置田雅昭 「石製玉作り」『弥生文化の研究』8 雄山閣 1988年
- 00 (8)と同じ
- 00 00中で、氏が「穿孔準備としたのは鉋の振れを防止するために、端面に凹痕を付ける作業を言う」として、この言葉を用いておられる。
- 03 「加賀市二子塚遺跡群調査概報」 石川県教育委員会 1974年
- 04 河村好光 「古墳社会成立期における玉生産の展開」『考古学研究』23巻 第8号 1976年
- 05 00に同じ
- 06 (8)と同じ
- 00 「下屋敷遺跡・堀江十楽遺跡」 福井県教育庁埋蔵文化財センター 1982年
- 00 寺村光晴 「北陸地方玉作の出現と展開」『古代玉作形成史の研究』 吉川弘文館 1980年
- 00 藤田富士夫 「各時代の玉文化の特色」『玉』 ニュー・サイエンス社 1989年

第4節 中世の土器

ここでは、中世を鎌倉時代以降に限定して、出土土器を概観する。中世土器はSD16、SD25を中心に出土した。陶器類、土師器、瓦質の土器が出土している。

1. 陶器類 備前焼・越前焼・産地不明の陶器に分けられる。

(1)備前焼 SD25埋土中で擂鉢2点(Po240、241)、甕1点(Po239)、底部1点(Po242)が出土した。擂鉢は2点とも口縁部から体部にかけての破片である。いずれの鉢も口縁端部が、拡張され上方に立ち上がり気味である。体部内面には櫛描の条線が施される。色調は茶褐色を呈している。甕は口縁部のみで所謂玉縁を呈する。色調は茶褐色を呈している。底部は平底であり、色調は暗灰色～灰色である。擂鉢は口縁端部の形態より間壁編年の備前IV期A⁽¹⁾(15世紀前半)のものであると思われる。甕も玉縁の形態から同様の時期のものであると思われる。底部についての時期は不明である。

(2)越前焼 SD25埋土中で出土した。甕の口縁部の破片1点のみである(Po243)。押印等は確認できない。

(3)産地不明の陶器

①須恵質のもの 甕(Po238、245、263、268、541～543)と鉢(Po246、544)、底部(Po247)がある。甕は小さな破片がほとんどで、Po245のみ頸部～肩部の破片である。いずれも外面に1辺3mm～5mmの格子状の叩き目を有するものである。内面は、Po238、542、263は刷毛目が見られるが、他はナデ調整である。色調は、Po542のみ暗青灰色を呈するが、他は灰色～淡灰色を呈する。焼成についてもPo542を除けば、やや柔らかい焼き上がりである。外面に格子状の叩き目を有する須恵質土器については、久保塚二郎氏が1980年に「郷土と博物館」(鳥取県立博物館)の第26号第1巻において、鳥取県内出土例を紹介している⁽²⁾。最近の調査例では鳥取市天神山遺跡⁽³⁾、気高郡気高町会下・郡家遺跡⁽⁴⁾等で出土例を見る。いずれの調査においても、遺構に伴う出土例ではない。会下・郡家遺跡例では、鎌倉時代の製品⁽⁵⁾として記述が行われている。天神山遺跡例では、間壁編年のV期に比定される

備前焼播鉢、「16世紀前半のものと思われる」越前焼の壺、「15世紀前半のものと思われる」青磁、「15世紀～16世紀の伊万里と思われる」白磁が出土している¹⁰⁾。今回の調査においては、Po245、238が、上記の備前焼播鉢と同濃瀬洞内帯で出土している。久保氏の上記の紹介において、格子状の叩き目をもつ須恵質土器について、問題提起としながらも、「やきものの生産年代は他地域の研究成果を考えあわせるならば、平安時代～鎌倉時代初頭頃と考えられる¹¹⁾。」と年代観を述べている。氏紹介以降の調査例から考えると下限を15世紀ぐらいまで下げていいのではないと思われる。格子状の叩き目をもつ須恵器系の壺の産地は、備中龜山窯、美作勝岡田窯、讃岐十瓶窯などが知られている¹²⁾が、今回の調査で出土したものについては、筆者の見識不足から産地を同定することはできなかった。鉢 (Po246、544) のうち、Po246は胎土が粗いもので、内面に襷描の交差する条線が施される。Po544は非常に緻密な胎土で、白っぽい焼き上がりである。

②瓦質のもの 鉢 (Po248、272)、土鍋 (Po264～271、539、540)、羽釜 (Po244) が出土した。鉢はPo248は片口のもので、柔らかい感じの焼き上がりである。Po248は、内面に襷描きの条線が一部斜格子状に施される。外面は細い不整方向のナデである。土鍋はS D16を中心に出土した (Po264～271、539、540)。Po270を除いて、頸部で屈曲したあと内湾しながら口縁端部に至るものである。全てに外面にススが付着する。口縁の上端には平坦面をもつ。焼成はPo265が須恵器に近い堅い焼き上がりであるが、他は柔らかい焼き上がりである。外面は、Po270にタテ方向の刷毛目が施こされている他は全て粗いナデが施され、粘土粗の凹凸も消されていない。内面は、丁寧に調整されており、ヨコナアされるものと刷毛目が認められるものがある。前者は、Po265～267、Po539、後者は、Po264、268～270、540である。土鍋の大半 (Po264～271) が出土したS D16は、上記の備前焼播鉢 (Po240、241) が出土したS D25によって切られていることから、土鍋は15世紀初頭以前のものであると考えられ、13世紀～14世紀のものであると思われる¹³⁾。羽釜はPo244の1点のみS D25で出土した。口縁部から体部にかけての破片である。罎は、ほぼ水平方向に薄く貼りつけられる。口縁部は平坦面をもち、体部にかけて内湾してゆく。柔らかい感じの焼き上がりである。

③施釉陶器 2点出土した。緑色の灰釉陶器で、胎土は極緻密である。瀬戸焼の可能性¹⁴⁾がある。

2. 土師質土器

主にS D16で出土した皿類が中心である (Po252、255、256、522)。小型の浅いものPo255、256、522とやや径が大きくなるPo252がある。小型のものは、平坦な底部から外傾して立ち上がるPo255、256と、ほぼ垂直気味に立ち上がるPo522がある。全て底面に糸切り痕を残す。胎土は全て緻密で、柔らかい焼き上がりである。Po252は底面に糸切り痕を残している。胎土は緻密で、柔らかい焼き上がりである。Po255は、S D16の裏面で出土した。Po255は鎌倉時代のものである¹⁵⁾と考える¹⁶⁾。

註(1) 岡部忠彦、岡部薫子「備前焼別荘ノート(1)～(3)」『倉敷考古館研究紀要第1号、第2号、第5号』1966年、1968年 及び久保頼二・朝氏博教による。

(2) 久保頼二「内播地方における中世初頭の陶器について」『關土と博物館』第26巻 第1号 鳥取県立博物館 1980年

- (3) 『天神山遺跡発掘調査報告書』鳥取県教育委員会 1989年及び中村徹氏御教示による。
- (4) 『会下・郡家遺跡』鳥取県気高郡気高町教育委員会 1982年
- (5) 久保権二郎「中代の土器」(文献4)
- (6) 文献3)
- (7) 文献2)
- (8) 間嶋忠彦「備前」『世界陶磁全集3日本中世』小学館 1977年
- (9) 久保権二郎氏御教示による。尚、氏には本誌を書くにあたって、多々の御教示を得たが、本誌の文責は全て筆者に帰するものとする。

第5節 おわりに

以上、今回の調査によって出土した遺構遺物について概観したのであるが、第1節から第4節の間で触れられなかった部分を補足しながら、今回の調査のまとめをしておく。

調査によって分かった弥生時代の秋里遺跡は、断言は出来ないのであるが、玉作りを行っていた場所である可能性が高い。工房としては、掘立柱建物跡、SD05・06に囲まれる場所が考えられる。数多く検出された土壌のうち炭層をもつものも第1節で述べたように、玉作りの際に使用されたものであると考える。今回の調査によって多量の弥生土器が出土し、その中で注目されるのは、壺形土器・器台形土器を中心に施されているスタンプ文である。その種類・点数とも県内の遺構の中で最も多いものである。いわゆる特殊壺も出土しておりスタンプ文との関係で興味湧くところである。又、その他の弥生土器も弥生終末期の土器を考える上で大変重要なものである。さらに、内行花文鏡の出土も破片ながら注目される場所である。

古墳時代以降については、今回の調査では多くの遺構を確認することはできなかった。古墳時代の遺構は土壌、溝状遺構である。この中で注目されるものは古墳時代後期から末期に掘られたと考えられるSD15である。流路を変えながらも室町時代(SD25)まで主軸方向をほぼ変えずに存在していたものである。1987年に鳥取県埋蔵文化財センターによって行われた試掘調査で検出された溝と直行する可能性をもち、条里との関係が注目される場所である。いままで行われてきた古地図や字名等で条里を復元していく作業に、発掘調査による検討を加えていく必要があると思われる、そのためにも、沖積平野の発掘に於て古代中世の遺構を確実に捉えていく発掘調査がより重要になってくるものとおもわれる。

最後になったが、今回の発掘調査及び報告書作成において多くの方々御授助・御協力を頂いたことに深くお礼を申し上げます。